丸髷に用ふ又髪具の一、刀又は匕首の鞘にはさみ置く串）

七畫

【筮●】 漢 セイ ㋑うらなひ、うら 呉 ゼイ なふ、めどぎにて占ふ㋺占の具、めどぎ（占に用ゐる五十本の細竹）

【筮卜】ゼイボク うらなひする。
【筮仕】ゼイシ 吉凶を筮して仕へる。
【筮竹】ゼイチク うらなひに用ゐる竹、めどぎ
【筮龜】ゼイキ 筮卜に同じ。
龜筮ゼイキ　易筮エキゼイ　卜筮ボクゼイ　卦筮クワイゼイ

【筵○】【莚別字】【筵】 漢呉 エン ㋑しきもの、むしろ（竹をくみて作りしもの）たかむしろ㋺せき、座席

【筵上】エンジヤウ さかもりのざしきの中。
【筵席】エンセキ むしろ（筵は下にしくもの、席は其上にしくもの）又宴會の席。

【筠○】 漢呉 キン 注意 きんと讀むは誤り ㋑竹の青き皮㋺たけ（竹）

【筧●】 漢呉 ケン かけひ、とひ

【筩○】 漢 トウ ㋑たけのつゝ、小さい口の筒㋺かぎ（鉤）呉 ヅ

【筥●】 漢 キヨ ㋑はこ、圓形のはこ（昔米を盛るに用ゐしもの）㋺いなたば（稻束）

【筥迫】ハコセコ 若い婦人が盛裝の時懷にはさみもつ紙入。

（筥迫）

【筬○】 漢 セイ 呉 ジヤウ 機織の具、をさ

【筋●】【筋別字】 漢 チヨ チヤク 呉 ト ヂヤク

【筍●】 漢呉 サク ㋑はし（箸）㋺一種の水蟲

【筍○】 漢 サウ ㋑ふご、はこ㋺さゝ 呉 セウ ら㋩めしびつ（一斗二升の飯米を容れる竹製のひつ）㋥僅少の分量を盛るに足る具、又凡人、小人

【筵○】 漢 テイ 呉 チヤウ ひくだ、機を織るたかざを絲を卷く管、小な

【筴●】 漢呉 ケフ ㋑めどぎ（筮）㋺ふだ（册）㋩はかりごと㋥やらい（柵）㋭はさむ（夾）箭をはさむ道具

【筦】 七七七頁の管を見よ。

【筭】 七七七頁の算を見よ。

八畫

【箇●】【个】【個俗字】【箇】 漢 カ 呉 コ ㋑事物を數へるに用ゐる字㋺この、これ㋩あの、この個人に同じ、一私人。

【箇人】コジン
【箇數】コスウ 物の數量、かず。
【箇所】カシヨ そこと目ざす場所。
【箇條】カデウ すぢ、くだり、かど。
【箇箇】カカ ひとつ〳〵、それ〴〵。
【箇中人】コチユウノヒト この中の人。

【箋○】【箋俗字】【箋】 漢呉 セン ㋑かみふだ（注意書をしたる紙札）自分の意見などを附して本書に貼付するふだがみ、紙札、轉じて註釋、註疏㋺文書又は手紙を書く小紙片

詩箋シセン　符箋フセン　錦箋キンセン　雲箋ウンセン
華箋クワセン　短箋タンセン　附箋フセン　便箋ビンセン

【箕○】【箕】 漢呉 キ ㋑み（穀物にまじれるちり・からなどをよりわける農具）㋺星の名、二十八宿の一㋩かぜのかみ、風伯㋥ちりとり㋭兩足を投げ出すこと

【箕伯】キハク 風の神、風伯。

【箕帚】キシウ ちりとりとはうき。
【箕箒】キシウ 前に同じ。
【箕裘】キキウ 父祖の業をつぐこと。

【算●】【筭俗字】【算】 漢呉 サン ㋑かず（數）かぞへる㋺數の中に入れる、相手にする㋩數をしらべて課稅す㋥そろばん（算盤）計數器、さんぎ㋭かずとり㋬はかる、謀事

【同訓異義】はかる 算・計・謀其他の用法は九五三頁の計を見よ。

【算入】サンニフ かぞへいれる。
【算子】サンシ 計算に用ゐるさんぎ、算盤。
【算木】サンギ ㋑普通の算盤で出來ない場合卽ち開平以上の計算に使用する方柱形の木の駒㋺易占の卦を示す道具。
【算用】サンヨウ 數へる、勘定。
【算出】サンシユツ 計算して答を出す。
【算法】サンパフ 計算のしかた、算術。
【算段】サンダン 手段を考へる、その手段。
【算筆】サンピツ 讀みかきと算盤、數學と習字
【算術】サンジユツ 算法の術、數學の道。
【算數】サンスウ 數學のこと。
【算暦】サンレキ 算數と暦法。
【算盤】ソロバン 計算器、そろばん。
英算エイサン　雄算ユウサン　謬算ビウサン　長算チヤウサン
籌算チウサン　採算サイサン　廟算ベウサン　「計算ケイサン」
遠算エンサン　神算シンサン　心算シンサン　靈算レイサン

【管●】【筦】【管俗字】【管】 漢呉 クワン ㋑くだ㋺ぢく、筆のぢく、又ふで㋩ふえ、吹き鳴らす樂器の稱㋥司る、すべる㋭かぎ（鍵）かなめ

【管下】クワンカ 支配下、權力の及ぶ範圍。
【管内】クワンナイ 前に同じ。
【管見】クワンケン せまき見識。
【管外】クワングワイ 管轄外、支配力の及ばぬ所
【管長】クワンチヤウ ㋑宗門を管理する長㋺としまりのかしら。
【管理】クワンリ ㋑とりしまる、管轄す㋺代理人又は其の他の人が本人の爲めに或一定した物又は權利の保存に必要な行爲を爲し或は其の物又は權利の性質を變じない範圍内に於て其の利用若くは改良を目的とすること。
【管掌】クワンシヤウ 取りしまり掌る。
【管絃】クワンゲン 笛と琴、絲竹 注意 管弦と書くは誤り。
【管領】クワンリヤウ ㋑足利時代にありし官名
【管鍵】クワンケン かぎ、管鑰。
【管轄】クワンカツ ㋑すべつかさどる、とりしまる、管理する㋺官廳が職權を及ぼす範圍。「すべき範圍。
【管鑰】クワンヤク 管鍵に同じ。
【管城子】クワンジヤウシ 筆の異名。
【管絃樂】クワンゲンガク 樂器のみにて合奏し聲音を交へざる音樂、オーケストラ。
【管鮑交】クワンパウノマジハリ 管仲と鮑叔の親睦なりし故事に因み親交の意に用ふ。
【管理者】クワンリシヤ 官廳・公署の爲めに或一定の事務を管理し又は私人の爲めに特定の物若くは權利を管理する人。

下管カクワン　筐管キヤクワン　細管サイクワン　絲管シクワン
機管キクワン　職管シヨクワン　總管ソウクワン　濁管ダクワン
素管ソクワン　絲管シクワン

【箍○】 漢 コ 呉 ク たが（割竹にて輪に組みしもの）

【箏○】 漢 サウ 呉 シヤウ 樂器の名、こと（古は十二絃なりしが後には十三絃となる）さうのこと

【箔○】 漢 ハク ㋑す、すだれ（簾）㋺ 呉 バク 金屬を薄くたゝきのばしたるもの㋩養蠶用具の一

【箙●】 漢 フク 呉 ボク えびら、やなぐひ（矢を入れて負ふ物）矢を盛つて背におふ武具。

（箙）

【箚●】【劄】（別字）漢 サツ 呉 サツ 文書の一體

【箜○】 漢 コウ 呉 ク 箜篌は二十三絃のこと（くだらごと）

【絣○】【拑】【鉗】（通字）漢 ケン 呉 コン 慣用音 カン ㋑くびかせ、くびかせをかける ㋺ふくみ、木を口にはませて辭を出さしめぬこと ㋩とざす、又自由を束縛す

【絣口】ケンコウ 口をふさぐ、言論を禁ず 注意 かんこうと讀むは誤り。

【絣制】ケンセイ 自由にさせぬ、束縛す。

【箒】 三四〇頁の帚を見よ。

【箒掃】シウサウ はうきではく。

【篦】 七八〇頁の篦を見よ。

九畫

【箭●】【箭】 漢 セン ㋑や（矢） 呉 ゼン ㋺竹の一種、やだけ、しのだけ ㋩雙六のさい ㋥みづ時計の壺中に挿したる矢

【箭室】センシツ やなぐひ、えびら、矢を盛る器。

【箭幹】センカン やがら。

【箭簇】センゾク やじり、やのね。

【箱○】【箱】 漢 シヤウ ㋑米ぐら、米廩 ㋺はこ（物を入れるもの）篋 ㋩ひさし

【箱師】ハコレ 汽車に乘りて賊を働く者、「をもちはこぶ男。

【箱屋】ハコヤ 藝妓に從ひて太鼓三絃など

【箱入娘】ハコイリムスメ 大切な娘。

重箱チヨウシヤウ　空箱クウシヤウ　開箱カイシヤウ　車箱シヤシヤウ
倉箱サウシヤウ　萬箱バンシヤウ　服箱フクシヤウ　巾箱キンシヤウ
僮箱ヒシヤウ　方箱ハウシヤウ　書箱ショシヤウ　封箱フウシヤウ

【箴○】【箴】 漢 シン 呉 讀むは誤り 注意 かんと ㋑はり、裁縫しむ、又いましめを書きし文體の名

【同訓異義】いましむ 箴・戒・誡其他の用法は四一四頁の戒を見よ。

【箴言】シンゲン いましめのことば 注意 げんと讀むは誤り。

【箴砭】シンペン ㋑醫療用のはり ㋺惡を改めしめる いましめ。「とば。

【箴規】シンキ いましめたとす、又そのこと

【箴誡】シンカイ いましめ、いひきかせる。

【箴諫】シンカン いましめいさめる。

【箸●】【著】 漢 チヨ チヤク 呉 ト ヂヤク ㋑はし（食器）㋺著し ㋩きる、つく

【節●】【節】【節】（俗字）**【節】**（古字） 漢 セツ ㋑ふし（竹又は草木のふし）物の結合する所、音樂の調子 ㋺みさを ㋩てかた、しるし、わりふ ㋥さだめ、ほどあひ ㋭ほどあひをつける、ほど〳〵にする ㋬山の高きさま ㋣いはひ（祝日）㋠とき、時期、をり ㋡易の卦名 ㋢國訓ふし（枝の出でしあと、つぶ又はこぶの形せるもの、をり、時期、箇所、かつをぶし）せつ（ころ、その當時、ものび）ノット（英國の速度にて我約十六町五十八間）

【節刀】セツタウ 昔賊徒征伐のしるしとして天子より大將軍に賜ひし刀。

【節士】セツシ みさをを守る人。

【節分】セツブン ㋑立春の時、俗にその前夜 ㋺氣候のうつる時の稱。「の五節句。

【節句】セツク 人日・上巳・端午・七夕・重陽

【節用】セツヨウ ㋑妄りに金品を消費せざる意 ㋺其時々の所用、日用。

【節米】セツマイ 米の使用をひかへること。

【節目】セツモク ㋑ふしとめ、又木などのきりめ ㋺法律等のこわけ、箇條。

【節物】セツブツ 四季ときどきの品物。

【節季】セツキ 時節の終り、又年のくれ。

【節制】セツセイ 規則に合ふやうにする、としまりて程よくす。「のあらはれ。

【節奏】セツソウ ㋑程よき音樂の調子 ㋺情調

【節度】セツド 指揮、命令、きそく。

【節序】セツジヨ 時節の移り變る次第。

【節食】セツショク 食物をひかへめにする。

【節限】セツゲン 節約に同じ。

【節約】セツヤク 儉約、程よくきりつめる。

【節酒】セツシユ さけをひかへる、暴飲せぬ。

【節欲】セツヨク 欲望をひかへる。

【節略】セツリヤク 程よくはぶきへらす。

【節婦】セツプ みさをの正しき婦人。

【節會】セツクワイ ㋑朝廷の儀式に開く宴會 ㋺古朝廷にて臣下にたまはりし酒宴。

【節減】セツゲン はぶきへらす。

【節錄】セツロク 程よく省きて記錄す。

【節義】セツギ みさを、節操。

【節儉】セツケン 無駄づかひをしないこと。

【節操】セツサウ みさを、節義。

【節穴】フシアナ 板などにある節穴。

【節度使】セツドシ セツタクシ 唐宗時代の官名、地方の軍政・行政を掌りしもの。

奇節キセツ　芳節ハウセツ　邦節ハウセツ　玉節ギヨクセツ
使節シセツ　亹節ジセツ　大節タイセツ　守節シユセツ
氣節キセツ　抗節カウセツ　逆節ギヤクセツ　名節メイセツ
變節ヘンセツ　苦節クセツ　疎節ソセツ　品節ヒンセツ
末節バツセツ　時節ジセツ　貞節テイセツ　瑞節ズイセツ
吮節バンセツ　天長節テンチヤウセツ　地久節チキウセツ

【範●】【範】 漢 ハン ㋑のり、ほん ㋺さかひ、一定のくぎり 呉 ボン かた、てのり、てほん。

【範式】ハンシキ 「範圍。

【範型】ハンケイ 型のうちにある意、いがた、

【範軌】ハンキ 模範、法則、のり。「つける。

【範圍】ハンチウ 一定のくぎり、又くぎりを

【範疇】ハンチウ ㋑しなわけ、階級・種類・部屬 ㋺認識して得たることを概念とする際履むべき階段。

英範エイハン　洪範コウハン　聖範セイハン　軌範キハン
憲範ケンハン　典範テンハン　秀範シウハン　雄範ユウハン
模範モハン　淑範シユクハン　休範キウハン　師範シハン
規範キハン　格範カクハン　立範リツハン　勝範ショウハン

【篇○】【篇】 漢 ヘン 呉 ハン ㋑一つ宛となりたる書物 ㋺書物の部わけ ㋩完結せる詞文、かきもの ㋥詩文の數を示す語 詩を集めたるもの。

【篇什】ヘンジフ 書物の部わけの次第。

【篇次】ヘンジ

【篇帙】ヘンチツ 書物づゝみ、又書物。

【篇章】ヘンシヤウ 文章詞藻の類。

【篇翰】ヘンカン 書籍、文書、又てがみ。

【篇籍】ヘンセキ 書物のこと、書籍。

佳篇カヘン　奇篇キヘン　短篇タンヘン　詩篇シヘン
名篇メイヘン　祕篇ヒヘン　全篇ゼンヘン　雄篇ユウヘン
豪篇ガウヘン　長篇チヤウヘン　靈篇レイヘン　初篇シヨヘン
華篇クワヘン　歌篇カヘン　古篇コヘン　下篇カヘン
中篇チユウヘン　内篇ナイヘン　外篇グワイヘン　陳篇チンヘン
前篇ゼンヘン　後篇コウヘン　續篇ゾクヘン　連篇レンヘン

【便○】 漢 ヘン 呉 ベン 竹のこし、あんだ、あをだ

【便輿】ベンヨ あじろとし、あんだ。

（便輿）

【箇○】 漢 コ ㋑やなぐひ（矢を入れて負ふもの）㋺一種の竹 呉 グ

【篁○】 漢 クワウ ㋑一種の竹 ㋺たかむら、やぶ 呉 ワウ

幽篁イウクワウ　瘦篁ソウクワウ　叢篁ソウクワウ　綠篁リヨククワウ
修篁シウクワウ　紫篁シクワウ　疎篁ソクワウ　野篁ヤクワウ

【篆●】 漢 テン ㋑古代の文字の一體 呉 デン ㋺くびき ㋩篆書の如くまがりくねる貌

【篆字】テンジ　篆體の文字。
【篆刻】テンコク　㋑印版に文字をほりつける　㋺篆字を印にほる㋩形容のみに重きを置き實益の伴はぬ文章。
【篆書】テンショ　篆字に同じ。
【篆隷】テンレイ　字體の名、篆書と隷書。
【篆額】テンガク　篆書で書いた石碑の題字。

【篋●】漢呉　はこ、長方形のはこ（一ケフ　說に大なるものを箱、小なるものを篋）

十畫

【築●】【築俗字】【築】漢チク　呉トク　一部音ツキ　ツイ　㋑きづく、つく㋺地を打ちかためる、土石を積み重ねて樁へ造る、建物をつくる、土木工事㋩城をつくる㋥すべて築きたるもの

【同訓異義】つく　築・突・衝其他の用法は九三〇頁の衝を見よ。
【築城】チクジヤウ　城をきづく、しろぶしん。
【築造】チクザウ　きづきつくる。
【築港】チクカウ　みなとを築く。
【築山】ツキヤマ　人工にてつくりし山。
【築地】ツキヂ　㋑河海を埋立などして新たにつくりし土地㋺木骨にて土造りの塀

【篠●】【篠】セウ　漢呉　しの、さゝ、すゞ（竹の一種）しのだけ、やだけ

【篠懸】スズカケ　修驗者（山伏）の服の上におほふ麻にてつくりたる衣。

（懸　篠）

【篤●】【篤】漢呉　トク　㋑あつし、人情があつい㋺もつばらなり、熱心である、念入りである㋩病氣おもし㋥あつくす、誠意をつくす

【同訓異義】あつし　篤・厚・敦其他の用法は一七二頁の厚を見よ。
【篤行】トクカウ　篤實なるおこなひ。
【篤志】トクシ　㋑あつきこゝろざし、親切なるこゝろ㋺熱心にこゝろざすこと。
【篤信】トクシン　まつく道を信ずること。
【篤孝】トクカウ　眞心をもつて孝行す。
【篤性】トクセイ　篤實なる性質。
【篤亮】トクリヤウ　誠意あつて眞面目なり。

【篤厚】トクコウ　誠實なること、しんせつ。
【篤疾】トクシツ　おもき病、大病。
【篤敬】トクケイ　あつくうやゝしし。
【篤實】トクジツ　親切にして正直なり。
【篤學】トクガク　學びの道にあつし、能く學問をはげみ勉む。

【篚●】漢呉　ヒ　はこ、かご、かたみ

【篝●】漢　コウ　㋑ふせご㋺かゞり㋩呉　ク　かご、おひかご

【篝火】コウクワ　かゞりび。

【篡●】【篡俗字】漢呉　㋑うばふ、とる、又其ことサン　㋺强奪する、取つてならぬものを取る

【同訓異義】うばふ　篡・奪・褫其他の用法は二六六頁の奪を見よ。「り立つ。
【篡立】サンリツ　臣下が君主の位を奪ひて代
【篡位】サンヰ　君主を殺してその位を奪ふ。
【篡弑】サンシイ　君主を殺してその位を奪ふ
【篡奪】サンダツ　君主の位をうばひとる。

【篥●】漢リツ　呉リチ　㋑一種の慣用音　竹㋺音のきびしきこと㋩樂器の名（篳篥）

【篦●】【篦俗字】漢ヘイ　㋑へら㋺呉ハイ　毛すきたて、又櫛の齒の密なるもの㋩かんざし

（鈔）㋥國訓やがら（弓をつくる竹材）

【篩○】漢呉　シ　㋑大竹の一種㋺ふるひ（物をふるひ分ける具）㋩ふるふ、ふるひわける

【同訓異義】ふるふ　篩・奮・震其他の用法は二六六頁の奮を見よ。

【簑】八九九頁の簑を見よ。

十一畫

【篳●】漢ヒツ　㋑しば、いばら㋺まが呉ヒチ　き㋩樂器の名（篳篥）

【篳篥】ヒツリキ　一種の樂器、竹管にして九孔あり。

【篳路藍縷】ヒツロランル　柴にてつくりたる車と破れごろも。

【篷○】漢ホウ　㋑とま、船車などの呉フ　上をおほふ者㋺轉じてふね、小舟

【篷窓】ホウサウ　とまぶきの舟の窓。

【簇●】漢サク　呉シャク　誤り㋑す、すのこ、かたむしろ、又ゆかいた、牀棧㋺寢臺の上に敷くもの

注意せきと讀むは誤り。

【簇子】サクレ　竹又は葦を編みて作りたる席、すがきを以て作りたる簾、すのこ。

【簀卷】スマキ　簀にてまき包むこと。
【簀垣】スガキ　すのこのかき。

【簌●】漢ソウ　サク　呉ソク　慣用音ゾク　㋑さゝだけ㋺あつまる、むらがる、密集する㋩やのね、やじり

【簇生】ソウセイ　むらがり出ること　注意ぞくせいと讀むは誤り。

【簌々】ソクソク　木の茂れるさま　れるさま

【簌●】漢呉　㋑ふるひ（篩）㋺木の茂

十二畫

【簞○】【簞】漢呉　㋑はこ（竹タン　であみし飯びつ）㋺竹の一種、ひさご㋩國訓簞笥（衣類等を入れるもの）瓢簞（ひさご、それにて作りし酒器）

【簞笥】タンシ　㋑竹にてあみし飯櫃㋺衣類等を入れる大箱。

【簞瓢】タンペウ　一杯の飯と一杯の水、清貧を樂しむことを賞する語。

【簞食豆羹】タンシトウカウ　簞に一杯の飯と豆に一杯のおつけ、僅少なる食物をいふ　注意たんしよくと讀むは誤り。

【簡●】【簡俗字】【簡】漢カン　呉ケン　㋑ふだ（昔紙のなかつた時代に文字を書きし竹札）㋺ふみ、てがみ、しよもつ、かきもの㋩けみす㋥くらぶ、えらぶ、えりわける㋭はぶく、てがるくす㋬おほいなり、志が大きい、理想が高い㋮つゝまやかなり、やすし㋯いさむ（諫）り㋰無禮なり、おろそかにす㋱まこと㋲物事の大體をまとめて細事に拘泥せぬ

【同訓異義】えらぶ　簡・撰・選其他の用法は四五〇頁の撰を見よ。

【簡札】カンサツ　ふだ、古代文字を書きし竹札
【簡册】カンサツ　前に同じ。
【簡出】カンシユツ　えらび出す。「轉じて手紙。
【簡朴】カンボク　手輕くしてぢみなり。
【簡拔】カンバツ　えらびぬく、引拔き登用す。
【簡易】カンイ　㋑てがる、簡單、又やすきこと㋺念入りでない。
【簡明】カンメイ　手がるにして分りやすし。
【簡便】カンベン　手がるくして都合よし。
【簡派】カンパ　選拔して派遣す。
【簡要】カンエウ　手輕にして肝要のところ。
【簡約】カンヤク　てがるにしてしめくゝりあり、又つゞまやかなること。
【簡書】カンシヨ　㋑かきもの、文書（主として

軍事の命令）㊁手がみ、書簡。
【簡素】カンソ　手輕にして奢らぬこと。
【簡捷】カンセフ　手がるにしてすばやし。
【簡略】カンリヤク　㊀簡省㊁次に同じ。
【簡單】カンタン　こみいらぬ、手みじか、てがろ　注意簡短と書くは誤り。
【簡策】カンサク　文書、書册。
【簡閱】カンエツ　えらぶ、しらべる。
【簡潔】カンケツ　㊀てみぢかにして要領を得たること㊁いさぎよし。「くを牘）。
【簡牘】カントク　書信（竹に書くを簡、版に書
【簡易生活】カンイセイクワツ　安價にして營養分多きものを食して生活する、又其生活。
【簡易保險】カンイホケン　身體檢査を行はずして契約する政府直營の生命保險。
【簡易食堂】カンイショクダウ　民衆的の手がるなる食堂、公設食堂。
【簡閱點呼】カンエツテンコ　豫・後備役の下士卒を集めて點檢査閲すること。

易簡イカン　倘簡シヤウカン　書簡シヨカン　平簡ヘイカン
竹簡チクカン　狂簡キヤウカン　精簡セイカン　銓簡センカン
和簡ワカン　盧簡ロカン　煩簡ハンカン　寛簡クワンカン
高簡カウカン　仁簡ジンカン　騰簡トウカン　料簡レウカン

【簞●】漢　テン　㊀たかむしろ、むしろ㊁竹の一種　呉　デン

【簀●】漢　キ　あじか、もつこ（土を盛り）て運ぶ竹籠）　呉　ギ
【簧○】漢　クワウ　した、笙又は風琴の管中にある薄片　呉　ワウ
【簪●】【簪俗字】漢　シン　サン　呉　ソン　㊀かんざし、かうがい㊁かざす、簪をさす㊂あつむ、あつまる（聚）㊃すみやか（疾）㊄國訓かんざし（釵）

【簫○】漢呉　セウ　㊀樂器の名、ふえの一種㊁のだけ、しの
【簫】セウ　支那の古代に於ける一種の管樂器で長短不同の竹管を參差して編みならべ鳳凰の翼に象つたもの。
【簫笛】セウテキ　ふえ、せうの笛
【簫鼓】セウコ　笛と太鼓。

十三畫

【簾○】【簾俗字】漢　レン　呉　ロン　㊀す、すだれ㊁みすゝ、竹や葦をあみしとばり
【簾中】レンチユウ　すだれのうち、轉じて公卿・大臣・諸侯の夫人の敬稱。
【簾帷】レンヰ　すだれとゝばり。

（簫）

【簾鉤】レンコウ　すだれかけ。
【簾臺】レンダイ　室内にて簾をかけ一段高くした所。
【簿●】【簿俗字】漢　ホ　ハク　呉　ブ　バク　慣用音　ボ
㊀ちやうめん㊁つかさどる㊂ゝゃく（笏）㊃養蠶具の一㊄す、すだれ
【簿册】ボサツ　ちやうめん、帳簿。
【簿記】ボキ　㊀帳面に記す、又其役目㊁記帳の仕方。
【簿書】ボシヨ　帳面、帳簿。
計簿ケイボ　軍簿グンボ　交簿コウボ　空簿クウボ
鹵簿ロボ　主簿シユボ　帳簿チヤウボ　主簿シユボ
【籙●】漢呉　ロク　やづゝ、やなぐひ
【簷○檐】漢呉　エン　タン　のき、ひさし
【簷馬】エンバ　ふうりん、風鈴。
【簸●】漢呉　ハ　㊀箕で煽つて穀物一部晋　ヒ　の糠や塵を取り去る、ひる㊁よなぐ（汰）㊂あふりあげる
【簽○】漢　セン　呉　ソン　ふだ（文字を記す札）㊁名を記す、署名
【籀俗字】【籀●】漢　チウ　呉　ヂユ　古代の文字の一體

十四畫

「した所。

七八二

【籍●】【藉通字】【籍俗字】漢　セキ　呉　セ　シヤ　注意藉に通ずるも慰藉などには慰籍とは書かぬ㊀ふみ、しよもつ、かきつけ、かきもの㊁人別・戸別等をかきしるしたる公の帳簿、又戸籍に登錄する㊂ふだ㊃縱横なる語聲㊄口々にいひ傳へる、しく㊅ふむ、ふみつける㊆罪により財産を沒收せらる
【籍口】セキコウ　口實、いひわけする。
【籍田】セキデン　祭祀に捧げるため穀物を天子が自身に作らるゝ田地、又その儀式。
【籍甚】セキジン　名聲等が盛んに傳はる。
【籍籍】セキセキ　㊀いひはやすこと㊁亂れる又縱横にちらばるさま。

載籍サイセキ　屬籍ゾクセキ　典籍テンセキ　圖籍トセキ
遺籍イセキ　聖籍セイセキ　名籍メイセキ　譜籍フセキ
記籍キセキ　史籍シセキ　仙籍センセキ　簡籍ヘンセキ
學籍ガクセキ　法籍ハフセキ　書籍ショセキ　兵籍ヘイセキ
送籍ソウセキ　轉籍テンセキ　入籍ニフセキ　版籍ハンセキ
原籍ゲンセキ　經籍ケイセキ　簿籍ボセキ　族籍ゾクセキ

【籃○】漢　ラン　呉　ロン　かご、かたみ、あじろ籠、又手に提げる籠
【籌○】漢　チウ　呉　ヂユ　㊀かずとり、かずさし㊁はかりごと、はかる㊂くじ㊃投壺の遊戯の矢【同訓異義】はかる　籌・計・謀其他の用法は九五三頁の計を見よ。
【籌略】チウリヤク　はかりごと、籌策。
【籌算】チウサン　㊀計略の見込み㊁そろばん
【籌策】チウサク　籌略に同じ。
【籌】八一七頁の籌を見よ。

十五畫

【籐○】【藤別字】漢　トウ　呉　ドウ　とう、とうづる（竹に似た一種の植物）
【籔●】【藪別字】漢呉　ス　呉　ソウ　量目の名、十六斗

十六畫

【籠○】【篭略字】【籠俗字】漢　ロウ　呉　ル
㊀こ、かご、ふせこ㊁たけのこし、のりものかご㊂ざる、かたみ㊃鳥のをり、とりかご㊄つゝむ、こむ㊅こもる、つまる㊆國訓こもる、又こもり（屋内にこもりて外出せぬこと、又神佛の舍内にこもりて願をかけること）

（籠）

【籠居】ロウキヨ　家の中にとぢこもる。
【籠城】ロウジヤウ　城の中にたてこもる。
【籠絡】ロウラク　他人をうまく術中にまるめこめて自由にすること。
【籠輿】ロウヨ　のりもの、かごとこし。
【籠手】コテ　㊀擊劍道具の一㊁鎧の一部分
【籠鳥戀雲】ロウテウモソコフ　まゝならぬ者が自由の天地をこひしたふこと。

火籠クワロウ　石籠セキロウ　竹籠チクロウ　尾籠ビロウ
香籠カウロウ　魚籠ギヨロウ　翠籠スイロウ　鴛籠ガロウ

【籙●】漢　ロク　呉　ロク　㊀本箱㊁未來記、讖言を書いた物
【籟●】漢呉　タク　たけの皮
【籟●】漢呉　ライ　㊀三孔あるふえ㊁ふえのこゑ、又ひびき、音響

十七畫

【籤○】【籤俗字】【籤】漢　セン　呉　ソン　㊀ふだ、かずとり㊁しるし㊂くじ、竹のくし、さし
【籥●】漢呉　ヤク　㊀樂器の一、三孔又は六孔のふえ㊁ならひふだ㊂かぎ（鑰）

（籠）

十九畫

【籬○】漢 呉 リ まがき、かき、ませがき

【籬垣】リクワン まがき、かき。

【籬畔】リハン まがきのほとり、かきね。

【籬落】リラク まがき、かき。

【籬牆】リシヤウ 前に同じ。

米部

【米・】【米】漢 ベイ 呉 マイ 一部音 メ

イこめ、よね ロ稲の實 ハメートル（米突法尺度の單位にて三尺三寸） ニ國訓アメリカ（亞米利加洲の略）

【米肉】ベイニク 米と肉。

【米食】ベイショク 米飯を常食とすること。

【米納】ベイナフ 米にて租稅を納める。

【米粒】ベイリフ こめ、米のつぶ。

【米船】ベイセン イ亞米利加の船舶 ロ米ぶね

【米商】ベイシヤウ こめあきんど、こめや。

【米麥】ベイバク 米とむぎ、又穀物。

【米粟】ベイゾク 米とあは、こくもつ。

【米飯】ベイハン 米のめし。

【米廩】ベイリン イこめぐら ロ古の學校。

【米壽】ベイジユ 年齡の八十八歲、米の字をとけば八十八となるよりいふ。

【米價】ベイカ 米のねだん。

【米穀】ベイコク こめ其他のこくもつ。

【米櫃】ベイキ 米を入れるはこ、米びつ。

【米鹽】ベイエン こめとしほ、又些細なこと。

【米突】メートル メートル法の長さの基本單位、我が三尺三寸にあたる。

【米利堅】メリケン アメリカの古稱、メリケン粉は米國より輸入する小麥の粉。

【米利堅粉】メリケンコ 米國より輸入する

【米價調節】ベイカテウセツ 米價の暴騰暴落を防ぎて適當なる値段を保たしめる方法

白米 ハクマイ　玄米 ゲンマイ　著米 チクマイ　秩米 チツマイ

粒米 リフマイ　貯米 チヨマイ　糯米 ジユマイ　新米 シンマイ

廩米 リンマイ　扶持米 フチマイ　年貢米 ネンギマイ

一畫

【采】一〇六五頁の采を見よ。

二畫

【粊】四四四頁の掬を見よ。

三畫

【粢】國字 くめ、久米の合字

【粃】國字 キロメートル（一メートルの千倍）三千三百尺ばかり イもみ、もみがら ロ穀を かむれる米、又あは

【粒】二七八頁の婁を見よ。

【粐】三二二頁の屎を見よ。

【粢】一一四二頁の類を見よ。

四畫

【粉・】【粉】漢 フン イこ、こ 呉 ホン な、穀物を碎きたるもの、總て物を細かくくだきたるもの ロくだく、こなになる、みぢんにする ハおしろひ ニいしばい ホいろどり ヘ化粧する、ぬる トデシメートル（一メートルの十分の一）

【粉白】フンパク おしろひ、鉛白。

【粉本】フンポン 畫の下がき、轉じて手本と

【粉末】フンマツ こ、こな。「なるべき詩文。

【粉骨】フンコツ 骨折りつとめること。

【粉碎】フンサイ こな微塵にくだく。

【粉墨】フンボク 粉飾したる美人。

【粉飾】フンショク おしろいなどをつけてかざる、外部をかざる。

【粉壁】フンベキ 白きかべ、しらかべ。

【粉黛】フンタイ イおしろいとまゆずみ ロけしやう、おつくり ハ粉墨。「らく。

【粉骨碎身】フルコツサイシン 甚しく骨折りはた

香粉 カウフン　瓊粉 ケイフン　紅粉 コウフン　散粉 サンフン

胡粉 コフン　脂粉 シフン　丹粉 タンフン　膩粉 ヂフン

蘭粉 ランフン　鉛粉 エンフン　石粉 セキフン　艷粉 エンフン

【粃・】漢 呉 イしひな（秕）實のない 籾 ロ成績がわるい

【粃政】ヒセイ 惡しきまつりごと、惡政。

【粍】國字 ミリメートル（一米突の千分の一、尺貫法の三厘三毛）

【料】四七〇頁の料を見よ。

【氣】五七四頁の氣を見よ。

五畫

【粒・】【粒】漢 呉 イつぶ、こ リフ めつぶ、又 細きもの〻一つ〻 ロ米食すること

【粒狀】リフジヤウ つぶのかたち。

【粒食】リフショク 穀物を食ふ。

【粒粒皆辛苦】リフリフミナシンク 一粒の米も悉く農民の勞苦の結晶であるとの意。

【粕・】【粕】漢 呉 かす、酒のお ハク り、酒のしぼりかす、よき物をしぼり取りし殘物

【粗○】【粗】漢 ソ 呉 ズ イあら ズ し（麤） ロほゞ（略）あらまし ハ國訓他に贈る物に冠して用ゐる謙辭

【粗末】ソマツ 念の入らぬこと、ぞんざい。

【粗衣】ソイ そまつな著物。

【粗笨】ソホン 粗末でつたない。

【粗朶】ソダ きつたまゝの木の枝。

【粗忽】ソコツ そゝつかしい、輕卒。

【粗品】ソシナ 他人に贈る品の謙辭。

【粗食】ソショク 粗末な食物。

【粗造】ソザウ そまつにつくる、粗製。

【粗略】ソリヤク 丁寧でない、おろそか。

【粗野】ソヤ 無作法、禮儀を知らぬ。

【粗密】ソミツ あらきとこまかき。

【粗景】ソケイ 粗末なるそへもの。

【粗惡】ソアク そまつにしてわるい。

【粗製】ソセイ 粗末なるつくりかた。

【粗飯】ソハン 客にすゝめる飯を謙遜して いふ、おそまつな飯。「ぼく強い。

【粗豪】ソガウ 荒々しくして放埒、あらつ

【粗漏】ソロウ ておち、てぬかり。

【粗暴】ソバウ 行ひがあらい、氣があらい。

【粗樸】ソボク 粗末にして飾氣なし。

【粗雜】ソザツ あらい、粗末、亂雜。

【粗衆粗食】ソイソショク 粗末なる著物と食物

【粗製濫造】ソセイランザウ ぞんざいにこしらへる、むやみにつくる、粗造品を造る。

【粘○黏】漢 デン 呉 ネン ねばる、ねばり

【粘土】ネンド ねばつち。

【粘液】ネンエキ ねばりけのある汁、粘汁。

【粘著】ネンチヤク 粘りつく。「薄皮。

【粘膜】ネンマク 皮膚に連りて内腔をおほふ

【粛】八四〇頁の肅を見よ。

六畫

【粟・】【粟】漢 ショク 呉 ゾク 慣用音 ゾク イあは（禾本科植物の一）小米 ロ粟粒の如き小さきもの ハもみ（米の皮を去らぬもの）もみごめ ロ兵糧又は官吏にたまはる扶持米

【粟米】ゾクベイ こめ、小米。

【粟粒】ゾクリフ あはつぶ、もみつぶ。

餘粟 ヨショク　耡粟 ジヨショク　稅粟 ゼイショク　米粟 ベイショク

食粟 シヨクショク　貯粟 チヨショク　儲粟 チヨショク　官粟 クワンショク

賦粟 フショク　倉粟 サウショク　稟粟 リンショク　稻粟 タウショク

【粧○】【糚（通字）】【粧】漢シャウ 呉サウ
イよそほひ、けしやう ロよそほふ、化粧する、かざる

【粢○】漢呉シ イきび（稷）ロこめの呉ジ もち ハ黍・稷・稻・麥・粱・嵐を六穀といふ ニ神に供へる穀類の稱、もりもの

【粤●】漢エツ イ發語の詞、こゝに 呉ヲチ ロ歎息の聲、あゝ ハあつし（厚）ニ國名、越に通ず

【粥●】漢シュク イク 呉ショク ソク 慣用音ジュク
イかゆ、粥を煮て食ふ ロひさぐ、賣る ハ薫粥は北狄人種の名 ニ長れつゝしむさま ホ柔弱なるさま

七畫

【粱○】漢リヤウ 呉ラウ あは、おほあは（大粟）

【粲○】【燦（通字）】漢呉サン イ搗きてし ロあざやか、あきらか ハいさぎよし ニあや多き貌 ホ白き齒を出して笑ふさま ヘ自作の詩文を人に示し「一粲を博す」といふは笑ひぐさに供する意の謙辭

【粲然】サンゼン ハ笑ふ貌 ロあきらかなる貌
【粲粲】サンサン めざましき程立派なる貌。
【粲爛】サンラン 美しく輝く、きら〳〵ひかる、立派なるさま。

【粳○】【秔（本字）】漢カウ 呉キヤウ うるち、うるしね、うるごめ

【粮】七八八頁の糧を見よ。
【粮道】リヤウダウ 兵糧をとりはこぶ道。

八畫

【粹●】【粹】漢呉スヰ イまじりけなし、もつぱら ロ精し、全し ハまじりけなきもの ニ國訓すゐ、いき（世態人情に通じ殊に花柳社會の事情にあかるきこと）
【粹人】スヰジン 社會の事情殊に花柳界の事にくはしき人、通人、いきな人。
【粹白】スヰハク まじりけなし、まつ白。
夷粹イスヰ 純粹ジユンスヰ 眞粹シンスヰ 醇粹ジユンスヰ
精粹セイスヰ 淳粹ジユンスヰ 天粹テンスヰ 平粹ヘイスヰ
温粹ヲンスヰ 清粹セイスヰ 貞粹テイスヰ 沈粹チンスヰ

【精○】【精（俗字）】【精】漢セイ 呉シヤウ
イくはし、くはしくこまやか、細かで測りがたい、微妙である、專一なり、それのみすぐれて居る、こまやかでたくみである ロしらぐ、米をついて白くす、しらげたる米 ハまじりけなく最もすぐれたる部分 ニたましひ（靈）こゝろ ホ萬物のもと、精氣 ヘかみ、神靈 トの不思議であやしきもの、靈性 チひかり（光）リまこと、誠實、又まごゝろ ヌ男性にある生殖の原素

【精力】セイリヨク 事をなしとげる力、氣根。
【精分】セイブン イ前に同じ ロ正味、又滋養分。
【精巧】セイコウ 細かくして巧み。
【精米】セイマイ 白く搗きしらげたる米。
【精妙】セイメウ 精しくして巧みなること。
【精良】セイリヤウ 精密にして善し、精巧。
【精兵】セイヘイ よく操練した軍隊、すぐつて強き兵。
【精舍】セイシヤ シヤウジヤ イ學校、塾 ロ神のやどる
【精忠】セイチウ 無比の忠義、一すぢの忠義。
【精采】セイサイ イひかり、物の采華 ロいきゝしたる氣象。
【精査】セイサ 十分によくしらべる。
【精美】セイビ すぐれて美くしい。
【精悍】セイカン 心がすぐれて強い。
【精根】セイコン 心身の元氣、こんき。
【精神】セイシン イ心、心意 ロたましひ、靈魂 ハ物事を實行する氣力。
【精氣】セイキ イたましひ ロ物の根元、元氣
【精彩】セイサイ 精采に同じ。
【精密】セイミツ こまかにしてぬけめなし。
【精進】セイシン シヤウジン イ心を專らにして道に進む義 ロ佛道を修めるものが肉食を斷つて一心に學ぶ、轉じて菜食の意に用ふ。
【精細】セイサイ 精密に同じ。
【精通】セイツウ 物事を詳しく知ること。
【精液】セイエキ 男性の有する生殖の原素。
【精粗】セイソ こまかきことゝあらきこと
【精華】セイクワ 極めてうるはし、又はなやかにひかりあるさま。
【精義】セイギ くはしきすぢみち。
【精勤】セイキン 休まず勤める、能く勤める。
【精詳】セイシヤウ くはしくつまびらか。
【精算】セイサン こまかく勘定する。
【精微】セイビ くはしきと、こまかなること。
【精察】セイサツ くはしくしらべる。
【精粹】セイスヰ イまじりけなし、純粹 ロ清鮮なる空氣 ハ心清く慾を生ぜぬこと。
【精熟】セイジユク 能く手なれる。
【精鋭】セイエイ すぐれて強き兵。
【精密】セイミツ くはしく密かなり。
【精製】セイセイ 心をこめてつくること。
【精選】セイセン 念入りにえらぶ、又その物。
【精確】セイカク くはしくしてたしか。
【精錬】セイレン 十分にきたえる。
【精勵】セイレイ 一心につとめるさま。
【精緻】セイチ 精細にして緻密。
【精蟲】セイチユウ 精液中にある生殖原子。
【精髓】セイズヰ 物事の眞の正味。
【精讀】セイドク 精しく讀む。
【精靈】セイレイ シヤウリヤウ イ宇宙萬物の本體 ロ死者の靈、亡魂。
【精進物】シヤウジンモノ 野菜類。
【精進揚】シヤウジンアゲ 野菜物のあぶらあげ
【精神病】セイシンビヤウ 白痴・痴呆症・虚言癖・色慾異狀症・躁踊病・中毒・ヒステリー・色慾異狀症・等の如く精神に異狀ある疾患の總稱。
【精力主義】セイリヨクシユギ イ至善を實現するために人々の能力を圓滿に發達せしめんとする倫理學上の主義 ロ旺盛なる精力をもつて目的物に突喊するやり方。
【精神科學】セイシンクワガク 心理學・倫理學等の如く精神若くは其の活動の表現たる人間の行爲を攻究する學問。
【精神療法】セイシンレウハフ 精神の活動を利用して病氣を治療する法。
雲精ウンセイ 厲精レイセイ 三精サンセイ 專精センセイ
至精シセイ 山精サンセイ 日精ニツセイ 花精クワセイ
研精ケンセイ 木精モクセイ 忠精チユウセイ 月精ゲツセイ

【粽●】【糉】漢ソウ 呉ス ちまき

【糊○】【糊】漢コ ロのり ハかゆ ニかゆをすゝる、三度の食事をする、口すぎ ホはつきりせぬさま
【糊口】ココウ 口すぎ、活計、くらし。
【糊精】コセイ 植物中に存在し水に溶解してこほる時沈澱する護謨狀無定形の塊デキストリン。
【糊塗】コト 「まかし、あいまい。物事のはつきりせぬこと、ど

【糀●】【糀】漢サン 國訓糀麹はぬか 呉ソン みそ

【糅●】漢ヂウ イまじる（雜）まじふ 呉ニユ ロくらふ（食）

【糎】國字 センチメートル（一米突の百分の一）

十畫

【糖○】【糖】漢タウ イあめ（飴） 呉ダウ ロさたう
【糖尿病】タウネウビヤウ 病氣の名、糖分を排泄して衰弱するもの。

米部（十—十七畫）糒・穀・糞・糜・糙・糝・糢・糟・糠・糅・糅・糅

【約・】【約】

漢 ヤク 呉 アク

イむすぶ、つかねる、たばねる ロつゞまやか、ひかへめ ハつゞまやかにす、へらす、はぶく、ひかへめにする ニくるしみ、貧窮 ホかなめ、主要 ヘやくそく、ちぎる トちぎり、やくそく チ期日、ひぎり リはつきりせぬさま ヌしなやかなるさま ルおほよそ ヲ或數を割つて小さくする、又そのこと

【約手】ヤクテ 約束手形の略稱。

【約分】ヤクブン 分數の値を變ぜずして兩項（分母子）を其公約數にて割ること。

【約言】ヤクゲン つゞめていふ、約說。

【約束】ヤクソク イいひかはす、後事につき互にとりきめること ロ因果、因緣 ハ據め定めおきしこと ニきまり、取極め。

【約定】ヤクヂヤウ 約束して取極める、合意。

【約音】ヤクオン 文法上の反切法により二音が一音につまつて生ずる音。

【約款】ヤククワン 約束の條條。

【約論】ヤクロン つゞめて論ず、又その論說。

【約數】ヤクスウ 甲數が乙數で割りきれた場合乙數を甲數の約數といふ。

【約諾】ヤクダク 承知すること、うけがふ。

【約束手形】ヤクソクテガタ 手形の振出人が手形の受取人若くは其の讓受人に一定の金額を支拂ふこと約する證券。

依約イヤク 輕約ケイヤク 要約エウヤク 則約ソクヤク
信約シンヤク 密約ミツヤク 節約セツヤク 誓約セイヤク
締約テイヤク 盟約メイヤク 條約デウヤク 簡約カンヤク
從約ジユウヤク 軍約グンヤク 違約イヤク 貧約ヒンヤク

【紅○】【紅】

漢 コウ 呉 グ

イ鮮かな赤色、くれなゐ ロべにの花、紅草

【同訓異義】 あかし 紅・丹・赤其他の用法は一〇〇二頁の赤を見よ。

【紅白】コウハク くれなゐとしろ、あかと白。

【紅女】コウヂヨ 機おり女、女工。

【紅玉】コウギヨク ニ寶玉の一、ルビー ロ美人のはだの色の形容。「たとへていふ。

【紅雨】コウウ 赤き花瓣の散るさまを雨に

【紅茶】コウチヤ 煎茶の一、汁の色が赤味を帶びたるもの。

（紅草）

【紅草】コウソウ イ鮮かな赤色、くれなゐ ロべにの花、紅草。

【紅色】コウシヨク くれなゐのいろ。

【紅粉】コウフン べにおしろい。

【紅脂】コウし べに、又女の化粧。

【紅梅】コウバイ イ赤い花のうめ ロ濃い桃色

【紅唇】コウシン イ美人の口、朱唇 ロ開きかけし花瓣。

「みだ、血涙。

【紅涙】コウルヰ イ美人の涙 ロ悲しみ流すな

【紅晶】コウシヤウ くれなゐの水晶。

【紅娘】コウラウ てんたう虫。

【紅焰】コウエン まつかな焰。

【紅裙】コウクン あかいもすそ、轉じて藝妓。

【紅絹】コウケン 紅染の無地のきぬ、もみ。

【紅葩】コウハ あかい花。

「もみじ。

【紅葉】コウエウ 紅色に變じた木の葉、俗に

【紅閨】コウケイ 赤く塗つた室、美人のねま。

【紅頰】コウケフ あかい頰。

「俗世界。

【紅塵】コウヂン 往來にたつ塵、轉じて浮世。

【紅燈】コウトウ 赤い紙又は赤い布を外側に張つて光りを赤くうつす燈、多く料理店待合等に用ふ 圓緣酒紅燈。

【紅樓】コウロウ 朱塗の高樓、富家の女の住居

【紅潮】コウチウ イはぢて顏があかくなる ロ婦人のつきのもの、月經 ハ朝日の海面に映つた景色。

【紅暾】コウトン 暾は旭日、くれなゐの朝日。

【紅霓】コウゲイ あかいにじ。

【紅顏】コウガン わか〳〵しく元氣ある顏。

【紅蓮】グレン 紅蓮地獄、八寒地獄の一。

【紅一點】コウイツテン 一座中にて一人の美し

い女が特に目立つことをいふ。

【紅葉狩】モミヂガリ 紅葉を見に行く。

【紅十字會】コウジフジクワイ 支那の赤十字社。

【紅綬褒章】コウジユハウシヤウ 危險を冒して人命を救助せし者に賜はる褒章。

雄紅ユウコウ 老紅ラウコウ 蓬紅シヤウコウ
刺紅シコウ 裁紅サイコウ 深紅シンコウ 眞紅シンクレン
淺紅センコウ 女紅ニヨコウ 丹紅タンコウ 落紅ラクコウ
殘紅ザンコウ 輕紅ケイコウ 碎紅サイコウ

【紂・】

漢 チウ 呉 ヂユ 殷の天子の一人、湯王と併せて暴君の例に引かれ又堯舜の聖者と善惡の對照に用ゐる

【紆○】【紆俗字】

漢呉 ウ ク イうねる、曲まとふ、からまる、まつはる ハ氣がふさぐ、鬱結

【紆回】ウクワイ 遠まはり、まはり道。

【紆曲】ウキヨク まがりうねつてゐる。

【紆折】ウセツ うねりまがる、紆餘曲折。

【紆餘】ウヨ イまがりくねる ロ才氣ありて落ちついてゐる ハ文章がのび〳〵して迫らぬさま

【紈○】

漢 クワン 呉 グワン イ白のねりぎぬ ロむすぶ（結）

【紈扇】グワンセン 白の練絹にて張つた團扇

【紈素】グワンソ 白のねりぎぬ。

【紈袴】グワンコ 白絹のはかま、貴族の子弟の著るもの、轉じて貴族の子弟を輕蔑していふ語。

【紈綺】グワンキ しろぎぬと綾ぎぬ、ぜいたくな衣服。

四 書

【紮○】

漢 ブン 呉 モン 注意 びん

慣用音 ビン

誤りなるも現時一般に慣用音として用ひられて居る、みだす、みだる

【同訓異義】 みだる 紮・亂・紛其他の用法は四一頁の亂を見よ。

【紮亂】ブンラン みだる、又みだれ、みだす

注意 正しきは びんらん と讀むは誤り。

【紋○】【紋】

漢 ブン 呉 モン イ織物のもやう、あや、轉じて物の模樣、又其形のもの ロ家々に定め有してゐる紋所

【紋羽】モンパ 織物の名。

【紋附】モンツキ 紋の附いてゐる衣服。

【紋服】モンブク 前に同じ。

【紋所】モンドコロ 家々にて定められたる紋。

【紋章】モンシヤウ 紋のしるし。

【紋樣】モンヤウ 紋の模樣。

【紋織】モンオリ 紋を浮織にした織物。

【紋紗】モンサ 綺紋セン 羅紋ラウセン 花紋クワモン

【納・】【納】

漢 ダフ 呉 ナフ 慣用音 ナ ダフ

イいれる、內に入れる、うけとりいれる ロをさむ、官にさし出す、捧げる、奉る ハ國訓をさむ（仕舞ひ置く、安置する、終へる）をさめ、おしまひ、はて

【同訓異義】 いる 納・內・入其他の用法は一〇九頁の入を見よ。

【同訓異義】 をさむ 納・修・治其他の用法は八三頁の修を見よ。

【納入】ナフニユウ 納めいれる。

「付する。

【納付】ナフフ 金錢物品を官公署に納入交

【納本】ナフホン 著者又は出版者が出版の書物の見本を政府に屆けをさめること。

【納吉】ナフキツ 周代結婚六禮の一にして卜筮に娶る女子の良否をたづね上上吉の判斷を得てその家に申しこむ。

【納所】ナフシヨ イ年貢等を收める所 ロ寺院の事務を取扱ふ所。「き、をさめの杯。

【納杯】ナフハイ 酒宴の終る時に飲むさかづ

【納附】ナフフ 納入に同じ。

【納受】ナフジユ イうけいれる、受納 ロ神佛が人の祈願を聞屆けること。

【納貢】ナフコウ 貢物をたてまつる。

【納骨】ナフコツ 死者の遺骨をゝさめる。

【納涼】ナフリヤウ ㋑涼氣をとり入れて暑氣をはらふ㋺すゞむ、又すゞみ。
【納稅】ナフゼイ 租稅を官にをさめる。
【納會】ナフクワイ その年の最後の集會。
【納戸】ナンド 衣服又は器具類をおく所。
【納得】ナフトク 承知する、得心する。
引納インナフ　察納サツナフ　拜納ハイナフ　省納セイナフ
選納センナフ　接納セツナフ　採納サイナフ　出納スイタフ
結納ケツナフ　延納エンナフ　吐納トナフ　徵納チヨウナフ
嘉納カナフ　撫納ブナフ　信納シンナフ　開納カイナフ

【紐・紐】

漢 ヂウ　呉 ニユ
慣用音 チウ
㋑ひも、ひぼ㋺むすぶ（結）ゆはへる、ゆふ、結束する
【紐釦】チウコウ ぼたん、扣紐。

【純・純】

漢 ジユン　トン
呉 ドン
漢呉 シユン
㋑いと（絲）㋺まじりけなし㋩いつはらぬ、ありのまゝ㋥おほいなり（大）㋭やはらぐさま㋬もつぱら（專）㋣へり、ふち、衣服の絲邊㋠布帛一端の稱
【純一】ジユンイツ まじりけなし、純樸。
【純正】ジユンセイ ㋑純粹にして正し㋺理論を主として應用に及ばぬこと。
【純乎】ジユンコ 純然に同じ。
【純白】ジユンパク まつしろ、粹白。
【純吏】ジユンリ 專心仕事に忠實なる役人。
【純利】ジユンリ 純益に同じ。
【純良】ジユンリヤウ まじめにしてすなほ。
【純忠】ジユンチユウ 眞心にてつくす忠義。
【純美】ジユンビ 純粹にしてうつくし。
【純益】ジユンエキ 總收入額より諸入費を差引きたる殘高、正味の利益。
【純理】ジユンリ 純粹の理論。
【純然】ジユンゼン もつぱらなり、一すぢなるさま、又まじりけなし、純乎。
【純眞】ジユンシン 專らにして正しきこと。
【純粹】ジユンスヰ 更にまじりけなし、醇粹。
【純潔】ジユンケツ 少しの慾心もない。
【純篤】ジユントク 誠實にして深切。
【純樸】ジユンボク ㋑ありのまゝでいつはりなきこと㋺削らぬ木。「美文の文學。
【純文學】ジユンブンガク 詩歌・小說等の如く
畫純ジユンガワ　全純ゼンジユン　貞純テイジユン　溫純ヲンジユン
忠純チユウジユン　清純セイジユン　眞純シンジユン　精純セイジユン

【紗・紗】

漢 サ　呉 セ
慣用音 シヤ
㋑うすぎぬ、しや㋺羅紗は毛織物の一、更紗は金巾に型模樣を印した織物、紗はふろしきの上等なもの、又茶の湯のふきん
輕紗ケイサ　素紗ソサ　緋紗ヒサ　薄紗ハクサ

【紙・帋】【紙】

漢呉 シ
かみ（楮の皮其他の原料より造り文字繪畫を書きしるす地となるもの）
【紙上】シジヤウ 紙のおもて、又書き記した「る紙の上。
【紙衣】シイカミコ 紙をつぎ合せて作つた著物
【紙片】シヘン かみきれ、又一枚紙。
【紙面】シメン ㋑紙上㋺手紙、書翰。
【紙型】シケイ 組立てた活版を壓皮紙と地柾紙とを併せて紙の型にとつたもの。
【紙帳】シチヤウ かみのとばり、又紙のかや。
【紙魚】シギヨ 書物を食ふ蟲、しみ、蠹魚。
【紙索】シサク かんぜより、こより。
【紙幅】シフク 紙のひろさ、かみのはゞ。
【紙牌】シハイ 紙の貼札。
【紙鳶】シエン いかのぼり、たこ。
【紙幣】シヘイ ㋑政府が發行する貨幣、さつ㋺神に奉るぬさ㋩紙錢。
【紙腔琴】シコウキン 手にて其把手を適度に廻轉すれば自働的に奏樂をなすもの。

（紙衣）

（紙腔琴）

【紙上映畫】シジヤウエイグワ 新聞・雜誌等の紙面に於て活動寫眞の映畫の如き記事を掲げること、又その記事。
片紙ヘンシ　簡紙カンシ　糊紙コシ　官紙クワンシ
試紙シシ　竹紙チクシ　白紙ハクシ　薄紙ハクシ
印紙インシ　寸紙スンシ　尺紙セキシ　生紙セイシ
懷紙クワイシ　唐紙タウシ　和紙ワシ　洋紙ヤウシ

【級・級】

漢 キフ
呉 コフ
㋑くらゐ（位）㋺きだ、だんだん、階級㋩しなし、斬り取つた首、首級
【級長】キフチヤウ 學校の其級の頭。
【級差】キフサ しな、等級、わかち、品等。
【級數】キフスウ 一定の法則によつて增減する數を順次排列したるもの。
階級カイキフ　功級コウキフ　等級トウキフ　陞級シヨウキフ
名級メイキフ　勳級クンキフ　官級クワンキフ　榮級エイキフ
顯級ケンキフ　限級ゲンキフ　末級バツキフ　積級セキキフ

【紛・紛】

漢 フン
呉 ホン
㋑みだる（亂）散亂する、又其さま㋺ごたつく、もめる、葛藤㋩まぎれる、まがふ㋥多きさま、又盛んなるさま
【同訓異義】みだる 紛・亂・紊其他の用法は四一頁の亂を見よ。
【紛失】フンシツ まぎれて失ふ。
【紛更】フンカウ かき亂して改める。
【紛爭】フンサウ どたゞしてあらそふ、どたつく。
【紛糾】フンキウ 亂れもつれる。「たつく。
【紛紜】フンウン ㋑みだれる、どたつく㋺多くさかんなるさま。
【紛紛】フンプン ㋑亂れちらばるさま㋺煩はしきさま㋩多きさま、盛んなるさま。
【紛然】フンゼン 紛々、紛如、みだれるさま。
【紛亂】フンラン ㋑大いにみだれる、又其他動詞㋺もめ、みだれ、葛藤。
【紛擾】フンジヤウ みだれ、さわぎ、どたつき又さわぎ亂れる。
【紛議】フンギ 議論のもつれること、又その「の議論。
喧紛ケン　世紛セイ　妬紛トフン　續紛ゾクフン
糾紛キウフン　佩紛ハイフン　放紛ハウフン　時紛ジフン

【素・素】

漢 ソ
呉 ス
㋑しろい㋺しろし（白）㋩きぢ（飾らぬもの）㋥しろの生絹たぢ、どだい㋭心のそこ、まことへもと、もとより、以前から、元來㋬あらかじめ行ふ、前に計畫する㋣つね、つねづね㋠其所に居る㋡いたづらに、むなしく㋢もとめる㋤それ以上に分析の出來ぬ物質のおほもと
【同訓異義】もと 素・原・本其他の用法は五一三頁の本を見よ。
【素月】ソゲツ しろい月、皓月。
【素手】ソシユ 白き手。
【素毛】ソマウ しろい毛。
【素因】ソイン もとのおこり、原因。
【素朴】ソボク ぢみなる風俗、質樸。
【素行】ソカウ 日頃の行ひ、平生の身持。
【素見】ソケン ㋑買ふ氣がないのに商品を見歩く㋺遊里などをひやかして歩く。
【素志】ソシ 年來の希望、日頃の志。
【素門】ソモン 貧賤なる家柄。
【素封】ソホウ 大金もち、長者、富豪。
【素面】ソメン ㋑白い顏㋺假面等をつけぬ顏、又酒に醉つて居らぬ顏。
【素服】ソフク 喪中に著用する衣服。
【素冠】ソクワン 白絲を練つて作つた冠、晃冠
【素貧】ソヒン もとよりの貧乏。
【素絹】ソケン ㋑白ぎぬ
素縑ソケン㋺白の僧衣。
【素彫】ソエイ 白きかげ
月のさえたる光。
【素養】ソヤウ 日頃から心がけて學問又は德行を修め養ふこと。
【素質】ソシツ 本來の性質、きぢ、本質。
【素餐】ソサン 徒に食ふ意、轉じて功勞無

（素絹）

くして高位高官に居ること。

【素樸】ソボク 素朴に同じ。

【素願】ソグワン 平生よりのねがひ。

【素讀】ソドク 講義せずして文面のみよむ

【素本】スホン 無點の漢書、訓點・註釋・節附などのなき書物。

【素性】スジヤウ 血すぢの由來、家柄。

【素姓】スジヤウ 人のおひたち。

【素肌】スハダ 衣服を著せず肌をだしてゐること、はだか、眞白い肌。

【素書】スガキ 無彩色の書。

【素袍】スハウ 古の平民の服、後には武家の服又は禮服となる。

（袍素）

【素燒】スヤキ うはぐすりをかけぬ陶器。

【素顔】スガホ 化粧を施さゞる顔。

【素人】シロウト 專門外の人、門外漢。

【素封家】ソホウカ 財產家、金滿家。

【素寒貧】スカンビン 極めて貧しきこと。

情素ジヤウソ 朴素ボクソ 寒素カンソ 太素タイソ 鉛素エンソ 毫素ガウソ心素シンソ 閑素カンソ 布素フソ 尸素シソ 平素ヘイソ 束素ソクソ 綸素クワイソ 約素ヤクソ 潔素ケツソ 質素シツソ 忠素チユウソ 誠素セイソ 儉素ケンソ 幣素ヘイソ

【索●】【索】

漢呉 ㋑つな、なるもの㊐なふ、なはをなく（盡）なくなる、ほろびる（亡）㊁ちる、はなる㊂ものさびしきさま㊃もとむ、たづねる、さがす

【同訓異義】つくす 索・盡・竭其他の用法は七一四頁の盡を見よ。

【同訓異義】もと 索・干・求其他の用法は五七九頁の求を見よ。

【索引】サクイン ㋑引つばること㊐書物の內容の見出し目錄。

【索居】サクキヨ はなれ〳〵に居ること。

【索莫】サクバク 物淋しきさま。

【索寞】サクバク 前に同じ。

【索然】サクゼン ㋑淚のおちる貌㊐亡びなくなるさま㊄散亂するさま。

【索麪】サクメン 小麥粉をこねて絲の如く引き伸ばした食品、さうめん。

朽索キウサク 周索シウサク 消索セウサク 布索フサク

腐索フサク 大索タイサク 繩索ジヨウサク 思索シサク

搜索サウサク 探索タンサク 紙索シサク 摸索モサク

【紡●】【紡】

漢呉 ㋑つむぐ、糸をつむぐ、うむ、麻をうむ㊐つむぎたる絲、うんだ麻

【紡錘】バウスイ 絲をつむぐ機械の附屬品、

【紡績】バウセキ 絲をつむぐ。「つむ。

【紡績】バウセキ つむぐことゝおること。

【紡錘狀】バウスイジヤウ つむにいとをまいたやうな形。

【紆◐】

漢ショ 呉ソ ㋑ゆるむ（緩）慣用音ジヨ やはらげる、とく（解）和解する㊐おこたる（怠）

【紕○】

漢ヘン ヒ ㋑まちがひ、あ 呉ベン ビ やまり（錯）又あやまる㊐かざる、白絲にて旗又は冠の へりをかざる㊄ふし、織物の絲のふし

【紕繆】ヒビウ あやまり、誤謬。

【紘○】

漢クワウ ㋑領の下に垂れさ 呉ギヤウ がる冠のひも㊐おほづな㊄つなぐ㊁おほいなり（宏大）

【紝◐】

漢ジン ㋑おる、はたを 呉ニン 織る㊐はたいと ㋺みだれる（紛）ご

【紝○】

漢ウン たつく㊐多く盛んなるさま 呉ヲン

【糾】

七八九頁の糾を見よ。

五畫

【紫●】【紫】

漢呉 ㋑赤と青との間色、むらさき㊐むらさき色の衣服又綬章㊄國訓むらさき（草の名）醬油の異名。

（紫）

【紫石】シセキ 支那の隴州から出る角ある紫色の石。

【紫竹】シチク 竹の一種、寒竹。

【紫衣】シエ 紫色の著物、又は法衣。

【紫金】シキン 赤銅色。

【紫陌】シハク 都の町（陌は町）。

【紫苑】シヲン 山地に自生する草の名 注意 俗に紫苑と書くも正しきは誤り。

【紫斑】シハン 紫色のまだら。

【紫極】シキヨク たかみくら、天子の御座。

【紫電】シデン 名刀の光をいなづまに比し

【紫銅】シドウ 青銅の一名。「ていふ形容。

【紫檀】シタン 熱帶地產の喬木の一。

【紫蘇】シソ 草の一、葉・實共食用に供す。

【紫茉莉】オシロイノハナ 紫莉茉科の植物、花は白・紫・黃等ありて形は漏斗の如く實は熟すれば外皮黑色となり內は白くして碎け易い。

（紫茉莉）

【紫外線】シグワイセン 太陽より發射する光線の一、治病の効あるもの。

【紫宸殿】シシンデン ㋑唐代に始まつた政事堂㊐昔の禁中の正殿。

【紫陽花】シヤウクワ 落葉灌木の一で幹は四五尺葉は對生橢圓形初夏に美しい花が咲く。「んげさう。

【紫雲英】シウンエイ 原野に叢生する草、れ

【紫式部】ムラサキシキブ 平安朝の才媛、官女として上東門院に仕へし藤原爲時の女にして才色兼備を以て聞え、彼の有名なる源氏物語の著者である。

紅紫コウシ 青紫セイシ 純紫ジユンシ 深紫シンシ

碧紫ヘキシ 濃紫ノウシ 淺紫センシ

【紬○】【紬】

漢チウ ㋑絹布の一、つ 呉ヂウ むぎ㊐つむぐ、糸をつむぐ㊄ひく（抽）ひきだす㊁つゞる（綴）

【紬繹】チウエキ 絲口をひきだしてたづねもとめること。

【累◐】【累】【累】

漢呉 ㋑しばる、捕縛する、又むすぶ㊐かさね、かさなる㊄つゞいて、しきりに㊁わづらはす、手數をかける㊂わづらひ、かゝりあひ

【同訓異義】しきりに 累・仍・頻其他の用法は五八頁の仍を見よ。

【累日】ルキジツ 日をかさねる、連日。

【累世】ルキセイ 世をかさねる、代々、累代。

【累代】ルキダイ 前に同じ。

【累年】ルキネン 累歲に同じ。

【累次】ルキジ たび〳〵、しば〳〵。

【累及】ルキキフ かゝりあひ、迷惑がかゝる

【累犯】ルキハン 再び犯罪を犯す、再犯。

【累卵】ルキラン 鳥の卵を積み重ねる義、甚だ危きことの形容。「きぞへ。

【累坐】ルキザ 他人の罪にかゝりあふ、ま

【累計】ルキケイ まとめ合はせたる高。

【累時】ルキジ しば〳〵、たび〳〵、屢次。

【累乘】ルキジヨウ 同數を幾つもかけ合すこと

【累祖】ルキソ ㋑道祖神の名㊐先祖代々。

【累進】ルキシン 次第に上の位にすゝむこと

【累葉】ルキエウ 累世に同じ。

【累戮】ルキセン しば〳〵たゝかふ。

【累積】ルキセキ かさねつむ、かさなり積る。

【累進稅】ルキシンゼイ 財產の多くなるに從ひ稅率の割合を增加する租稅法。

家累カルキ 禍累クワルキ 世累セイルキ 俗累ゾクルキ

外累グワイルヰ　患累クワンルヰ　繫累ケイルヰ　罪累ザイルヰ

【細●】【細】 漢 セイ ㋑ほそ 呉 サイ・し、小さし、わづか㋺こまか、くはし、又わづらはし㋩かろし(輕)いやし(賤)又その人大小。

【細大】サイダイ 細かいと大きい、大小。

【細小】サイセウ 細くしてちひさい。

【細工】サイク こまゝ〳〵した道具を作る。

【細片】サイヘン 細かいきれはし。

【細心】サイシン ㋑注意深し㋺氣が小さい。

【細末】サイマツ こまか、又こな。

【細目】サイモク こわけにしたる箇條。

【細民】サイミン いやしき人民、貧賤の人。

【細字】サイジ 小さい文字、こまかい文字。

【細見】サイケン ㋑くはしくみる㋺事を明細に書きたる册子。

【細君】サイクン ㋑諸侯の夫人㋺他に對して己の妻の稱㋩後世他人の妻を誤稱す

注意 妻君と書くは誤り。

【細事】サイシ 小さい事がら。

【細長】サイチヤウ ほそながし、細く長い。

【細雨】サイウ こさめ、微雨。

【細則】サイソク こまかなるきそく。

【細胞】サイハウ 生物を組織する微小な球體

【細密】サイミツ こまかくしてくはしい。

【細微】サイビ ㋑いやしき身分㋺ほそくしてかすか㋩議論などのこまゝ〳〵しきこと

【細菌】サイキン 微菌の一種。「又其批評。

【細評】サイヒヤウ くはしく批評すること、

【細腰】サイエウ ほそごし、蜂腰。

【細說】サイセツ ㋑とるに足らぬ論說㋺詳細に說明す、詳說。

【細謹】サイキン さゝいな禮式。

【細讀】サイドク 詳しく讀む、熟讀。「問。

【細菌學】サイキンガク 微菌に就て研究する學

妍細カンサイ　三細サンサイ　五細ゴサイ　苛細カサイ

繁細ハンサイ　柔細ジウサイ　短細タンサイ　嚴細ゲンサイ

詳細シヤウサイ　微細ビサイ　煩細ハンサイ　瑣細ササイ

精細セイサイ　輕細ケイサイ　薄細ハクサイ　謹細キンサイ

【紳○】【紳】 漢呉 シン おほおび（高貴の人が衣冠束帶の時につける大帶）

【紳士】シンシ ㋑學德の修養があつて禮式作法に通じた人㋺上流社會の男子。

【紳商】シンシヤウ 社會から紳士として待遇される豪商。「の協約。

【紳士協約】シンシケウヤク 紳士的なる國際上

【紹●】【紹】 漢呉 セウ 續する㋺たすく、輔佐する、世話をやく㋩ひきあはせる、とりもち又その人

【同訓異義】**つぐ** 繼・嗣・續其他の用法は八一七頁の續を見よ。

【紹介】セウカイ なかだち、とりもち 注意 照介と書くは誤り。「つぎて明かにする。

【紹述】セウジユツ 前代のことを後代の人が

【紹復】セウフク 再興すること、つぎおこす。

【紹繼】セウケイ うけつぐ。

【紺●】【紺】 漢 カン 呉 コン 色の一種、こん(青と紫との合色)

【紺青】コンジヤウ 繪具の一、ぐんじやうの一層濃厚なるもの。

【紺絣】コンガスリ 紺色に染めた絣の織物。

【紺屋】コンヤ そめものや。

【紺碧】コンペキ 青ぐろい色、天青。

【終○】【終】 漢呉 シユウ ㋑をはる、しまひになる、はてる、完了す、滯りなくすむ㋺なくなる、つきる、又死ぬ㋩仕舞ふ、をへる、をはりを全うす㋥をはり、おふ㋭つひに、到頭、つまり㋬何としても、どうしても

【同訓異義】**をはる**

【了】は埒があつてさつぱりとすむ。

【卒】は其のはての意にて終盡である

【畢】は終に同じ。

【終】は始よりをはりまで續く意。

【訖】は卒に同じ。

【閔】は多く音樂の終りたる義に用ふ

【同訓異義】**ついに** 終・遂・竟其他の用法は一〇四一頁の遂を見よ。

【終了】シユウレウ をはる、をはり、しまひ。

【終止】シユウシ をはり、しまひ。

【終末】シユウマツ とまり、をはり。「遠。

【終天】シユウテン 世のはて、とこしへに、永

【終日】シユウジツ ひねもす、朝から晚まで。

【終生】シユウセイ 一生をゝはる、又一生涯。

【終決】シユウケツ ㋑終りを告げる㋺徵兵事務に關する裁決。

【終局】シユウキヨク 事のをはり、終結。

【終身】シユウシン 身を終るまで、終生。

【終始】シユウシ ㋑終りとはじめ㋺物事の續くかぎり㋩始から終迄關係を共にす。

【終夜】シユウヤ よもすがら、ひとばん中。

【終宵】シユウセウ 終夜に同じ。

【終焉】シユウエン ㋑身のをさまり、落ちつきどころ㋺命のをはり、臨終。

【終極】シユウキヨク をはり、をはる。

【終期】シユウキ ㋑をはりの時㋺到來することの確定したるもの。

【終結】シユウケツ 終局に同じ。

【終業】シユウゲフ ㋑其日のしごとをゝはる㋺仕事をしあげる。

【終審】シユウシン ㋑此上に上訴の道なき裁判所の判決㋺最後のしらべ。

【終點】シユウテン しまひの所、ゆきつく所。

【終列車】シユウレツシヤ 當日最終に發する車

【終身官】シユウシンクワン 判檢事の如く刑罰又は懲戒處分を受けない限り本人の意に反して罷免せらるゝことのない官職。

【終日終夜】シユウジツシユウヤ 毎日毎晚。

【終始一貫】シユウシイツクワン 始めから終りまで少しもかはらず貫くこと。

【絃○】【弦】（通字）**【絃】** 漢ケン 呉ゲン ㋑絲を張つた樂器の總稱㋺いと（樂器に張るつる）㋩琴などをひくこと

【絃琴】ゲンキン 樂器の一、こと、琴。

【絃歌】ゲンカ 琴をひき歌をうたふ。

【絃聲】ゲンセイ 琴をひく音。

管絃クワンゲン　大絃ダイゲン　小絃セウゲン　箏絃サウゲン

夜絃ヤゲン　繁絃ハンゲン　清絃セイゲン　悲絃ヒゲン

【組●】【組】 漢 ソ 呉 ス ㋑ひも、くみひも（冠又は髮につける紐）㋺くむ、ひもを編みつくる、くみたてる㋩國訓くみ（わかち、級、團體、隊伍）

【組合】クミアヒ 二人以上の者が資本を出し合ひて共同事業を營むこと。

【組長】クミチヤウ くみの頭。

【組盃】クミサカヅキ 組合せた盃。

（組盃）

【組頭】クミガシラ 組のかしら、團體の長。

【組甲】ソカフ 組紐でをどしたよろひ。

【組成】ソセイ ㋑なりたつ、㋺くみたてる。

【組閣】ソカク 內閣組織の略、卽ち舊內閣が倒れて新たに內閣を組織すること。

【組織】ソシキ 絲をくみ機をおる、轉じて官廳・公署・議會・團體等をくみたてる。

【組織的】ソシキテキ 個々の物が集つて一定の關係・秩序を保ちつゝ整然と組立てられた仕組。

【組合銀行】クミアヒギンカウ 「加入してゐる銀行。手形交換所組合に

【紲●】 漢 セツ 呉 セチ とゞまる、駐屯す

【紲・緤通字】 漢 セツ 呉 セチ ㋑つかぬ(束)まとふ(纏)からげる㋺

注意 **せ・せい**と讀むは誤り㋩きづな、ほだし、牛馬をつなぎ牽く繩、物をつな

ぎ縛る繩㊐つなぐ、しばる、獄に繫ぐ

【紵●】漢 チョ 呉 ド 麻の一種、いちび、又其皮をつむいで織った粗い布

【絆●】漢 タイ 呉デ ㊀いつはる（詐）あざむく（欺）㊐ゆるむ 漢呉 ハン 慣用音 バン ㊁ほだし、きづな㊐牛馬等をつなぎ止めるなぎ率く繩、轉じて物をつなぎ止めるものㄅつなぐ、つなぎ止める

【絆創膏】バンサウカウ 傷口に貼る膏藥の名。

【絣●】【鉄古字】漢呉 ㊀ぬふ、つゞる ㊁いる、いれるㄅなは（索）

六畫

【結●】【結】漢 ケツ 呉 ケチ 漢呉 ケイ

㊀ゆふ、むすぶ、つかねる、ゆはへる㊐約束をとりかはす、とり入つて交る㊂くみをつくる㊃草木の實がみのる、こほる、かたくなる㊄氣がふさぐへくみたてる、構へる㊅仕舞ふ、をはる㊆むすぼる、むすばるりむすび、むすびめ㊇もとゞりを國訓むすぶ（かはす、とざす、塞ぐ、つぐむ）文法上にては上の「てにをは」に合せて語尾を止めること

【同訓異義】むすぶ

【掬】は兩方の掌にすくひ取る義。

【結】はゆふの意である又心のむすぼれて解けぬ義にも用ふ。

【締】はしつかりとむすぶの意。

【結了】ケツレウ をはる、しふま。

【結句】ケツク ㊀詩のむすびの句㊐つまり、要する所、結局。

【結末】ケツマツ しまひ、をはり、結尾。

【結文】ケツブン 文章の終、又をはりの文句。

【結氷】ケツヒヨウ こほる、こほりがはる。

【結尾】ケツビ 結末に同じ。

【結合】ケツガフ むすび合ふ。

【結局】ケツキヨク 結句の㊐に同じ。

【結束】ケツソク ㊀旅行等の支度㊐たばねる

【結果】ケツクワ ㊀原因の結末、因緣の報ひ

【結社】ケツシヤ ㊐できばえ、成績㊂草木の實を結ぶこと。數人が或共同の目的を達する爲め合意に依つて設立する團體。

【結核】ケツカク 結核細菌が寄生して患部に

かたまりが出來る病氣。

【結納】ケツナフ 結託に同じ。

【結託】ケツタク 心を合せてたよりあふ。

【結婚】ケツコン 男女が夫婦となる。

【結晶】ケツシヤウ 鑛物が一定の法則に從ひて特有の形體をなすこと、又その物。

【結著】ケツチヤク きまりがつくこと、落著。

【結裝】ケツサウ 出陣又は旅行の支度。

【結構】ケツコウ ㊀家屋又は文章などをくみたてる㊐くみたてㄅすぐれて立派 注意 結構と讀むは誤り。

【結論】ケツロン ㊀論じつめたる點㊐三段論法の大小二前提の理由より生ずる斷定

【結髮】ケツパツ ㊀髮をゆふ、又支那にて髮を結ぶ年齡、即ち男子廿歳女子十五歳。

【結緣】ケツエン ㊀緣を結ぶ㊐佛道に入る。

【結願】ケツグワン 願をかけし日數が滿つる

【結黨】ケツタウ 或主義の團體を組織する。

【結鬧】ケツタウ 自ら鬧を招く。「る力。

【結合力】ケツガフリヨク 結び合ふ力、團結す

【結核菌】ケツカクキン 結核病を起す細菌。

【結裂裝】ユイケサ 細長い切地三筋を緒で結び所々に菊の綴のやうなものを着けた裂裝の一種專ら山伏の用ふる物

（結裂裝）

死結 シケツ 百結 ヒヤクケツ 交結 カウケツ 固結 コケツ

糾結 キウケツ 括結 クワツケツ 而結 メシケツ 要結 エウケツ

約結 ヤクケツ 紛結 フンケツ 捲結 クワンケツ 連結 レンケツ

勞結 ラウケツ 誘結 イウケツ 團結 ダンケツ 憂結 イウケツ

鬱結 ウツケツ 締結 テイケツ 凝結 ギヤウケツ 積結 セキケツ

【絕●】【絶】漢 セツ 呉 ゼチ 慣用音 ゼツ

㊀たつ、斷ずる、たちきる、中斷する㊐ことわる、こばむㄅころす、ほろぼす、又なくする㊂つくす、きはめる㊃やめる、へだてる、ふさぐ、しきるㄅわたる、横斷する、又よこぎるㄅとほる、すぎる、通過す㊄すぐれる、またそのこと㊅まづし（貧窮）㊆遠くはなれる㊇かつて、たえて、決して㊈はなはだ㊉詩體の一（律詩を半分にたちきつたもの）

【同訓異義】たつ

【截】はきりたつ義にて絕に略ぼ同じ

【斷】は物を二つにたちきるの意。

【絕】は物がきれてあとのないこと。

【裁】は衣服などをたつこと、轉じて事をきりもりして決斷するを裁斷といふ。

「御製・聖製といふ。

【製】は裁に同じ又天子の詩文などは

【同訓異義】はなはだ 絕・甚・太其他の用法は六八二頁の甚を見よ。

【絕大】ゼツダイ 非常に大なること。

【絕代】ゼツダイ ㊀世にたぐひなくすぐれてゐる㊐遠くかけはなれた時代。「た家。

【絕世】ゼツセイ ㊀絕代の㊀に同じ㊐斷絕し

【絕句】ゼツク 五字四句又は七字四句の詩體

【絕目】ゼツモク 見えるかぎり。「讀むは誤り

【絕叫】ゼツケウ 大聲で叫ぶ 注意 ぜつきうと

【絕好】ゼツカウ ㊀絕交に同じ㊐甚だよい。

【絕交】ゼツカウ よしみをたつ、絕好。

【絕色】ゼツシヨク ㊀すぐれたる容色、又絕世の美人㊐物のうつくしき色。

【絕妙】ゼツメウ 文章繪畫等の華美なること

【絕技】ゼツギ 甚だすぐれたるわざ。

【絕佳】ゼツカ すぐれてよし、絕美。

【絕命】ゼツメイ 死ぬこと、落命。

【絕念】ゼツネン 諦める、思ひきる、斷念。

【絕谷】ゼツコツ 深くけはしい谷、絕澗。

【絕東】ゼツトウ 東のはて、極東。

【絕後】ゼツゴ 後々までない 例 空前絕後。

【絕美】ゼツビ 絕佳に同じ。

【絕食】ゼツシヨク 食事をやめる、斷食。

【絕倫】ゼツリン 人なみすぐれてゐること。

【絕倒】ゼツタウ ㊀ころがり笑ふさま㊐感極まつてたふれるㄅ悲しみたふれる、又にはかにたふれる㊂深くうれへる。

【絕家】ゼツカ 絕世の㊐に同じ。

【絕島】ゼツタウ はなれじま、洋中の孤島。

【絕息】ゼツソク いきがたえる、又なくなる。

【絕海】ゼツカイ ㊀海をわたる㊐陸地を遠く離れたる海洋。

【絕脈】ゼツミヤク 脈がとまる、死ぬこと。

【絕笑】ゼツセフ 大いにわらふこと、洪笑。

【絕唱】ゼツシヤウ すぐれたる詩歌。

【絕域】ゼツキキ 遠くはなれたる土地、外國。

【絕崖】ゼツガイ 甚だけはしきがけ。

【絕望】ゼツバウ 全く失望すること。

【絕頂】ゼツチヤウ ㊀最上のいたゞき、てつぺん㊐物事の窮極の所。

【絕無】ゼツム たえてなし、決してなし。

【絕景】ゼツケイ すぐれてよき景色。

【絕勝】ゼツシヨウ はなはだ景色のよき所、たぐひなき景色。「をさめ。

【絕筆】ゼツヒツ ㊀最後に書きしもの㊐かき

【絕境】ゼツキヤウ 絕域に同じ。

【絕滅】ゼツメツ たえほろびる。

【絕端】ゼツタン 物の一番はし、最端。

【絕遠】ゼツエン 非常にとほい、又其所。

【絕緣】ゼツエン ㊀えんをきる㊐電氣の流通

【絕壁】ゼツペキ 絕崖に同じ。

【絕學】ゼツガク 中止したる學問。

【絕險】ゼツケン 非常にけはしき所。

【絕體】ゼツタイ 他に對立するものなく全くはなれしもの、何物にも制限又は比較せられぬ 注意 絕對と書くは誤り。

【絕海的】ゼツカイテキ 相對的の對、相對立するものなき狀態を形容する語。

【絶緣體】ゼツエンタイ 電流の横布を許さどる物體、不導體。

【絶體絶命】ゼツタイゼツメイ 逃れられぬ場合、「萬策つきし狀態。

奸絶カンゼツ　斥絶セキゼツ　横絶ヨウゼツ　遮絶シャゼツ
謝絶シャゼツ　殊絶シュゼツ　超絶チョウゼツ　廢絶ハイゼツ
卓絶タクゼツ　冠絶クワンゼツ　困絶コンゼツ　拒絶キョゼツ
閉絶ヘイゼツ　過絶クワゼツ　禁絶キンゼツ　抑絶ヨクゼツ
妙絶ミョウゼツ　三絶サンゼツ　才絶サイゼツ　畫絶クワクゼツ
中絶チュウゼツ　杜絶トゼツ　離絶リゼツ　斷絶ダンゼツ

【絞●】【絞】

漢 カウ　吳 ゲウ　ケウ

イくびる（縊）くびり殺す ロきびし（急）假借せぬ、容赦せぬ ハしめる、しぼる、堅束する ニもえぎ色 ホ國訓しぼる（壓搾して液汁を採る、壓搾又はねぢつて液汁を去る、以上の如き狀態）しぼり（布帛の面を所々くゝり染めて現はしたかすり）

【絞首】カウシュ イくびをしめて殺す ロ死刑執行の方法にして刑務所内に絞首臺を用ひて執行する。

【絞罪】カウザイ 死罪囚を絞め殺す、又其罪。

【絡●】【絡】

漢 吳 ラク

イまとふ、しばる、くゝる ロめぐらす、からむ ハつゞく（連）ニからまる、まつはる ホ糸すぢ、すぢみち ヘたづな

【絡石】テイカカヅラ 夾竹桃科の常綠草本で觀賞用として庭園に栽培せられ初夏花を開き花冠は乳白色にして上緣五裂し細長い莢を結ぶ。

（石絡）

【絡繹】ラクエキ 往來のつゞくさま 注意 **らく**たくと讀み又絡驛と書くは誤り。

【絣俗字】【絣○】【絣】

漢 ハウ　吳 ビョウ

イきぬ（無地のきぬ）又しまおりの帛 ロつゞ、繼續する ハ國訓かすり

【給●】【給】

漢 ケフ　吳 ゴフ

イたまふ（目上から目下に物品を與へる）たまはる ロあてがふ、そなへる ハ足る、十分にある ニてあて、たまもの ホよく辯ず、しやべる ヘ國訓たまふ（動作を表はす動詞に添へていふ敬語）

【同訓異義】**たまふ** 給・賜・錫其他の用法は九九六頁の賜を見よ。

【給付】キフフ 給與に同じ。

【給仕】キフジ イ役所等にて雜用を勤める小使 ロ食事の世話をする、そのこと。

【給助】キフジョ 金品をあたへて助ける。

【給金】キフキン 給料に同じ。

【給料】キフレウ イ給金、てあて ロ手當を與へる ハ勞働に對する報酬。

【給與】キフヨ たまはる、授けあたへる。

【給暇】キフカ 休暇をあたへる。

【給費】キフヒ 入用の金を與へる。

【給養】キフヤウ イあてがひ養ふ ロ軍隊などにて必要品を供給すること。

周給シウキフ　資給シキフ　俸給ホウキフ　富給フキフ
充給ジユウキフ　賑給シンキフ　完給クワンキフ　供給キョウキフ
豐給ホウキフ　菜給エイキフ　配給ハイキフ　口給コウキフ
官給クワンキフ　月給ゲツキフ　日給ニチキフ　賞給シャウキフ

【統●】【統】

漢 トウ　吳 ツ

イすぶ、ひきまとめる、總理する ロすぢ、つゞきあひ、ちすぢ ハ事のこぐち、藥緒 ニおほぐゝり、總理、をさむ

【統一】トウイツ はなればなれのものを系統を有する一つの全體のものとする、纖めて一つにすること。

【統合】トウガフ すべあはす、一つにする。

【統制】トウセイ イすべをさめる、統御、統轄

ロ宋代から始まりし出征軍の總司令長官の如き官。

【統治】トウチ すべ治める、主權者が國民を支配する。

【統括】トウクワツ まとめる、すべくゝる。

【統計】トウケイ イひきくるめて計算すること ロ同種類のものを集め其計數によつて狀況を示すもの。

【統帥】トウスイ 首長となつて統率する。

【統率】トウソツ 統帥に同じ。

【統理】トウリ 前に同じ。

【統御】トウギョ 統制の ヰに同じ。

【統領】トウリャウ すべをさめる、又その人。

【統監】トウカン イ監督する ロ軍隊にて演習の時の統御者 ハ韓國保護時代に日本政府を代表し韓國の政務をとりし官職。

【統覺】トウカク 人間が各自に自分から進んで行ふ綜合的知覺。

【統轄】トウカツ その區域を統御する。

【統攝】トウセフ すべをさめる。

【統治權】トウチケン 一國の元首が國民をすべ治め國家の平安を計る權力、主權。

皇統クワウトウ　官統クワントウ　掌統シャウトウ　典統テントウ
國統コクトウ　監統カントウ　源統ゲントウ　世統セイトウ
創統サウトウ　分統ブントウ　本統ホントウ　開統カイトウ
祖統ソトウ　管統クワントウ　傳統デントウ　正統セイトウ

【絲○】【糸別字】【絲】

漢 吳 シ

注意 俗に糸を略字として用ふるも正しきは誤りである イいと、きぬいと、蠶の口より吐き出す一すぢの絲、綿・麻繭等を細く引きのばしてよりをかけた絲、いとの如く細くつながるもの ロいとを張つた樂器の總稱 ハ小數の單位の一（一の一萬分の一）轉じて僅かなもの

【絲竹】シチク 絲は琴瑟、竹は笙笛の類。

【絲瓜】シクワ 瓜の一、へちま。

【絲雨】シウ いとの如き細い雨、細雨。

【絲柳】シリウ しだれやなぎ。

【絲管】シクワン 琴及び笛、樂器の總稱。

【絲綸】シリン 天子の御言葉、みことのり。

【絲毫】シガウ 極めてわづかのもの。

【絲織】イトオリ よつた絹絲でおつた織物。

【絲蘭】イトラン 百合科の多年生草本で莖は短く葉は披針狀をなし初夏に白い花を開き觀賞用として栽培さる。

（蘭絲）

【絲車】イトグルマ 繭・棉から絲をくり又は之をより合すに用ひる車。

【絲櫻】イトザクラ 櫻の一種、枝は軟條にして下垂し葉は長橢圓形又は披針形花は葉の出づるに先だちて開き、單瓣・重瓣ありて蕚は圓筒形をなし紅色を帶び觀賞用として栽培せらる。

（絲櫻）

【絲毛車】イトケグルマ 內親王內命婦更衣以上の乘る車昔は都大路をねり行きし車にて頗る優美。

（車毛絲）

【絲掛貝】イトカケガヒ 腹足類の貝「にな」に似て小さく介殼は螺旋狀をなし外面の縱線は恰も白き絲をかけた如くに見える。

【絲卷鰺】イトマキアヂ 鰺の一種で背鰭と尾鰭が絲卷形をしたもの。

【絖●】

漢 吳 クワウ

イわた（絮）ロ國訓ぬめ（一種の絹布、書畫をかくに用ゐるもの）

【絜●】

漢 ケツ　吳 ケチ

イきよし、いさぎよし ロはかる（度）長短大小をはかる ハひつさぐ

【條○】【條俗字】

漢 タウ　吳 トウ

慣用音 デウ

さなだ、ひらうちのひも

【條蟲】ジョウチユウ　さなだむし。

【絝・袴】　漢呉　㋑はかま（袴）㋺まコ　たがる

【絢・】　漢呉　注畫じゅんと讀むは誤ケン　リ㋑あや、織物の模様

㋺あやありて美し

【絢爛】ケンラン　㋑目のちらつくほど見事できらびやか㋺詩歌文章の字句が豐富にして遒麗注畫じゅんらんと讀むは誤り

【絨○】　漢ジュウ　㋑地の厚い毛織物、又毛織のし呉ニュ

きもの㋺石絨はいしわた

【絨毯】ジュウタン　花毛氈の類、織物の名。

【絨氈】ジュウセン　前に同じ。

【絪○】　漢呉　㋑しとね（茵）㋺萬物生イン　成の元氣、又その元氣の集まるさま

【絮・】　漢ジョ　㋑わた、まわ呉ト　ソ　た、ふるわた（故綿）㋺やなぎのはな（柳絮）㋩とゝのふ（調）あんばいする、昧をつける

【絮說】ジョセツ　くだ〳〵しく說く。

【絳・】【絳字別】　漢カウ　あか、あ呉コウ　け（濃い赤色）しんく（眞紅）

【絳帳】カウチヤウ　㋑赤色のとばり㋺師の座席の寵。

【絳脣】カウシン　紅きくちびる、朱脣、美人

【紙】　七九七頁の紙を見よ。

【紅】　七九四頁の紅を見よ。

七畫

【絹・】【絹】　漢呉　きぬ（蠶絲で織つた織物）

【絹布】ケンプ　絹で織つた織物。

【絹本】ケンポン　㋑書畫をかくきぬ㋺書畫をかいた絹地のかけもの。

【絹絲】ケンシ　きいとでつくつたいと。

【絹絲紡績】キヌイトバウセキ　絹絲をまじへておりたる一種の織物。

【經○】【經】　漢ケイ　㋑たて、呉キヤウ　たていと、縱線㋺つね、かはらぬ道理㋩さかひ（境界）さかひをきめる、きまりをつける、紀律を立てる㋥をさむ（統治）㋭はかるへくびる（縊）㋬かける、つなぐ㋮ふ、通りすぎる、月日がたつ㋯天下を治める。

【經世】ケイセイ　天下を治める。

【經史】ケイシ　經書と歷史。

【經由】ケイイウ　そこをへる又人の手を經る

【經卷】ケイクワン　㋑經書に同じ㋺佛教の書物、佛經。

「三百六十分したる度。

【經度】ケイド　經線によつて地球を東西に

【經常】ケイジヤウ　臨時の對、つね、ふだん。

【經師】ケイシ　㋑經書を授ける教官、又は師㋺昔經文を卷物又折本などにしたてた人、今は主として表具屋をいふ。

【經書】ケイシヨ　聖賢の述作した書、經籍。

【經國】ケイコク　國家ををさめる。

【經理】ケイリ　㋑すぢみち、常法㋺をさめ整へる㋩會計事務をつかさどる。

【經略】ケイリヤク　㋑いとなみ治める㋺他人の土地をせめとる。

【經費】ケイヒ　㋑つねの費用㋺國家が其の生存發達に要する費。

【經過】ケイクワ　經歷に同じ。

【經綸】ケイリン　天下を治めることを絲すぢを整理するに比していふ。

【經線】ケイセン　地球の表面に緯線と直交して南北兩極を連結した想像上の大圈線

【經德】ケイトク　㋑人の守るべき常の道德㋺德を守りて變らぬ。

【經緯】ケイヰ　㋑織物のたて絲と横絲㋺入りくみたるすぢみち、いきさつ㋩物事の骨子となるもの㋥をさめとゝのへる

㋭土地の南北と東西へ經線と緯線、又經度と緯度。

【經歷】ケイレキ　㋑すぎさる、又その事、すぎこし方のあと、閱歷㋺へめぐる。

【經營】ケイエイ　㋑家屋を建てる時土地をはかり土臺をすゑること㋺事業をいとなむに種々畫策すること。

【經濟】ケイザイ　㋑國を治め民を救ふ㋺富に對する人類の活動㋩つましいこと、節儉㋥貨物の生產・交易・分配及び消費に關する行動の總稱。

【經籍】ケイセキ　經書に同じ。

【經驗】ケイケン　實際に見聞し又は實行したこと、又その方法によつて得た知識。

【經文】キヤウモン　㋑儒教の經書の文章㋺佛の教を記した根本の文、佛經。

【經木】キヤウギ　檜・杉などの木材をうすく紙のやうにけづりたるもの。

【經函】キヤウカン　お經を入れるはこ。「置く倉

【經藏】キヤウザウ　寺院にて一切經を納めて

【經緯儀】ケイイギ　天體又は地物の方位角及仰角を測るに用ひる器械。

（經緯儀）

【經常費】ケイジヤウヒ　㋑ふだんの費用㋺通常毎年必要とする國家の經費。

【經濟學】ケイザイガク　社會を組織する各人の財貨に關する諸現象を貫通する所の法則を研究する學問。

【經天緯地】ケイテンキチ　天下を治める意。

【經常歲入】ケイジヤウサイニフ　毎年一定せる收入。

【經常歲出】ケイジヤウサイシユツ　毎年一定せる支出。

五經ゴキヤウ　大經タイケイ　小經セウケイ　禮經レイケイ

聖經セイケイ　梵經ボンケイ　佛經ブツキヤウ

儒經ジユキヤウ　紀經キケイ　道經ダウキヤウ

幸經ゼンケイ　常經ジヤウケイ　中經チユウケイ　政經セイケイ

典經テンケイ　群經グンケイ

【紹・】　漢ロ　㋑きぬ（無地の絹）㋺呉リヨ　極めてうすい絹の織物、夏の衣服に用ゐる㋩縫合せた衣服

【綈○】　漢ティ　㋑厚いきぬ、あしぎ呉ダイ　ぬ、つむぎ㋺あらき絲にて厚く織つた織物

【綈袍】ティハウ　厚い綿入の上衣。

【綉・】　漢トウ　綿の一片注畫俗に繡呉ッ　の俗字として用ふる

も正しきは誤りである

【綏○】　漢呉　㋑ひも、車の引なスキ　タ　は㋺やすし、やすんず㋩しりぞく㋥ならび行くさま㋭おだやかなるさま

【同訓異義】　やすし　綏・安・寧其他の用法は二八九頁の安を見よ。

【綏寧】スキネイ　やすんじ治める。

【綏撫】スホブ　人民をなでいたはる。

【總】　國字　㋑かすり（絣）㋺かせ（枠）かせいと

八〇二頁の總を見よ。

【絳】　八一七頁の絳を見よ。

【續】　八一七頁の續を見よ。

【繼】　八一七頁の繼を見よ。

八畫

【綜・】　漢ソウ　㋑すぶ、すべくゝ呉ス　る㋺（機の具）

【綜合】ソウガフ　一しよに寄せ合す注畫總合と書くは誤り。

【綜括】ソウクワツ　纏めくゝる、總括。

【綜理】ソウリ　すべをさめる。「つとむ。

【綜務】ソウム　つとめをすべくゝる、すべ

【綜達】ソウタツ　ひろくゆきわたる。

【綜攬】ソウラン　物事の要點をすべをさめる

該綜ガイソウ　機綜キソウ　參綜サンソウ　錯綜サクソウ

輒綜ケンソウ　通綜ツウソウ　研綜ケンソウ　聞綜ブンソウ

【綠・】【緑】　漢リヨク　㋑青と呉ロク　黃との合色、みどり、もえぎ㋺黑く美しい色の形容㋩みどりいろの布帛又は衣服

【綠玉】リョクギョク 綠柱石、綠色柱狀の美石。

【綠林】リョクリン 盜賊の異名、後漢の末綠林山に籠りし故事に起る。

【綠門】リョクモン ㋑石或ひは煉瓦等を材料として出入口・道路などすべて開放せる上部を覆ふ曲線形の構造のもの ㋺杉檜葉等で飾つた祝賀門、アーチ。

（門　綠）

【綠色】リョクショク みどりいろ。

【綠雨】リョクウ 青葉の頃に降る雨。

【綠苔】リョクタイ 青きこけ、あをごけ。

【綠烟】リョクエン あを〳〵とした煙、綠煙。

【綠茶】リョクサ リョクヂャ 普通に飲む煎茶。

【綠陰】リョクイン 若葉のかげ。「に施す肥料

【綠肥】リョクヒ 草などをなまのまゝで田畑

【綠眼】リョクガン みどり色の目、碧眼。

【綠野】リョクヤ あを〳〵とせる野はら。

【綠葉】リョクエフ みどり色の木の葉、青葉。

【綠樹】リョクジュ あを〳〵と茂れる樹木。

【綠羅】リョクラ 綠色のうすぎぬ。

【綠礬】リョクバン 硫酸鐵、淡綠透明の結晶物

【綠藻】リョクサウ みどり色の海藻。

【綠蘋】リョクヒン みどり色の氷草。

【綠青】ロクシャウ 綠色の銅のさび、炭酸銅。

【綠蟹】リョクケイ 海龜の一種、甲は「たいまい」に代用す、小笠原・琉球・臺灣に產す、しうがくばう、あをうみがめ。

【綠綬褒章】リョクジュハウシャウ 孝子・順孫・節婦・義僕の卓絕した者又は實業に精勵し一般の模範たるべき者に賜はる褒章。

（龜蟹綠）

寒綠カン　翠綠スキ　新綠シン　故綠コリョク

萬綠バン　紫綠シリョク　碧綠ヘキ　緋綠ヒリョク

【綬・紱】

漢 シウ ㋑支那に呉 ジュ て官職の しるしの印形を帶びる時用ゐるくみひも ㋺勳章・褒章・紀章等を垂下し佩用する用に供する紐

綬綬エイジュ　綸綬リンジュ　文綬ブンジュ

印綬インジュ

章綬シャウジュ　華綬クワジュ　釋綬シャクジュ　帶綬タイジュ

【維・維】

漢 呉 キ ㋑つな、一音 ユイ おほづな、道德の基礎、世界を支へつなぐ綱、すぢ ㋺つなぐ、くゝる ㋩たゞ、これする、すべくゝる

【同訓異義】 これ 維・之・惟其他の用法は三五頁の之を見よ。

【維持】キヂ もちこたへる、つなぎもつ。

【維新】ヰシン ㋑政事や政體の改まること ㋺物事が面目を一新すること ㋩特に明治初年の改革をいふ。

【綱・綱】

漢 呉 カウ ㋑つな、おほづな、轉じて物事をくゝるもの、法則 ㋺人の守るべき道 ㋩くゝる、つなぐ ㋥すべる、しめくゝる 綱つなをはるべ同類中を區分して其大なる類別の稱

【綱引】ツナヒキ 大勢の人が左右に別れ一本の綱を引張り合つてあそぶ遊戲。

【綱目】カウモク おほわけと小わけ。

【綱要】カウエウ 物事の大切なところ。

【綱紀】カウキ ㋑國家を治める規則・政治又は社會の秩序をたてる道德 ㋺綱紀により國家を維持する。「五常の略語。

【綱常】カウジャウ 人の守るべき大道、三綱

【綱維】カウヰ ㋑おほもとのすぢみち ㋺綱紀を立てる、又その綱紀。

【綱領】カウリャウ おほぐゝり、おほもと。

【綱紀肅正】カウキシュクセイ 政府の役人の不正をいましめて官紀をたゞすこと。

帝綱テイカウ　皇綱クワウカウ　紀綱キカウ　天綱テンカウ

三綱サンカウ　大綱タイカウ　乾綱カンカウ　王綱ワウカウ

宏綱クワウカウ　人綱ジンカウ　倫綱リンカウ　斗綱トカウ

維綱ヰカウ　道綱ダウカウ　國綱コクカウ　頽綱タイカウ

【網・俗字・綱・古字・罔・網】

漢 バウ ㋑あみ、鳥又は魚を呉 マウ 捕へるもの ㋺法律命令の類 ㋩あみを張つて魚鳥をとる、網を張る如くして物を捕へる ㋥むさぼる（貪）殘らず取る

【網戶】マウコ あや模樣を彫刻した戶。

【網目】マウモク あみのめ、又法規。

【網罟】マウコ あみ（罟は魚を捕へる網）

【網膜】マウマク 眼球の內部にあつて外界の現象をうつす薄き膜。

【網羅】マウラ ㋑魚をとるあみと鳥をとるあみ ㋺すべてとる殘らず包容する。

【網代】アジロ ㋑竹・木等を川の瀨に網の如く張つて魚を捕へる物 ㋺檜・葦等を編んで屏風等の如き形に張るもの ㋩あじろぐるま

【網打】アミウチ 網をなげて魚をとる。

（代　網）

（打　網）

【網目版】アミメバン 寫眞を印刷面にあらはす一種の腐蝕銅版、あみばん。

【網代輿】アジロゴシ 外部を青竹の網代にてはりし輿にて親王・攝關・清華の家柄の者又武家が晴の時に乘りし乘物

禁網キンマウ　計網ケイマウ　淫網インマウ　寬網クワンマウ

密網ミツマウ　威網イキマウ　俳網カイマウ　刑網ケイマウ

憲網ケンマウ　文網ブンマウ　羅網ラマウ　塵網ヂンマウ

世網セイマウ　魚網ギョマウ　疎網ソマウ　天網テンマウ

（輿代網）

【綴・綴】

漢 テイ 慣用音セツ 呉 テ

㋑つゞる、とぢる、つらねる、結びあはす ㋺くみたてる、とりつくろふ ㋩とゞむ（止）㋥國訓つゞる（外國語の字母を組み合せて發音を作る、又發音によつて字母を組合す）つゞり（つゞること）の名詞）

【綴字】テイジ 外國語の字母を組み合せて「發音を作る。

【綴音】テイオン 子音と母音とで出來たる音

【綴旒】テイリウ ㋑旗のかざり ㋺吹流しの結びつけたもの、臣が君を自由にする譬。

【綴錦】ツヅレノニシキ さま〴〵の模樣を織りなしたにしき。

【綴込】トジコミ 多くの書類等を一つに綴ぢること、又その用具。

補綴ホテツ　連綴レンテツ　聯綴レンテツ　校綴カウテツ

點綴テンテツ　縫綴ホウテツ　集綴シフテツ　羅綴ラテツ

班綴ハンテツ　編綴ヘンテツ　稠綴チウテツ　赤綴セキテツ

（綴込器）

【綺・綺】

漢 呉 キ ㋑あや、いろ、つや ㋺もやうのある絹布、綸子 ㋩巧みにして飾りのあること ㋥美くし

【綺語】キゴ ㋑面白く飾つた言葉 ㋺詩文小說等の文句 ㋩佛敎では十惡の一、僞言。

【綺麗】キレイ ㋑物事の美しきこと、又美麗なる衣服 ㋺いさぎよきこと。

【綺羅】キラ 美しい衣服、又織物。

彫綺チウキ　輕綺ケイキ　流綺リウキ　綠綺リョクキ

錦綺キンキ　奢綺シャキ　文綺ブンキ　清綺セイキ

羅綺ラキ　綾綺リョウキ　煥綺クワンキ　輕綺ケイキ

【綾・綾】

漢 呉 リョウ ㋑あや、あやぎぬ ㋺國訓あや（いりくんだ模樣、おもてに現れぬ種々の關係、いきさつ、くふう、てだて）

【綾羅】リョウラ あや絹とうす絹、又美服。

【綾織】アヤオリ　あやのおりもの。
【綾羅錦繡】リョウラキンシウ　美しき衣服の形容

【綿○】【絲】　漢ベン　イわた　つゞく、つらなる　ハこまか、ちひさし　ニまつはる　ホ鳥の聲
呉メン　ロ永く
【綿手】メンシュ　うつくしい手。
【綿布】メンプ　イもめん、もめん絲で織つた布　ロわたとぬの。
【綿瓦】メンコウ　山などが連なりつゞく貌。
【綿羊】メンヤウ　羊の一種、らしやめん、其毛にて羅紗を作る。

（羊　綿）

【綿衣】メンイ　綿服に同じ。
【綿帛】メンパク　わたときぬ
【綿服】メンブク　もめんの著物
【綿密】メンミツ　イ注意深く細かに行き屆くロすきまのなきこと。
【綿絲】メンシ　もめんいと。
【綿綿】メンメン　長くつゞきて斷えぬ貌。
【綿入】ワタイレ　わたをいれたきもの。
【綿繰】ワタクリ　木綿のたねを去り綿を製すること、又綿繰車の略。
【綿火藥】メンクワヤク　硫酸と硝酸との混同液に綿花をひたして製した爆發藥。「仕事
【綿絲紡績業】メンシバウセキゲフ　綿絲をつむぐ木綿セン　連綿レン　柳綿リウ　海綿カイメン

【緊●】【緊】　漢キン　イきびし　しくまとふロかたし（堅）ハいそぐ、せまる　ホちぢむ（縮）
呉コン（急）きび
【緊切】キンセツ　イぴつたりとあふ、適切ロ
【緊要】キンヨウ　最も肝要。「極めて大切。
【緊急】キンキウ　イ藥器の絃音のきびしくはるさま　ロ必要にさし迫まる。
【緊密】キンミツ　隙間なくぴつたりはまる。
【緊張】キンチヤウ　强く張る、引きしまる。
【緊縮】キンシユク　ひきしまる、引しめる。
【緊急勅令】キンキフチヨクレイ　緊要の場合に天皇が議會の協贊を經ずして發せらるゝ命令にして法律と同等の効力あるもの
【緊急動議】キンキフドウギ　日程を變更して緊急を要する一定事項を議事に附せんとする發議。

【綟●】　漢レイ　イ崩黃色　ロ國訓もぢ（麻絲で目を粗
呉ライ　く織つた布）
【綟綟】チウチウ　イまつはつて離れない　ロまとふ、まきつける　ハ奥深きこと
【綟目】リレメ　イからげる、しばる　ロまつはつて離れない目
【綟言】リレゲン　天子の御言葉、詔勅。
【綟言如汗】リンゲレンジヨカン　一度出た汗が再びもとに戻らぬ如く天子の御言葉は取消や改更等は出來ぬ。

【綱○】　漢チウ　イまとふ、まきつけ
呉ヂユ　る　ロからげる、しば
【綱繆】チウビウ　イまつはつて離れない目ま
といつゝむ　ハたばねる　注意しうべうと讀むは誤り。

【綣●】　漢ケン　繾綣は附きまとつて離れぬ、又ねんごろ
呉コン　イほこのさ
【綣】　漢ケイ　呉キヤウ　カイ　や、裏衣、ほこのえだ　ロ筋肉のつけね

【綢○】　漢タフ　イなふ、なはをなふ
呉ドウ　ロなは（索）

【綣●】　漢ワン　イすぶ（統）すべくゝ
呉エン　ロつなぐ（繫）連絡する　ハ人名（漢高祖の臣）ニ國訓わがぬ（矯め曲げて輪にすること）

【綵●】　漢サイ　イいろどり、あや、あ
呉セイ　やもやう　ロいろどりをした織物或は衣服

【綸○】　漢呉　イいと、つり
リン　クワン　いと　ロをきめる、つかさどる　ハりんず（紗に似て光澤ある絹）ニ青色のひもにて官印につけるもの
【綸子】リンズ　織物の一（字解のハを見よ）。
【綸旨】リンシ　次に同じ。
【綸言】リンゲン　天子の御言葉、詔勅。

糸部（八—九畫）　綽・綽・綴・綱・綣・綟・綟・綟

【締◐】【締】 漢 テイ チ 呉 ダイ ザ

㋑むすぶ（結）むすばる㋺國訓しむ（固く結ぶ、強くしぼる、戸を閉ぢる、合計する、くびる、封じる）しまる（以上の自動詞）警戒する、たしなむ、檢束する、行狀がをさまる、しまり、しめ（以上の名詞）

【同訓異義】**むすぶ** 締・掬・結其他の用法は七九八頁の結を見よ。

【締交】テイカウ まじはりを結ぶ。

【締約】テイヤク 約束を取り結ぶ。

【締結】テイケツ ㋑とりかはす、むすぶ㋺しめくゝる㋩條約又は約束を取り結ぶ。

【締盟】テイメイ 條約を取交す、又その盟約。

【締盟國】テイメイコク 國際條約を締結したる相互の國家をいふ。

【緣◐】 漢 呉 エン ㋑ふち、へり、そとまはり、めぐり㋺たよる、よる㋩ゆかり、ちなみ、たより㋥えにし、人倫の關係、夫婦の關係㋭佛教にてまはりあはせ㋬えん、えんがは

【同訓異義】**より** 緣・從・自其他の用法は八五七頁の自を見よ。

【緣日】エンニチ ㋑神佛の祭禮を行ふ日㋺僧となる因緣の日。

【緣由】エンイウ ちなむ、ちなみ、ゆかり。

【緣坐】エンザ 他人の罪で自分も罰せられる、まきぞへをいふ。

【緣故】エンコ えんつゞき、ゆかり。

【緣家】エンカ ゆかりある家、しんるゐ。

【緣起】エンギ ㋑神社佛閣の建てられしいはれ、轉じて單に山緒來歷の意㋺しるし、きざし、又めでたきこと、又㋺の場合俗に緣喜と書くことあり。

【緣語】エンゴ 和歌にて修飾法の一。

【緣邊】エンペン 周邊、そとまはり。

【緣類】エンルキ 結婚の關係の生じた親類。

淨緣ジヤウエン　由緣ユエン　依緣イエン　奇緣キエン

機緣キエン　情緣ジヤウエン　外緣グワイエン　來緣ライエン

夙緣シユクエン　善緣ゼンエン　再生緣サイセイエン

【編○】【編】 漢 呉 ヘン ㋑あむ、くみあはす㋺絲でからげる、とぢる、文書又は書物を集めつゞる㋩ふみ、書物、文書㋥書物の部わけの數及其順序を示す語㋭書物のとぢめ、又とぢいと

【編入】ヘンニフ 加へ入れる、くみいれる。

【編次】ヘンジ 順々にあみならべる。

【編成】ヘンセイ くみたてる。「しきこと。

【編貝】ヘンバイ 貝をあみし如く齒なみの美

【編制】ヘンセイ ㋑個々をまとめて隊にくみたてること㋺或物の組織に關する制度

【編修】ヘンシウ ㋑とゝのひて正しきさま㋺文書をあみ整へる、又其事を勸める人

【編世】ヘンシフ 文書をあみちつめる。「誤り

【編纂】ヘンサン 前に同じ㋭編纂と書くは

【編年體】ヘンネンタイ 年代に史實をならべしるす歷史文體。

陳編チンペン　簡編カンペン　合編ガフヘン　竹編チクヘン

遺編イヘン　末編バツヘン　次編ジヘン　神編シンヘン

新編シンペン　殘編ザンペン　故編コヘン　群編グンペン

【緩●】【緩】 漢 クワン ㋑ゆる 呉 ダワン し、きびしくない、のろい㋺らくである㋩ゆるくす、ゆるむ㋥ゆるやか

【緩步】クワンポ ゆつくり歩くこと。

【緩和】クワンワ ゆるやかにする。

【緩急】クワンキフ ㋑ゆるやかといそぎ㋺事のさしせまつた場合。

【緩怠】クワンタイ なまけ怠る。

【緩帶】クワンタイ おびをゆるめる、安心する

【緩慢】クワンマン ㋑ゆるやか㋺おろそか

【緩緩】クワンクワン ゆるやかなるさま。

糸部（九畫）練・緻・緯・緩・緯・緒・綱・綠・緯・緯・緯

㈧盛んなる鋭㈡古綿、くづ麻、もつれ麻㈢くづ麻にて織った布

【組袍】ランパウ どてら、綿入の上衣。

【縣】八〇六頁の綿を見よ。

【繩】八一五頁の繩を見よ。

【縲】七九七頁の縲を見よ。

十畫

【縞●】【鎬】漢 カウ ㈠ねりぎ 呉 コウ ぬ（練絹）㈡しろぎぬ（白絹）一説に生絹㈧國訓しま（色絲を織り込んで筋目を現した模様、又其布帛、以上の形したもの）

【縞蛇】シマヘビ 蛇の一種で身長は四五尺ばかり背は褐色で暗色の縱紋が四筋ありて山野にすむ

【縞物】シマモノ しまもやうのある反物。

【縞馬】シマウマ アフリカ産の馬の一種で牝は鹿の子色牝は白で何れも毛に虎の如き斑點がある。

（縞蛇）　（縞馬）

【縞鰈】シマガレイ かれひの一種 褐色を呈し十二の黑條横行し尾には金色の斑紋あり體長八寸許り淺海の泥底に棲息する。

【縞模様】シマモヤウ 筋目のある模樣

曳縞 エイカウ 呉縞 ゴカウ 索縞 ソカウ

綺縞 キカウ 薄縞 ハクカウ 阿縞 アカウ 鮮縞 センカウ 織縞 センカウ

（縞鰈）

【縣●】【懸】通字【縣】漢 ケン 呉 ゲン ㈠かゝる、かける㈡へだゝる㈧縣けて鳴らす樂器㈢あがた（地方の部落の稱）㈣秦始皇帝より始まりし行政上の區劃（郡又は府に屬するもの）㈤國訓あがた（上古には朝廷の御料地、後には縣主の支配地、中古以後には國主の任國）けん（現今では地方行政區劃の一にして縣知事の管轄區域をいひ、公法人として市及び町村を以て構成する自治團體）

【縣下】ケンカ その縣のうち、縣内。

【縣内】ケンナイ 前に同じ。

【縣令】ケンレイ ㈠地方官、明治十九年以前の知事の稱㈡縣知事の發する行政命令

【縣吏】ケンリ 縣廳の官吏。

【縣官】ケンクワン 前に同じ。

【縣社】ケンシヤ 縣より幣帛を奉る資格ある「神社。

【縣治】ケンチ ㈠縣内の行政㈡縣廳の所在地

【縣會】ケンクワイ 縣の歳出入其他法律命令にて委任せられし事項を議決する機關

【縣廳】ケンチヤウ 縣の事務を取扱ふ役所。

【縣主】アガタヌシ ㈠上古縣を治めることを司つた官職の名㈡姓の名。

【縈○】漢 エイ ㈠めぐる、からみつく、まとふ㈡めぐらす 呉 ヤウ

【縈河】エイカ うねりまはつて流れる川。

【縉●】【縉俗字】漢 呉 シン ㈠うすろ、又その色の帛㈡はさむ、束帶の時笏を大帶にさしはさむ、轉じて高位高官の者、又上流の人

【縉紳】シンシン 笏を挿む身分にして公卿、貴族、又は上流人。

【縊●】漢 エイ 呉 アイ 注意えきと讀むは誤り ㈠くびる、首をくゝる㈡くびり殺す

【縊死】イシ くびれしぬこと。

【縊殺】イサツ 首をくゝり殺すこと。

【縊蟲】オキクムシ 蝶類の蛹蟲で裸出のまゝ樹枝に固著し或時期の後羽化する。

【縋●】漢 ツヰ ㈠すがる、つかまり 呉 ツイ さがること㈡かけ下したる繩㈧國訓（他にたよりまつはる）

【縑●】漢 ケン かとり（あはせた絲 呉 コン で固く織つたきぬ）

【縒●】漢呉 ㈠ふそろひのさま（參差）㈡いさぎよし（鮮潔）㈧國訓よる（絲をねぢつて固く强くする、併せねぢつて一すぢにする）より（ねぢれ）

【縛●】【縛別字】漢 バク ㈠しばる、呉 バク ゆはへる、くゝる㈡いましめる、とらへつなぐ㈧いましめ（しばること）なはめ

【縛繩】バクジヤウ 不動尊の左手に持つ繩。

【縟●】漢呉 ㈠こまか（緻）㈡つゝし シン みぶかし

【縟密】ジンミツ こまやかなこと 注意慎密とはその意異なる。

【縟●】漢 ジョク ㈠かざり、こみ入 呉 ニク りたるいろどり㈡しげし、數多し、わづらはし

【縟禮】ジヨクレイ わづらはしき禮式作法。

【縟麗】ジヨクレイ 詳密にして美くし。

【縠●】漢 コク こめおり、ちりめん 呉 ゴク（縮緬）

【縫●】漢呉 ㈠こと（事）㈡國訓いきサイ（生命）

【縢○】漢 トウ ㈠しばる、からげる、呉 ドウ ふうじる㈡はゞき、むかばき、きゃはん㈧國訓かな（四筋を一筋によつた織物のたていと）

【縐】八〇九頁の縐を見よ。

十一畫

【縫●】【縫俗字】【逢】漢 ホウ 呉 フウ ブ ㈠ぬふ、衣服を仕立てる、針にてぬふ有樣、つなぎあはせるぬひ、ぬひもの㈡あはせめ、ぬひめ

【縫腋】ホウエキ 昔天皇及び文官及四位以上の武官の著用したる袍。

【縫織】ホウシヨク ぬふことゝおること。

【縫取】ヌヒトリ 布帛の上に模樣又は繪畫を五彩の絲にてぬひつけること。

又その模樣、しゝう。

（縫取）

（縫腋）

【縫紋】ヌヒモン 絲でぬひつけた紋所。

【縫箔】ヌヒハク 金絲銀絲を加へて縫ひ取ること、又その物。

【縮●】【縮】漢 シュク ㈠ちゞむ、呉 シク ちゞまる、ちゞる㈡こす、したむ㈧たて（縱）㈢なほし、たゞし㈣かく（缺）乏しい㈤國訓ちゞみ（ちゞみおり）

【縮小】シユクセウ 縮つて小さくなる、縮めて小さくする 注意縮少と書くは誤り。

【縮尺】シユクシヤク 製圖上物の原形よりも縮小したる圖を畫く時其比例の寸法。

【縮毛】シユクマウ ちゞんだ毛、ちゞれ毛。

【縮刷】シユクサツ 原版を縮小して刷る又其

【縮減】シユクゲン へらす、へる。

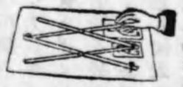
【縮圖】シユクヅ 原形をちゞめて畫きたる圖。

【縮寫】シユクシヤ 原形より小さく縮めて寫す。

【縮緬】チリメン 一種の絹織物の名。

寒縮 カンシユク 縮緬 シユクメン 局縮 キヨクシユク 牧縮 ボクシユク

斜縮 シヤシユク 伸縮 シンシユク 長縮 チヤウシユク 卷縮 クワンシユク



（縮圖器）

【縱●】【縱略字】【從】通字

〔縱〕漢 ショウ ソウ 吳 シュ ス

慣用音 ジュウ

㋑ゆるす、許容す㋺ゆるぶ（緩慢）㋩はなつ、ゆるしにがす、又射る㋥ほしいまゝ、ほしいまゝにす、勝手にする㋭たとひ、よしやへすゝむ、そゝのかす㋬たて（横の對）㋣あと（蹤）あしあとり急ぐさま

【同訓異義】**たとひ**

【假令】はかりにしかせしめばの意。

【縱】はさうではないがさうして見たときはの意。「うさせて見る意。

【縱令】はさうではないがゆるしてさ

【譬】は此物を以て彼物に比類する意

【同訓異義】**ほしいまま**

【态】は惡いことを氣まゝにするの意

【放】はしまりのない意。

【横】は無理にわがまゝをするの意。

【縱】は繩を取放して自由にするの意

【肆】は思ふまゝにするの義。

【縱态】シヨウセキ 氣まゝ、わがまゝ。

【縱迹】シヨウセキ あと、あしあと。「ぬく。

【縱貫】ショウクワン ジユウクワン 南北にとほるたてにつら

【縱肆】ショウシ 縱态に同じ。

【縱談】ショウダン 思ひのまゝに話す、放談。

【縱擊】ショウゲキ ㋑軍隊をはなちて進めつ㋺勝手にたゝく。

【縱寛】ショウラン ジユウラン 自由自在にみる。

【縱覽】ショウクワン 前に同じ。「をたてに走る

【縱走】ジユウソウ たてに走る、山脈の脊など

【縱隊】ジユウタイ たてに組み合せたる軍隊

【縱線】ジユウセン 横線の對、たてすぢ。

【縱震】ジユウシン 山脈と平行して地盤に生ずる斷層のために起る地震。

【縱横】ジユウワウ ㋑たてとよこ㋺十文字に交はる㋩自由自在、思ひのまゝ。

【縱斷】ジユウダン たてざまにたちきる。

【縱令】タトヒ 「たとひ何々すとも」と反りよむ、よしや、假令。

【縱海岸】ジユウカイガン 山脈と平行する海岸。

【縱横無盡】ジユウワウムジン 自由自在にして限りなきこと。

【縱横無礙】ジユウワウムゲ いづれにも何等の

英縱 エイショウ 假縱 カショウ 态縱 シショウ

誕縱 タンショウ 任縱 ニンショウ 放縱 ハウショウ 欲縱 ヨクショウ

天縱 テンショウ 弛縱 シショウ 脈縱 ミヤクエンシヨウ 知縱 チシヨウ

〔總・總〕〔總〕漢 ソウ 吳 ス

㋑すぶ、しめる、たばねる、あつめくゝる、すべをさめる、支配㋺まとまる、物事のあつまること㋩ふさ（絲を束ねて垂れ下げた飾）㋥すべて、そうたい

【同訓異義】**すべて** 總・凡・渾其他の用法は六一一頁の渾を見よ。

【總代】ソウダイ 全體の人の代表、總名代。

【總目】ソウモク 其物全體の見だし。

【總合】ソウガフ 箇々のものを一つに纏める

【總名】ソウメイ ソウミヤウ 全體を一括して呼ぶ稱。

【總身】ソウシン 全身、からだぢゆう。

【總長】ソウチヤウ 事物の全體を取締る長官

【總花】ソウバナ 茶屋・妓樓などで客が全部の者に祝儀をやること、轉じて何人にも氣に入るやうにすること、總花主義。

【總角】ソウカク 昔男女が冠笄せざりしときの髮形、あげまき、轉じて小兒。

【總則】ソウソク 全體にわたり適用せられ又は關係することを定めた部分。

【總括】ソウクワツ まとめる、すべくゝる。

【總計】ソウケイ しめだか、總計算。

【總軍】ソウグン 全軍、軍隊のこらず。

【總員】ソウキン 全員、全部の人員。

【總務】ソウム 全體の事務を管理する人。

【總理】ソウリ すべをさめる、又その人。

【總統】ソウトウ 全體をすべまとめる、又その職にある人。「髮をはやす。

【總髮】ソウハツ さかやきを剃らずに全體に

【總裁】ソウサイ 總理に同じ。

【總督】ソウトク ㋑全體をすべひきぬる、又その人㋺臺灣及朝鮮總督府等の長官。

【總會】ソウクワイ ㋑多人數が合ふ㋺全體が出合ふこと㋩銀行會社などにて其全體の社員株主等が集會してする會議。

【總稱】ソウシヨウ 全體を一纏めにした稱へ

【總管】ソウクワン すべとりしまる、又その人

【總說】ソウセツ 全體をひきくるめたる說明

【總領】ソウリヤウ ㋑すべてをとりしまる㋺氏の嫡流又は一番目の子㋩大國の國司

【總監】ソウカン すべ司る、又其職にある人。

【總論】ソウロン 物事の總體に亘れる論說。

【總數】ソウスウ 全數、すべてのかず。

【總錄】ソウロク ㋑すべしるす、又その記錄

㋺昔盲人をとりしまつた役。

【總領】ソウガク そうじめ、しめだか。

【總攬】ソウラン ㋑政事をすべる㋺人心をひきつけて心服せしめる 注意 總覽と書く

【總體】ソウタイ 全部、のこらず。「は誤り。

【總本山】ソウホンザン 佛敎にて一宗の大本となる寺院。

【總攻擊】ソウコウゲキ 總勢にてせめうつ。

【總面積】ソウメンセキ 或地域の總體のひろさ

【總領事】ソウリヤウジ 二箇所以上の領事の管轄區域を支配する領事官。

【總選擧】ソウセンキヨ 任期の滿了又は解散により議員の全部を選擧する、又其選擧。

【總理大臣】ソウリダイジン 內閣の首班として機務を奏上し行政各部を統一する官職

〔績・績〕漢 セキ 吳 シヤク つむぐ

（繭・綿・麻等から絲をひき出す）㋺てがら、いさを㋩しごと、わざ、事業

【績女】セキヂヨ 絲をつむぐ女。

【績文】セキブン 文章をつくる、文藝を修む。

嘉績 カセキ 功績 コウセキ 敗績 ハイセキ

成績 セイセキ 邦績 ハウセキ 勳績 クンセキ

遠績 エンセキ 名績 メイセキ 殊績 シユセキ

美績 ビセキ 辟績 ヘキセキ 舊績 キウセキ

異績 イセキ 徽績 キセキ 治績 チセキ

幸績 ゼンセキ 異績 イセキ 政績 セイセキ

〔繁〕〔繁〕俗字〔繁〕漢 ヘン 吳 ハン

㋑しげし、多い、さかんである㋺うるさい、わづらはしい、いそがしい㋩いりまじる、又しげる、ふえる㋥多くす、しげくす㋭馬のはらおび

【同訓異義】**しげる**

【滋】は物の增しひろがる義。

【稠】は稀の反對でしげり密かの意。

【繁】は簡の反對で多く入り雜る意。

【茂】は盛んに草のしげる意。

【蕃】は草の茂つて盛んなる意。

【繁冗】ハンジヨウ わづらはしい、うるさい。

【繁文】ハウブン ㋑こみ入りたるかざり㋺わづらはしきさだめ、繁文縟禮。

【繁用】ハンヨウ 用事の多きこと、多忙。

【繁多】ハンタ 事物のおほくしげきこと。

【繁忙】ハンバウ いそがし、多忙。

【繁昌】ハンシヤウ ハンジヤウ ㋑草木の盛んにしげるさま㋺さかえる。

【繁茂】ハンモ 草木が生ひしげること。

【繁細】ハンサイ 煩はしくて細かい。「しい。

【繁務】ハンム わづらはしき勤め、いそがは

【繁榮】ハンエイ 繁昌に同じ。「なること。

【繁盛】ハンセイ 富みさかえる、勢のさかん

【繁殖】ハンショク ふえてはびこる。

【繁華】ハンクワ ㋑土地のさかんにして賑やかなること㋺草木の生茂することに喩へて人の少壯の時をいふ。

【繁困】ハンカン 多忙なることゝひまなこと

【繁劇】ハンゲキ 繁忙に同じ。

【繁縟】ハンジヨク ㋑煩はし、くだ〳〵しい

㋺音樂の調子のほそきさま。

【繁雜】ハンザツ 物事が多くてわづらはしい

【繁簡】ハンカン 繁多とおほざつぱ、煩簡。

【繁文縟禮】ハンブンジヨクレイ 無用の虛禮又は繁雜なる規則。

糸部（十一—十二畫）　縯・縹・縵・縷・縷・縹・縺・縻・縟・縟・縟

直繦チョク 綵繦サイジョウ 世繦セイジョウ 規繦キジョウ

【繪●】【繢通字】【絵】漢クワイ 呉エ

㋑ゑ（畫は只形象を描いた圖）㋺ゑがく、彩色する、ゑをかく

【繪本】エホン 繪の本、繪入草紙。「遊戯。

【繪合】エアハセ 繪を出して優劣を競ふ室内

【繪馬】エマ ㋑馬を納める代りに馬の繪を書いた額を神社佛閣に奉納するもの㋺神社・佛閣に奉納する繪の額。

（繪馬）

【繪絹】エギヌ 繪畫を描くきぬ。

【繪畫】クワイグワ ゑ、繪素。

【繪踏】エブミ 耶蘇教の信者をためす爲め基督の畫像を踏ましめしこと、踏繪。

【繪圖】エヅ 家屋・庭園等凡て地上の區劃を畫きし平面圖、繪圖面。

【繪草紙】エザウシ 繪をかきたる小さき書物

【繪卷物】エマキモノ 繪を主としそれに短き説明を加へたる卷物。

錦繪キンクワイ 彩繪サイクワイ 品繪ヒンクワイ
華繪クワイ 鮮繪センクワイ 粉繪フンクワイ
圖繪トクワイ 美繪ビクワイ 素繪ソクワイ 粧繪シヤウクワイ

【繫●】【係通字】【系】漢ケイ 呉カイ

㋑つなぐ、むすびつける、かける、くくる、しばる、又禁錮す㋺かゝはらせる、關係させる㋩かゝる、つながる、ぶらさがる、易の卦爻についての説明

【同訓異義】**かかる** 繫・係・系其他の用法は七八頁の係を見よ。

【繫合】ケイガウ つながりあふ、かゝりあふ。

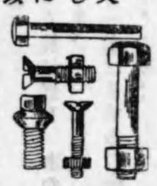
【繫泊】ケイハク 舟をつなぐなは。

【繫索】ケイサク 物をつなぐわづらひ、係累。

【繫累】ケイルキ 身にかゝるわづらひ、係累。

【繫留】ケイリウ ㋑つなぎとめる㋺罪人等を捕縛する。

【繫桿】ケイカン 鐵製又は眞鍮製の桿にして一端又は兩端に螺旋を具へ二箇以上の物體を結合するに用ふ、ボルト。


（繫桿）

【繫屬】ケイゾク かゝりつく、つながりつく、又つなぎつける。

【繫縛】ケイバク 捕縛して拘留すること。

【繫留氣球】ケイリウキキウ 條素を用ひて自由に浮游せしめるやうに一定の場所につないで飛揚せしめる氣球。

（繫留氣球）

輕繫ケイ 世繫セイ 械繫カイ 逮繫タイ
繩繫ジョウ 拘繫コウ 紐繫ソウ 囚繫シウ
捕繫ホ 土繫ジヤウ 下繫カ 勅繫ケイ
官繫クワン 繞繫ゼウ 東繫ソク 緩繫クワン
留繫リウ 誣繫フ 寃繫エン 列繫レツ

【繭●】【繭俗字】【繭】漢呉ケン

㋑まゆ、蠶のまゆ㋺きぬもの（絹布）

【繭紬】ケンチウ 柞蠶の絲にて織つた絹織物

【繭絲】ケンシ ㋑絹絲㋺租稅を徵收する土地

重繭チヨウケン 野繭ヤケン 魚繭ギヨケン 絲繭シケン

【繰○】【繰】漢サウ 呉ソウ ㋑くる（繅）絲をくる、又そのこと㋺國訓絲をくるやうに順におくる、都合よくする

【繰上】クリアゲ 次第に上の位にひき上げる

【繰言】クリゴト 同じ事をくりかへす、ぐち。

【繰延】クリノブ 順々に次へ送りのばす。

【繰越】クリコシ 一計算期に剩餘又は一定の額に達せぬものを次期計算に編入する

【繰延勘定】クリノベカンヂヤウ 或事情の爲に次の決算期まで繰延べる勘定。

【繹●】漢エキ 呉ヤク ㋑たづぬ、意味をたづね解く㋺つらぬ、つらなる、又そのさま㋩祖先の祭（正祭

の翌日に行ふもの）㋥ひく、抽き出す

【同訓異義】**たづぬ** 繹・尋・討其他の用法は三一三頁の尋を見よ。

【繹繹】エキエキ つながり續くさま。

十四畫

【繼●】【継略字】【繼】漢呉ケイ

㋑つぐ、つゞける、つなぐ、うけつたへる㋺代つて立つ、あとを引き受ける㋩ついで、やがて

【同訓異義】**つぐ** 繼・嗣・續其他の用法はこの頁の續を見よ。

【繼子】ケイシ まゝこ、なさぬ仲の子。

【繼夫】ケイフ 後ぞひの夫。

【繼父】ケイフ まゝちゝ、義理の父親。

【繼母】ケイボ まゝはゝ、義理の母親。

【繼妻】ケイサイ のちぞひ、後妻。

【繼受】ケイジュ うけつぎ、つぎうける。

【繼承】ケイショウ ㋑祖先の事業をつぐこと㋺前者の權利を受けつぐ。

【繼室】ケイシツ ㋑後妻をとめる㋺のちぞひ

【繼述】ケイジユツ つぎのべる、紹述。

【繼紹】ケイセウ 前人の事業をうけつぐ。

【繼統】ケイトウ 血筋をつぐこと。

【繼嗣】ケイシ よつぎ、あとゝり、繼貳。

【繼續】ケイゾク つゞける、又うけつぐ。「子。

【繼體】ケイタイ ㋑祖先の遺體をつぐ㋺皇太

【繼續犯】ケイゾクハン 犯罪の實行々爲が其の性質上長時間に亘る犯罪。

【纂●】【纂】漢呉サン

㋑あつむ（緷）あつまる、むらがる㋺つぐ（纘）續ける㋩赤色の織物、又くみひも

【同訓異義】**あつまる** 纂・聚・集其他の用法は八三六頁の聚を見よ。

【纂述】サンジユツ 文書を述べあらはす。

【纂修】サンシウ 文書を集めて整理す。

【纂輯】サンシフ 文書をあつめ記す。

【纂錄】リンロク あつめしるす。

【繻○】漢シュ 呉ス ㋑こまかい紹の織物㋺國訓しゆす（ねり絲を以て地厚に滑かに織つた織物）

【繻子】シユス 字解の㋺を見よ。

【繻珍】シユチン シチン 繻子地にいろ〳〵の模樣を浮べた絹織物。

【辮●】漢ヘン 呉ベン

㋑くむ、あむ、交へなふ㋺髮をあみ結びしもの（編髮）

【辮髮】ベンパツ 支那人の如く髮をくみあはせる、又其形 注意 辮髮と書くは誤り。

（辮髮）

【續○】漢呉ヒン

㋑おほし（多）盛んなり㋺みだる（亂）

【續紛】ヒンプン 多くして盛んなるさま。

【繼●】漢呉ケン キン

㋑つきまとふ、まつはる㋺人情のあつきこと

【繼】國字 かすり（絣）飛白

【繼】九四二頁の繼を見よ。

十五畫

【續●】【続略字】【續】漢ショク 呉ゾク

㋑つぐ（繼）㋺つゞく、たえず連なる㋩つゞき來るもの

【同訓異義】**つぐ**

【嗣】はあとつぎの意。

【尋】はおひかけつゞくの意。

【接】はその意續に似てゐる。

【次】は次第につぎ〳〵の意。

【紹】は家をつぎ德をつぎ業をつぐに限りて用ふ。「又つらなりつゞく意。

【續】は斷の反對で斷えたる所をつぎは斷えたるあとをつぐの意。

【襲】は下地からある上を更に因襲して重ねつぐなりの意。

【續出】ゾクシユツ　つぎ〳〵と現れ出る。

【續生】ゾクセイ　續發に同じ。

【續發】ゾクハツ　ひきつゞきておこる。

【續戴】ゾクタイ　引つゞき書きのせる、連載。

【續稿】ゾクカウ　原稿のつゞき。

【續編】ゾクヘン　正編につゞく書物。

【續續】ゾクゾク　物事の絶えずひきつゞく貌

【續柄】ツヅキガラ　親族相互間血統上の關係

【續隨草】ホルトスウ　大戟科の二年生草本で庭園に栽培せられ莖は圓柱形にして高さ一二尺此植物は有毒にして莖葉より出る乳液を皮膚に塗れば忽ち小瘡を發し根は藥用に供せられる、ヨーロッパの原産。

（續隨草）

更續ゾクカ　絶續ゾツゾク　繼續ケイゾク　斷續ダンゾク

陸續リクゾク　連續レンゾク　補續ホゾク　轉續テンゾク

纏（俗字）纏❶ 纏 漢デン 呉テン

纏は俗字❶めぐらす、まとふ❷まつはる、つかまる❸國訓まとひ（目じるしに立てる竿、古くは陣所のしるしに立て今は消防夫の組の印として用ゐる）

【纏足】テンソク　支那婦人の風俗、布帛にて足をしばり細くすること。

【纏絡】テンラク　まつはりからまる。

（纏足）

【纏股】テンコ　足にからみつく。

【纏抱】テンパウ　からみつく。

【纏著】テンチヤク　からみまつはる。

【纏綿】テンメン　からまりまとふ。「まとひ。

【纏縛】テンバク　まとひしばる、轉じて足手

【纏頭】テントウ　はなゝかづけもの、祝儀。

【續●】漢ケツ ❶むすぶ、くゝる❷呉ゲチ くゝりぞめ、しぼり❸しぼる（しぼりに染める）

【纍○】漢呉 ❶つゞく、つらなる、ルイ 又其さま❷疲れたるさま❸積み重なる、累々❹つながり、係累❺なは、つなぐめぐる、まとふ❻とらはる、罪せられ捕はれる、又その者

【纍臣】ルイシン　とらはれて家來となりし者

【纍紲】ルイセツ　牢獄、ひとや。

【纍纍】ルイルイ ❶つかれるさま❷つゞく貌

【纍】八一九頁の續を見よ。

纖○ 纖（俗字） 漢セン 呉ソン

❶ちひさし、ほそし❷うすぎぬ、又其衣服❸しはし、吝嗇、又つゞまし❹たをやか、しなやか

【纖介】センカイ　すこし、こまか。

【纖手】センシユ　美人の手をいふ、弱手。

【纖月】センゲツ　三日月などの形、細長き月。

【纖毛】センマウ　ほそげ、細毛。

【纖眉】センビ　ほそい眉、蛾眉。

【纖指】センシ　ほそきゆび、美人の指。

【纖弱】センジヤク　かよわきこと。

【纖細】センサイ　こまか、微細。

【纖維】センヰ　生物體を組織する細きすぢ

【纖翳】センエイ　すこし曇ること、そのさま。

【纖麗】センレイ　しなやかにて美くし。

【纓○】漢 ❶ひも、かんむりの呉 ヤウ ひも、轉じて上にありて清きもの❷なは（索）❸むながい（馬の胸を蔽ふ革）❹まとふ（纏絡）❺えんび（燕尾）

（纓）

【纓冠】エイクワン　かんむりのひもを結ぶ。

【纔○】漢 サン ❶わづか、わ呉 ザン ザイ づかに、すこしく❷やつと、からうじて

【同訓異義】わづか　纔・僅・劣其他の用法は九七頁の僅を見よ。

【纔】三六五頁の纔を見よ。

【纔】九八〇頁の變を見よ。

【纔】一〇二四頁の轉を見よ。

十九畫

【纔●】【纔（俗字）】漢呉 ❶つゞく（續）サン つぐ❷あつむ

【同訓異義】つぐ　纔・續・纔・纔其他の用法は八一七頁の續を見よ。

【纔●】漢 タウ トク ❶はた（旄牛呉 ドウ ドク の尾にて飾つた大旗）❷はたぼこ、轉じて天子のみはた❸喪式の時に棺側にたてるさしもの

（纔）

二十一畫

【纔●】【纔（俗字）】漢 ラン ともづな呉 ロン（舟をつなぎ止めるつな）

缶部

【缶●】【缶（俗字）】漢 ヒウ ❶もたひ、呉フ ほとぎ（おもに酒を盛るかめ）❷四斛の量

二畫

【卸】一七一頁の卸を見よ。

三畫

【缸○】漢 カウ 呉 コウ もたひ、かめ

四畫

【缺●】【欠（別字）】【缺（字）】漢 ケツ 呉 ケチ

注意 欠は全然別字なるも今は一般に略字として用ひられてゐる❶かく、やぶる、こはれる、有る可き物事が無くなる、不足す、すきまがある、空位を生ずる、官職があく❷あやまる、しくじる❸掛つたもの〻一部分がなくなる又爲すべきことをせぬ❹かげ、こつぱ❺國訓かけ（こはれたもの〻小片、破片、かけら）

【同訓異義】かく

【欠】は數の不足せる義。

【玷】は玉のきずの意。

【缺】は完の反對で物のかけ損ずる義

【虧】は盈の反對であるから月の盈虧に用ふ又損じ毀るゝ義にも用ふ。

【闕】は全の反對で多くの物の中にてかげおちたる義。

【缺口】ケツコウ　三つ口、いぐち。

【缺乏】ケツバフ　物が不足して乏しくなる。

【缺本】ケツボン　卷數のまとまらぬ書物。

【缺如】ケツジヨ　かけたるさま。

【缺席】ケツセキ　出席すべき所に出ぬこと

注意 欠席と書くは誤り。

【缺員】ケツヰン　人員が足らぬ、又其人員。

【缺陷】ケツカン　かけて足らぬ、不備。

【缺勤】ケツキン　つとめ人などが休んで出勤せぬこと、勤めをかく。

【缺脣】ケツシン　缺口に同じ。

【缺損】ケツソン　❶器物などがこはれること❷利益を失ふ、穴があく。

【缺漏】ケツロウ　かけもれる、闕漏。

【缺點】ケツテン　あら、をちど、短所。

【缺禮】ケツレイ　禮儀にもとる、失禮。

【缺離】ケツリ　破れたるかきね。

【缺席裁判】ケツセキサイバン　原告又は被告人が判決の當日出廷しない場合に裁判官が

下す判決。

残缺（ザンケツ）　瑕缺（カケツ）　闕缺（エンケツ）
黴缺（ビケツ）　散缺（サンケツ）　補缺（ホケツ）　廢缺（ハイケツ）　損缺（ソンケツ）
亡缺（バウケツ）　頽缺（タイケツ）　列缺（レツケツ）　兎缺（トケツ）

五畫

【御】三七二頁の御を見よ。

十一畫

【罄●】【磬俗字】漢ケイ　㋑から　呉キャウ　である、むなし、又からになる㋺すべて㋩自ら嚴正なるさま

十二畫

【罇○】漢呉　ソン　たる、さかだる

十四畫

【罌●】漢　アウ　エイ　もたひ（缶）かめ（瓶）　呉　ヤウ

【罌粟】ケシ　㋑罌粟科の一年生草本で五月頃紅・白・紫などの美しい花を開き種子は食用にし又油を搾り未熟の果實の乳液からは阿片を製する㋺けしだま。

（罌粟）

十六畫

【罍】二四四頁の罍を見よ。

十八畫

【罐●鑵】漢呉　クワン　㋑つるべ（汲器）㋺ほとぎ　㋩（缶）㋩くわん（鑵）かま、蒸氣發動機の釜、薄い金屬製の湯わかし

【罐詰】クワンヅメ　食料品貯藏の爲め罐に詰めて空氣を抜きたるもの、轉じて或物を長く同一の場所へ押こめ置くにいふ

【罐詰職員】クワンヅメギヰン　脫黨又は祕密の漏洩を防ぐ等の必要より政黨の陣笠議員を一時同一場所に引止め置くこと。

网（四畫）部

【网●皿・兀、冈】漢バウ　㋑網の　呉マウ　古字㋺國訓あみがしら（字畫の冠になる時の稱）

三畫

【罔●網】漢　バウ　㋑あみ（網）轉じ　呉　マウ　て法律規則㋺あみす、網でとる、法律で罰する㋩しふ（誣）正しい道を行はぬ㋥なし㋭なかれ

【同訓異義】なし　罔・無・靡其他の用法は六三六頁の無を見よ。「の化物。

【罔兩】マウリヤウ　㋑かげ、うすい影㋺山川

【罔罟】マウコ　獸を捕へる網と魚をとる網。

【罔然】マウゼン　㋑愚かなるさま㋺うつとりせるさま。

【罔極之愚】マウキヨクノヨン　きはまりなき愚、「父母の高愚。

【罕●罕・罕】漢呉　㋑まばら、まれ　カン　㋺たま〳〵、滅多にない㋩はた（旌旗）

【同訓異義】まれ

【少】は多の反對で數の少き義。「意。

【罕】はたま〳〵の義にて至って少き

【希】は稀れの意希有はたまに有る義

【稀】はまばらの意、稠の反對である。

四畫

【罘○】漢フウ　呉ブ　㋑あみ（罟）兎をとるあみ㋺　漢呉フ　罘罳はあみまど㋩ふたゝび（復）

五畫

【罟●】漢コ　㋑あみ（禽獸又は魚類　呉ク　を捕へる網）㋺おきて、刑律㋩つみ（罪）

【罠○】漢ビン　呉ミン　㋑つる（釣）㋺あみ（兎などを捕へる網）㋩國訓わな（繩を輪にし鳥獸類の足をすくひ縛って捕へる仕掛、人をだます計略）

（罠）

七畫

【詈】九五八頁の詈を見よ。

【買】九九三頁の買を見よ。

八畫

【罪●】【辠古字】【罪】漢サイ　呉セ　慣用音ザイ　注意この古字は罪にふれて自から辛苦するの意より出づ㋑つみ、とがめ、とが、しおき㋺法律にふれる、刑罰㋩災難、弊害㋥宗教にては邪念㋭つみす、つみにあてる㋬とがめる、をちどゝする㋮國訓つみ（對手より怨まれるが如き行爲）

【罪人】ザイニン　犯罪者、つみびと。

【罪囚】ザイシウ　めしうど、捕れたる罪人。

【罪名】ザイメイ　犯罪の名稱。

【罪戾】ザイレイ　つみ、とが。

【罪狀】ザイジヤウ　つみを犯した次第、犯情。

【罪科】ザイクワ　しおき、罪條。

【罪案】ザイアン　罪科に對する箇條がき。

【罪惡】ザイアク　つみ、惡行。

【罪過】ザイクワ　つみとが、つみ。

【罪跡】ザイセキ　犯罪のあとかた。

【罪業】ザイゴフ　罪になる所業。

【罪罰】ザイバツ　つみ、とが。

【罪禁】ザイセキ　罪人の名をしるして置く。

【罪讎】ザイケン　とが、つみ。

【罪魁】ザイクワイ　罪人のかしら、張本人。

【罪障】ザイシヤウ　極樂往生の邪魔となる罪

【罪質】ザイシツ　犯罪の性質。

【罪證】ザイシヨウ　犯罪の有無輕重を明かに「する證據。

死罪（シザイ）　墨罪（ボクザイ）　宮罪（キユウザイ）　舊罪（キユウザイ）
謝罪（シヤザイ）　待罪（タイザイ）　治罪（チザイ）
過罪（クワザイ）　成罪（セイザイ）　原罪（ゲンザイ）　重罪（ヂユウザイ）
功罪（コウザイ）　刑罪（ケイザイ）　問罪（モンザイ）　徒罪（トザイ）
輕罪（ケイザイ）　流罪（ルザイ）　贖罪（ダンザイ）　懲罪（チヨウザイ）
杖罪（ヂヤウザイ）

【罫●】【罣】漢　カイ　呉　ケ　慣用音　ケイ　㋑め、碁盤などの目㋺わく、すべて格子形に交はつてゐる線㋩けい（文字の行の界をつける爲に紙の上にひく線）

【罫引】ケイビキ　罫を引くこと、又その具。

【罫紙】ケイシ　罫の引いてある紙。「たもの

【罫線】ケイセン　相場の高低を線にて圖示し

【置●】【置】漢呉　おく、すて　チ　おく、さし　おく、その場所に据ふつける、立てる㋺しゆくば（驛）驛馬、しゆくばの馬

【置酒】チシユ　さかもりする、又宴會。

【置換】チクワン　おきかへる。

【置縣】チケン　新に縣を設置すること。

【置物】オキモノ　飾りとして据ゑ置く物。

【置酒高會】チシユカウクワイ　酒を置き盛んな宴會を開くこと。

易置（エキチ）　改置（カイチ）　創置（サウチ）　標置（ヘウチ）
署置（シヨチ）　設置（セツチ）　召置（セウチ）　誤置（ゴチ）
變置（ヘンチ）　建置（ケンチ）　位置（イチ）　布置（フチ）
處置（シヨチ）　騎置（キチ）　驛置（エキチ）　傳置（デンチ）

【罷●】漢呉　エン　㋑あみ（上から慣用音　アン　掩ひかぶせて魚を捕へる網）㋺掩覆する、掩ひかぶせる

【罷法】アンパフ　炎症を治し充血を去る爲に患部を温め又はひやす治療法。

【罩●】漢　タウ　タク　㋑竹を編んで　呉　テウ　トク　水の中に入れ置いて魚を捕へるかご又それにて魚を

とる㊁こむ、中に入れて詰める

【睪】七二三頁の擧を見よ。

【蜀】九一七頁の蜀を見よ。

九畫

【罰・〔罰俗字〕〔罰〕】漢ヘツ 呉バチ 慣用音バツ ㊀法に行ふ、處分する、つみする㊁つみとがㄅばち（罪惡の報）天のにくしみ

【罰杯】バツパイ 勝負に負けて飲まされる酒

【罰俸】バツボウ 懲戒處分として俸給の全部又は一部を納めさせること、又其金。

【罰金】バツキン 犯罪の制裁として國家が徵收する金錢。

【罰則】バツソク 「定めた規則。罪過に制裁を加へることを

【罰責】バツセキ 人をつみしせめる。

天罰テンバツ 刑罰ケイバツ 亂罰ランバツ 濫罰ランバツ

致罰チバツ 墨罰ボクバツ 荆罰ケイバツ 杖罰ジヤウバツ

極罰キヨクバツ 訓罰クンバツ 戚罰セキバツ 褒罰ホウバツ

參罰サンバツ 必罰ヒツバツ 誅罰チユウバツ 宮罰キユウバツ

漢ショ ㊀てわけ、

【署・〔署〕〔署〕】呉ゾ やくわり ㊁しるす（記）㊂やくしよ（官衙）㊃事務をとりあつかふ

【署分】ショブン やくわり、てわけ。

【署名】ショメイ 姓名をかき記す。「の略。

【署長】ショチヤウ ㊀官署の長官㊁警察署長

【署記】ショキ 事をかきつけ姓名を記す。

公署コウショ 分署ブンショ 本署ホンショ 自署ジショ

官署クワンショ 部署ブショ 連署レンショ 題署ダイショ

【睪】七二四頁の擧を見よ。

十畫

【罵・〔罵〕〔罵〕】漢バ ㊀のゝ呉メ しる、

【同訓異義】ののしる

【罵】は人に惡言を加ふる義。

【詈】は罵よりはその意輕し。

【罵倒】バタウ 大いにのゝしる。

【罵詈】バリ のゝしる、惡言。

極罵キヨクバ 詈罵リバ 慢罵マンバ 笑罵セウバ

竊罵セツバ 怒罵ドバ 慾罵ヨクバ 叫罵キヤウバ

侮罵ブバ 責罵セキバ 誘罵ユウバ 譏罵キバ

呪罵ジユバ 嘲罵チヤウバ 惡罵アクバ

【罷・〔罷〕〔疲通字〕〔罷〕】漢ハイ 呉ベ ㊀やめる、

よす、休める、休止㊁官職を免ず、しりぞける㊂つかる（疲）くたびれる、疲弊する、又つからす㊃國訓まかる（退き出る、さがる）語氣を强める爲に動詞に冠して用ゐる語

【同訓異義】やむ 罷・已・息其他の用法は三三六頁の已を見よ。

【罷工】ヒコウ 仕事を休止す、罷業。

【罷免】ヒメン 職務を免ぜらる、免職。

【罷官】ヒクワン 官をやめさせらる、罷免。

【罷極】ヒキヨク ひどくゝたびれる。

【罷弊】ヒヘイ 罷敝、つかれる、つかれ。

【罷業】ヒゲフ 罷工に同じ。「りである。

【罷出】マカリイデ ㊀退く㊁先方へ行く、まか

【罰】この頁の罰を見よ。

十一畫

【罹・〔罹〕〔罹〕】漢呉 ㊀うれふ、うれ（憂）㊁かゝる、遭遇する

【同訓異義】かかる 罹・係・掛其他の用法は七八頁の係を見よ。

【罹厄】リヤク わざはひをうける。

【罹災】リサイ さいなんにあふ、罹厄。

【罹病】リビヤウ 病みつく。

【罟○】漢呉 ㊀あみ、よつであみ㊁あみす、よつであみで魚をとる

（罟）

十四畫

【羅・〔羅〕】漢呉 ㊀あみ、とりあみ㊁あみで捕へる如く殘さず取る㊂うすぎぬ、うすもの㊃つらぬ、つらなる㊄めぐる

【同訓異義】つらぬ 羅・聯・連其他の用法は一〇三八頁の連を見よ。

【羅布】ラフ ならべる、ならぶ、羅敷。

【羅衣】ライ うすぎぬの衣服。

【羅列】ラレツ つらねならぶ。

【羅刹】ラセツ 人を食ふといふ惡鬼の名。

【羅致】ラチ 鳥をあみでとる如く引寄せる

【羅紗】ラシヤ 毛織物の名。

【羅漢】ラカン 佛の道に入つた者。

【羅取】ラシユ あみでとる、轉じて人才をあつめるにいふ。「きにいふ。

【羅綾】ラリヨウ うす絹とあや絹、物の美し

【羅氈】ラセン 毛織物の名、まうせん。

【羅綺】ラレキ 無罪の人までも法網の中にくるめて罪人にすること。

【羅針盤】ラシンバン 磁石、方角を示す器。

【羅馬法】ラウマハウ 古代羅馬に行はれたる法律にて各國の母法となりしもの。

紅羅コウラ 霜羅サウラ 參羅サンラ 列羅レツラ

森羅シンラ 綾羅リヨウラ 籠羅ロウラ 紫羅シラ

白羅ハクラ 紗羅サラ 娑羅サラ 海羅カイラ

摩羅マラ 宏羅クワウラ 輕羅ケイラ 綺羅キラ

星羅セイラ 綢羅チウラ 新羅シンラ 雀羅ジヤクラ

【羆○】漢呉 熊に似た獸、しぐま、ひぐま

【羆】一二四頁の羆を見よ。

十七畫

【羈○・〔羈〕〔羈俗字〕】漢キ ㊀たび、㊁旅人

【羈旅】キリヨ ㊀たび、たびゝと㊁寄寓して客分となる。

【羈寓】キグウ 旅のやどり、旅泊。

【羈愁】キシウ たびのもの思ひ、旅愁。

十九畫

【羈○・〔羈俗字〕】漢呉 ㊀馬のおもがい、たづな㊁きづな、ほだし、手足まとひ、繫累㊂つなぐ、檢束する、ほだす、しめくゝり㊃羈に通ず、たび

【羈束】キソク 抑へ取りしまる、束縛。

【羈客】キカク 旅人、たびのひと。

【羈旅】キリヨ たび、又たびゝと。

【羈絆】キハン きづな、ほだし。

【羈率】キケン ひきつなぐこと。

【羈絏】キセツ 君の馬の口を執る義にして臣事することの謙辭。

【羈縻】キビ ほだしまとふ。

羊部

【羊○・〔羊〕〔羊本字〕〔羊〕】漢呉 ヤウ 家畜の一、ひつじ、性温順で白又は黑色の毛を被り牡には角がある

（羊）

【羊毛】ヤウマウ 羊の毛

【羊酒】ヤウシユ ひつじの肉と酒。

【羊腸】ヤウチヤウ 嶮阻な山道、つゞらをり。

【羊齒】ヤウシ しだ類の植物、蕨。

【羊羹】ヤウカウ ㊀羊肉のあつもの㊁餡を固めて造りたる菓子。

【羊駝】ヤウダ　アルパカ㋑南米のアンデス山中に棲息する綿羊に似た反芻類の獸㋺アルパカの毛をつむいだ光澤ある絲、又それを交ぜ織つた織物。

【羊質虎皮】ヤウシツコヒ　羊の身に虎の皮をかぶる意、見かけだふし。

【羊頭狗肉】ヤウトウクニク　羊のあたまを看板にして犬の肉を賣る、立派さうに見せかけて卑劣な事をする。

石羊セキヤウ　羔羊カウヤウ　墳羊フンヤウ　餼羊キヤウ
犧羊ギヤウ　商羊シヤウヤウ　白羊ハクヤウ　特羊トクヤウ
野羊ヤヤウ　封羊ホウヤウ　犛羊ゼンヤウ　群羊グンヤウ

（駝羊）

二畫

【羌○】【羌別字】漢 キヤウ　呉 カウ　注意 羌は全然別字なるも今は一般に俗字として用ひられてゐる㋑えびす、支那西方の野蠻人種の稱㋺嘆息の語、あゝ

三畫

【美・】【羊美俗字】【羹】漢 ビ　呉 ミ　㋑うつくし、よし、うるはし㋺みごとである、立派、顏色容貌がきれいである、うらゝか㋩うまし、善い㋥よくする㋭ほめる、よみす㋬具象的形式中に理想のあらはれてゐるもの

【同訓異義】ほむ　美・褒・譽其他の用法は九四〇頁の褒を見よ。

【同訓異義】よし　美・善・好其他の用法は二〇六頁の善を見よ。

【美化】ビクワ　美しく變ること。
【美文】ビブン　語句を美しくかざつた文章
【美田】ビデン　良き田地、肥田。
【美名】ビメイ　㋑美稱の㋑に同じ㋺よき名。
【美衣】ビイ　綺麗なきもの、美服。
【美色】ビシヨク　㋑美しき容貌㋺美しきいろ
【美妙】ビメウ　美しくたへなること。
【美形】ビケイ　㋑美容に同じ㋺美女の俗稱
【美言】ビゲン　訓誡となることば、嘉言。
【美事】ビジ　よき事柄。
【美味】ビミ　よきあぢはひ、美食。
【美育】ビイク　美感又は趣味を養成する方面
【美服】ビフク　うるはしき著物。「の教育。
【美俗】ビゾク　美風に同じ。
【美政】ビセイ　よき政治。
【美食】ビショク　美味なる食物。
【美風】ビフウ　よき風俗、美俗。
【美音】ビオン　よき音聲、美聲。
【美悪】ビアク　よいとるわい。
【美姫】ビキ　うつくしき女、美婦。
【美容】ビヨウ　美しき姿、美貌。
【美酒】ビシユ　うまい酒。
【美術】ビジユツ　繪畫・彫刻等美を表現することを目的とする技術。
【美祿】ビロク　㋑手厚く與へられる俸給㋺
【美裝】ビサウ　美しいよそほひ。「酒の異名
【美貌】ビバウ　美容に同じ。「の略。
【美感】ビカン　㋑美しいかんじ㋺美的感情
【美飾】ビシヨク　美しい飾り、又立派な衣服。
【美德】ビトク　立派な德行。「た言ひかた。
【美稱】ビシヨウ　㋑よきほまれ、美名㋺ほめ
【美聲】ビセイ　うるはしい聲、美音。
【美髯】ビゼン　立派な口ひげ。
【美質】ビシツ　良き性質。「美しくする理髮
【美髮】ビハツ　㋑美しきかみの毛㋺頭髮を
【美談】ビダン　よきかたりぐさ、美譚。
【美舉】ビキヨ　感心すべき行爲。
【美辭】ビジ　うつくしき言葉、よき言葉。
【美績】ビセキ　立派な功績。
【美醜】ビシウ　美しきことゝ醜きこと。
【美點】ビテン　長所、よいところ。
【美譚】ビタン　美談に同じ。
【美麗】ビレイ　うるはし、うつくし。
【美觀】ビクワン　美しきみもの。
【美人局】ビジンキヨク　つゝもたせ。

【美人草】ビジンサウ　草花の一、ひなげし、虞美人草。

（美人草）

【美容術】ビヨウジユツ　容貌を美しく整へる技術、美顏術。

【美粧員】ビソウヰン　大呉服店にて主に婦人の粧流行衣服をお客の前にて着て見せる女、マネキンガール。

【美意識】ビイシキ　美醜を分別する意識。

【美嘴鳥】エトビリカ　短翼類の海鳥で小鴨に似嘴は大形にして側扁してゐる、我國の北海道・千鳥などに產する。

（美嘴鳥）

【美的生活】ビテキセイクワツ　趣味を人生の目的として慰藉を求めんとする生活。

好美カウビ　軟美ナンビ　麗美レイビ
華美クワビ　綺美キビ　淑美シユクビ　至美シビ
溢美イツビ　肥美ヒビ　便美ベンビ　盛美セイビ
潤美ジユンビ　衆美シユウビ　追美ツイビ　醜美シウビ
沃美ヨクビ　賞美シヨウビ　優美ユウビ　讃美サンビ

【庠】三五二頁の庠を見よ。

四畫

【羔○】漢 カウ　呉 コウ　こひつじ（小羊）

【羔・】【羔別字】漢 イウ　呉 カウ　キウヤ　みちびく、誘ひみちびく、すゝむ

【羞】三三五頁の羞を見よ。

五畫

【羚○】漢 レイ　呉 リヤウ　深山に棲む獸、かもしか、羚羊

（羚羊）

【羝○】漢 テイ　呉 タイ　牡羊、をひつじ

【羝乳】テイニユウ　牝羊の子をうむこと。

【羞○】漢 シウ　呉 シユ　㋑すゝめる、食を供へる㋺食物、ごちそう㋩はぢ、はづ

【同訓異義】すすむ　羞・脅・進其他の用法は一〇四〇頁の進を見よ。

【同訓異義】はづ　羞・恥・辱其他の用法は三八七頁の恥を見よ。

【羞服】シウフク　飲食と衣裳。

【羞明】シウメイ　まぶしい、又其病氣。

【羞容】シウヨウ　はづかしがる容子。

【羞恥】シウチ　はぢる、はぢらふ。

【羞愧】シウキ　前に同じ。

【羞花閉月】シウクワヘイゲツ　美人の容姿の形容

【蓋】七一三頁の蓋を見よ。

六畫

【善】二〇六頁の善を見よ。

【着】七二二頁の着を見よ。

【翔】八二九頁の翔を見よ。

七畫

【群・】【羣俗字】【羣○】【羣】漢 クン　呉 グン　㋑むれ、くみ、ともだち㋺たくさんのもの㋩あつまる、むらがる㋥とも㋭あつめる、會合「の侍妾。

【群小】グンセウ　㋑多くの平凡な人々㋺多く

【群氏】グンミン　澤山の民。

【群生】グンセイ　㋑群り生ず㋺民衆、庶民。

【群羊】グンヤウ　多くの羊。

【群兇】グンキヨウ　多數の惡人。

【群邦】グンパウ　多くのくに、萬國。

【群臣】グンシン　多くの臣下。

【群行】グンカウ むらがりゆく、又その群。
【群典】グンテン 群籍に同じ。
【群芳】グンパウ 多くの花、百花。
【群牧】グンボク 多くの諸侯、多數の地方官。
【群盲】グンマウ 多くのめくら、又愚人ども。
【群青】グンジヤウ 紺青より少し青色のゐのぐ
【群居】グンキヨ むらがりをる、集り住む。
【群島】グンタウ こじまの多く集まるもの。
【群起】グンキ むらがりおこる。
【群衆】グンシユウ 集つた多勢の人々。
【群雄】グンユウ 多くの英雄、群豪。
【群集】グンシウ 多く集まること、群衆。
【群經】グンケイ 多くの經書。
【群像】グンゾウ 多くの人像を一つの彫刻の中にまとめたるもの。
【群僚】グンレウ 多くの役人、百官。
【群賢】グンケン 多くの賢人。
【群籍】グンセキ おほくの書物、群書。
【群議】グンギ 多數の人の議論、又は意見。
【群談】グンサウ むらがりさわぐ。
【群雄割據】グンユウカツキヨ 多くの英雄が諸方にこもつて勢力を振ふこと。
【群衆心理】グンシウシンリ 群衆中の一人の行動が數人に衝動を與へて行動を共にせしめる心理作用。「生活する。
【群集生活】グンシフセイクワツ 多數人が集つて逸群イツグン 冠群クワングン 超群チウグン 特群トクグン 四群シグン 毛群マウグン 殊群シユグン 拔群バツグン

【羨●】【羨字】【羨別字】【羨】漢セン 呉エン

漢呉セン 本圖沙羨は淡の江夏郡の縣名、今の湖北省に屬す㋑うらやむ㋺むさぼり慕ふ㋩あまり、剩餘㋥すぐれる㋭墓地の道、はかみち
【羨望】センバウ うらやむ㋺羨望にたへぬ。
【羨餘】センヨ のこり、剩餘。

【義●】【誼通字】【義】漢呉ギ

㋑五倫の一、君臣の道㋺五常の一、正しいすぢみち㋩君國また公共の爲に盡す心がけ㋥他人同志で結んだ親類㋭わけがら、意味 次に同じ。
【義人】ギジン ㋑忠義の心厚き人㋺正義の人
【義士】ギシ ㋑義理の子、養子。
【義子】ギシ 義理のむすめ、養女。
【義女】ギヂヨ 義理がたい心。
【義心】ギシン 木・ゴム等にて作りし手。
【義手】ギシユ 義理の父、養父。
【義父】ギフ 義理の母、養母。
【義母】ギボ 義の爲めに勇む民。「勇兵。
【義民】ギミン

【義兵】ギヘイ ㋑正義のために起す兵㋺義
【義足】ギソク 切斷された足を補ふ爲ゴム・木等にて造りし足。
【義俠】ギケフ 正義を好み弱きを助ける意氣、男だて。
【義故】ギコ 前に恩義をかけたえんこのあ
【義勇】ギイウ ㋑義にいさむ㋺義と勇。
【義徒】ギト 正義にくみする人々。
【義軍】ギグン 義のために戰ふいくさ。
【義捐】ギエン 慈善等に金品を寄附すること。ぎけんと讀むは誤り。
【義師】ギシ 義兵の㋑に同じ。
【義烈】ギレツ すぐれたる忠義。
【義倉】ギサウ 凶年に備へる米ぐら。
【義氣】ギキ 忠義の意氣、又義俠。
【義務】ギム ㋑爲さねばならぬ責任。め㋺果さねばならぬ責任。
【義理】ギリ ㋑正しき筋道㋺わけがら、意味㋩他人に對する自己の役目㋥血緣者と同じ關係にある間柄。
【義眼】ギガン いれ目。
【義絶】ギゼツ 義理の爲に緣故をたつ。
【義僕】ギボク 忠義なしもべ。
【義族】ギキ 義兵のはたあげ、義の爲めの

（足義）

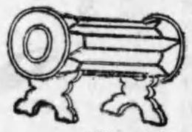
いくさ、又其軍旗。
【義塾】ギジユク 公共のために設けたる學校
【義憤】ギフン 正義心より起るはらだち。
【義齒】ギシ いれば。
【義舉】ギキヨ 義のために起すくはだて。
【義戰】ギセン 正義の爲めの戰爭。
【義俠心】ギケウシン 男氣の心。
【義勇兵】ギユウヘイ 軍籍になき者が任意に志願してなる兵士。「をさゝげつくす。
【義勇奉公】ギユウホウコウ 君國の爲めに身命
【義務教育】ギムケウイク 國民の義務として受ける教育、尋常小學校の教育。
【義勇艦隊】ギユウカンタイ 平時は海運業に從ひ戰時には武裝し軍務に服する商船隊
學義ガク 疑義ギ 解義カイ 釋義シヤク
法義ハフ 古義コ 忠義チユウ 談義ダン
佛義ブツ 孝義カウ 字義ジ 講義カウ
旨義シ 意義イ 主義シユ 論義ロン
深義シン 朋義ホウ 文義ブン 禮義レイ
奥義アウ 人義ジン 公義コウ 仁義ジン
高義カウ 名義メイ 大義タイ 道義ダウ
精義セイ 正義セイ 德義トク 恩義オン
辭義ジ 異義イ 難義ナン 常義ジヤウ
教義ケウ 節義セツ 信義シン 經義ケイ

【羹○】【羹俗字】漢カウ 呉キヤウ あつもの、肉野菜等を煮たすひもの

【羽●】【羽俗字】【羽】漢ウ 呉ワ

㋑は、はね、鳥の翼又は毛、すべてつばさの形したもの㋺鳥類の汎稱㋩輔佐、たすけとなるもの㋥五音の一㋭舞樂に用ゐる具（雉のはねで造つたかざし）
【羽化】ウクワ ㋑體にはねが生えて自由に飛行する㋺仙人になる。「鳥の毛皮。
【羽毛】ウマウ ㋑鳥の羽と獸の毛、毛羽㋺
【羽衣】ウイ 鳥のはねを編みて作りし衣。はごろも。「天子の宿衛、近衛兵。
【羽林】ウリン ㋑天上にある大將軍の星㋺
【羽扇】ウセン 鳥のはねにて作りし扇、はうちは。
【羽族】ウゾク はねのあるもの、鳥類。
【羽書】ウシヨ 鳥の羽をつけし回狀、至急の意味を示す。

（扇羽）


（鼓羯）

【業】五三六頁の業を見よ。

【解】九五〇頁の解を見よ。

九畫

【羯●】漢ケツ 呉ケチ

慣用音カツ
㋑去勢した羊㋺匈奴地方に住んでゐたえびす
【羯鼓】ケツコ 太鼓の一、えびすのつゞみ。

十一畫

【羲○】【羲俗字】漢呉キ 人の姓

慣用音ギ 名（支那古代の人）

十三畫

【羶○】漢呉セン

㋑なまぐさし、又その肉㋺よごれ、けがれ
【羸○】【羸別字】漢呉ルイ

㋑よわる、つかる㋺やせる（瘦）㋩くつがへす（覆）㋥ひつかゝりからまる
【同訓異義】やす 羸・瘦・痞其他の用法は七〇一頁の瘦を見よ。
【羸弱】ルイジヤク つかれてよわる、又よわい
注意 羸弱と書くは誤り。

【羽旄】ウバウ　鳥のはねにて飾つた旗印

【羽檄】ワゲキ　羽書に同じ。

【羽翼】ウヨク　㋑つばさ、とりのはね㋺始終つき添ひて輔佐する者。

【羽二重】ハブタヘ　薄く織りしつやある絹布。

【羽織破者】ハオリゴロツキ　紋付羽織などを着て堂々たる風采で押しかける座敷乞食

異羽イウ　干羽カン　毛羽モウ　積羽セキウ
翠羽スヰウ　鱗羽リンウ　宮羽キユウ　玄羽ゲンウ
怪羽クワイウ　蜱羽ゼンウ　暮羽ボウ　華羽クワウ

（旄羽）

三畫

【羿●】漢ゲイ　呉ガイ　人名（夏の時代有窮國の國君、又古代弓術の名人）

四畫

【翁○】【翁】漢ヲウ　呉ウ　慣用音オウ　㋑男の老人、おきな、おやぢ（父）又老人の敬稱㋺國訓おきな（能樂にて老人の假面を被りて舞ふ曲）

【翁媼】ヲウワウ　爺さんと婆さん、おきなとおうな注意をうたんと讀むは誤り。

【翁草】ヲキナグサ　㋑草の名、春夏の頃に花をひらき紫と赤とあり㋺菊の異名㋩書物の名、前後二百卷神澤貞幹の著せしもの。

漁翁ギヨオウ　野翁ヤオウ　婦翁フオウ　村翁ソンオウ
信天翁シンテンオウ　白頭翁ハクトウオウ

（翁草）

【翅●】【翅】漢シ　呉イ　㋑つばさ（翼）はね、かける、とぶ㋺たゞ、たゞに（啻）

【翅果】シクワ　果皮が伸長して翅の形をなす乾燥花。

【翅影】シエイ　鳥のかげ。

【翅翼】シヨク　はね、羽翅。

【扇】四二〇頁の扇を見よ。

（翅果）

五畫

【翌●】【翌】漢ヨク　あけの日、あくるひ

【翌日】ヨクジツ　あけのひ、あくるひ。

【翌旦】ヨクタン　翌朝に同じ。

【翌月】ヨクゲツ　次の月、あくる月。

【翌年】ヨクネン　あくるとし、明年。

【翌夜】ヨクヤ　あくるよさ、あしたのばん。

【翌晩】ヨクバン　前に同じ。

【翌朝】ヨクテウ　あくるあさ、明旦、明朝。

【翌檜】アスナラフ　山地に自生する松林科の常綠喬木で幹の高さ十丈餘に達し材は建築船材・マッチ箱等に用ふ。

（檜翌）

【翌翌日】ヨクヨクジツ　あさつて、次の次の日。

【習●】【習】漢シフ　呉ジフ　㋑ならふ、なれる、學ぶ、けいこする、ならす㋺さらへる、ならはす㋩なれ、ならひ、ならはし㋥和ぎのびる㋭かさぬ（重）つむ（積）

【同訓異義】ならふ　習・做・倣其他の用法は九四頁の倣を見よ。

【習字】シフジ　てならひ、字をならひ書く。

【習性】シフセイ　ならはし。

【習俗】シフゾク　ならはし、ならひ、風習。

【習得】シフトク　ならひ覺えること。

【習習】シフシフ　和らぎのびるさま。

【習慣】シフクワン　しきたり、ならはし、習慣

【習學】シフガク　くりかへし學ぶ、復習。

【習熟】シフジユク　よくなれる、習練。

【習慣性】シフクワンセイ　靜止又は運動の狀態を繼續せんとする物體の性質。

校習カウ　講習シフ　世習セイ　近習ジフ
博習ハク　慣習クワン　教習ケウ　明習メイ
閑習カン　積習セキ　調習テウ　順習ジユン
新習シン　練習レン　誦習シヨウ　祟習シユウ
耽習タン　歴習レキ　究習キウ　素習ソ
專習セン　宿習シユク　演習エン　藥習ヤク
慣習クワン　篤習トク　温習ウン　學習ガク

六畫

【翊●】【翼通】漢ヨク　イキ　呉イフ　㋑つゝしむ（敬）㋺たすく（輔）

【翊戴】ヨクタイ　君主としてたすけ戴く。

【翊贊】ヨクサン　君主の政治をたすける。

【翔○】漢シヤウ　呉ザウ　㋑かける、空を飛ぶ㋺つゝしむ（敬）又そのさま

【翔天】シヤウテン　そらを飛ぶ。

【翔貪】シヤウキン　空をとぶ鳥、飛鳥。

【翔翺】シヤウカウ　とびかける、とびめぐる。

遊翔イウシヤウ　高翔カウシヤウ　雲翔ウンシヤウ　群翔グンシヤウ
馴翔ジユンシヤウ　趨翔スウシヤウ　鶩翔ケイシヤウ　遠翔エンシヤウ

【翕●】漢キフ　呉コフ　㋑あはす、あふ（合）和合㋺あつまる、あつむ、又そのさま㋩盛んなるさま㋥ひく（引）㋭をさまる、をさむ（歛）

【翕合】キフガフ　集めあはす、集合。

【翕然】キフゼン　一致する、集り合ふ。

七畫

【翟●】漢テキ　呉ジヤク　㋑きじ、尾の長きの羽毛にて飾る、又其衣㋩えびす（狄）野蠻人㋥舞樂の時伶人の持つ雉のはね㋭人名（周代宋の人にて墨子の著者）

八畫

【翠●】【翠】略字　漢呉スヰ　㋑翡翠は鳥の名、かはせみ㋺みどり（黄を帶びた青色）もえぎ

【翠天】スヰテン　蒼天、あをぞら。

【翠色】スヰシヨク　綠色、みどり。

【翠松】スヰシヨウ　みどりの松、蒼松。

【翠雨】スヰウ　青葉に降りかゝる雨。

【翠柯】スヰカ　あを〳〵としたる枝。

【翠柳】スヰリウ　みどり色の濃きやなぎ。

【翠苔】スヰタイ　あをごけ、青苔。

【翠帳】スヰチヤウ　みどりのとばり、婦人の

【翠陰】スヰイン　青葉の陰、綠陰。

【翠嵐】スヰラン　山氣のすめるをいふ語。

【翠微】スヰビ　㋑山氣があを〳〵とかすむ所、即ち山の中腹㋺山氣のもや。

【翠綠】スヰリヨク　あをいろ、みどりのいろ。

【翠影】スヰエイ　青葉の水に映る影。「山氣。

【翠黛】スヰタイ　㋑綠のまゆずみ㋺綠に霞む

【翠簾】スヰレン　青竹で編みたるすだれ。

【翠巒】スヰラン　あを〳〵とせる山の中腹。

金翠キン　青翠セイ　蒼翠サウ　紫翠シ
紅翠コウ　彩翠サイ　光翠クワウ　鬱翠ウツ
松翠シヨウ　濃翠ノウ　疎翠ソ　幽翠イウ

【翡●】漢ヒ　呉ヒ　㋑翡翠は鳥の名、かはせみ（魚狗）㋺角閃石の類、寶石の一

【翡翠】ヒスヰ　㋑美しい玉の一㋺水邊にすむ小禽、かはせみ㋩鳥の尾の長き羽㋥つやゝかなる髪の形容。

九畫

【翫●】【玩】通字　漢呉グワン　㋑もてあそぶ（玩）愛しめでる㋺かろんじあなどる㋩おもちや、玩具㋥貪る

【同訓異義】もてあそぶ　翫・弄・玩其他の用法は六七二頁の玩を見よ。

【翫味】グワンミ　十分に味ひのみこむ、玩味。

【翫物】グワンブツ　玩具、おもちや、おもち

やにするもの。

【翫弄品】グワンロウヒン 前に同じ。

【翦●】漢 ショ 呉 ソ あがる、とびたつ

【剪●】【剪俗字】漢呉 セン ㊀はさみきる、きる、刈り去る、きり除く㊁そぐ、けづる、又きりそろへる㊂ほろぼす（亡）㊃善くしやべる、又あさはか、又佞人のさま

【同訓異義】とる 翦・斬・斬其他の用法は四七二頁の斬を見よ。

【翦刀】センタウ はさみ、翦刀。

【翦伐】センバツ ㊀木をきる㊁うちほろぼす

【翦除】センヂヨ きりのぞく、取りのぞく。

【翦滅】センメツ たひらげる、ほろぼす。

【翩○】【翻通字】漢呉 ヘン ㊀おちつかぬさま㊁いそがしく往來するさま㊂才智のすぐれるさま㊃鳥などの飛ぶさま㊄宮殿等の盛大なるさま㊅そる、かへる、ひるがへる、又其さま㊆ひらく〳〵と落ちるさま

【翩翩】ヘンパン ヘンポン ひるがへる。

十一畫

【翰●】【翰俗字】【翰】漢呉 カン

㊀雉の一種、やまどり㊁はね（羽）㊂とぶ（飛）㊃（純白）㊄しろうま（白馬）㊅ふで（筆）㊆てがみ、文書㊇みき（幹）もと

【翰札】カンサツ てがみ、墨池、すみつぼ。

【翰池】カンチ 筆翰の多きこと林の義から

【翰林】カンリン 轉じて文苑又は文壇等の意。

【翰長】カンチヤウ ㊀文壇の先輩㊁翰林院の長官㊂我國にては書記官長の雅名。

【翰苑】カンエン 翰林に同じ。

【翰墨】カンボク 學問又は文章の意。

羽翰 文翰 藻翰 柔翰

筆翰 管翰 震翰 鶯翰

史翰 尺翰 札翰 遺翰

【羽●】漢 カク 呉 キヤク はね、羽のくき

十一畫

【翳●】漢 エイ ㊀鳥の羽で作つた舞具、かざし㊁かげ、おほひ、くもり㊂ひかげの薄ぐらくなる貌㊃たちがれ、木が自然に枯れることを鳳凰に似た一種の鳥㊄かざす、さしかける㊅しりぞく（排斥）㊆かすみ（眼病の一）

【翳翳】エイエイ 光がおほはれて明かでない

十二畫

【翻○】【翻・飜通字】漢呉 ハン ホン 漢呉 ヘン

㊀ひるがへる、ひらめく、鳥が飛ぶ、轉じて物事がかはる、ひつくりかへる㊁ひるがへす、後にもどす㊂甲國の語を乙國の語になほす

【翻刻】ホンコク 原版と同一の版を再び作る

【翻思】ホンシ 思ひ直す、考へを飜す。

【翻案】ホンアン 仕組をかへて新くす、飜案。

【翻然】ホンゼン ひるがへる、かはるさま。

【翻覆】ホンプク ハンプク 裏腹に變る、ひつくりかへる

【翻譯】ホンヤク 或國の語を他國語になほす

【翻雲覆雨】ハンウンフクウ 人情の變り易きことを雲雨に譬へたる語。

【翼●】【翊通字】【翼】漢 ヨク 呉 ヨキ

㊀はね、つばさ㊁たすく、たすけ、輔佐㊂つゝしむ（敬）㊃鳥が羽をひろげた形のもの㊄星の名、二十八宿の一㊅あくるひ（翌に通ず）

【同訓異義】たすく 翼・助・輔其他の用法は一四七頁の助を見よ。

【翼如】ヨクジヨ つゝしむさま。

【翼戴】ヨクタイ 主君をたすけ戴く。

【翼翼】ヨクヨク ㊀つゝしみあるさま㊁壯健なるさま㊂能くとゝのふさま㊃盛んなさま㊄美はしき貌。

【翼贊】ヨクサン 政事をたすける、輔贊。

【翱○】漢 ガウ 呉 ゴウ ㊀鳥の翼を慣用音カウ 上下するを翱、翼を張りて動かざるを翔といふ、飛びまはる㊁得意に振舞ふ㊂さまよふ

【翱翔】カウシヤウ 字解の㊀を見よ。

【翹○】漢 ケウ ㊀高くぬけでるさま㊁ま、多くあるさま㊂あやふし（危）㊃遠く離れる貌㊄すぐれる、又その者㊅あぐ、つまだてる、ひきおこす㊆鳥の長き尾㊇婦人の首飾㊈趣向をかへる㊉かへつて（反）

【同訓異義】あぐ 翹・揚・擧其他の用法は四五四頁の擧を見よ。

【翹企】ゲウキ 足をつまだて見る、望みまつ

【翹望】ゲウバウ あふぎのぞんでまつ。

【翹首】ゲウシユ 首を長くして待つこと。

十四畫

【耀●】【曜通字】【耀】漢呉 エウ

かゞやく、かゞやき、かゞやかす（曜）

英耀 輝耀 炫耀 光耀

華耀 文耀 鮮耀 照耀

靈耀 炳耀 燭耀 榮耀

老（ラウ）部

【老●】【老】漢 ラウ 呉 ロウ ㊀としよりし（七十歳以上の人）㊁年うへの人、先輩㊂おゆ、としがよる、としをとる、衰へる㊃おい、七十歳以上の年齢、晩年、又老いて弱し㊄年よりとして尊ぶ、老人をいたはる㊅巧妙である、上手になる㊆老いて官職をやめる、又其事㊇公卿の長㊈世をさけて隱居す㊉家臣の長、家老㊊自分をいふ謙辭㊋つかる（疲）つかす㊌老子の首唱した學說

【老人】ラウジン ㊀としより㊁我が父母。

【老大】ラウダイ 年をとる、としよる。

【老少】ラウセウ 老人と小兒。

【老中】ラウヂユウ 德川幕府にて將軍を輔けて天下の政治を行ひし役名、又その人。

【老夫】ラウフ としより、老翁。

【老父】ラウフ ㊀年とつた父㊁老夫。

【老手】ラウシユ 事になれたる腕前、又其人。

【老友】ラウイウ 老年のともだち。

【老功】ラウコウ ㊀多年の經驗あること㊁久しく其事に從ひて功あること。「の長。

【老女】ラウヂヨ ㊀老婦に同じ㊁武家の侍女

【老公】ラウコウ 老人となりし貴人の尊稱。

【老木】ラウボク 古木、おいき。

【老兄】ラウケイ ㊀年上の兄又は年長者を呼ぶ敬語㊁兄の自稱。

【老幼】ラウエウ 年よりと年わか。

【老生】ラウセイ 老人の自稱。

【老母】ラウボ 年とつた母、ばゝ。

【老吏】ラウリ ㊀老人の役人㊁事務になれた役人㊂法律に通達した裁判官。

【老朽】ラウキウ 老いて役にたゝぬ、又其人。

【老妓】ラウギ としよりの藝者。

【老壯】ラウサウ 老人とわかもの。

【老來】ラウライ としをとること。「き臣。

【老臣】ラウシン ㊀老いたる家來㊁地位の高

【老若】ラウジヤク ラウニヤク 老弱に同じ。「てから。

【老後】ラウゴ 老人となりしのち、年寄つ

【老年】ラウネン 年をとること、年より。

【老成】ラウヰ ㊀ものごとになれてゐる㊁としにくらべてませてゐる。

【老實】ラウジツ 物事になれてまめである。

【老弱】ラウジヤク ラウニヤク 老人とわかもの、弱は二

【老師】ラウシ 老先生に同じ。「十歳。

【老耄】ラウモウ　老は九十歳、老人をのゝしりていふ言葉、おいぼれぢゝい。
【老翁】ラウオウ　老父、ぢゝ。
【老衰】ラウスイ　年とつておとろへる。
【老婢】ラウヒ　年とつた下女。
【老婆】ラウバ　おうな、ばゝ。「年の大將。
【老將】ラウシヤウ　㋑軍事になれた大將㋺老
【老患】ラウクワン　老病に同じ。「たる哲學。
【老莊】ラウサウ　老子と莊子、又其の唱導し
【老雄】ラウユウ　年とつた英雄。
【老病】ラウビヤウ　老人の病氣、老衰病。
【老眼】ラウガン　老いて視力の弱りし眼。
【老媼】ラウオウ　老婆に同じ　注意らうおんと讀むは誤り。
【老爺】ラウヤ　㋑としより、ぢゞ㋺支那の俗語にて御主人、旦那、老大人。
【老農】ラウノウ　農事に熟練したる百姓。
【老壽】ラウジユ　長生、ながいき、長壽。
【老僕】ラウボク　年とつたしもべ。
【老僧】ラウソウ　老年の僧侶。
【老態】ラウタイ　老いたるすがた。
【老輩】ラウハイ　老人のともがら、老友。
【老嫗】ラウオウ　老婆に同じ。
【老臺】ラウダイ　年長者の尊稱。
【老熟】ラウジユク　物事に能くなれること。
【老樹】ラウジユ　老木に同じ。
【老練】ラウレン　老熟に同じ。
【老舗】ラウホ　ふるくから在る店、しにせ。
【老儒】ラウジユ　年とつて學德高き學者。
【老廢】ラウハイ　㋑老いてやくに立たぬ㋺古びて用をなさぬ。
【老獪】ラウクワイ　物事になれて惡がしこい
【老軀】ラウク　老體のこと。
【老體】ラウタイ　年をとつたからだ。
【老大人】ラウタイジン　㋑長者老人の敬稱㋺他人の父の敬稱㋩旦那、御主人、老大人。
【老大國】ラウタイコク　衰へたる大國。
【老先生】ラウセンセイ　㋑としよりの先生㋺地位高き者の尊稱㋩明代では內閣諸大臣㋥自分を推擧した長官の尊稱。
【老父母】ラウフボ　老いたる兩親。
【老成人】ラウセイジン　經驗に富みたる人。
【老措大】ラウツダイ　老年の學者、老書生。
【老廢物】ラウハイブツ　すたれて役だゝぬもの
【老少不定】ラウセウフヂヤウ　死は老少に關せず老人も少年も何時死ぬかわからぬ意。
【老婆心切】ラウバシンセツ　老婆の如くみだりに人のために心配すること。
鄙老ヒラウ　窮老キウラウ　雅老ガラウ　元老ゲンラウ　國老コクラウ
堂老ダウラウ　故老コラウ　齒老シラウ　三老サンラウ　長老チヤウラウ　庶老シヨラウ
扶老フラウ　鶴老カクラウ　龍老リラウ　衰老スイラウ　僧老ソウラウ　海老カイラウ　養老ヤウラウ　不老フラウ
舊老キウラウ　古老コラウ　宿老シユクラウ　耆老キラウ　乘老ジヤウラウ　鄉老キヤウラウ

考

古字

【考・攷】漢カウ　呉コウ　㋑かんがふ、しらべる、こゝろみる、思ひはかる、なす㋺死したる父(亡父)㋩おゆ(老)老いたる人へうつ(擊)たゝく㋥鼓を擊つ聲㋭拷に通じ用ゐる
【考究】カウキウ　かんがへきはめる。
【考妣】カウヒ　死したる父母。
【考査】カウサ　次の㋑に同じ。
【考案】カウアン　㋑考へしらべる㋺見積、見込
【考量】カウリヤウ　かんがへはかる。
【考試】カウシ　官吏の任用試驗。
【考察】カウサツ　しらべて明らかに知る。
【考課】カウクワ　官吏・役員・學生などの操行業務等を取調べること。
【考慮】カウリヨ　考へおしはかる、思案。
【考檢】カウケン　考案の㋑に同じ。
【考證】カウシヨウ　證據を引いて考へる。
【考驗】カウケン　考案の㋑に同じ。
【考古學】カウコガク　遺跡古物などについて古代の住民に關する事をしらべる學問

【考課狀】カウクワジヤウ　㋑官吏の操行業務等に關する報告㋺會社銀行等の營業報告
【考證學】カウシヨウガク　清朝にて隆盛をきはめし儒教の一派。

三畫

孝

二八四頁の孝を見よ。

四畫

者・〔耆〕

漢シヤ　㋑もの、物を指していふ㋺語勢を强める爲に添へていふ語㋩「てにをは」の「は」にて則の字に類するもの㋥二つの物事をとり分けていふ語㋭說明のことば(とは、といふことは、といふは)㋬この(此)
昔者セキシヤ　長者チヤウジヤ　從者ジユウシヤ　日者ニツシヤ
譽者コシヤ　來者ライシヤ　往者ワウシヤ　隱者インジヤ
謁者エツシヤ　俠者ケフシヤ　明者メイシヤ　仁者ジンシヤ
智者チシヤ　近者キンシヤ　宦者クワンジヤ　卜者ボクシヤ
王者ワウシヤ　屠者トシヤ　儒者ジユシヤ　隸者レイシヤ
好事者カウズシヤ　肉食者ニクシヨクシヤ　菜食者サイシヨクシヤ

耄・〔旄通字〕

漢バウ　呉モウ　慣用音マウ　㋑おゆ、おいぼれる㋺ぼける、もうろくする㋩としより(大老)「る、老耄。
【耄碌】マウロク　年取つてぼける、おいぼれ

六畫

耆・耋

漢テツ　㋑おゆ(老)八十歳、又七十歳と
呉デチ　又其人
もいふ㋺としをとる、

而部

而・〔ろ〕

漢ジ　㋑しかして、しかして、それで、さうして㋺しかれども㋩しかるに、しかも㋥ども、ども、何々しても㋭なんぢ(汝)㋬ごとし(如)㋣字句に添へる助字㋠而已又は而已矣と連用して「のみ」と訓ずりすなはち(乃)
【同訓異義】しかるに
【者】漢シヤ　㋑もの、人又は事物を指していふ㋺語勢を强める爲に添へていふ語㋩「てにをは」の「は」にて則の字に類するもの㋥二つの物事をとり分けていふ語㋭說明のことば(とは、といふことは、といふは)㋬この(此)
昔者セキシヤ　長者チヤウジヤ　從者ジユウシヤ　日者ニツシヤ
譽者コシヤ　來者ライシヤ　往者ワウシヤ　隱者インジヤ
謁者エツシヤ　俠者ケフシヤ　明者メイシヤ　仁者ジンシヤ
智者チシヤ　近者キンシヤ　宦者クワンジヤ　卜者ボクシヤ
王者ワウシヤ　屠者トシヤ　儒者ジユシヤ　隸者レイシヤ
好事者カウズシヤ　肉食者ニクシヨクシヤ　菜食者サイシヨクシヤ
【耄】漢バウ　呉モウ　慣用音マウ　㋑おゆ、おいぼれる㋺ぼける、もうろくする㋩としより(大老)「る、老耄。
【耄碌】マウロク　年取つてぼける、おいぼれ
【耆】漢キシ　㋑おゆ(六十歳以上ジになる)年をとる㋺としより、老人㋩つよし(强)㋥たしむ、又たしなみ(嗜)㋭いたる(底)いたす
【耆婆】キバ　佛經中にある名醫の名。
【耆宿】キシユク　德行學問のすぐれた老人。
【耆耄】キバウ　老人、年より。
【耋】漢テツ　㋑おゆ(老)八十歳、又七十歳と
呉デチ　又其人
もいふ㋺としをとる、又其人

【然】は而と同用であるが其意重し。
【爾】は然と同用であるが其意輕し。
【而】はて、にて、して、しかるに、しかもと讀む。
【同訓異義】のみ
【已】は止の字の義。「ちや」の意。
【爾】は其の物を指して、こればかり
【而已】はもはやそれにてすむの意。
【耳】は高がこれぢやといふ意。
【而今】ジコン　今といふ今、今にして。
【而立】ジリツ　三十歳の齡。
【而後】ジゴ　以後、今よりのち。
【而已】ノミ　だけ、ばかり。

三畫

耐・〔耐〕

漢ダイ　呉ナイ　慣用音タイ　㋑たふ、こらへる、維持する、よく(能)㋺頰毛を剃り落す罰
【同訓異義】たへる
【任】は力がつゞいてたへる義。
【勝】は先方のものにおしかつ意。
【堪】は辛棒して成し遂げる義。
【禁】はとゞめて外へもらさぬ義。
【耐】はもちこたへる意、忍耐。
【耐水】タイスイ　みづに漬りても毀損せぬ。

【耐火】タイクワ 火にあてゝも燒け損ぜぬ。
【耐久】タイキウ ながもちする。
【耐熱】タイネツ ねつにたへる。
【耐忍】タイニン こらへしのぶ、忍耐。
【耐寒】タイカン 寒さにたへこたへる。
【耐震】タイシン 地震にあふも毀損せぬ。
【耐熱飛行】タイネツヒカウ 極めて溫度の高き空を酷熱に耐へて飛行すること。

【耎●】漢 ゼン ㋑やはらか(軟)㋺よ 呉 オン わし(弱)㋩うどめく

【耑】漢呉 タン はし(端)さき

四畫

【需】一一二三頁の需を見よ。

耒部

【耒●】漢 ライ ㋑農具の一、すき㋺ 呉 レ すき。
【耒耜】ライシ すきの柄

四畫

【耕○】【畊】古字【耕】漢 カウ 呉 キャウ ㋑たがやす㋺農事を勸める㋩たがやす如くにかせぐ
【耕地】カウチ 土地をたがやす、又たがやされた田畑。
「とめる。
【耕作】カウサク たがやしつくる、農業をつ
【耕牧】カウボク 田をたがやし牛などを養ふ
【耕耘】カウウン たがやしくさぎる。
【耕畜】カウチク 土地をたがやし家畜を飼ふ
【耕農】カウノウ 田を作る、又百姓。
【耕織】カウシヨク 農業と機業。
【耕作地】カウサクチ 田畑として五穀を作る地
【耕地整理】カウチセイリ 耕地の利用を增進する目的にて田畑・道路・溝渠等の變更廢置をなすこと。
牛耕ギウカウ 躬耕キユウカウ 筆耕ヒツカウ 深耕シンカウ
傭耕ヨウカウ 力耕リヨクカウ 墾耕コンカウ 屯耕トンカウ

【耗●】【耄】漢 カウ 呉 コウ メウ ㋑へらす、㋺みだす、又みだる
【同訓異義】へる 耗・減等の用法は六〇八頁の減を見よ。
【耗費】カウヒ つひやす、消費。
【耗盡】カウジン へりつきる。
【耗亂】バウラン やぶれみだれる。

【耘●】【芸通字】漢呉 ウン 田の草をとり除く、のぞき去る
【耘耔】ウンシ くさぎりつちかふ、農事。

【耙●】漢呉 ハ 農具の一、まぐは

五畫

【耜】漢呉 シ すき、耒のさきの木又金

七畫

【耡●】漢 ショ 呉 ゾ すく、すき
慣用音 ジョ

九畫

【耦●】漢 ゴウ 呉 グ ㋑周代の田制にて兩人相並び慣用音 ゲウ
てたがやす廣さの畝、又その方法で
たがやすこと㋺たぐひ(偶)つひ、丁の
かず㋩あひて、對手、つれあひ㋥相な
らぶ、むきあふ
【耦刺】グウレ さしちがへて死ぬ。
【耦耕】グウカウ 字解の㋑に同じ。
【耦語】グウゴ むかひ合ひて密談する。

十畫

【耨●】漢 ドウ 呉 ヌ ノク ジョク ㋑農具の一、くは㋺くさぎる、すく

耳部

【耳○】【耳】漢 ジ 呉 ニ ジョウ
㋑五官の一、みゝ、物に附著して耳の形せるもの㋺のみ(爾)そればかり㋩自分より八代目の孫、一說に玄孫の子㋥國訓みゝ(物の端、さき)きく、聞える
【同訓異義】のみ 耳・已・而其他の用法は八三三頁の而を見よ。
【耳力】ジリヨク 耳にて聞く力、聽覺力。
【耳目】ジモク ㋑耳と目㋺人の手先となる者㋩人を指導する者。
【耳孔】ジコウ 耳のあな。
【耳朶】ジダ みゝたぶ。
【耳語】ジゴ 耳に口をよせて語る、ひそひ「そばなし。
【耳學】ジガク 聞き覺えて知る、耳學問。
【耳環】ジクワン 女子が耳たぶに穿ちはめる裝飾の輪、みゝわ。
【耳隱】ミミカクシ 耳を頭髮で覆ふ髮の結ひ方。
【耳下腺】ジカセン 耳の下にある唾液腺。
牛耳ギウジ 卷耳ケンジ 俗耳ゾクジ 秀耳シウジ

（隱耳）

二畫

【取】一七九頁の取を見よ。

【刵】一四〇頁の刵を見よ。

三畫

【耶○】【爺】通字【耶】漢 ヤ 呉 エ
漢呉ジャ ㋑か、や(邪)㋺ちゝ(爺)お
やぢ㋩莫耶は名劍の名㋥よとしま(邪)
【同訓異義】か 耶・乎・邪其他の用法は三六頁の乎を見よ。
【耶蘇】ヤソ 基督教、又キリスト。
【耶孃】ヤヂヤウ 父親と母親。
【耶馬臺】ヤバタイ「やまと」のあて字、支那から日本をさして稱したる語。
【耶蘇教】ヤソケウ 宗教の名、基督教。

四畫

【耽○】漢 タン 呉 トン
ぶ㋩たのしむ(樂)㋥奥深きさま㋭樹木のかげ
のかげの茂るさま
【耽耽】タンタン ㋑奥ふかき貌㋺樹木のかげ
【耽嗜】タンシ 嗜みふける。「の茂れる貌。
【耽溺】タンデキ 酒色にふけりおぼれる。
【耽讀】タンドク 書物をふけり讀む。
【耽美派】タンビハ 美を追求してそれに惑溺することを藝術の本旨なりとする流派

【耿●】漢 カウ 呉 キャウ 注意くわと讀むは誤り㋑志を固守する貌㋺德の光りの大なるさま㋩心のおちつかぬ貌㋥少しくあかるし㋭ひかり(光)㋬あきらか(明白)
【耿耿】カウカウ ㋑ほのかに明るきさま㋺心のやすんぜざる貌。

【耻】三八七頁の恥を見よ。

【耻】三八七頁の恥を見よ。

五畫

【聊○】【聊】漢呉 レウ ㋑いさゝか、ちよつと㋺たのしむ(樂)㋩たよる、たのむ㋥やすんず(安)㋭無意味の助辭へみゝがなる、みゝなり
【同訓異義】いささか
【聊】はうちはにする義。
【薄】は輕少の義である。
【聊爾】レウジ かりそめ。

六畫

【聒●】漢 クワツ 呉 クワチ ㋑かしましい、かまびすし㋺おろかなるさま

七畫

聖・聖（誤字）聖（誤字）

漢セイ　呉シヤウ

イひじり（智德が甚だすぐれたる人）ロ天子の尊稱、又天子に關する物事の上に加へていふ敬語ハ其道にすぐれた人　二國訓ひじり（德の高い僧、だいとく）

【聖人】セイジン　イ理想上の最高人格、ひじり ロ清酒の異名ハ聖者のロに同じ。

【聖上】セイジヤウ　天子の尊稱。

【聖王】セイワウ　天子を呼ぶ尊稱、又すぐれ

【聖日】セイジツ　イ神聖なる太陽、天子を稱す ロ基督教にて日曜日の稱。

【聖世】セイセイ　昭代、めでたい御世。

【聖代】セイダイ　前に同じ。

【聖主】セイシユ　聖王に同じ。

【聖旨】セイシ　天子のおこゝろ。

【聖母】セイボ　イ聖人のうみの母たる者ロ耶蘇基督の生母マリアの尊稱。

【聖君】セイクン　聖王に同じ。

【聖明】セイメイ　天子に關することの尊稱。

【聖典】セイテン　聖書、又聖人の定めしのり。

【聖帝】セイテイ　聖王に同じ。

【聖政】セイセイ　天子のまつりごと。

【聖者】セイシヤ　イひじり、聖人ロ智德高くして慈悲心深き人。

【聖童】セイドウ　優れて賢い子供、神童。

【聖恩】セイオン　ロ天子のめぐみ、聖澤。

【聖書】セイシヨ　イ聖人の著、又聖人の事に關する書物ロ基督教の經典、バイブル。

【聖堂】セイダウ　聖廟に同じ。

【聖訓】セイクン　イ聖人のをしへロ天子の御「さとし。

【聖哲】セイテツ　極めて賢明なる人。

【聖敕】セイチヨク　みことのり、詔勅。

【聖教】セイケウ　イ聖訓のイに同じロ佛教

【聖經】セイケイ　聖人の著述したる經書。

【聖道】セイダウ　イ聖人のみちロ天台宗及眞言宗ハ寺のちごの異稱。

【聖駕】セイガ　天子の乘物、車駕。

【聖運】セイウン　天子の運命。

【聖像】セイザウ　イ孔子の肖像ロ基督の像佛祖の木像又は繪像。

【聖算】セイサン　イ天子の御年齡ロ天子の御「計りごと。

【聖誕】セイタン　天子の御誕生、又は御誕生日

【聖德】セイトク　イ物事に通達したる德ロ位にある天子の御德。

【聖慮】セイリヨ　天子の御心、大御心。

【聖賢】セイケン　聖人と賢人。

【聖廟】セイベウ　孔子を祀るおたまや。

【聖節】セイセツ　天子の御誕生日。

【聖聲】セイレン　天子のみくるま、鳳輦。

【聖諭】セイユ　天子のおさとし、勅諭。

【聖壇】セイダン　神を祭る壇。

【聖斷】セイダン　天子の御さばき、勅裁。

【聖謨】セイボ　聖算のロに同じ。

【聖聽】セイチヤウ　天子が御きゝになる。

【聖覽】セイラン　天子がごらんになる。

【聖體】セイタイ　天子のおからだ、玉體。

【聖鑑】セイカン　天子の御見込、又おめきゝ。

英聖　叡聖　易聖　至聖
孔聖　明聖　先聖　神聖
玄聖　書聖　草聖　亞聖
凡聖　大聖　賢聖　貴聖
仁聖　哲聖　勳聖　忠聖
聽聖　眞聖　往聖　前聖

聘・聘

漢ヘイ　イごき　呉ヒヤウ　げんを伺ふ、安否をたづねるロめす（禮を以て人を待つ）結納を贈るハ妻を迎へる

【聘用】ヘイヨウ　禮を以て人を召し用ゐる。

【聘問】ヘイモン　おとづれたづねる。

【聘徵】ヘイチヨウ　贈物をして人を召す。

【聘禮】ヘイレイ　物を贈る時の禮式作法。

八畫

聚・聚

漢シユ　呉ズ　慣用音シユウ

イよせる、あつめるロあつまる、輻湊するハむらざと、人家のあつまり二物品の著積、あつまり

【同訓異義】あつまる

【屯】は一所にかたまりて聚まる義。

【攢】は簇りあつまる義。

【纂】は詩文などを綴り聚むるに用ふ

【聚】は分散の反對で一所に寄る義。

【萃】は聚に同じ。

【輯】は取集めて一つにする義。「義、

【輳】は物の諸方より一所に寄り來る

【鍾】は一所にのこりなく聚める義。

【醵】は錢を出し合ひて飲食するの意

【集】は散つてゐるのを一所にあつめよせる意。

【聚合】シユウガフ　あつめあはす、あつまる。

【聚散】シユウサン　あつまるとちる、集めると散らす。

【聚落】シユウラク　村落。

【聚集】シユウシフ　あつまる、あつめる。

宴聚エンシユウ　總聚ソウシユウ　積聚セキシユウ　博聚ハクシユウ
會聚クワイシユウ　合聚ガフシユウ　集聚シフシユウ

聞①・聞

漢ブン　イきく、呉モン　音聲を感ずロ知るハ奉ず、受ける、うけたまはる二にほひをかぐホきかせる、きこゆ、申し上げる、たづねる、おとづれる、きゝつたへ、うはさへ經驗より得る知識、又經驗の知識に富んでゐる人ト耳に入る、ひゞくチあまねく、あまねく知れわたる、又聲がとゞくリきこえ、ほまれ、名譽

【同訓異義】きく　聞・聆・聽其他の用法は八三九頁の聽を見よ。

【聞見】ブンケン　きくとみる。

【聞達】ブンタツ　名譽が高くなり立身出世する。

【聞睹】ブントウ　きくとみる、見聞。

【聞說】キクナラク　次に同じ。

【聞道】キクナラク　聞くところにとれば。

異聞イブン　寡聞クワブン　淺聞センブン　奇聞キブン
博聞ハクブン　聽聞チヤウモン　蔗聞シヤブン
傳聞デンブン　百聞ヒヤクブン　千聞センブン
舊聞キウブン　風聞フウブン　新聞シンブン
驛聞エキブン　臥聞ガフブン　特聞トクブン
嘉聞カブン　仁聞ジンブン　流聞リウブン

聯

漢レン　作るは全然誤りである イならべる、つらぬ、くみあはせるロ對にする、二つそろへるハ關係させるつらなる、つらなり二二つ揃ひしもの

【同訓異義】つらぬ　聯・羅・連其他の用法は一〇三八頁の連を見よ。

【聯句】レンク　イ二人以上の人が各々一句づつ作つて一詩をなす、又其詩ロ詩の

【聯立】レンリツ　聯合してたつ。「律の對句。

【聯合】レンガフ　二つ以上の物が一つとなること、團結すること。

【聯亘】レンコウ　つゞく、つならなりわたる。

【聯邦】レンパウ　數國合して一國となれる國

【聯球】レンジユ　イ格目、五目ならべロたまを連ねる、立派な詩文を作る形容。

【聯絡】レンラク　つなぐ、つながる、續きあひ

【聯隊】レンタイ　軍隊編制上の名目、普通は三箇大隊より成る。「ぼす働き。

【聯想】レンサウ　或る考から他の事に考へ及

【聯盟】レンメイ　互ひに約束をきめる。「ける

【聯結】レンケツ　二以上のものを一に結び付

【聯碁】レンゴ　二組の人が一局の碁をうつ

【聯綿】レンメン　長く連なる貌。

【聯聯】レンレン　つゞきてたえぬさま。

【聯璧】レンペキ　イ一對の玉、又其形のもの

聯

漢シ　呉ズ　注意　俗に略字として聯に用ゐる

【聯】

二四五頁の塔を見よ。

十一畫

聯・連（通字）聯（誤字）

しかと、はつきりと、たしかに、的確に

【聯】

國字

㋺揃つた善い物事。「ながり。

【聯鎖】レンサ ㋑つなげる鎖 ㋺つゞき、つ

【聯關】レンクワン 聯絡に同じ。

【聯絡】レンラク 物事をつゞき合せる所

【聯絡點】レンラクテン 二つ以上の政黨員

【聯合内閣】レンガフナイカク から成立したる内閣。

【聯合艦隊】レンガフカンタイ 二つ以上の艦隊が合同してなりたつた大艦隊。

【聰○】【聰・聰俗字】【聰】

漢 ソウ 呉 ス ㋑聞くことがさとい、耳がよくきこえる㋺かしこし、さとし

【聰明】ソウメイ ㋑耳がよく聞え目がよく見える㋺物事によく通曉すること。

【聰敏】ソウビン かしこい、さとい。

【聰慧】ソウケイ 前に同じ。

【聲○】【声略字】【聲】

漢 セイ 呉 シャウ ㋑おと、ひゞき、こゑ㋺ことばのてうし、又ことば、言語㋩音樂、てうし、ふし㋥名譽、ほまれ㋭をしへ、教育へ鳴らす、のべる、おとづれ、消息㋬漢字音の末尾のひゞきによつて平・上・去・入の四種に分ちたるもの

【聲名】セイメイ 名聲、評判のよいこと。

【聲色】セイシヨク ㋑音樂と女色㋺こわ色と かほ色、聲貌㋩轉じて容子、態度、姿勢。

【聲曲】セイキヨク 音曲、歌のふし。

【聲言】セイゲン 次の㋩に同じ。

【聲明】セイメイ ㋑言ひふらす㋺五明の一にて音韻の原理を研究する學問、又佛德をほめて供養する讃。

【聲利】セイリ 評判と利益。

【聲息】セイソク おとづれ、たより、消息。

【聲望】セイバウ 名聲と人望。

【聲門】セイモン 二條の聲帶の間の稱。

【聲音】セイオン ㋑音樂㋺音聲、こわいろ。

【聲氣】セイキ 聲と勢ひ、又いきほひ。

【聲帶】セイタイ 發聲の器官にして喉頭部に位し彈力ある二條の靱帶より成る。

【聲問】セイモン たより、おとづれる。

【聲涙】セイルキ はなしどゑとなみだ。

【聲援】セイエン 聲をかけて勢援すること。

【聲聞】セイブン ジヤウモン ㋑聲響に同じ㋺佛說をきき道をさとる人。

【聲貌】セイバウ 聲色の㋺に同じ。

【聲價】セイカ ねうち、ほまれ、評價。

【聲樂】セイガク ㋑音樂㋺諸ひものゝ總稱。

【聲譽】セイヨ よい評判、ほまれ。

【聲惡】セイアク 悪聲。

【聲金】セイキン 柔聲。

【聲發】セイハツ 發聲。

【鐘聲】セイセイ 陽聲。

【吟聲】ギンセイ 潤聲。

【德聲】トクセイ 洪聲。

【清聲】セイセイ 殊聲。

【砲聲】ハウセイ 異聲。

【英聲】エイセイ 軍聲。

【絃聲】ゲンセイ 笑聲。

【溪聲】ケイセイ 喜聲。

【萬聲】バンセイ 惠聲。

【文聲】ブンセイ 俊聲。

【善聲】ゼンセイ 爆聲。

【名聲】メイセイ 鶴聲。

【笛聲】テキセイ 鳥聲。

【濤聲】タウセイ 奇聲。

【聳●】【聳】

漢 ショウ ㋑そびえる、高くたつ㋺そびやかす、そばだつ㋩おそる(慄)ぞつとする㋥つつしむ(敬)㋭すゝむ(奬)

【聳立】ショウリツ 山などが聳えたつこと。

【聳起】ショウキ 高く起る、そびえおこる。

【聳峙】ショウヂ 山などのそばだつこと。

【聳動】ショウドウ ㋑おどろく、おそれうどく㋺おそれうどかす。「つゝしむ貌。

【聳然】ショウゼン ㋑そびえたつさま㋺恐れ

【聳懼】ショウク おそれる、慄懼。

【聲○】

漢 ガウ 呉 ゲウ 言語文章がごつ〳〵して㋺諸ひものゝ總稱。

【聲牙】ガウガ 文辭が堅苦くしてすら〳〵と讀み難きこと。

十二書畫

【職●】【職】

漢 ショク 呉 シキ ソク

㋑つとめ、しごと㋺やくめ、つかさ㋩つかさどる(掌)㋥みつぎもの(貢物)㋭專ら、おもに、主として

【同訓異義】もと 職・原・本其他の用法は五一三頁の本を見よ。

【職人】ショクニン 手わざで物品を造る人。

【職工】ショクコウ 賃金を得て資本主に雇はれてゐる職人。

【職分】ショクブン 職責、務めなすべき本分。

【職由】ショクイウ ㋑物事のよりどころ㋺基因する、よること。

【職名】ショクメイ つかさの名稱。

【職制】ショクセイ 官制、官職上のきめ。

【職官】ショククワン 有司、百官。

【職服】ショクフク 官職によつて定めた衣、制服。

【職員】ショクイン 學校又は役所等の事務を「取扱ふ人。

【職務】ショクム 官職上の役目、又は自已の受持つ役目。「する義務。

【職責】ショクセキ 職分としてなすつとめを

【職掌】ショクシヤウ つとめ、うけもつ役目。

【職業】ショクゲフ 官職上の仕事、人の業として從事する仕事、生計、稼業。

【職權】ショクケン 官吏の職務上の權限。

【職分田】ショクブンデン シキブンデン 昔官職に應じて賜はりし田地。

【職工組合】ショクコウクミアヒ 勞働者が自已の利益を確保する目的にて組織したる永久的の結社。

【職業婦人】ショクゲフフジン 自活せん爲めに一定の職業に就き俸給生活をなす婦人。

【職業紹介所】ショクゲフセウカイジヨ 失業者に對して職業を世話する所。

宮職 キユウ 内職 ナイ 官職 クワン 史職 シ

宗職 ソウ 常職 ジヤウ 雄職 ユウ 劇職 ゲキ

女職 ヂヨ 重職 ヂユウ 廢職 ハイ 天職 テン

賢職 ケン 武職 ブ 軍職 グン 吏職 リ

貴職 キ 法職 ハフ 藩職 ハン 辭職 ジ

賤職 セン 免職 メン 就職 シウ

【聽●】

漢 チヤウ 慣用音クワイ 呉 ゲ ㋑つんぼ(生れながらの聾)㋺事理を聞き分け得ぬ

【聽聽】クワイクワイ ㋑物事の道理を聞きわけ得ぬさま㋺無智なるさま。

【聳●】

漢 デフ 呉 ネフ 慣用音セツ ㋑さゝやく(囁)㋺人の姓(春秋戰國時代の刺客)

十六書畫

【聽●】【聽】

漢 テイ ㋑きく

呉 チヤウ (聞より强し)念を入れてきく㋺さばく、判決する㋩待つ㋥きゝとる、ゆるす、承知する㋭まかせる、從ふ㋬きゝいれられる、又ゆるさる㋯役所(廳)㋰まはし者、忍びの者

【同訓異義】きく

【聆】は聽に同じ。

【聞】は先方の聲が耳に入るの意。

【聽】は此方より注意してきくの意。

【聽用】チヤウヨウ 言をきゝいれて用ゐる。

【聽官】チヤウクワン 音聲をきゝわける感覺、

【聽容】チヤウヨウ 聽許に同じ。〔卽ち耳。

【聽政】チヤウセイ 政事をとること。

【聽從】チヤウジユウ 命令に從ふこと。

【聽訟】チヤウショウ 訴へをきく、裁判する。

【聽許】チヤウキヨ ゆるす、きゝとゞける。

【聽衆】チヤウシユウ 說教演說等をきく人。

【聽聞】チヤウブン チヤウモン ㋑きく㋺說教をきく。

【聽認】チヤウニン みとめゆるす、認可。

【聽獄】チヤウゴク うつたへをきゝさばく。

【聽熒】チヤウエイ 意味がよく分らぬさま。

【聽講】チヤウカウ 講義をきく。

【聽覺】チヤウカク 聽感、耳の音響をきく力。

【聽諫】チヤウカン いさめをきゝ入れる。

【聽診器】チヤウシンキ 體 肉の音響をきゝて肉部の疾病を診察する器。

【聽神經】チヤウシンケイ 耳から大腦に通じ聽覺をつかさどる神經。

（聽診器）

〔聾〇〕〔聾〕

漢 ロウ ㋑みゝし 呉 ル ひ、つんぼ ㋺つんぼになる

【聾者】ロウシヤ つんぼ、耳の聞えぬ不具。

【聾盲】ロウマウ つんぼとめくら。

【聾唖】ロウイン つんぼとおし。

【聾昏】ロウコン つんぼになる。

聿部

【聿〇】

漢 イツ ㋑楚の地方の言にて 呉 イチ ふで（筆）㋺ひつ（遂）㋩ともに（具）㋥これ、こゝに 訓 ふでづくり（筆旁）

四畫

【書】

四九九頁の書を見よ。

五畫

【畫】

四八九頁の畫を見よ。

六畫

【晝】

六九一頁の晝を見よ。

七畫

〔肅〇〕〔粛〕

略字 〔肅〕 漢 シユク 呉 ソク

㋑うやうやし、つゝしむ（敬）㋺きびし（急）㋩すゝむ（進）ちゞむ（縮）㋥頭を垂れて御辭儀をする

【同訓異義】つつしむ 肅・愼・謹其他の用法は九七五頁の謹を見よ。

【肅白】シユクハク つゝしみまをす、敬白。

【肅呈】シユクテイ つゝしみさしあげる。

【肅拜】シユクハイ 丁寧にするおじぎ。

【肅殺】シユクサツ 秋の氣が草木を枯らす貌

【肅然】シユクゼン つゝしみかしこまる。

【肅敬】シユクケイ つゝしみうやまふ。

【肅靜】シユクセイ ひゝそりとしづかなる貌

【肅肅】シユクシユク ㋑急ぐさま ㋺鳥の羽音 ㋩つゝしみあるさま ㋥靜かなるさま。

【肅聽】シユクチヤウ つゝしみきくこと。

〔肆〇〕〔四〕

通字 〔肆〕

漢 シ ㋑つらなる、つらぬ ㋺ほしいまゝ、放恣 ㋩みせ（店）㋥うまや（廐）㋭のぶ（展）㋬ゆるむ（緩）ゆるす（赦）㋮さらす（死罪の者を市にさらす）㋯ゆゑに（故）㋰つひに（遂）㋱ためす、こゝろむ ㋲音樂に使用する鐘磬の全列 ㋳たゞし（正）なほし（直）㋴俗に數字の四に用ふ

【同訓異義】ほしいまま 肆・放・縱其他の用法は八一一頁の縱を見よ。

【同訓異義】ゆるす 肆・宥・赦其他の用法は一〇〇三頁の赦を見よ。

【肆放】シハウ ほしいまゝ、わがまゝ。

【肆廛】シテン 店肆、みせ。

安肆アンシ　列肆レツシ　市肆シシ　屠肆トシ

酒肆シユシ　恣肆シシ　縱肆ジユウシ　放肆ハウシ

書肆ショシ　茶肆チヤシ　遊肆イウシ　店肆テンシ

城肆ジヤウシ　藥肆ヤクシ　閑肆カンシ　驕肆ケウシ

【肆〇】

漢 イ 呉 イ ㋑ならふ（習）㋺うれへ、しんぱい ㋩ひこばえ

八畫

〔肆〇〕〔肆〕

漢 テウ 呉 デウ

㋑はじめる、はじむ（始）はじめ、はじまり ㋺たゞす（正）

【同訓異義】はじむ 肆・初・始其他の用法は一三五頁の初を見よ。

【肆始】テウシ はじまり、はじめ。

【肆國】テウコク くにをはじめる、建國。

【肆基】テウキ 基礎を確立す、土臺をすゑる

【肆造】テウゾウ はじめてつくる、創造。

【肆歲】テウサイ 年のはじめ、年首。

九畫

【盡】

七一四頁の盡を見よ。

肉部

〔肉〇〕〔宍〕〔肉〕

古字 慣用音 ニク

漢 ジク ジウ 呉 ニク ニユ

㋑にく、しゝみ ㋺きりにく、肉のきれ ㋩身體、からだ、たましひ、はだ、皮膚 ㋥果實の皮の下にある柔かい部分 ㋭ほんもの、其まゝのもの、㋬穴のある錢、璧の外環 ㋮音樂の聲の太いこと ㋯にく、印肉、又牛肉の略 ㋰物の厚み、體の太さ ㋱色情、交情又は貞操の意にも用ふ

【肉山】ニクザン ㋑なまの肉 ㋺肥えたからだ

【肉汁】ニクジフ ㋑肉を煮出した汁 ㋺鳥獸の肉を入れて煮出したるしる。

【肉池】ニクチ にくつぼ、印肉を入れる器。

【肉色】ニクシヨク ㋑皮膚の色 ㋺にくの色。

【肉身】ニクシン ㋑からだ、肉體 ㋺肉緣、身內

【肉冠】ニククワン 鷄のとさか、鷄冠。

【肉桂】ニクケイ 暖地產の常綠喬木にて藥用に供す。

（肉桂）

【肉食】ニクシヨク ニクジキ ㋑鳥獸の肉を食餌とす ㋺常に美味を食す ㋩なまぐさ物を食ふ

【肉欲】ニクヨク ㋑食慾・色慾など肉體上の慾望 ㋺いろけ、情慾。

【肉眼】ニクガン ㋑人のまなこ ㋺眼鏡の力をからぬ生來の眼、人の目 ㋩心眼の對、五覺官の中のまなこ。

【肉筆】ニクヒツ 書いたまゝの書畫。

【肉塊】ニククワイ 肉のかたまり、又身體。

【肉彈】ニクダン 肉の彈丸、敵壘にをどりこむ身體を彈丸に譬へていふ語。

【肉緣】ニクエン ちすぢ、肉親。

【肉慾】ニクヨク 肉欲の ㋺に同じ。

【肉親】ニクシン 血緣、血族。

【肉薄】ニクハク 敵地にまぢかくせまること

【肉聲】ニクセイ 人の口から出ること。

【肉體】ニクタイ 肉身、なまみのからだ。

【肉感的】ニクカンテキ 性的の感情を起さしめる如きこと、肉の實感。

【肉體美】ニクタイビ 男性的の直線美と女性的の曲線美とを兼ねた者のよく調和したる肉體のうつくしさ。

【肉山脯林】ニクザンホリン 生肉と乾肉の多くあることにて驕奢なる宴席の形容。

【肉體的勞働】ニクタイテキラウドウ 精神的勞働の對、主として體力を活動せしめる勞働。

印肉インニク　牢肉ラウニク　酒肉シユニク　豚肉トンニク

生肉セイニク　餘肉ヨニク　飛肉ヒニク　土肉ドニク

走肉ソウニク　肥肉ヒニク　食肉シヨクニク　豆肉トウニク

畔肉シヤヤニク　魚肉ギヨニク　獸肉ジウニク　馬肉バニク

【月・肉】

㋑漢字の偏になる時の形にて日月の月とは別 ㋺國訓にくづき

二畫

〔肋〇〕

漢呉 ロク あばら、あばらぼね

【肋骨】ロクコツ ㋑あばらぼね ㋺西洋風の軍服の胸部に附いた飾りの一。

【肋膜】ロクマク 肋骨の內にあり肺を覆ふ膜

細肋サイロク　鳴肋ケフロク　沙肋サロク　兩肋リヤウロク

〔肌〇〕〔肌〕

漢呉 キ はだへ、はだ、體の外皮

【肌着】ハダギ　じばん。
【肌理】キリ　はだのきめ。
【肌膚】キフ　はだへ、はだ。

【肌】 一三五頁の肌を見よ。

【有】 五〇四頁の有を見よ。

三畫

【肖○】【肖】 漢 ショウ セウ　㋑にる、にるロのつとる（法）㋺ちひさし（小）㋩おとろふ（衰）㋥うしなふ㋭國訓あやかる

【肖似】セウジ　にる、類似する。
【肖像】セウゾウ　其人に〻せて書き又は造りたる形のもの。

【肘●】 漢 チウ　㋑ひぢロきゝうでを呉 チュ　捕へて制止することどの建築に柱の上に肘の如く出てゐるうで木ロ上白につけて白をまはすもの。㋺宮殿な

【肘木】ヒジキ
【肘腋】チウエキ　㋑肘と腋ロ自身に近き所。
【肘金】ヒヂガネ　折釘の如き形をなした鐵物
【肘臂】チウヒ　ひぢ、かひなの關節。

（木　肘）

【肝○】【肝】 漢 カン 呉 ケ　㋑きも、肝臓ロまごゝろ、衷心㋺主要、かなめ

【肝油】カンユ　㋑動物の肝臓より採りし油藥ロ鱈の肝臓より取りし黃色の油。
【肝要】カンエウ　かなめ、肝腎。
【肝腎】カンジン　㋑肝臓と腎臓ロ前に同じ

注意 肝心と書くは誤り。

【肝臓】カンザウ　かんのざう、きも。
【肝膽】カンタン　きも、又誠實の心。
【肝膽相照】カンタンシテテラス　互に心より打とけて交はる。

【肓○】【肓】 字 漢 クワウ　心臓の横膈膜の上に位する局部

【肓別】呉 ワウ　下部、

【肚●】 漢 ト　ねぶくろ（胃）はら呉 ッ（腹）はらのうち、はらのうち。心のなか。

【肚裏】トリ
【肚皮裡】トヒリ　はらのうち大腸の下端、しりのあな

【肛○】 漢 コウ　しりのあな。

【肛門】コウモン

四畫

【股●】【股】 漢 コ　㋑もゝ、また、あしロまたの形せるもの㋺物事の一部分、また一方㋩重要なる臣㋥直角三角形の勾と弦とにてはさめる角に對する線

【股肱】ココウ　㋑たのみとするけらいロも次に同じ。
【股栗】コリツ　恐れて足がふるへるさま。
【股慄】コリツ
【股掌之臣】コシャウノシン　股肱の㋑に同じ。

【肥○】【肥】 漢 ヒ　㋑こえる、ふとる、こやすロ地味が良い㋺ゆたかになる、盛んに多くなる㋩こえた馬、又こえた肉㋥こえ、こやし㋭水源が同じくして落口の異なる川

【同訓異義】こゆ
【沃】は土地の水がゝりよくして地味の肥えたる意。
【肥】は肉が多くてこえふとる義。
【腴】は腹の下が脂ぎりて肥えるの意

【肥大】ヒダイ　肥つて大きい、又肥え太る、俗にデップリ肥えてゐること。
【肥土】ヒド　地味のよき土地。「來る。
【肥沃】ヒヨク　土地が肥えて作物がよく出
【肥料】ヒレウ　こやしとなるもの。
【肥腴】ヒユ　肥沃に同じ。「よしあし。
【肥瘠】ヒセキ　㋑こえるとやせるロ地味の土地がこえてよくみのる。
【肥饒】ヒゼウ

【肥體】ヒタイ　肥えた體、又からだを肥す。
【肥壤】ヒジヤウ　肥土に同じ。
甘肥カンピ　温肥ウンピ　珍肥チンピ　軟肥ナンピ

【肢○】【肢】 漢 シ　㋑てあし、ロからだ呉 イ

【肢體】シタイ　からだ、體軀。

【肩○】【肩】 漢 ケン　㋑かた㋺身を入れてひいきにする。漢 ケン　ロかつ（勝）㋩三歳の獸ふ、からへる、た

【肩入】カタイレ
【肩章】ケンシヤウ　軍人官吏等が制服の肩につけるしるし。
【肩摩】ケンマ　多人數がこみあふさま。
【肩輿】ケンヨ　二人してかつぐかご。
【肩胛骨】ケンカフコツ　肩の骨。
【肩摩轂擊】ケンマコクゲキ　肩と肩がすれあひ車の轂と轂がうちあふ、群衆往來の劇しき形容。

（肩　章）

【肪○】 漢 ハウ　あぶら（脂）呉 バウ　慣用音

【肪肮】バウクワウ　下腹にある尿囊。
【肪膩】バウジ　肌が脂じみて滑かなこと。

【肯●】【肯】 字 漢 カイ 呉 ケ　㋑うけがふ、がへんず、きゝいれる、うけひく㋺骨つきの肉㋩あへて（敢）

【同訓異義】あへて　肯・敢・等の用法は四六三頁の敢を見よ。

【肯定】コウテイ　然りときめる。「たる。
【肯綮】コウケイ　物の急所を突いてうまくあ
【肯首】コウシユ　うなづく、承諾する。
【肯諾】コウダク　うべなふ、うけひく。

【育●】【毓】 通 **【育】** 字 漢 イク 呉 ヨク　㋑そだつ、生長する、大きくなる㋺幼稚

【育成】イクセイ　そだてる、養成する。
【育英】イクエイ　人物を養成する、轉じてひろく教育の意。
【育兒】イクジ　こどもをそだてる、又其兒。
【育養】イクヤウ　そだてやしなふ。「る所。
【育兒院】イクジヰン　貧兒・孤兒等を教養す

教育クヰイク　生育セイイク　德育トクイク　覆育フクイク
化育クワイク　發育ハツイク　仁育ジンイク　治育チイク
撫育ブイク　惠育ケイイク　濟育サイイク　陶育タウイク
智育チイク　愛育アイイク　養育ヤウイク　成育セイイク

【肴○】【肴】 漢 カウ　呉 ゲウ

【肺●】【肺】 漢 ハイ　㋑はいのぞう、肺呉 へ　臓ロ親しきこと㋺心の中、衷心㋩草木の盛んなるさま

【肺肝】ハイカン　㋑肺臓と肝臓ロ心の奥底。
【肺炎】ハイエン　肺に炎症を起す病氣。
【肺肺】ハイハイ　草木が盛んに茂つてゐる貌
【肺腑】ハイフ　㋑はいのざう、肺臓ロ心底、心の中㋺自分に近く親しき者。
【肺勞】ハイラウ　肺結核の俗稱。
【肺臓】ハイザウ　胸にあつて呼吸を司る器官
【肺結核】ハイケツカク　結核菌が肺臓を冒す病

【肬○】【疣】 通字 漢 イウ　㋑いぼロ呉 ユ　餘計なもの、むだなもの

【肬贅】イウゼイ

【肭●】 漢 トツ　㋑陰曆の朝に東方に現はれる月、ついたちづきロ膃肭は肥えてゐるさま、又海獸の名、をつとせい呉 ドチ

【肮○】 漢 カウ　のどぶえ、のど呉 ガウ

さかな、おかずロ國訓さかな

上肴ジヤウカウ　甘肴カンカウ　酒肴シユカウ　異肴イカウ
珍肴チンカウ　鮮肴センカウ　山肴サンカウ　豐肴ホウカウ

【肱○】漢 コウ 呉 キャウ ㋑ひぢ ㋺たのみとなるもの

【胃】一二二頁の冒を見よ。

【服】五〇五頁の服を見よ。

【朋】五〇五頁の朋を見よ。

五畫

【胃●】【胃】漢呉 ㋑ゐぶくろ、胃腑 ㋺星の名、二十八宿の一

【胃弱】キヂヤク 胃の消化力の衰へる病氣。

【胃液】キエキ 胃内に分泌する消化液。

【胃腸】キチヤウ 胃と腸。「きる病。

【胃癌】キガン 胃の内部に惡性の腫物ので

【胃病】キビヤウ 胃のやまひ。

【胃痛】キツウ 胃を痛むやまひ、胃病。

【胃囊】キノフ 胃、ゐぶくろ。

【胃腸病】キチヤウビヤウ 腸胃の病。「こみ。

【胃痙攣】キケイレン 胃のひきつけ、癪のさし

【胃膨脹】キクワクチヤウ 胃袋の筋肉の收縮力が弱り胃のひろがる病氣。

【脊●】別字【背】漢 ハイ 呉 へ ㋑せなか、せ、せな ㋺うら、うしろ ㋩そむく、せなかを向ける ㋥反抗する、反對する ㋭見すてる、死ぬ ㋬國訓せ（みのたけ、身長）

【同訓異義】**そむく** 背・叛・畔其他の用法は一八〇頁の叛を見よ。

【背任】ハイニン 官公吏及法人の責任者の職務上に於ける不正行爲。

【背戾】ハイレイ そむきもとる。

【背後】ハイゴ せな、うしろ。

【背面】ハイメン ㋑うしろを向く ㋺後ろの方

【背約】ハイヤク 約束にそむく。

【背逆】ハイギヤク さからひそむく。

【背進】ハイシン 後に向つてすゝむ、退卻。

【背馳】ハイチ 互ひに反對になること。

【背景】ハイケイ とほみ、後景、舞臺の後壁に ゐがく景色、バック。「ランドセル。

【背囊】ハイナウ 兵卒などが背に負ふ小箱、

【背皮】セガハ 書物の裝幀に於て背が皮で あること、又そのもの。

【背任罪】ハイニンザイ 背任により生じた罪

【背水之陣】ハイスヰノヂン 韓信が川を控えて陣を張り士卒をして必死の勢を起さしめし兵法、のつびきならぬそなへ。

刀背ハタウ 反背ハイン 向背コウハイ 後背コウハイ

腹背ハイク 違背ハイ 離背リハイ

【胎○】【胎】漢呉 ㋑はらむ、はらごもる ㋺はら、こぶくろ、子宮 ㋩はらごもり、はらごもりの子 ㋥きざし、はじめ、きざす、もとづく

【胎内】タイナイ はらみたるはらのなか。

【胎孕】タイヨウ 子をはらむ、姙娠。

【胎生】タイセイ 胎内にて適當の發育を遂げたる後にうまれること、又其もの。

【胎衣】タイイ えな、胞衣。「ることも。

【胎児】タイジ はらごもり、母の胎内にあ

【胎毒】タイドク 児が親から受けた病毒。

【胎教】タイケウ 姙婦が正道を守つて自然に胎児を善良化する特殊の教育。

【胎盤】タイバン 胎児と母體を結著するもの

受胎ジユタイ 胚胎ハイタイ 墮胎ダタイ 懷胎クワイタイ

【胚○】漢 ハイ 呉 へ ㋑みごもり（孕んで一箇月目の稱）

㋺動物の卵黄の上面にある眼點、植物の種子の内部に在りて二板の厚き子葉を具へるもの ㋩物事のはじまり

【胚孕】ハイヨウ はらむ、姙孕。

【胚乳】ハイニユウ 植物に於て胚の周圍にある粉狀の物質。「どもる。

【胚胎】ハイタイ ㋑はじまり、はじめ ㋺はら

【胚珠】ハイシユ 植物にて子房内に存在する小體（成熟して種子となるもの）。

【胞○】漢 ハウ 呉 へウ ㋑えな ㋺母の體内體を組織する原形質の微粒

【胞子】ハウシ ㋑原生動物の個體の分れて成つた小體 ㋺原生動物の生殖器。

【胞衣】ハウイ えな、胎衣。

【胞著】エナギ 子供の宮まゐりに產衣の上に著るもの。

（著胞）

【胡○】【胡】漢 コ 呉 ゴ 唐音ウ 慣用音ゴ

㋑頷喉下の垂肉 ㋺なんぞ（何）㋩老人、としより ㋥支那東北の野蠻人種の名、轉じて野蠻人又は外國人を輕蔑していふ語 ㋭祭器の名 ㋬わけの分らぬこと、でたらめ ㋣ながいき

【同訓異義】**なに** 胡・何・曷其他の用法は六九頁の何を見よ。

【胡人】コジン 北方のえびす、北夷。

【胡弓】コキユウ 樂器の名、鼓弓。

【胡竹】コチク 笛の名。

【胡瓜】コクワ 瓜類の一、きうり。

【胡床】コシヤウ こしかけ、しやうぎ。

【胡坐】コザ あぐら、安坐。

【胡桃】コタウ 果樹の一、くるみ。

【胡粉】コフン 白色のえのぐ。

【胡麻】ゴマ 野菜の一。

【胡椒】コセウ 熱地に產する香木の名。

【胡琴】コキン 清樂器の一。

【胡說】コセツ よりどころなき議論。

【胡髯】コゼン のどの所に生えるあごひげ

【胡樂】コガク えびすの音樂。

【胡蝶】コチフ 昆蟲の一、蝴蝶。「つまる貌。

【胡盧】コロ ㋑ふくべ、夕顏 ㋺笑聲の喉に

【胡椒】コセウ 胡椒科の藥緣性植物で東印度に原產し初夏の頃白い花を開く果實は豌豆大にして藥種となし又は食用に供せられる。

（椒胡）

【胡散】ウサン 疑はしい、あやしい。

【胡亂】ウロン 前に同じ。

【胡籙】ヤナグヒ 矢を盛つて背に負ふ武具

【胡爲】ナンスレゾ 疑問の語、なぜ、何故。

【胡枝花】コシクワ 萩の異名。

【胡蘿蔔】コラフク 野菜の一、にんじん。

（籙胡）

【胡蝶之夢】コチフノユメ 莊子が夢に胡蝶となつて彼我を忘れたりといふ寓言、夢の意味にも用ゐる。

【胡麻葉草】ゴマノハグサ 玄參科の多年生草本で高さは四五尺ばかり葉は淡綠色にして對生し其根は漢藥に供せられる

（草葉麻胡）

【胤●】【胤】漢呉 ㋑あとつぎ インたね、血統 ㋺つぐ、子孫が父祖の後を承けつぐ

天胤テンイン 皇胤クワウイン 祚胤ソイン 枝胤シイン

洪胤コウイン 苗胤ベイン 裔胤エイン 祖胤ソイン

後胤コウイン 帝胤テイイン 昭胤セウイン 賢胤ケンイン

【胄●】【胄】別字 漢 チウ 呉 ジユ ㋑あとゝり、よつぎ ㋺子孫、ちすぢ

【胄子】チウシ あとゝり、よつぎ。

【胄裔】チウエイ 後胤、子孫。

世胄セイチウ 華胄クワチウ 末胄バツチウ 胤胄インチウ

【胖●】漢呉 ハン ㋑半片のきりみ、肉 ㋺薄く大なる肉、あばらにく ㋩大なり、ゆたか

【胙●】漢 ソ サク 呉 ス ザク ㋑ひもろぎ、祭肉 ㋺むくゆ（報）

ハさいはひす（福）

【胛●】 漢 カフ　呉 ケフ　かひがらぼね、背の上部にあり鎖骨と上膊部とに接して關節をなす骨

【胝○】 漢 テイ　呉 タイ　漢呉 チ　あかぎれ　イたこロ

【胠○】 漢 キヨ　呉 コ　イひらく（遊）ロさる（去）ハ軍隊の右翼

【胥○】 漢 シヨ　呉 ソ　イともに（與）みな（皆）ロあひ（相）ハべし（須）ニみる（視）ホまつ（待）ヘ小役人ト詩句の助字

【胥吏】シヨリ　小吏、こやくにん。

【胆】 八五三頁の膽を見よ。

【脉】 八四七頁の脈を見よ。

【骨】 一一六三頁の骨を見よ。

六畫

【胸○】【胷】 漢 キヨウ　呉 ク　イむねロこゝろ

【胸中】キヨウチウ　心中、むねのうち。

【胸次】キヨウジ　胸中に同じ。

【胸宇】キヨウウ　前に同じ。

【胸腔】キヨウコウ　肋骨で圍む胸の内部。

【胸裡】キヨウリ　胸中に同じ。

【胸痛】キヨウツウ　胸のいたみ。

【胸膈】キヨウカク　胸と腹との間、又心中。

【胸算】キヨウサン　みつもり、むなざんよう。

【胸壁】キヨウヘキ　イむねほどの高さのかきね、胸牆ロ内臓に對し胸部の外壁の稱。

【胸臆】キヨウオク　イむね、こゝろロ思案又は推量。

【胸襟】キヨウキン　胸中に同じ。

【胸懷】キヨウクワイ　心中のものおもひ。

【胸算用】ムナザンヨウ　心中にてはかり考へる

【能●】【能】 漢 ドウ　ダイ　呉 ノウ　ナイ

イはたらき、事を成し得る力、又その人ロ爲し得る、よくすハよく、可く、得て等の意の助辭ニたふ（耐）ホのう、舞樂の一、能樂

【同訓異義】よく　能・克・善其他の用法は一〇七頁の克を見よ。

【能力】ノウリヨク　イ事を成し得る才能ロ完全に私權を行ひ得る資格ハ精神のはたらき

【能文】ノウブン　文章を巧みに作る。

【能吏】ノウリ　良吏、はたらきある役人。

【能事】ノウジ　なすべきわざ。

【能書】ノウシヨ　文字をたくみにかく、能筆。

【能率】ノウリツ　一定の内に仕事時間の結果を能ふかぎり有效に發揮する割合。

【能筆】ノウヒツ　能書に同じ。

【能樂】ノウガク　散樂の餘流にして諧曲に拍子を合せて行ふ歌舞。

【能辯】ノウベン　べんぜつが達者、又其人。

【能狂言】ノウキヤウゲン　能樂のあひだにおこなふ狂言。

「進んで働きかける。

【能動的】ノウドウテキ　他より支配されず自ら

【能舞臺】ノウブタイ　能樂を行ふ場所。

【能率增進】ノウリツゾウシン　出來る限り無用の費用と勞力を省き仕事の効果をあげる

多能タノウ　不能フノウ　殊能シユノウ　賢能ケンノウ

智能チノウ　才能サイノウ　吏能リノウ　無能ムノウ

【脂○】【脂】 漢呉 イあぶら、シ　肉のあぶらロあぶらを塗つて滑らかにすハべに（紅色の顔料）ニやに（樹木又煙草などから分泌する粘液）

【脂肪】シボウ　動物の體中のあぶら。

【脂粉】シフン　べにと白粉。

【脂澤】シタク　イ化粧あぶらロ光澤、つや。

【脂燭】シシヨク　古代の燈火、松を細く割いて油を塗つたもの。「い、女らしい。

【脂粉氣】シフンノキ　柔弱で豪爽の氣に乏し

口脂コウシ　膏脂シフ　丹脂タン　燕脂エンシ

【脅●】【脇】【脅】 漢 キフ　呉 ケフ　イわきわきばらロそば、傍らハおどす、おびやかすニ侵す、あだする

【脅迫】キフハク　おどしつける。

【脅威】キフキ　脅嚇に同じ。

【脅喝】キフカツ　次に同じ。

【脅嚇】キフカク　おどしつける、おどかす。

【脇●】【脇】【脇】 漢 ケフ　呉 キフ　コウ

【脇息】キフソク　座側に置いて臂をかけ體を支へる具、ひぢかけ。

【脇引】ワキビキ　甲冑の腋下に當てる武具革又は鐵にて作り兩肩よりさげて反對の腋下に當てるもの。

【脇楯】ワイダテ　鎧の一部、胴の右脇の隙間に當て塞ぐもの

（息　脇）

（楯　脇）

【脈●】【脈】【脈】 漢 バク　呉 ミヤク　イみやく、血のめぐるみちすぢ、物のすぢだつて續くものロすぢみち、つゞきハ血管の鼓動によりて病氣を察することニたえぬさま、續くさま

【脈絡】ミヤクラク　條理、すぢみち。

【脈搏】ミヤクハク　みやく、みやくがうつ。

注意 脈膊と書くは誤り。

【脈鈴】ミヤクレイ　釣絲のうきに附けた鈴。

【脈管】ミヤククワン　體内にて血の通ふくだ。

筋脈キンミヤク　山脈サンミヤク　地脈チミヤク

水脈スイミヤク　色脈シキミヤク　平脈ヘイミヤク　靜脈ジヤウミヤク

動脈ドウミヤク　道脈ダウミヤク　礦脈クワウミヤク　支脈シミヤク

【脊●】【背】【脊】 漢 セキ　呉 シヤク

イせ、せぼねロせぼねの如く中央高く兩旁の低きものハ筋道、筋

【脊柱】セキチウ　せぼね、せすぢ。

【脊骨】セキコツ　せぼね、脊柱。

【脊髓】セキヤウ　せすぢ、せぼね。

【脊髓】セキズイ　脊椎骨の方に突起する部分中にあり腦に連絡する神經中樞。

【脊丈】セダケ　せいの高さ、身長。

【脊黑五位】セグロゴキ　背部は一面に黑色下面は殆ど純白色

（脊黑五位）

で普通に五位鷺といへば即ちこれを指すのである、日中は林藪などに棲居し日沒後水田・池沼に至つて食を求める、五位鷺の一。

【胯●】【跨】 漢 コ　呉 ク　また、股間

【胯下】コカ　またぐら。

【胱○】 漢 クワウ　呉 ワウ　膀胱は小便ぶくろ

【胴●】 漢 トウ　呉 ヅ　イだいちやう（大腸）ロどう（からだの幹部）轉じて鎧又は擊劍道具にて人の胴體にあてるおほひハ凡て物の中腹の部分、又樂器の本體を成す中空の部分

【胴丸】ドウマル　胴を丸く竹筒の如くつくり著用に便利であつた昔の鎧。

【胴著】ドウギ　上衣としやつとの間にきる短き衣

（丸　胴）

【胾●】 漢呉 シ　しゝむら、切肉

【脆●】【脆本】 漢 ゼイ　呉 セ　慣用音 ゼイ

注意 きと讀むは誤り イもろしロやはらか（柔）ハ柔かにして美味なる肉

【脆味】ゼイミ　口ざわりの柔かなうまい味。
【脆美】ゼイビ　肉がやはらかくてうまい。
【脆弱】ゼイジャク　器物などがもろくてよわいことにも又人の弱いことにもいふ。
【脆軟】ゼイナン　やはらか、柔軟。
【脆薄】ゼイハク　㋑うすくしてこはれ易し㋺人心の輕浮なること。

【胼】八五〇頁の胼を見よ。

【腴】八五二頁の腴を見よ。

【朔】五〇六頁の朔を見よ。

【朕】五〇七頁の朕を見よ。

七畫

【脚・脚正字】【脚俗字】漢キャク　呉カク　㋑あし（脛）物の下部㋺足が有つて歩く如く見えるもの、足に似たる部分㋩たちば、地位
【脚下】キャクカ　あしもと、轉じて現今。
【脚力】キャクリョク　㋑あるくちから㋺脚夫。
【脚本】キャクホン　芝居狂言の仕組の臺本。
【脚夫】キャクフ　手紙等を配達する人夫。
【脚疾】キャクシツ　足のはれる風土病。
【脚色】キャクショク　㋑仕官の時出す履歴書㋺芝居狂言のしくみ、物事の構造。
【脚絆】キャハン　はゞき、行纏。「文の註解。
【脚註】キャクチウ　書物の下に書き加へた本
【脚燈】キャクトウ　舞臺等にて下の方からとつた燈、フットライト。
【脚氣】カクケ　足のはれる病氣。
醉脚スキヤク　失脚シツキヤク　老脚ラウキヤク　長脚チヤウキヤク
健脚ケンキヤク　雨脚ウキヤク　赤脚セキキヤク　山脚サンキヤク
日脚ニツキヤク　行脚アンギヤク　馬脚バキヤク　雲脚ウンキヤク

【脩○】【修別字】【脩俗字】漢シウ　呉シユ　㋑乾した肉、ほじゝ㋺（脯）かわかす、かわく㋩ながし、ながさ（長）㋥をさまる、をさむ（修）㋭儀式行事等を執り行ふこと
【脩竹】シウチク　ながい竹。
【脩路】シウロ　遠き道。
【脩遠】シウエン　道のとほきこと。

【脫・脫】漢タツ　タイ　エツ　呉ダチ　エチ　エ　慣用音ダツ　㋑ぬぐ、はづす、ぬく、はづれる㋺ぬけだす、のがれる㋩おとす、のこる、ぬける㋥木の葉などが落ちる㋭疎略にする、はぶく㋬もし（若）㋮悦ぶ貌、一說にそろ〳〵と行く貌
【同訓異義】ぬく　脫・擢・挺其他の用法は四五三頁の擢を見よ。
【脫刀】ダツタウ　刀を腰よりとりはづす。
【脫化】ダツクワ　もぬけて形をかへること。
【脫毛】ダツマウ　ぬけゞ、毛のぬけること。
【脫出】ダツシユツ　ぬけだす、のがれ出る。
【脫去】ダツキヨ　㋑にげる、のがれさる㋺ぬきすてる、ぬきさる。「ぬること。
【脫文】ダツブン　文章の一部分が抜け落ちて
【脫字】ダツジ　文字を書きおとす、又其文字
【脫白】ダツキウ　骨のはづれること。「病氣。
【脫肛】ダツコウ　肛門内の筋肉が外部へ出る
【脫走】ダツソウ　にげだす、のがれはしる。
【脫兎】ダツト　にげ去る兎、又その如く迅速なる行動に喩へる語。
【脫卻】ダツキヤク　ぬぎすてる。「はなれる。
【脫俗】ダツゾク　㋑凡人にすぐれる㋺世俗を形式を變更すること。
【脫胎】ダツタイ　手足の端が腐る病氣。
【脫疽】ダツソ　逃れ退く、ひきさがる。
【脫退】ダツタイ　㋑のぞきはぶく㋺かまはぬ、おろそかにする。
【脫略】ダツリヤク
【脫船】ダツセン　船員が船より遁げ去る。
【脫稅】ダツゼイ　ごまかして租稅を納めぬ。
【脫落】ダツラク　㋑ぬぎすてる、すてさる㋺

ぬけおちる。「かぶりものをぬぐ。
【脫帽】ダツバウ　㋑帽子を取つて禮をする㋺
【脫獄】ダツゴク　破獄、牢を破つてにげる。
【脫漏】ダツロウ　おちる、もれる、遺漏。
【脫監】ダツカン　脫獄に同じ。「ること。
【脫稿】ダツカウ　詩文の下書が全く出來上が
【脫線】ダツセン　㋑汽車電車等が線路をはづれること㋺言行が常規を逸すること。
【脫營】ダツエイ　軍人が其兵營から逃出す。
【脫離】ダツリ　はづれる、ぬけはなれる。
【脫黨】ダツタウ　所屬の仲間をぬけ出る。
【脫灑】ダツサイ　俗氣を離れてさつぱりする
【脫脂綿】ダツシメン　あぶら氣をぬいた消毒綿
頸脫ダツ　免脫メンダツ　解脫カイダツ
疎脫ソダツ　度脫ドダツ　遺脫イダツ
輕脫ケイダツ　傾脫ケイダツ　通脫ツウダツ　簡脫カンダツ
高脫カウダツ　超脫テウダツ　剝脫ハクダツ　濟脫サイダツ
詭脫キダツ　活脫クワツダツ

【脛・脛】漢ケイ　呉ギヤウ　㋑はぎ、すね㋺なほし（直）㋩あゆむ
【脛巾】ケイキン　きやはん、はゞき。

【脣○】【唇別字】漢シン　呉ジン　注意唇は全然別字なるも今は一般に脣の俗字として用ひらる㋑くちびる、口のふち㋺くちびるの形せるもの
【脣頭】シントウ　口さき、くちびるのさき。
【脣齒】シンシ　くちびると齒、關係の最もふかきにいふ。
【脣形科】シンケイクワ　植物分類部門の一にて花冠がくちびるのかたちをなす草木。
【脣齒輔車】シンシホシヤ　輔は頰骨、車は齒牙の下骨、脣齒と共に皆密接なる意。

【脯・脯】漢ホ　呉フ　㋑ほした肉、ほじゝ㋺酷刑に處す

【朗】五〇七頁の朗を見よ。

【豚】九八五頁の豚を見よ。

八畫

【腎・腎】漢シン　呉ジン　㋑五臟の一、むらと㋺かなめ、主要
【腎虛】ジンキヨ　精氣盡きて身體の弱る病氣
【腎臟】ジンザウ　脊柱の兩側にあり腹の背部に位置する一對の平たい蠶豆形の腺から成る器官で尿を分泌するもの。

【腐・腐】漢フ　呉ボ　㋑くさる、たゞれる㋺ふるくして役にたゝぬ㋩くさらす㋥男子去勢の刑罰　或事物につき心を苦しめる
【腐心】フシン　くされくちる。
【腐朽】フキウ　くされくづれる。
【腐敗】フハイ　役にたゝぬ學者。
【腐儒】フジユ　腐れたゞれる。
【腐爛】フラン

【腕・腕】漢呉　㋑うで、てくび、ひぢ（肘）かひな㋺うでまへ、はたらき
【腕白】ワンパク　小兒のいたづら。
【腕力】ワンリヨク　腕の力、ちからづく。
【腕車】ワンシヤ　人車、人力車。
【腕時計】ウデドケイ　腕にはめる時計。
手腕シユワン　弱腕ジヤク　懸腕ケン　玉腕ギヨクワン
敏腕ビンワン　辣腕ラツワン　怪腕クワイワン

【脹・脹】漢呉　ふくる、ふとる、大きくなる
【脹滿】チヤウマン　腹のふくれるやまひ。

【脾○】【脾俗字】漢ヒ　呉ビ　五臟の一、脾臟
【脾肉】ヒニク　もゝの肉。「小兒病。
【脾疳】ヒカン　體が痩せて腹のみふくれる
【脾肉嘆】ヒニクタン　打ち續く太平に軍人が事あれかしと待焦れるさま。

【腆・腆】漢呉　㋑よし（善）㋺あつし（厚）酒色を多く出す㋩

いたる（至）

【同訓異義】あつし　膿・厚・篤其他の用法は一七二頁の厚を見よ。

【胼●胝】漢 ヘン 注意 へいと讀む 呉 ベン は誤り。手足に生ずるあかぎれ又たこ

【腊●】漢 セキ 呉 シャク ㋑ほじゝ、乾肉 ㋺ 干物

【腋●】漢 エキ 呉 ヤク わき、わきの下、又 その所の皮

【腋汗】エキカン わきの下に汗を流すこと。

【腋臭】エキシウ 次に同じ。

【腋氣】エキキ わきが。

【腑●】漢 フ ㋑はらわた ㋺裏心、心 呉 ボ の底 ㋩極めて親きもの

肺腑ハイフ　臟腑ザウフ　濁腑ダクフ　襟腑キンフ

【胼◐】漢 ヒ ㋑こむら、ふくらはぎ 呉 ビ ㋺つかれる、やむ（病）

㋩よけろ、さく（避）

【胼骨】ヒコツ 脛骨の後にある骨。

【腔○】漢 カウ ㋑内部の空なること 呉 コウ と、中空 ㋺歌調

【勝】一五一頁の勝を見よ。

【朝】五〇八頁の朝を見よ。

【期】五〇八頁の期を見よ。

【朞】五〇九頁の朞を見よ。

九畫

【腦●】【𦝫】漢 ダウ 呉 ノウ 慣用音 ナウ

㋑頭のしん、なうみそ ㋺あたま、頭臚 ㋩辨別力、記憶力、精神のはたらき、精力、智力。

【腦力】ナウリヨク 腦のはたらき、智力。

【腦天】ナウテン てつぺん、いただき。

【腦裡】ナウリ 心のうち、腦裏。

【腦病】ナウビヤウ なうのやまひ。

【腦漿】ナウシヤウ ㋑なうみそ ㋺ちゑ。

【腦髓】ナウズヰ 頭蓋腔内にある腦の本體。

【腦出血】ナウシユツケツ 腦溢血に同じ。「氣。

【腦充血】ナウジユウケツ 腦に血の鬱結する病

【腦神經】ナウシンケイ 大腦の底面及延髓より發する運動及知覺神經にて十二對あり

【腦貧血】ナウヒンケツ 腦の血液の不足する病

【腦溢血】ナウイツケツ 腦中の血管が破裂する病氣、卒中、腦出血。

【腦震蕩】ナウシンタウ 打撃等により腦が震動し知覺の亂れること。

【腦膜炎】ナウマクエン 腦の薄皮の傷む病氣。

【腫●】【種】漢 ショウ 呉 シュ ㋑むくみ、はれ、できもの ㋺はれる、むくむ

【腫物】シユモツ 次に同じ。

【腫瘍】ショウヤウ できもの、はれもの、腫物

【腰○】【𦝫】漢 呉 ヨウ ㋑こし、腹部と臀部との間 ㋺要害の土地、又山の麓に近い部分 ㋩こしにさす二國訓こし（刀を數へる語）

【腰刀】エウタウ こしがたな、佩刀。

【腰帶】エウタイ ㋑革の大帶 ㋺骨盤の別名。

【腰圍】エウヰ こしの太さ、腰のまはり。

【腰骨】エウコツ 腰のほね。

【腰間】エウカン 帶の當る所、こしぎは。

【腰劍】エウケン 腰に劍を帶びる又その劍。

【腰輿】エウヨ 前後數人して腰の邊までつるしかゝげて行く輿。貴人などの乘るもの、四方に簾を垂る。

（腰輿）

【腰繩】エウジヨウ 罪人をつなぐこしなは。

【腰辨】コシベン 辨當携帶にて出勤する意、轉じて薄給の勤め人のこと。

【腰卷】コシマキ ㋑昔時、婦人の着用せし一種の服、もと宮中の下仕の女が、夏期に小袖の上に打ちかけて肩を脱ぎ腰に卷きつけしもの、武家にては、上臈女房の衆が表立ちたる時に着用した ㋺腰より足に掛けて纏ふ布、ゆもじ。

（腰卷）

【腰巾著】コシギンチヤク 腰につける巾著、轉じて或者と常に行動を共にする人。

【腸○】【腸俗字】【𦝫】漢 チヤウ 呉 ヂヤウ ㋑わた、はらわた ㋺こゝろ（心）

【腸胃】チヤウヰ 胃腸、はらわたと胃袋。

【腸加答兒】チヤウカタル 腸のたゞれ痛む病。

【腸窒扶斯】チヤウチブス 腸の傷む傳染病。

空腸クウチヤウ　心腸シンチヤウ　腎腸ジンチヤウ　斷腸ダンチヤウ

剛腸ガウチヤウ　鐵腸テツチヤウ　冷腸レイチヤウ　腐腸フチヤウ

愁腸シウチヤウ　枯腸コチヤウ　饑腸キチヤウ　石腸セキチヤウ

【腹●】【復】漢 フク 呉 ホク ㋑はら、おなか ㋺こゝろ、心中、又度量、膽力 ㋩氣の合つてゐること ㋥やどつた胎内、生んだ母體 ㋭前方、まへ ㋬すべて腹の形したもの ㋮かゝへる、いだく

【腹心】フクシン ㋑非常に親しい ㋺心を同じうし頼みとなる ㋩衷心、まことの心。

【腹中】フクチユウ 腹の中。

【腹背】フクハイ ㋑はらとせなか ㋺極めて親しきもの ㋩まへとうしろ。

【腹腔】フクカウ 腹部の臟器のあるうろ。

【腹案】フクアン 心中のみこみ。

【腹痛】フクツウ はらいたい、はらいたみ。

【腹稿】フクカウ 文章などを書く前に豫め腹の中で大體をつくり上げる、腹案。

【腹壁】フクヘキ 腹腔の側壁。

【腹膜】フクマク 腹腔内の臟器を支へる薄皮

【腹藏】フクザウ 心の底に隱しおくこと。

【腹卷】ハラマキ ㋑鎧の一種 ㋺腹に卷く布帛

【腹當】ハラアテ ㋑板目革を綴つて作り腹を包み脊で合はす具足 ㋺はらまき、はらかけ。

（腹當）

【腹足類】フクソクルヰ 軟體動物の分類の稱。

【腹膜炎】フクマクエン 腹膜に炎症を起す病。

【腹誹法】フクヒノハフ 口に出さずとも心中にてそしる時は罰するといふ法律。

【腹筒便】フクシヘンベン 多くの書物にあることを記憶しておくこと。

空腹クウフク　胸腹キヨウフク　山腹サンフク　寛腹クワンフク

豐腹ホウフク　半腹ハンフク　心腹シンフク　鼓腹コフク

屠腹トフク　便腹ベンフク　同腹ドウフク　遺腹イフク

背腹ハイフク　異腹イフク　口腹コウフク　妾腹セフフク

坦腹タンフク　割腹カツフク　滿腹マンフク

【腺】センの國字　分泌作用を營む體内の器官

【腺病】センビヤウ 腺の腫脹する一種の小兒の病。

【腺病質】センビヤウシツ 天性弱くして腺病の「素因を有する體質。

【腟●】漢 呉 チツ ㋑肉ができる ㋺女子生殖器の一（陰門より子宮に至る道）

【腥●】漢 セイ 呉 シヤウ ㋑なまのにく、生肉 ㋺なまぐさし、又其物 ㋩けがらはし、けがる

【腥血】セイケツ なまぐさき血、なまち。

【腥臭】セイシウ なまぐさきにほひ。

【腥聞】セイブン 不品行のうはさ。

【腥風】セイフウ なまぐさき風、殺伐の氣。

【腥膻】セイセン なまぐさき獸類、又其を食ふ賤人、昔外國人を罵りていひし語。

【腱◐】漢 ケン 呉 ゴン すぢ（筋）又筋の大きなもの、筋のつけね、一説に筋の先

【腴●】【腴俗字】漢呉 ㋑こえる ㋺（肥）又その肉㋺土地が肥えてゐる、又その土地㋩物事の美しくよき部分

【膃】この頁の膃を見よ。

【膀】一一九八頁の膀を見よ。

【膘】一一四一頁の膘を見よ。

【膿】八四八頁の膿を見よ。

【膣】二三九頁の膣を見よ。

【膝】二七九頁の膝を見よ。

十畫

【膏●】【膏】漢カウ ㋑あぶら 呉コウ ㋺こえる（肥）ふとる、又地味がよい㋩こえた肉、こえた土地㋥うるほひ、めぐみ㋭胸内の下部へあぶらのねりやく㋠くちべに㋡めぐむ、うるほす㋢あぶらを塗つて滑かにす、あぶらさす

【膏血】カウケツ あぶらとちしほ、人の努力又は身心を苦しめて得たる利益。

【膏肓】カウクワウ 身體中に病氣が入ると容易に平癒せぬといふ部分、物事に耽溺して容易に改めき難に喩へていふ 注意 膏肓と書き又かうもうと讀むは誤り。

【膏油】カウユ あぶら（膏は動物性の油）。

【膏味】カウミ うまきあぢ、美味。

【膏雨】カウウ 植物をうるほすよきあめ。

【膏腴】カウユ 地味がこえて穀物が能くみのる（疫）

【膏藥】カウヤク あぶらでねつた藥。「のる

肌膏キカウ 豐膏ホウカウ 殘膏ザンカウ 華膏クワカウ

腴膏ユカウ 沸膏フツカウ 素膏ソカウ 蘭膏ランカウ

【腿●】漢タイ 呉テ 脛と股の總稱

【膀○】漢ハウ 呉バウ 膀胱は小便ぶくろ

【膂●】【膂】漢リョ ㋑せなかの骨、せぼ ㋺ちから、筋肉の力

【膂力】リョリョク ちから、體力。

【膃●】【膃俗字】漢ヲツ 呉ラチ 膃肭獸は北海の寒流に棲む海獸の名其皮は被服の料に用ひらる

（膃肭獸）

【膊●】漢シウ 呉シュ 慣用音ソウ やす、やせる（疫）

【膈●】漢カク 呉キャク ㋑胸と脾との間 ㋺鑛をつるす木

【膈膜】カクマク 胸と腹との間の薄き膜。

【膊●】漢呉 ㋑薄くきつた乾肉、ほハク じゝ ㋺上肢、て㋩罪人をはりつけにす、又さらす㋥擘の形容

十一畫

【膚○】【膚】漢呉 ㋑はだ、はだへ ㋺うはつら、表面㋩四本の指をならべた長さ㋥うるはし（美）㋭おほいなり（大）へうはつらのみにて奥底が無い、あさい

【膚肌】フキ はだへ、肌膚。

【膚見】フケン 皮相の見、あさはかな見識。

【膚敏】フビン 人物が立派で賢きこと。

【膚理】フリ はだのきめ、肌理。

【膚淺】フセン 議論などのあさはかなこと

肌膚キフ 樹膚ジフ 素膚ソフ

豐膚ホウフ 氷膚ヒヨウフ 皮膚ヒフ 劣膚ハウフ

青膚セイフ 髮膚ハツフ 玉膚ギヨクフ 體膚タイフ

【膜●】【膜】漢バク ボ 呉マク ム ㋑まく（動植物の體内の器官を包む薄皮）膜の如く物をおほふ薄きもの㋺兩手をあげ地に伏して拜す「等の類。

【膜翅類】マクシルキ 昆蟲類の一部類、蜂・蟻

【膝●】【膝誤字】【㕓】漢シツ 呉シチ 「父母のそば。

【膝下】シツカ ㋑子が父母に對する尊稱㋺ひざ

【膝行】シツカウ ゐざり進むこと。

【膝甲】ハイダチ 甲冑の下につけて股と膝とを被ふ者、ひざよろひ。

（甲膝）

牛膝ギウ 立膝リツ 抱膝ハウ 屈膝クツ

前膝ゼン 容膝ヨウ 接膝セツ 造膝ゾウ

傾膝ケイ 端膝タン 慈膝ジ 蔽膝ヘイ

【膠○】漢カウ 呉ケウ ㋑にかは、にかはす ㋺にかはで接ぐ、にかたし（固）㋩つく（附著）㋥なかゞよくて離れぬ譬㋭やはらぐさまへ動くさまもとる、まがる㋠周代の學校

【膠版】カウハン こんにやくばん。

【膠著】カウチヤク 堅くしつくりと附く。

【膠質】カウシツ 膠性のやはらかき塊。

【膠漆】カウシツ にかはとうるし、轉じて人の相親しむ意。

【膠】八五一頁の膠を見よ。

【膣】八五一頁の膣を見よ。

【膝】六一六頁の膝を見よ。

十二畫

【膳●】【膳】漢セン 呉ゼン ㋑備へ供する食物㋩料理した供食をのせる臺、ぜん、又飲食物㋥飯、食事㋭茶碗に盛つた飯を數へる語へ箸一對の稱

【膳部】ゼンブ ㋑料理人㋺料理した食物㋩宮廷の料理を掌る古代の官名。「い食物

【膳羞】ゼンシウ ㋑膳部、食物㋺牲肉とうま

御膳ゴゼン 玉膳ギヨクゼン 珍膳チンゼン 患膳クワンゼン

供膳キヨウゼン 常膳ジヤウゼン 徹膳テツゼン 食膳シヨクゼン

【膨●】漢ハウ 呉ビヤウ 慣用音バウ

【膨大】バウダイ ふくれて大きくなる。

【膨脹】バウチヤウ ふとる、ふくれる 注意 膨張と書くは誤り。

【膩●】漢ヂ ㋑あぶら、あぶらあかあぶらぎる、あぶらが多い㋩なめらか（滑）

【膩脂】ジシ あぶら。

【膰○】漢ハン 呉ベン 肉

【膵●】漢フブ 呉ホム ㋑土地のこえた貌㋺ほじゝ、骨のなき乾肉㋩のり（法）

【膳然】ブゼン こえてゐるさま。

【膳】國字 消化器官の一、膳臟スキ

【膳臟】スキザウ 胃の後下部にある長扁形の舌狀をなす内臟の消化腺で膵液を分泌して十二指腸に注ぎ入れる。

（膳臟）

【膝】八一一頁の膝を見よ。

【膽】一一九八頁の膽を見よ。

十三畫

【膽●】【膽俗字】【膽】漢タン 呉トン ㋑六腑の一、きも ㋺こゝろ、きもだま ㋩ふきとる、ぬぐふ

【膽力】タンリヨク ものに臆せぬ勇氣。

【膽汁】タンジフ 膽より出る消化液。

【膽勇】タンユウ 次に同じ。

【膽氣】タンキ 膽勇、きもだま。

肉部（十三—十五畫）　膸・膚・膿・膾・膿・臀・臂・臂・臉・臉・臉

るべき豪傑に喩へる語。

【臥薪嘗膽】ガシンショウタン　復讐の爲に艱難辛苦する意。

安臥アンガ　仰臥ギヤウガ　横臥ワウガ　醉臥スイガ

五畫

【堅】　二三六頁の堅を見よ。

七畫

【竪】　七六八頁の竪を見よ。

八畫

【臧①】　漢　サウ　イよし（善）ロまひ　呉　ザウ　なひ、賄賂ハかくす をさむ、かくるニしもべ（奴僕）ホはら わた（臓）ヘくら（蔵）

【同訓異義】よし　臧・善・好其他の用法は二〇六頁の善を見よ。

【臧否】ザウヒ　よしあし、善惡、又善惡の「批判。

【臧穀】ザウコク　次に同じ。

【臧獲】ザウクワク　男の召使と女の召使ひ。

【緊】　八〇六頁の緊を見よ。

九畫

【豎】　九八四頁の豎を見よ。

【頤】　一一三九頁の頤を見よ。

十一畫

【臨①】【隊】　漢　リン　呉　イのぞむ、の者に對す、尊き者が卑しき者の所に行く、又其敬語、其場所に出るロとりしまる、をさめるハいくさ車ニ易の卦の名ホ葬式の時衆人が哭き悲しむ

【同訓異義】のぞむ　臨・望・涖其他の用法は五〇七頁の望を見よ。

【臨月】リンゲツ　うみづき、產をするつき。

【臨本】リンボン　習字圖畫などの手本。

【臨池】リンチ　後漢の張芝が池に臨みて書を習ひし時池水が盡く黑くなつたといふ故事、轉じてならひの意に用ふ。

【臨命】リンメイ　臨終に同じ。

【臨幸】リンコウ　天子のおなり、行幸。

【臨界】リンカイ　きは、さかひ。

【臨席】リンセキ　其席にいたること。

【臨哭】リンコク　葬式に列して泣くこと。

【臨時】リンジ　イ一時の間に合せロ不意の必要又は一時的ハ其時になりかゝる意

【臨御】リンギヨ　イ天子の臨幸ロ君臨して天下を治めること。

【臨終】リンジユウ　いまは、しにぎは、末期。

【臨摸】リンボ　手本を見てかく、臨寫。

【臨照】リンセウ　上にあつて下を照らす。

【臨淵】リンエン　イふちにのぞむロ極めて危きことの喩にいふ。

【臨機】リンキ　時のはづみ。

【臨寫】リンシヤ　手本をみてかく。

【臨場】リンジヤウ　其場所に出ること。

【臨視】リンシ　その場に出てよく見る。

【臨瞰】リンカン　高所よりみおろす。

【臨檢】リンケン　その場に至りて取調べ檢査する、又取調べられること。

【臨時費】リンジヒ　不時に入用なる資金。

【臨濟宗】リンザイシユウ　禪宗の一派。

【臨時大祭】リンジタイサイ　定期以外必要に應じて行ふ大祭。

【臨時議會】リンジギクワイ　定時以外に緊急の必要の爲め臨時に召集せられる議會。

【臨戰地境】リンセンチキヤウ　戒嚴令により戰時若くは事變に際し警戒すべき地域。

【臨機應變】リンキオウヘン　機に臨み變に應ず、時と事柄によつて適宜に取はからふ。

俯臨フリン　照臨セウリン　登臨トウリン　至臨シリン

親臨シリン　慈臨ジリン　弔臨チウリン　光臨クワウリン。

十八畫

【鹽】　一一八五頁の鹽を見よ。

自部

【自①】【自②】　漢　シ　イおのづから　呉　ジ　ら、おのづと、天然にロみづから、おのれ、じぶんで、われとハより、からニ至と受けて「何々から何々まで」の意に用ゐるホよりすべ何々からはじまるトよりはチ從ふ、よるリ由來する、もとづく

【同訓異義】より

【仍】　は下地のある上へかさなる義。

【因】　は此原因によりて此結果を生ず

【由】　はその意從に略ぼ同じ。「る意。

【從】　は甲の事實が主となりて夫れよりの事實の從ひ起ることを示す語

【緣】　はより沿ふ義。

【自】　はからの意。

【道】　はよるの意。

【同訓異義】みづから

【自】　は人の指揮をまたず自分での意

【親】　は心身にしてしたしくする義。

【躬】　は我が身につけてする義。

【自大】ジダイ　たかぶる、尊大にかまへる

【自力】ジリヨク　自分のちから。

【自刃】ジジン　刃物にて自殺する。

【自己】ジコ　おのれ、われ、自分。

【自今】ジコン　いまから、今後。

【自火】ジクワ　自分の家から出した火事。

【自分】ジブン　おのれ、われ、自己。

【自主】ジシユ　獨立すること。

【自他】ジタ　自分と他人。

【自生】ジセイ　自然に生える。

【自用】ジヨウ　イ自分の用に使ふロ自己の才能をほこり人の言を容れぬこと。

【自由】ジイウ　イ思ひのまゝにして他の制裁を受けぬことロ法律の保護する範圍內にて他人の制限若くは官廳の干涉を受けず自分の意思に依つて行動し得る狀態、法律の規定に依り各人が行爲を爲し得る範圍。

【自白】ジハク　イ被告人が裁判官に向ひ自ら犯人なることを承認すること ロ相手方の主張する訴訟上の事實にて自己に不利なものを認めること。

【自失】ジシツ　氣ぬけ、ぼんやりすること。

【自立】ジリツ　ひとりだち、獨立。

【自在】ジザイ　思ふまゝ、心のまゝ。

【自刎】ジフン　自分の首をはねて死ぬ。

【自任】ジニン　イ自分で自分の力を信ずるロ自分に其事を引受ける。

【自如】ジジヨ　平氣、泰然自若たるさま。

【自作】ジサク　イみづから求め招くロ自力にてつくる。「力にて事をする。

【自助】ジジヨ　イ自分のたすけとするロ自

【自卑】ジヒ　自から自己の身をしめる、自

【自屈】ジクツ　自らくつする。「分の謙稱。

【自序】ジジヨ　自著の書物に自分がはしがきをすること、又その文章。「觀念。

【自我】ジガ　個人が自ら意識する「自己」の

【自身】ジシン　自分、わがみ。

【自知】ジチ　自分が自分の價値を知ること

【自明】ジメイ　證明せずと明らかなこと。

【自治】ジチ　イ自ら我事を處置すること ロ自然にをさまるハ自治體が行政事務を自己の機關に依りて施行すること。

【自炊】ジスイ　自ら飯たき等の炊事をする

【自信】ジシン　イ自ら自分を信ずること ロ自分の才力をたのむこと。

【自矜】ジキヨウ　自ら自己の長所をほこる。

【自活】ジクワツ　自力にて生活すること。

【自省】ジシヤウ　我が行爲を自ら反省すること

【自若】ジジヤク　自如に同じ。

【自重】ジチヨウ　イ自ら人格を尊びて恥づべきことをせぬロ自ら我身を大切にする

【自負】ジフ　自らわが才能を信じほこる。

【自恣】ジシ　わがまゝなること。

【自首】ジシュ　犯人が未だ發覺せざる罪を搜査官に申告す、名乘り出て罪を待つ。
【自修】ジシウ　みづから其學德をゝさめる
【自律】ジリツ　自分で自分を抑へ制す。
【自記】ジキ　㋑自動作用にて文字符號等をしるすこと㋺手づから書きしるす。
【自家】ジカ　自分の家、又自分。
【自書】ジショ　自筆に同じ。「と、二乘。
【自乘】ジジャウ　同じ數を二度かけ合せること
【自害】ジガイ　自ら我身を殺すこと。
【自得】ジトク　㋑自ら得意になりて滿足すること㋺自らさとる。「て世に出ない。
【自晦】ジクワイ　わざと自己の才能をかくし
【自國】ジコク　おのれのくに、自分のくに。
【自殺】ジサツ　自害に同じ。
【自財】ジザイ　自ら己れの生命をたつこと
【自尊】ジソン　㋑自重して自分の品位を落さぬ㋺自ら自分をたつとび高める。
【自給】ジキフ　自分で生活の道をたてる。
【自裁】ジサイ　自害又は自財に同じ。
【自筆】ジヒツ　手づから書く、又其書。
【自訴】ジソ　自首して罪を白狀すること。
【自動】ジドウ　物それ自身がはたらく、自分で動く注意自働と書くは誤り。
【自經】ジケイ　自ら首をくゝつて死ぬ。
【自認】ジニン　自らうなづきみとめる、自分で然りと承知する。
【自費】ジヒ　自分より出す費用。
【自然】シゼン　㋑おのづから、ひとりでに㋺人爲を加へぬこと㋩山川の景色㋥人類以外の自然物及び自然力。
【自愛】ジアイ　㋑自分の身を大切にする㋺自分の利をのみ計る。
【自傳】ジデン　自ら書きし自分の傳記。
【自滅】ジメツ　自らほろびること。
【自署】ジショ　自ら姓名を記す。
【自稱】ジショウ　自らとなへる、又其となへ。
【自嘲】ジチウ　自ら自分をあざける。
【自慢】ジマン　自らほこること。
【自盡】ジジン　自害に同じ。
【自彊】ジキョウ　自からつとめて善をなすこと注意自疆と書くは誤り。
【自縛】ジバク　自ら我身をしばる。
【自製】ジセイ　自分でつくる、又其物品。
【自說】ジセツ　自分の主張する說。
【自衛】ジエイ　㋑自力にて自分の安全を計る㋺國家の保護に依らず自己の力を以て侵害を防衛する。「まにくらす。
【自適】ジテキ　我心にかなふ、又我思ふま
【自選】ジセン　自ら自分を選擧すること。
【自辨】ジベン　自分の金にて費用を支拂ふ
【自餘】ジヨ　このほか、そのほか。

【自轉】ジテン　㋑諸遊星が自身にて回轉すること㋺自らぐる〳〵とまはる。
【自營】ジエイ　自ら業務をいとなむ。
【自贊】ジサン　㋑自分で自分をほめる㋺自ら自分の讚辭を書く、又その讚辭。
【自覺】ジカク　㋑自己の位置又は價値を知ること㋺自我をみとめること。
【自持】ミヅカラヂ　自己の節操を固く守る。
【自處】ミヅカラショス　我事を自分で處置する
【自欺】ミヅカラアザムク　良心と異なる言行をなすこと。「刑罰、懲役・禁錮・拘留。
【自由刑】ジイウケイ　身體の自由を束縛する
【自由港】ジイウカウ　各國の船舶が關稅を拂はずして自由に出入し得る港。
【自治體】ジヂタイ　市町村等の如く自治行政を行ふ團體。
【自由畫】ジイウグワ　手本によらず見たまゝ感じたまゝを表現する子供の畫。
【自全計】ジゼンノハカリゴト　自己を安全に支持する方法。「へる力。
【自制力】ジセイリョク　自ら自己の欲望をおさ
【自治制】ジチセイ　自治團體の組織又其制度
【自在鈎】ジザイカギ　爐又は竈の上に吊して自在に上下する裝置の鈎。

（自在鈎）

【自家用】ジカヨウ　自分の家だけで使用する
【自然人】シゼンジン　法人に對して通常の人をいふ、生れながらの人間の意。
【自然生】シゼンセイ　㋑やまのいも㋺草木などのひとりでにはえたるもの。
【自動詞】ジドウシ　文法上の動詞中動作を他の事物に及ぼさぬ動詞。
【自動車】ジドウシャ　無軌道の所を電力又はガソリンの力にて走る車。

（自動車）

【自敍傳】ジジョデン　自ら自分の言行をのべし文章
【自轉車】ジテンシャ　足力て車輪を回轉せしめて走る車。「自分ではたらきかける。
【自發的】ジハツテキ　他より動かされずして
【自然教】シゼンケウ　自然をそのまゝ神として崇拜する宗教。
【自然薯】ジネンジョ　やまいも。
【自警團】ジケイダン　町内の火災其他の災害を防ぐ爲め自發的に組織したる團體。
【自墮落】ジダラク　ふしだら、ぶさはふ。
【自己表現】ジコヘウゲン　作品の上に個性を率直に現はすこと。「る。
【自己教育】ジコケウイク　自分で自分を教育す
【自立自營】ジリツジエイ　獨立自營、自分の力で生活をたてる。
【自由研究】ジイウケンキウ　從來の傳說教義の束縛等をはなれて獨立にて研究する。
【自由主義】ジイウシュギ　個人的には行爲の自由、社會的には言論の自由を尊びて改良・發展を企つる主義。
【自由貿易】ジイウボウエキ　何等課稅等の制限干渉を加へざる外國貿易政策。
【自由討議】ジイウタウギ　自由に論議研究して他からの約束を受けない。
【自由講座】ジイウカウザ　講義者が特殊の題目を設けず隨時隨所に連續講義をなす組織で聽講者も男女年齡を問はず自由に之を聽くことが出來る講演風の講義。
【自由營業】ジイウエイゲフ　官廳の特別の許可を受けることなく自由に開き得る事業
【自由戀愛】ジイウレンアイ　從來の習慣や法律によらず自由に配偶者を選びあふ。
【自由自在】ジイウジザイ　心の儘又思ひの儘。
【自由意志】ジイウイシ　㋑社會の習慣等にとらはれず人間の有する本來の意志を尊重せんとする心㋺我まゝ勝手。
【自由結婚】ジイウケッコン　兩親の干渉・因襲的の形式・法律上の手續等を除去し戀愛を基礎とする結婚、我民法では男子三十歳・女子廿五歳以上ならば自由結婚を行ふて差支なきことを認めて居る
【自我實現】ジガジツゲン　自我のすべての機能により自治して行く公共團體。
【自治行政】ジヂギヤウセイ　公共團體が法律又は命令によりて委任せられた事務を行ふ
【自治團體】ジヂダンタイ　國家の委任した權能により自治して行く公共團體。
【自家廣告】ジカクワウコク　自ら自己のことを廣く宣傳する。「相衝突して一定せぬ。
【自家撞著】ジカドウチャク　己れの言行が前後
【自然主義】シゼンシュギ　㋑自然界と合致する倫理說㋺宇宙の說明は物質の說明と同じく形而上の原理によらずしてなし得とする主義㋩感情を主とし人生の動作をありのまゝに書き表す文藝上の主義
【自問自答】ジモンジタフ　自ら問ひ自ら答へる
【自畫自贊】ジグワジサン　㋑自分でゑがき自分で贊辭を記す㋺俗にいふ手前味噌。
【自然科學】シゼンクワガク　自然界に關する事物を研究する學問。「を研究する學問。
【自然哲學】シゼンテツガク　宇宙の本質成立等
【自然描寫】シゼンベウシャ　自然を本位とし主觀を交へず有りの儘の姿を描寫する。
【自然淘汰】シゼンタウタ　生物にして外界の狀況に適する者は生存し然らざる者は滅亡すること。「にて生產すること。
【自給自足】ジキフジソク　自國の必要品を自力

【自業自得】ジゴフジトク 惡業のむくひが我身に來ること、俗に身から出たさび。
【自暴自棄】ジバウジキ 自ら我身をそこなひて身をすてる、やけくそ。
【自繩自縛】ジジョウジバク 自分の繩にて我身をしばる、又それに類すること。
【自然的現象】シゼンテキゲンシヤウ 天然自然に現はれて來るありさま。

三畫

【首】一一五三頁の首を見よ。

四畫

【臭●】【臭】漢 キウ 昊 ク 漢 シウ 昊 ゲチ
㋑かほり、にほひ ㋺くさし、わるいにほひがする ㋩くさる（腐敗）又その物 ㋥わるい名、醜聞 ㋭けがる、けがす ㋬かぐ
【臭名】シウメイ 醜名に通ず、はづべき風聞。
【臭味】シウミ ㋑ともだち、なかま ㋺くさきにほひ、くさみ ㋩おもむき、趣味、お
【臭氣】シウキ くさきにほひ。「もしろみ。
【臭聞】シウブン わるいうはさ。
【臭素】シウソ 元素液體の一、揮發し易くて劇臭を有する赤褐色のもの。
【臭敗】シウハイ くさりやぶれる。

【臭●】漢 ゲツ 昊 ゲチ
㋑矢のまと ㋺門のくひ ㋩のり、標準、めあて、きそく、おきて ㋥危ぶみて安んぜざるさま
【息】三八八頁の息を見よ。

六畫

【臯】七一〇頁の臯を見よ。

八畫

【鼻】一一九六頁の鼻を見よ。

至部

【至】【至●】【至●】漢 シ 昊 ゆく（行）到
㋑いたる、著する、とゞく ㋺到來する、ふりかゝる ㋩きはまる、十分の點まで達す ㋥いたり、いたつて、きはめて ㋭時期の名（太陽が南又は北に行き極まつた時）
【同訓異義】いたる
【傳】はべつたりと至り付くの意。
【到】は彼より此に到著するの意。
【屆】は至り極まるの意。
【戾】は思はず知らず至り止まるの意
【抵】至り當るの義である。
【格】は正しき處にいたりとゞまる義
【稽】は至る又詣でるの意。
【至】は其の處まで來りつく義。
【瘞】は來り至る義である。
【訖】は至るであるなり、迄に通ずる。
【詣】は進み到るの意。
【距】はこゝ迄と限りありて至る意。
【踵】はつゞきいたる義である。
【迄】は至るである。
【造】は詣る又進む、だん〳〵深く進む、學問の深く入るを造詣といふ。
【至小】シセウ きはめて小なること。
【至才】シサイ 此上なき才能、又其人。
【至大】シダイ きはめて大なること。
【至公】シコウ 極めて公平。
【至日】シジツ 冬至の當日。
【至心】シシン 極めて懇切な心。
【至仁】シジン 極めて惠み深い。
【至孝】シカウ この上もなき孝行。
【至材】シザイ 至才に同じ。
【至言】シゲン もつとも道理にかなひたる
【至妙】シメウ 極めて巧妙なること。
【至近】シキン 最も近い、又その所。
【至要】シエウ きはめて大切。

【至急】シキフ はなはだいそぐ、火急。
【至美】シビ 極めて美くしい。
【至恩】シオン 此上なき惠。
【至竟】シキヤウ どんづまり、結局。
【至重】シチヨウ ㋑極めてたつときこと、又其物 ㋺極めて重きもの。
【至情】シジヤウ まごゝろ、至誠。
【至高】シカウ いちばん高い。
【至誠】シセイ 此上なきまごゝろ。
【至貴】シキ 至つて貴い。
【至理】シリ もつともなる道理。「の善。
【至善】シゼン ㋑人道上の最高理想 ㋺最上
【至諫】シカン 力一ぱい諫めること。
【至尊】シソン 帝位又は天子のこと。
【至惡】シアク この上もなくわるい、極惡。
【至微】シビ 極めてかすかである。
【至極】シキヨク 十分の點まで至りきはまる
【至健】シケン 極めてすこやか。
【至當】シタウ 最も道理にかなふ。
【至親】シシン 極めてしたしき者、父子兄
【至願】シグワン たつてのねがひ。「弟の類。
【至寶】シハウ ㋑才能等をほめていふ語 ㋺此上なく貴むべき寶物。
【至善至德】シゼンシトク 此上なき善行と德操
【至誠奉公】シセイホウコウ まごゝろをさゝげて君國の爲につくすこと。
【至公至平】シコウシヘイ 至つて公平、少しも片寄らない、私がない。
【至幸至福】シコウシフク 此上もない幸福。
【至孝至仁】シカウシジン 非常に孝行で仁德。
【至貴至高】シキシカウ 極めて貴く極めて高い
【至緊至要】シキンシエウ 極めて大切。「の尊號
【至聖先師】シセイセンシ 明代に贈られた孔子
【至誠憂國】シセイイウコク 國家の爲めに一身一命をさゝげるさま。
二至 ニシ 乃至 ナイシ 日至 ニチシ 冬至 トウシ
北至 ホクシ 必至 ヒツシ 長至 チヤウシ 來至 ライシ
南至 ナンシ 後至 コウシ 夏至 ゲシ 竝至 ヘイシ

二畫

【到】一三八頁の到を見よ。

三畫

【致●】【致】正字【致】漢 チ 昊
注意 致に作るは非なるも一般に俗字として用ひられて居る ㋑いたす、來らしめる、至らしめる ㋺得させる、おくる、やる、つかはす ㋩つげる、つたへる、しかける、いどむ ㋥ゆだねる、まかす ㋭辭任する、官職を辭する ㋬きはめる、おしきはめる、研究す、つくす、おこす、生ず ㋮おもむき（趣）ありさま ㋯こまか（緻）な國訓いたす（する、爲すの敬語）つかまつる
【致仕】チシ 官職を辭する。
【致死】チシ 死なせる、ころす。
【致知】チチ ㋑知識をきはめ物理に通ず ㋺本然の良知を安全ならしめる。
【致命】チメイ ㋑天命のあらん限り力をつくす ㋺そのために死す ㋩命を捧げる。
【致身】チシン 君國の爲めに一身を捧げる。
【致福】チフク 幸福を招來すること。
一致 イツチ 書致 ショチ 高致 カウチ 屈致 クツチ
羅致 ラチ 極致 キヨクチ 招致 セウチ 誘致 イウチ
生致 セイチ 按致 アンチ 拘致 コウチ 羈致 キチ
引致 インチ 奇致 キチ 勝致 ショウチ 精致 セイチ
乖致 クワイチ 兼致 ケンチ 雅致 ガチ 絕致 ゼツチ

【室】二九五頁の室を見よ。

五畫

【窒】七六三頁の窒を見よ。

八畫

【臺○】【臺】俗字【臺】別字

〔臺〕漢 ダイ 呉 ダイ 注意 台は全然別字なるも今は一般に略字として使用さる㋑うてな、ものみ㋺高く平かなる土地㋩物を載せるだい㋥人を呼ぶ尊稱㋭中央政府の官省、又其高官へめしつかひ、賤しい者㋬菅に類する草㋣物事のどだいとなるもの

【臺子】ダイス 正式の茶湯に用ゐる茶棚、轉じて一般に茶棚の意に用ゐる。

【臺所】ダイドコロ かつてもと、料理場。

【臺門】ダイモン 城の門、又御史臺の門。

【臺帳】ダイチヤウ 物事のもとゝなる帳簿、商家の大福帳の類、土地臺帳。

【臺秤】ダイバカリ 重い荷物を臺にのせて其重量をはかる秤。

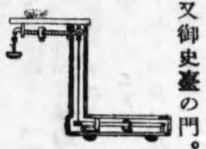
【臺笠】ダイガサ 昔大名などが行列の時携へた袋入の笠。

【臺詞】ダイシ せりふ、科白。

【臺榭】ダイシヤ たかどの、樓閣。

【臺閣】ダイカク ㋑支那の官制にて尚書㋺うてなとたかどの㋩一國の政治の中心を握る役所、内閣注意台閣と書くは誤り

（臺笠）


（臺秤）

【臺盤】ダイバン 昔の食卓。「を爺ねたもの。

【臺諫】ダイカン 宋の時御史臺の官にて諫官

靈臺レイダイ　氷臺ヒヨウダイ　蘭臺ランダイ　輿臺ヨダイ

燈臺トウダイ　燭臺ショクダイ　鏡臺キヤウダイ　露臺ロダイ

十畫

【臻○】漢呉 ㋑いたる（至）とゞく、シン 及ぶ㋺来る、あつまる 臻。到・至 其他の用法は八六〇頁の至を見よ。

【同訓異義】いたる

臼部

〔臼・〕〔臼別字〕〔臼〕漢 キウ 呉 グ

うす、つきうす

【臼杵】キウシヨ うすときね。

【臼砲】キウハウ 敵の城塞の攻撃などに用ひる彈道（彎曲した火砲。

【臼齒】キウシ 口の奥にあるは、おくば。

二畫

【臾◐】漢 ユ 呉 ヨウ ㋑しばらく㋺すゝむ（勸）

（臼砲）

【兒】一〇八頁の兒を見よ。

三畫

【臿●】漢 サフ 呉 セフ ㋑さしはさむ、さす㋺すき

【舁◐】【舁俗字】漢 キヨ 呉 ヨ 注意きうと讀むは誤り。かく、かつぎあげる、もち擧げる

【曳】一八〇頁の曳を見よ。

五畫

【舂○】漢 ショウ 呉 シュ 注意きうと讀むは誤り㋑臼で物をつく、うすづく㋺太陽が沒する㋩從に通ず、又靜か㋥つく（衝）

【同訓異義】つく 春・突・衝其他の用法は九三〇頁の衝を見よ。

【春籠】シヨウハ 臼で米をつき糠を箕でひる

七畫

〔與○〕〔与俗字〕〔與〕漢 ヨ 呉

㋑と、ともに、ともく、に、いつしよに㋺くみ、なかま、同類㋩結びつける詞、および㋥ともにす、なかまになる㋭一

しよに行く、いつしよに爲すへくみす㋬贊成する、ゆるす、したがふ㋮たすける㋯もつて（以）㋰比較の接續詞、何々と、いづれぞ㋱ために（爲）㋲あたふ、授ける㋳より㋴あづかる、參與す㋵心の決せぬさま㋶か（歟）疑問の語辭㋷姿のゝびく〳〵せるさま

【同訓異義】か 與・乎・邪其他の用法は三六天頁の乎を見よ。

【與力】ヨリキ 德川時代奉行に屬し内外の諸事に當りし卑役。

【與知】ヨチ あづかりしる、關知。

【與國】ヨコク 同盟國、なかまのくに。

【與聞】ヨブン 參與する、あづかりきく。

【與奪】ヨダツ あたへると取りあげる。

【與謀】ヨボウ 謀略にあづかる。

【與黨】ヨタウ 政府に味方する政黨、なかま

天與テンヨ　付與フヨ　私與シヨ　施與セヨ

容與ヨウヨ　參與サンヨ　猶與イウヨ　給與キフヨ

奪與ダツヨ　賞與シヤウヨ　黨與タウヨ　讓與ジヤウヨ

【舅●】漢 キウ 呉 グ ㋑しうと㋺をぢ㋩天子諸侯が異姓の者を親しみて言ふ語

【舅父】キウフ 母の兄弟に當る人。

【舅氏】キウレ 前に同じ。

【舅姑】キウソ しうとゝしうとめ。父のおぢ。「とゝむこ。

【舅甥】キウナウ 母方のをぢとをひ、又しう

【舅嫂】キウソウ 妻の兄弟の妻の稱。

賢舅ケンキウ　元舅ゲンキウ　外舅グワイキウ　叔舅シユクキウ

父舅フキウ　伯舅ハクキウ　哲舅テツキウ　姑舅コキウ

【鼠】一一九五頁の鼠を見よ。

九畫

〔興◐〕〔與〕漢 キヨウ 呉 コウ 漢呉 キン

㋑おきる、始まる、生ず、盛んになる㋺おこす、用ゐる、ひきたてる、盛んにする㋩よろこぶ、感ず㋥おもむき、おもしろみ㋭詩句の構造法の一

【興亡】コウバウ おこるとほろびる。「する。

【興行】コウギヤウ 芝居・見世物などを開演

【興起】コウキ ㋑ふるひおこる、たち上る㋺さかんになる。「んなるくに。

【興國】コウコク ㋑國をおこし盛んにす㋺盛

【興敗】コウハイ おこるとやぶれる。

【興隆】コウリユウ おこつて盛んになる。

【興復】コウフク もり返す、再び盛んにす。

【興替】コウタイ おこることゝすたること。

【興業】コウゲフ 事業をはじめること。

【興廢】コウハイ 興替に同じ。

【興賢】コウケン 賢人をあげ用ふ。

【興奮】コウフン 元氣づく、氣がふるひたつ。

【興感】キヨウカン 面白く感ずる。「き、面白味

【興味】キヨウミ ㋑感情心意の活動㋺おもむ

【興會】キヨウクワイ 前の㋺に同じ。

【興趣】キヨウシユ 興味に同じ。

【興信所】コウシンジヨ 取引上の參考資料として他人の財産上の狀態を確實に調査報導する機關、又ひろく他人に關する事項を探偵報知する所の窟にも用ふ。

【興行物】コウギヤウモノ みせもの。

【興行師】コウギヤウシ 芝居其他の興行物に資本を出して興行する人、太夫元。

中興チユウコウ　廢興ハイコウ　再興サイコウ　拔興バツコウ

隆興リユウコウ　繁興ハンコウ　紹興セウコウ　奮興フンコウ

詩興シキヨウ　吟興ギンキヨウ　遊興イウキヨウ　酒興シユキヨウ

【學】二八六頁の學を見よ。

【盥】七一五頁の盥を見よ。

十畫

【舉】四五四頁の舉を見よ。

【與】一〇二二頁の與を見よ。

十一畫

【舉】四五四頁の舉を見よ。

十二畫

【舊・旧略字】【舊俗字】漢 キウ ㋑もと、ひさしく、ふるく ㋺ふるし、新規でない、年を經ること久し ㋩むかし、ふるい當時 ㋥ふるい物事 ㋭なじみ、ふるい交り ㋬知人、しりあひ、としより 【同訓異義】ふるし 舊・古・陳其他の用法は一一〇五頁の陳を見よ。【同訓異義】もと 舊・原・本其他の用法は五一三頁の本を見よ。

【舊人】キウジン 舊友に同じ。
【舊土】キウド 昔あつた土地。
【舊主】キウシュ もとのしゆじん、舊君。
【舊功】キウコウ 舊勳に同じ。
【舊友】キウイウ ふるなじみ、むかしの友達。
【舊冬】キウトウ 去年のふゆ、客冬。
【舊好】キウカウ ふるいなじみ。
【舊交】キウカウ 前よりのまじはり。
【舊臣】キウシン 前々からの臣。
【舊地】キウチ ㋑舊迹に同じ ㋺以前の領地。
【舊里】キウリ 故郷、ふるさと。
【舊曲】キウキヨク 昔から傳はつて居る音樂。
【舊址】キウシ 昔、事のあつた土地、古跡、舊迹、舊跡 注意 舊趾と書くは誤り。
【舊年】キウネン 昨年、去年。
【舊式】キウシキ ㋑ふるいかた ㋺ふるい仕方
【舊作】キウサク 以前に作りたる詩歌文章。
【舊例】キウレイ 昔よりのしきたり。
【舊來】キウライ 前々より、昔から。
【舊妻】キウサイ 元のつま、先妻。
【舊君】キウクン 先代の君侯、又元の主人。
【舊刹】キウセツ 古い寺、古刹。
【舊知】キウチ 前からのしりあひ。
【舊法】キウハウ 昔の法律や規則。「古文書。
【舊典】キウテン ㋑昔の制度 ㋺ふるい書物、古いならはし、舊慣。
【舊俗】キウゾク 舊知に同じ。「約全書の略。
【舊故】キウコ ㋑昔の約束、前の誓ひ ㋺舊
【舊約】キウヤク むかし。
【舊時】キウジ 元の屋敷。
【舊邸】キウテイ 古いもの、古物。
【舊物】キウブツ 元の妻、昔のやうず。
【舊容】キウヨウ 古いやから。
【舊族】キウゾク 舊俗に同じ。
【舊風】キウフウ 古くより續いてゐる家。
【舊家】キウカ 古き事柄を承けつぐ。
【舊套】キウタウ 昔の恩、以前うけた惠み。
【舊恩】キウオン むかしの先生。
【舊師】キウシ 昔、事のありし土地、舊蹟。
【舊迹】キウセキ むかしの記錄。
【舊記】キウキ ルーテルの宗教改革以前の
【舊教】キウケウ 宗派、ローマ教・希臘教。「に同じ。
【舊情】キウジヤウ ㋑昔の通りの心持 ㋺舊好
【舊惡】キウアク 以前に行ひたる惡事。
【舊趾】キウシ 舊址の誤り。
【舊痕】キウコン 古い痕、大疵の痕。
【舊習】キウシフ 昔の習慣や式、古い風習。
【舊都】キウト 昔のみやこ。
【舊鄉】キウキヤウ ふるさと、故郷。
【舊幕】キウバク 維新後に於ける德川幕府。
【舊跡】キウセキ 舊迹に同じ。
【舊道】キウダウ もとの道。「の時の人。
【舊遊】キウイウ 以前にあそんだこと、又そ
【舊業】キウゲフ ㋑昔よりの事業 ㋺以前より積みたてたる財産の類。
【舊態】キウタイ むかしのすがた、舊容。
【舊領】キウリヤウ 舊地の ㋺に同じ。
【舊痾】キウア 古いやまひ、持病。
【舊號】キウガウ 昔のとなへ。「し物。
【舊製】キウセイ 昔風の作り方、又昔つくり
【舊說】キウセツ 以前に主張したる說。
【舊聞】キウブン ㋑昔よりのきゝつたへ ㋺時を經て後聞いた話。

【舊弊】キウヘイ むかしからの弊風。
【舊慣】キウクワン 舊式・舊俗・舊習に同じ。
【舊誼】キウギ 舊好に同じ。「陰曆。
【舊曆】キウレキ ㋑元の曆 ㋺太陽曆に對し太
【舊墟】キウキヨ 古きあと。
【舊夢】キウム 過去つた儚ない事柄。
【舊勳】キウクン 昔たてしてがら。
【舊穀】キウコク 古い穀物、ひね米。
【舊藏】キウザウ 以前から所持する、又其物。
【舊蹟】キウセキ 舊迹に同じ。
【舊臘】キウラウ 去年の歲末。
【舊藩】キウハン 舊幕時代の大名の支配下。
【舊識】キウシキ 舊知に同じ。
【舊歡】キウクワン 昔のよろこび。
【舊相識】キウサウシキ 昔のなじみ。「すてる。
【舊套打破】キウタウダハ 古い習慣や道德等を
【舊約全書】キウヤクゼンシヨ 基督以前の教典、即ちユダヤ教徒の纂集した經典。
【舊雨今雨】キウウコンウ 舊き友と新しき友。
【舊觀依然】キウクワンイゼン 昔のありさまが元の儘で變りがない。
故舊キウ 親舊シンキウ 恩舊オンキウ
世舊セイキウ 復舊フクキウ 知舊チキウ 勳舊クンキウ

十三畫

【舉】七三八頁の舉を見よ。

十四畫

【譽】九七九頁の譽を見よ。

十九畫

【釁】一〇六五頁の釁を見よ。

二十三畫

【鑿】六四九頁の鑿を見よ。

舌部

【舌・舌正字】【舌俗字】漢 セツ 呉 セチ 慣用音 セツ ㋑五官の一、した、又物に附屬して舌の形又はその如き作用をなすもの ㋺ことば、くちまへ

【舌尖】ゼツセン したのさき、くちさき。
【舌耕】ゼツカウ 講義・教授等の如くべんぜつを以て生計の助けとすること。
【舌苔】ゼツタイ 病人の舌の面に生ずる垢膩
【舌爭】ゼツサウ 口舌の爭ひ。
【舌根】ゼツコン 舌のね、舌のゝどに近き所。
【舌端】ゼツタン 舌尖に同じ。
【舌鋒】ゼツポウ 言論のほこさき。
【舌劍】ゼツケン するどき辯論。
【舌論】ゼツロン いひ爭ひ、口論。
【舌戰】ゼツセン 議論をたゝかはすこと。
【舌頭】ゼツトウ 舌尖に同じ。
【舌癌】ゼツガン 舌に生ずる癌腫。
【舌平目】シタビラメ 軟鰨類の魚で體軀は扁平にして舌狀をなしてゐる淺海の泥底に棲息し我國では東海より西海に亙つて多い。

（舌平目）

口舌コウゼツ 反舌ハンゼツ 巧舌コウゼツ
百舌ヒヤクゼツ 利舌リゼツ 弄舌ラウゼツ
卷舌クワンゼツ 長舌チヤウゼツ 重舌ジユウゼツ
饒舌ゼウゼツ 惡舌アクゼツ 讒舌ザンゼツ
吐舌トゼツ 忠舌チユウゼツ 辯舌ベンゼツ
喉舌コウゼツ

一畫

【亂】四一頁の亂を見よ。

二畫

【舍・舍俗字】【捨通字】【舍】漢 シヤ セキ 呉 セ シヤク ㋑やどり、やど、やすむ所、星のゐどころ、行軍の時宿營する所 ㋺軍隊の行軍は一日三十清里にして宿營するより行程三十里のこと ㋩いへ、居

宅㋺休む、やどる、やどりにつく、やどす、とめる㋩おく、すつ、さしおく、廢するへ施し惠むトはなつ(放)チゆるす(赦)りすつ(廢)やむ(息)ヌ釋に通ず

【舍人】シヤジン ㋑殿中に宿直して取締をなす官、とねり㋺一家中の雜務を執る人

【舍兄】シヤケイ 自分の兄。

【舍次】シヤジ 軍隊がやどること。

【舍宅】シヤタク いへ、やしき。

【舍弟】シヤテイ 自分の弟。

【舍利】シヤリ ㋑釋迦の遺骨㋺死體を火葬にした骨㋩白く固くなりて死ぬ蠶の病名

【舍費】シヤヒ 寄宿舍の入費。

【舍然】シヤゼン 釋然、さつぱりと悟る。

【舍長】シヤチヤウ 學舍、又は寄宿舍等の長。

【舍監】シヤカン 寄宿舍などの監督。

【舍利別】シヤリベツ 砂糖、又砂糖分を煮つめたるもの。

【舍利塔】シヤリトウ 佛舍利を安置する塔形の小龕。

（舍利塔）

休舍シヤウ　鄰舍リンシヤ　茅舍バウシヤ　第舍テイシヤ
客舍カクシヤ　田舍デンシヤ　官舍クワンシヤ　空舍クウシヤ
廬舍ロシヤ　蠶舍サンシヤ　館舍クワンシヤ　野舍ヤシヤ
三舍サンシヤ　旁舍バウシヤ　傳舍デンシヤ　同舍ドウシヤ
校舍カウシヤ　學舍ガクシヤ　僧舍ソウシヤ　屋舍ヲクシヤ

次舍ジシヤ　宅舍タクシヤ　精舍セイシヤ

【刮】一三九頁の刮を見よ。

四畫

【舐・】【舐正字】【舐誤字】漢シ 呉ジ なめる、ねぶる

六畫

【舒○】【舒】漢ショ 呉ソ 慣用音ジヨ

㋑のぶ、ひろげる、のびる、ひろがる㋺ゆるし、おだやかである㋩おそい、のろい㋥ゆるやかに、おもむろに

【同訓異義】のぶ　舒・述・陳其他の用法は一〇三一頁の述を見よ。

【舒舒】ジヨジヨ ㋑勢ひの緩かなさま㋺心の緩やかなさま。

【舒展】ジヨテン 開き伸ばす義。

【舒遲】ジヨチ ゆつたりと落ちつく。

【舒情】ジヨジヤウ 心のおもひをのべる。

【舒暢】ジヨチヤウ のびやかなること。

【舒緩】ジヨクワン ゆるやかなること。

【舒懷】ジヨクワイ 心のうちをのべる。

安舒アンジヨ　寛舒クワンジヨ　素舒ソジヨ　望舒バウジヨ
清舒セイジヨ　急舒キフジヨ　和舒ワジヨ　散舒サンジヨ

五畫

【甜】六八二頁の甜を見よ。

【甛】六八二頁の甛を見よ。

七畫

【辭】一〇二六頁の辭を見よ。

八畫

【舘】この頁の舘を見よ。

九畫

【舖】一〇八〇頁の舖を見よ。

十畫

【舘】一一五二頁の舘を見よ。

舛部

【舛・】漢呉 センたがふ(違)そむく(背)みだる(亂)みだす

【同訓異義】たがふ　舛・差・違其他の用法は三三五頁の差を見よ。

【舛互】センゴ 互ひに入り交る。「る。

【舛逆】センギヤク そむきさかふ、互に衝突す

【舛誤】センゴ まちがひ、又そのこと。

四畫

【桀】五二九頁の桀を見よ。

六畫

【舜・】【舜】漢呉 ㋑木の名シユン むくげ、もくげ、木槿㋺人名(支那古代の聖君)

八畫

【舞・】【舞】漢ブ ㋑まふ、まる㋺大いに喜ぶさま㋩まはす、自由に變へる㋥をどり、まひ

【舞人】ブジン 舞ひを舞ふ人。

【舞子】ブシ まひをする人。

【舞文】ブブン ㋑法律を勝手に濫用する㋺たくみに議論を組立てゝ文を作る。

【舞衣】ブイ 舞の衣裳。

【舞曲】ブキヨク ㋑まひと音樂㋺まひのうた

【舞妓】ブギ をどりこ、まひこ。

【舞弄】ブロウ ㋑人を侮る㋺もてあそぶ。

【舞技】ブギ まひ、をどり。

【舞姫】ブキ 舞妓に同じ。

【舞容】ブヨウ まひすがた、まふすがた。

【舞踊】ブヨウ をどる、をどり。

【舞筆】ブヒツ 曲筆に同じ。

【舞臺】ブタイ 「場所。

【舞樂】ブガク 舞樂・能樂・芝居等を演ずる

【舞蹈】ブタウ 舞ひと共に行はれる雅樂。㋑朝拜の儀節㋺足ぶみしてをどる㋩喜びて小躍りする㋥西洋風の舞踏と書くは誤り。

【舞躍】ブヤク まひをどる。

【舞鶴】ブカク つばさを張つてまふ鶴。

【舞錐】マヒギリ 錐の一種で眞直なる心棒の下方に獨樂狀の重錘を取附け其直下に錐の頭部を挿入木を緩く貫き心棒の上端に孔を通して紐を下げ腕木の兩端を結びて水平を保たしめるもの、ろくろぎり、まはしぎり。

（錐舞）

【舞踏病】ブタウビヤウ むやみに浮れ歩く病氣

【舞臺裝置】ブタイサウチ ヒステリーの一種。演劇について舞臺に施す裝飾等の裝置。

歌舞カブ　劍舞ケンブ　亂舞ランブ　奏舞ソウブ

舟部

【舟○】【舟】漢シウ ㋑ふね 呉シユ(船)㋺おぶ(帶)㋩國訓ふね(水・湯・酒などを盛る箱)

【舟人】シウジン 次の㋑に同じ。

【舟子】シウシ ㋑ふなこ、せんどう㋺水軍。

【舟車】シウシヤ ふねとくるま。

【舟軍】シウグン 船にて戰爭する軍隊。

【舟師】シウシ 前に同じ。

【舟歌】シウカ 船頭などの歌ふうた、ふなうた。

【舟梁】シウリヤウ 舟を竝べて作つた橋㋺舟橋。

【舟筏】シウバツ 舟と筏、又單に船。

【舟楫】シウシフ ふねとかぢ、又水運。

【舟遊】シウイウ ふなあそび。

【舟輿】シウヨ 舟車に同じ。

漁舟ギヨシウ　孤舟コシウ　飛舟ヒシウ　歸舟キシウ
釣舟テウシウ　虛舟キヨシウ　扁舟ヘンシウ　輕舟ケイシウ

三畫

【舡○】漢カウ 呉コウ ふね(船)又船の形容又呉越地方の舟

四畫

【航○】【航】漢カウ ㋑ふね、呉ガウ もやひぶね、兩舟竝び行く舟㋺舟で水を渡る、舟を進める

【航行】カウカウ ふねで行く。
【航空】カウクウ 空を飛び行くこと。
【航海】カウカイ 船で海をわたる、渡海。
【航程】カウテイ 海上のみちのり。
【航路】カウロ ふなぢ、船の行き通ふみち。
【航運】カウウン 舟で物をはこぶ。「軍隊。
【航空隊】カウクウタイ 航空機を以て組織する
【航空機】カウクウキ 飛行船・飛行機等の類。
【航空網】カウクウマウ 航空機の飛行する線路が縱横に交はれるさま、又その線。
【航海術】カウカイジユツ 航海上の技術。
【航海暦】カウカイレキ 航海用の暦。
【航續力】カウゾクリヨク 船が休まず進行する力
【航路信號】カウロシンガウ 航行中の汽船が衝突を避ける爲に相互に知らせる合圖。
【航空郵便】カウクウイウビン 飛行機によつて輸送せられる郵便物。
【航路標識】カウロヘウシキ 燈臺・燈船等の如く航路の安全を圖るための目標。「げる
【航路擴張】カウロクワクチヤウ 航海の範圍を廣
渡航トカウ 舟航シウカウ 浮航フカウ 津航シンカウ

【般】【舨】

漢 ハン ハツ 呉 ヘン バン 慣用音 ハン

イはこぶ（運）うつす（移）ロめぐらす（旋）めぐる ハ物事を數へる稱 ニたのしむ（樂）ホかへす、かへる（反）ヘかへつて ト物事をすべくゝつていふ語
【般般】ハンハン 交采あるさま。
【般桓】ハンクワン 進まざるさま。
【般若】ハンニヤ イ智慧ロ恐しき面相の鬼女
【般若湯】ハンニヤタウ 智慧の湯、酒の異名。
百般ヒヤクパン 先般センパン 全般ゼンパン 兩般リヤウパン。
這般シヤパン 今般コンパン 過般クワハン 諸般シヨハン

【舫】

漢 ハウ 呉 バウ
【舫樓】ハウロウ ふねのやぐら。

【舟部】

この頁の船を見よ。

【舵・柁】

五畫

漢 タ 呉 ダ かぢ
【舵手】ダシユ かぢとり、舟子。
【舵機】ダキ 船艦のかぢ。
【舵木徹】カジキトホシ 硬鰭類の魚、體長一丈二三尺許りにして常に遠洋の上層に游泳し動作は猛烈、我沿海にこれを多く產す、かぢきまぐろ。

（舵木徹）

【舶】【𦨭】

漢 ヒヤク ふね、う 呉 ハク みぶね
【舶船】ハクセン 大きいふね。
【舶來】ハクライ イ舶來品の略ロ船に積みこみ外國からくること、舶載。
【舶載】ハクサイ 前のロに同じ。

【舷】

漢 ケン ゲン ふなべり、ふなば た、船側
【舷梯】ゲンサク ふなばたのてすり。
【舷側】ゲンソク ふなばた、ふなべり。
【舷窓】ゲンサウ ふなべりのまど。
【舷端】ゲンタン 次に同じ。
【舷頭】ゲントウ ふなばた。
【舷燈】ゲントウ ふなべりの燈火。
【舷舷相摩】ゲンゲンアヒマス 船と船と相すれあふこと、船いくさのはげしい形容。

【船】【舩】【𦨭】

漢 セン 呉 ゼン
ふね（支那關東では舟、關西では船）
【船工】センコウ 船匠に同じ。
【船夫】センブ ふなこ、かこ、船頭。
【船主】センシユ ふねの所有者。
【船匠】センシヤウ ふなだいく。
【船戸】セトコ イ船問屋ロ船頭。
【船車】センシヤ ふねとくるま。
【船尾】センビ とも、船の後部。
【船具】セング 船舶用のうつは、船道具。

【船底】センテイ 船の底、ふなそこ。
【船長】センチヤウ ふなさを、船舶の指揮者。
【船室】センシツ 舟の中のへや。
【船窓】センソウ ふなばたの窓、舷窓。
【船首】センシユ ふねのへさき。
【船庫】センコ ふねを繫ぎおくゝら。
【船員】センイン 船舶の乘組員、海員。
【船脚】センキヤク イ船の速力ロ船のそこ。
【船舶】センパク イふねロ商行爲を爲す目的を以て航海の用に供するもの、又物・人を運搬する爲め水上を航行する目的にて建造したるもの。
【船渠】センキヨ 船を造り又は修繕する所、
【船筏】センバツ ふねといかだ。「ドック。
【船暈】センウン ふねに乘りて醉ふこと。
【船號】センガウ ふねのなまへ。
【船路】センロ ふなぢ、航路。
【船載】センサイ 舟にのせる、船につむ。
【船腹】センプク ふねの胴、ふなばら。
【船樓】センロウ 船のやぐら。
【船旗】センキ ふねにたてる旗。「のおほひ
【船篷】センホウ 船のとま、茅等であんだ船
【船橋】センキヤウ イ上甲板の前面に一段高くした處、ブリッヂロふなばし、船を竝べて其上に板をしいた橋・うきはし。
【船燈】セントウ ふねにともす燈、船の火。
【船艙】センサウ 船の下部の荷物を入れる所
【船頭】センドウ イ船の前部ロ舟のり、船人。
【船橋】センキヤウ ふねのほばしら、マスト。
【船艦】センカン イ普通のふねといくさぶね、商船と軍艦。
【船舶】センキ 船舶港に於て船舶を登錄し
【船體】センタイ ふねのからだ、船の全體。
【船艫】センロ 船のとも、船尾。
【船後光】フナゴクワウ 船を竪にした如きさまの後光。

（船後光）

【船主同盟】センシユドウメイ 船主が相互利益の爲積荷の競爭を避けんとして作る團體
【船荷證券】フナニショウケン 汽船會社が荷主に對して發行する荷物の引換證券。
酒船シユセン 漁船ギヨセン 戰船センセン 樓船ロウセン
鐵船テツセン 夜船ヤセン 釣船テウセン 客船カクセン
輕船ケイセン 遊船イウセン 造船ゾウセン 舶船ハクセン

【舳】

漢 チク チウ イとも、船尾
呉 ヂク ヂユ ロかぢ（柁）
ハみよし、へさき、船首
【舳艫】ヂクロ 舟のへさきとゝも。
【舳艫千里】ヂクロセンリ 船の多くつゞく貌。

【舴】

漢 サク タク こぶね、
呉 シヤク チヤク 小船

【舸】

漢呉 おほぶね カ
【舸船】カセン ふね。
【舸艦】カカン おほぶね、巨船。

七畫

【艇】

漢 テイ 細長い
呉 チヤウ 小形船
【艇】漢 フウ 呉 ブ イたけ短く底の深い小慣用音 フ 舟ロ國訓はしけ（本船と陸地との間を往來して用を足す小舟、はしけぶね）

八畫

【舒】

漢 ジヨ ちひさ
慣用音 マウ なふね

【艇】

漢 ヂヤウ 呉 ミヤウ
こぶね、小舟

【槃】

五四〇頁の槃を見よ。

九畫

【磐】

七三七頁の磐を見よ。

【盤】

七一五頁の盤を見よ。

十畫

【艘】

漢 サウ イふね（船）
呉 ソウ 舶）ロ船を

數へる語

【艙○】漢 ソウ 呉 サウ 船中にて貨物を積む所

十二畫

【艟○】漢 トウ 呉 ドウ 慣用音 短かきふね いくさぶね、軍艦、戰艦。

【艤●】漢 ギ 呉 ひ ふなじたく、ふなよそほひする。

【艤舟】ギシウ 出船のしたく、ふなもよひ。

【艤装】ギサウ

【艤艨】ドウモウ

十三畫

【艤●】漢 カン 呉 ゲン いくさぶね ね、兵船

【艦列】カンレツ 列びたる軍艦。

【艦尾】カンビ 兵船のとも。

【艦長】カンチヤウ 兵船を指揮統率する人。

【艦首】カンシユ 兵船のへさき。

【艦船】カンセン 海軍部内にては軍艦・水雷艇・海軍の役務に供する船舶を總稱していふ、民法にては軍艦・船舶の總稱。

【艦隊】カンタイ 軍艦二隻以上を以て編制せられたる海軍の軍隊。

【艦載】カンサイ 軍艦につみのせる。

【艦幅】カンプク 兵船の横はゞ。

【艦艇】カンテイ 軍艦・水雷艇等の總稱。

【艦橋】カンキヤウ 船艦内にて艦長又は司令官が上つて指揮號令する所。

【艦體】カンタイ 軍艦のからだ。

【艦籍】カンセキ 鎮守府に屬する兵船の籍。

【艦隊司令官】カンタイシレイクワン 艦隊を司る官二艦隊以上を統轄する者を艦隊司令長官といふ。

【艦隊】カンタイ 軍艦二隻以上を以て編制せ

十四畫

【艦●】【艦】漢 カン 呉 ゲン いくさぶね 列びたる軍艦。

【艨●】【艨】漢 モウ 呉 ドウ 慣用音 ぐんかん、兵船。

十五畫

【艨】五四九頁の櫓を見よ。

十六畫

【艫○】漢 ロ 呉 ル イ船の前部、へさき、みよし ロ船の後部、とも

艮部

【艮●】【艮】漢 コン 呉 慣用音 ゴン イとゞまる（止）ロかぎる（限）ハ易の卦の名 ニうしとら、東北の方角、午後二時から四時までの時刻

一畫

【良○】【良】漢 リヤウ 呉 ラウ 一音 イよし、おだやか、すなほ ロすぐれてゐる、かしこい ハ美しい、立派である ニ善きこと、善きもの、よき人 ホおつと（夫）ヘやゝ、よほど、しばらくして トまことに（信）

【同訓異義】まことに 艮・信・眞其他の用法は八一頁の信を見よ。

【同訓異義】よし 艮・善・好其他の用法は二〇六頁の善を見よ。

【良人】リヤウジン イよき人、善人 ロおつと 亭主 ハつま、家内 ニ漢代女官の稱。

【良才】リヤウサイ よきはたらき、良材。

【良士】リヤウシ よき男子、よき武士。

【良工】リヤウコウ 仕事の上手な人。

【良弓】リヤウキユウ よき弓、又上手な弓師。

【良匹】リヤウヒツ 似合ひのつれあひ。

【良友】リヤウイウ よきともだち。

【良方】リヤウハウ よきしかた。「のよき日。

【良日】リヤウジツ イ七月七日の異稱 ロ日柄

【良月】リヤウゲツ 十月の異稱。

【良心】リヤウシン イ本心、まごゝろ ロ善惡を見わける性能。

【良平】リヤウヘイ 漢高祖の名臣、張良と陳

【良民】リヤウミン 善良なる人民。

【良守】リヤウシユ よき官吏、又よき太守。

【良匠】リヤウシヤウ よきたくみ、上手な大工。

【良好】リヤウカウ よきこと、善良。

【良吏】リヤウリ 精勤なるよき官吏。

【良君】リヤウクン よき主君、明君。

【良否】リヤウヒ よしあし、善惡。

【良臣】リヤウシン よきけらい。

【良材】リヤウザイ イ良才に同じ ロよき材木

【良兵】リヤウヘイ よき武士、又はよき武器。

【良法】リヤウハフ イよきしかた ロよい規則

【良辰】リヤウシン よき日、よき時。

【良妻】リヤウサイ よきつま、賢妻。「き夜。

【良夜】リヤウヤ イよふけ、深夜 ロ景色のよ

【良知】リヤウチ 良知良能に同じ。

【良相】リヤウシヤウ よき大臣。

【良計】リヤウケイ 良圖に同じ。

【良家】リヤウカ よきいへがら、上流の家。

【良師】リヤウシ よき先生。

【良書】リヤウシヨ 讀んで利益になる書物。

【良將】リヤウシヤウ よき大將。

【良狗】リヤウク イ良い犬 ロ謀臣。

【良弼】リヤウヒツ たすけとなる臣、良臣。

【良風】リヤウフウ 善良なる風俗。

【良能】リヤウノウ よいはたらき。

【良貨】リヤウクワ よきたから。

【良策】リヤウサク 良圖に同じ。

【良農】リヤウノウ 善き百姓。

【良圖】リヤウト よきはかりごと、良謀。

【良算】リヤウサン 良圖に同じ。

【良質】リヤウシツ よき性質。

【良緣】リヤウエン イよき因緣 ロよき親類。

【良劑】リヤウザイ きゝめあるよき藥。

【良謀】リヤウボウ 良圖に同じ。

【良僕】リヤウボク よきめしつかひ。

【良謨】リヤウボ よきはかりごと。

【良醫】リヤウイ よき醫者。

【良藥】リヤウヤク よき効能あるくすり。

【良久】ヤヤヒサシ やゝ暫くの間。「く物體。

【良導體】リヤウダウタイ 電氣又は熱をよく導

【良二千石】リヤウニセンセキ よき地方長官。

【良工苦心】リヤウコウクシン 技工に優れた者の苦心多きをいふ。「たる景色。

【良辰美景】リヤウシンビケイ よき時節とすぐれ

【良知良能】リヤウチリヤウノウ 經驗や教育によらず、直に知り又行ふことを得るもの

【良風美俗】リヤウフウビゾク よき風俗や習慣。

吉良キツリヤウ 國良コクリヤウ 邦良ハウリヤウ 端良タンリヤウ

完良クワンリヤウ 聖良セイリヤウ 駿良シユンリヤウ 牢良ラウリヤウ

嘉良カリヤウ 閑良カンリヤウ 明良メイリヤウ 忠良チユウリヤウ

元良ゲンリヤウ 賢良ケンリヤウ 苦良クリヤウ 淳良ジユンリヤウ

平良ヘイリヤウ 善良ゼンリヤウ 清良セイリヤウ 柔良ジウリヤウ

清良セイリヤウ 前良ゼンリヤウ 優良イウリヤウ 黄良クワウリヤウ

五畫

【朗】五〇七頁の朗を見よ。

十畫

【墾】二四二頁の墾を見よ。

十一畫

【艱○】【艱】漢 カン 呉 ケン イかたし むづかしい、なやましい ロかたんず、やすからず思ふ ハなやみ、なんぎ ニくるしむ、なやむ ホも（喪）

【同訓異義】なやむ 艱・惱・懊其他の用法は四〇一頁の惱を見よ。

【艱辛】カンシン なやみ苦しむ。

【艱易】カンイ かたきとやすき。

【艱阻】カンソ なやみ憂へる。

【艱苦】カンク　なやみ苦しむ。「穀を食ふ。
【艱食】カンショク　百姓の辛苦によりて成る五
【艱險】カンケン　㋑けはしき所㋺危險、危難。
【艱難】カンナン　なやみ、なんぎ。

【懇】　四〇九頁の懇を見よ。

十五畫

【齦】　一一九八頁の齦を見よ。

色部

【色・〔巳〕〔色〕】　漢　ショク　㋑いろ　呉　シキ　太陽の七色（紅・朱・黄・綠・藍・青・紫）かほいろ㋺ふう、そぶり、おももち、やうす㋩男女間の慾情㋥いろどり（采色）㋭けしきへいろす、顏色をかへて怒る、おだやかな樣子をなす㋣驚くさま㋠五官に感じて心を動かす物㋡國訓いろ（喪服の鈍色、又其喪服、許可無くては著られぬ衣服の色、禁色）やうす、傾向、をりあひ
「してつかへる。
【色養】ショクヤウ　親の顏色を見て其心を察
【色貌】ショクバウ　顏色又は容貌。
【色澤】ショクタク　いろつや、光澤。
【色樂】ショクラク　女色と音樂。
【色聽】ショクチキウ　裁判官が被告の顏色によ
ショクテイ　つて眞僞を判斷すること。
【色身】シキシン　色相のある身體、肉體。
【色盲】シキマウ　色を見わけ得ぬ一種の病氣
【色相】シキサウ　肉眼で見るとの出來る形相
【色界】シキカイ　欲界の上にある世界。
【色紙】シキシ　和歌・俳諧等をかく料紙。
【色料】シキレウ　ゑのぐ、顏料、又染料。
【色彩】シキサイ　㋑いろどり、彩色㋺つや色。
【色素】シキソ　生物に特有の色を與へる小
【色情】シキジヤウ　異性間の色慾。「球體。
【色慾】シキヨク　前に同じ。
【色魔】シキマ　巧言で婦人をたぶらかす者
【色動】イロウゴク　顏色の變はること。
【色卽是空】シキソクゼクウ　物質界の事物は本來そのまゝ空無であるとの意（佛語）。
假色カショク　聲色セイショク　物色ブツショク
柔色ジウショク　菜色サイショク　正色セイショク
國色コクショク　變色ヘンショク　愉色ユショク
采色サイショク　盛色セイショク　戰色センショク
嚴色ゲンショク　華色クワショク　喜色キショク
令色レイショク　天色テンショク　容色ヨウショク
神色シンショク　好色カウショク　姿色シショク
本色ホンショク　才色サイショク　悚色キショク
間色カンショク　酒色シユショク
辭色ジショク

【艶・】　漢　フツ　呉　ボチ　怒つてむつとする
【艶然】フツゼン　怒つて顏色をかへる。

八畫

【艶】　一一二八頁の艶を見よ。

十八畫

【艷・豔・豔・豔】【艷】　俗字　漢呉　㋑あでやか、なまめかし　エン　㋺つや、光澤㋩うらやむ（羨）㋥國訓つや（愛嬌、をりあひ、男女間の情事）はなやかに美麗なこと、なまめく、いろめく
【艷妓】エイギ　なまめいて美しいうたひめ
【艷花】エンクワ　あでやかな花。
【艷色】エンシヨク　つや〳〵しく美しき色。
【艷冶】エンヤ　美しくなまめかし。
【艷容】エンヨウ　なまめかしくつやある姿。
【艷姿】エンシレ　なまめかしき姿。
【艷美】エンビ　美しくつや〳〵しきこと。
【艷書】エンショ　いろぶみ、つやぶみ、戀想文
【艷殺】エンサツ　妖色を以て男を迷はすこと。
【艷陽】エンヤウ　はなやかな晩春の氣候。

【艷歌】エンカ　なまめかしき歌。
【艷聞】エンブン　なまめかしい噂。
【艷福】エンプク　異性に愛好されること。
【艷話】エンワ　なまめきたる言葉。
【艷艷】エンエン　つやありて美しきこと。
【艷麗】エンレイ　美しくはなやかなり。
妍艷ケンエン　妖艷ヨウエン　嬌艷キヤウエン　豐艷ホウエン

艸部

【艸・草】【艹】　漢　テツ　サウ　呉　デチ　ソウ　㋑くさ㋺國訓くさかんむり
【艹】　注意　艸が字畫の冠に來る時のかたち、又俗に艹に作るは全然誤りであるが我國では一般に使用されてゐる。國訓くさかんむり、又さうくわう。漢字の字畫上の呼稱。

一畫

【开】　四五頁の开を見よ。

二畫

【艾・】　漢　ガイ　呉　ゲイ　㋑山野に自生する一種の一年草、よもぎ
㋺もぐさ㋩老人、としより㋥みめよし、うつくし㋭やしなふ（養）㋬つく、つくす（盡）㋠むくゆ（報）㋡かる（刈）草を除くをさむ、をさまる
【艾年】ガイネン　年齡五十歲のこと。
【艾節】ガイセツ　五月五日の節句、端午。

三畫

【芒・】【亡】　古字　漢　バウ　クワウ　呉　マウ　ワウ　㋑禾穀の實の先にある毛、のぎ、とげ、ひかり㋺ひろ〳〵したるさま㋩ほさき（鋒）きつさき㋥疲れたるさま㋭物事の判然せぬさまへ國訓すゝき（薄）
【芒硝】バウセウ　硫酸ナトリウムを水にとかし蒸發濃厚ならしめたる結晶。
【芒茅】バウバウ　ちがや、かや。
【芒洋】バウヤウ　ひろ〳〵としたるさま。
【芒彩】バウサイ　星のひかり。
【芒種】バウシユ　㋑麥と稻、のぎある穀物のたね㋺二十四氣の一、陽曆六月五日頃。
【芒鋒】バウエイ　のぎ、禾穀の穂の先。
【芒屨】バウリ　わらぐつ、わらぢ。

【芋・】【芋】　別字　漢呉　㋑さかんな　セン　リ、しげる　㋺青いさま、又色の深い貌

【芋・】　漢　ウ　呉　ク　ヲ　コ　㋑いも（さといも・やつがしら・はすいもの類）㋺おほいなり（大）
【芋魁】ウクワイ　おや芋、芋の大きなもの。
【芋名月】イモノイゲツ　陰曆八月十五日夜の月（芋を供ふるよりいふ。）
山芋サンウ　水芋スイウ　白芋ハクウ　里芋リウ

【芍・】【芍】　漢　シヤク　呉　サク　漢呉　ケウ　㋑芍藥、しやくやく㋺はすのみ㋩くろくわる
【芍藥】シヤクヤク　一種の草、牡丹に似て紅白あり、高さ二尺位根は藥用に供さる。

（芍藥）

【芄】　國字　ぼさつ。

【羌】　八二三頁の羌を見よ。

【羊】　八二三頁の羊を見よ。

四畫

【芝・】【芝】　漢呉　㋑一種のきのこ、れい

し（靈芝）さいはひだけ、ひじりだけ、㊐國訓しば（小さき蔓草、又路傍などに發生する小雜草）

（靈芝）

【芝栄】シバナ　芝栄科の多年生の草本で海邊に自生して根莖を有し葉は半圓柱形で花莖は二三尺の高さに達し夏の頃その上部に帶黃綠色の小さい花がむらがり咲く、うみにら、うみぜきしやう

（芝栄）

【芝蘭】シラン　芝草と蘭草。

【芝蝦】シバエビ　蝦の一種で體長四寸ばかり殼は薄く柔かで所々に凹所あり細い毛を以て被はれ色は淡黃で綠色の細かい斑點を有し淺海の砂中にすんでゐ海藻常食としてゐる。

（蝦芝）

【芝生】シバフ　芝草の生ひたる所。

【芝居】シバヰ　演劇、かぶき。

玉芝ギヨク　金芝キン　華芝クワ　五芝ゴ

神芝シン　靈芝レイ　祥芝シヤウ　瑞芝ズイ

隱芝イン　水芝スイ　雷芝ライ　蒼芝ソウ

【芥・】【介通字】【芥】漢カイ　呉ケ

㊀蔬菜の一、からしな㊐からし㊁あくた㊂不用な物ごと、こまかい物事

【芥子】カイシ　㊀からしな、又その實より製したる香味食料、からし㊐からしの實の如く極めて小さいもの。

【芥視】カイシ　あくたの如くけなして見る

【芥塵】カイヂン　あくたとちり。

【芥子泥】カイシデイ　からし粉をかいた煉り藥。

【芥子人形】ケシニンギヤウ　極めて小さき人形雛祭に用ひ又は玩で具に供す豆人形

（芥子人形）

【芦・】【苧】漢コ　カ　注意盧　呉ク　ゲ　の略字

として用ふるは非であるが我國では一般に略字として用ひらる㊀草の一、さほひめ㊐がま（蒲萄）

【花・】【苍俗字】【華古字】【花】漢クワ　呉ケ

㊀草木のはな、總て花の形をしたもの、又花の如く美しきもの㊐はなさく㊁娼妓の異名㊂つかひへらす㊃國訓はな（櫻のはな、梅の花、佛にたむけるしきみ等、藝人などに與へる祝儀、はなあはせ、いけばなの略、美しいこと最も善き時、最も盛んの時、最も適當なる時、最も美しき時、美人の隱語）

【花下】クワカ　花の樹の下、花のかげ。

【花子】クワシ　こじき、乞食、乞丐。

【花王】クワウ　支那にて牡丹の異名。

【花木】クワボク　花樹に同じ。

【花天】クワテン　花が空一ぱいに滿ちさく形容。

【花心】クワシン　㊀美人の心㊐花のしん。

【花月】クワゲツ　㊀花と月㊐花に照る月影。

【花火】クワクワ　はなび、煙花。

【花片】クワヘン　花の瓣、はなびら。

【花市】クワシ　花を賣る市。

【花兄】クワケイ　梅の異稱。

【花甲】クワカフ　六十歳の唱、華甲。

【花卉】クワキ　草ばな。

【花托】クワタク　花柄の先端のふくれた所。

【花序】クワジヨ　花の莖に附生する排列。

【花押】クワアフ　かきはんのこと、華印。

【花柱】クワチユウ　花の雌蘂の柄。

【花苑】クワエン　はなばたけ、花園。

【花客】クワカク　とくい、華客。「や綠の柳。

【花柳】クワリウ　㊀いろざと、遊里㊐紅い花

【花冠】クワクワン　㊀美しく飾つた冠㊐花被の內側に位する部分。

【花信】クワシン　花の咲いたしらせ。

【花音】クワイン　花のたより。

【花洛】クワラク　はなのみやこ。

【花被】クワヒ　花の蘂を保護する部分の稱

【花神】クワシン　㊀花を司る神㊐花の精。

【花娘】クワヂヤウ　娼婦・藝妓等。

【花粉】クワフン　花の雄蘂の頭に附ける粉。

【花宴】クワエン　華美盛大なるさかもり。

【花容】クワヨウ　花の如く美しきかほたち。

【花明】クワメイ　花の色が白くあきらか。

【花笑】クワセウ　花がひらく、花開。

【花梢】クワセウ　花のある梢、花枝。

【花朝】クワテウ　陰曆二月十五日。

【花軸】クワヂク　花を着くる莖、花梗の莖。

【花筵】クワエン　模樣を織出した莚の敷物、

【花圃】クワホ　花畑、花ぞの。［はなござ。

【花紋】クワモン　花のもやう。

【花梗】クワカウ　花を支へる柄。「なびら。

【花唇】クワシン　㊀美人の唇の形容㊐花、は

【花鳥】クワテウ　はなとゝり。

【花絲】クワシ　花の雄蘂の葯を支へる柄。

【花街】クワガイ　いろまち、遊里。

【花期】クワキ　はなの咲く頃。

【花瓶】クワヘイ　はないけ、くわびん。

【花魁】クワクワイ　㊀蘭又は梅の異名㊐女郎

【花園】クワエン　花苑に同じ。「おいらん。

【花影】クワエイ　花の映るかげ。

【花蓋】クワガイ　花の萼及び瓣の總稱。

【花臺】クワダイ　㊀花瓶をおく臺㊐はなぶさ

【花壇】クワダン　草花をうゑる裝置の庭。

【花樹】クワジユ　花を賞美する樹木の總稱。

【花氈】クワセン　美しき模樣ある毛布。

【花燭】クワショク　華やかな光の燈火、轉じて結婚の儀式。

【花顏】クワガン　美しき顏。

【花譜】クワフ　四季折々の花を畫きし書物

【花欄】クワリン　熱地產の木材、欄木。

【花瓣】クワベン　はなびらの一枚々々の稱。

【花蘂】クワズイ　花のしべ、花蕊。

【花笠】ハナガサ　造花などで飾つた笠、祭禮の踊に用ひる物

【花見】ハナミ　花を見る、主として櫻の花を見て遊びたのしむこと。

（笠花）

【花筏】ハナイカダ　㊀山中に自生する落葉灌木で淡綠色の花を開き黑色の果實を結ぶ㊐花の枝を

（筏花）

おいた筏㊁水面に散りしく花㊂化粧用の油ぐすり。

【花束】ハナタバ　花を集めて束にしたもの。

【花鍾】ハナキスリ　原野に自生する羊齒類で根莖は地中に蔓延し匙形の一葉を生ずる。

（鍾花）

【花籠】ハナカゴ　生花又は造花を入れる籠

【花崗岩】クワカウガン　花崗石、みかげいし。

（籠花）

【花柳病】クワリウビヤウ　黴毒・痳病等の總稱。

【花言葉】ハナコトバ　自分のおもひを花によそひていふ言葉。

【花吹雪】ハナフブキ　花の散り亂るゝさま。

【花日會】ハナノヒクワイ　祝日又は特殊の慈善の爲日を限り全市民が胸に花をさす日

【花電車】ハナデンシヤ　㊀特別の祝日などに造花にて飾りて運轉する電車㊐美しい意味から女學生計り乘つて居る電車。

【花天月地】クワテンゲツチ　空には花地上には月影、春の月夜の景色をいふ。

【花朝月夕】クワテウゲツセキ　㊀二月十五日を花朝、八月十五日を月夕といふ㊐花のあ

したと月のゆふべ、春朝秋夜の善き趣。
丹花タン　天花テン　火花クワ　白花ハク
百花ヒヤク　名花メイ　好花カウ　芳花ハウ
佳花カ　美花ビ　風花フウ　香花カウ
紅花コウ　庭花テイ　宮花キユウ　涙花ラウ
接花セツ　細花サイ　野花ヤ　御花ギヨ
晩花バン　異花イ　黄花クワウ　開花カイ
殘花ザン　萬花バン　落花ラク　禁花キン
棗花シユウ　燈花トウ　燭花ショク　繁花ハン
鮮花セン　女郎花ヲミナヘシ　山茶花サザンクワ

【芳。】【芽】 漢 呉 ㋑かをり ㋺ ハウ 香氣がよい かんばし ㋩ほまれ ㋥賢者また能士 ㋭他人の物ごとに冠して用ゐる敬稱
【芳心】ハウシン 芳志に同じ。
【芳札】ハウサツ 他人の手紙の敬稱。
【芳名】ハウメイ ㋑香しき名、令聞 ㋺他人の名の敬稱。
【芳吟】ハウギン 他人の詩歌の敬稱。
【芳花】ハウクワ 香しい花、香花。「し、芳情。
【芳志】ハウシ 他人の心の敬稱、おぼしめ
【芳郊】ハウカウ 芳しい花の咲げる野。
【芳春】ハウシユン 香しい春。
【芳味】ハウミ 芳ばしき良きあぢはひ。
【芳命】ハウメイ おほせ、御意。
【芳紀】ハウキ 年わかき女子の年齢。
【芳香】ハウカウ ㋑よきかほり ㋺よろひぐさ 「こと。
【芳草】ハウサウ 芳香ある草。
【芳烈】ハウレツ ㋩よきいさを ㋺香のつよき
【芳茗】ハウメイ 香の高い茶。
【芳規】ハウキ 父祖の定めたる善いおきて。
【芳情】ハウジヤウ 芳志に同じ。
【芳意】ハウイ ㋑春の景趣 ㋺芳志に同じ。
【芳醇】ハウジユン 香のよき酒。
【芳墨】ハウボク 芳札に同じ。
【芳翰】ハウカン 前に同じ。
【芳樽】ハウソン 芳醸に同じ、芳酒。
【芳樹】ハウジユ 花のさく樹木。
【芳顏】ハウガン おかほ、他人の顏の尊稱。
【芳醸】ハウヂヤウ かんばしき酒、芳酒。

【芽。】【芽】 漢 ガ ㋑め、草 呉 ゲ 木のめ ㋺ きざし、おこり ㋩めぐむ、めざす
【芽生】メバエ 種子より芽の吹き初めること
【芽甲】ガカフ 草木の初めて發生した子葉
妍芳ケンハウ　濃芳ジヤウハウ　流芳リウハウ
遺芳イハウ　餘芳ヨハウ　香芳カウハウ　善芳ゼンハウ
春芳シユンハウ　秋芳シウハウ　微芳ビハウ　群芳グンハウ
英芳エイハウ　かんばしき酒、芳酒。

【芙。】 漢フ 呉ブ ふようは灌木の一、又蓮の異名 慣用音 フ
【芙蓉】フヨウ ㋑蓮の漢名 ㋺錦葵科の落葉灌木で幹の高さは三四尺から一丈位に達し葉は掌狀にして互生し紅又は白の大きい花が咲き皮からは纖維をとつて蓑をつくる。
【芙蓉峯】フヨウホウ ㋑衡山の絶頂に在る峯 ㋺富士山の別稱。

（芙蓉）

【芟。】 漢 サン 呉 セン ㋑かる（刈）㋺かま（大鎌）
【芟斫】サンシヤク 草を刈り木を伐り倒す。
【芟除】サンヂヨ 草を刈取りてふみにぢる。
【芟鋤】サンジヨ 草をかり除き根をすき去る根こそぎとり盡すこと。

【芯。】 漢フウ 呉ブ 芯草は一年草一のおほばこ 慣用音 フ

【芬●】 漢フン 呉ボン ㋑草のわかば ㋺かをり（香氣）㋩おこる（起）又そのさま
【芬芬】フンフン かんばしきさま。
【芬香】フンカウ よきにほひ、芳香。
【芬郁】フンイク 芬々に同じ。
【芬馨】フンケイ かほり、よきにほひ。

【芭。】 漢ハ 呉ヘ 芭蕉は熱帶地原産の植物の一 慣用音 バ

【芭蕉】バセウ 高さ十數尺、莖はやはらかで葉は長大、莖の纖維をむきとつて芭蕉布をつくる、ばせを。
【芭蕉旗魚】バセウカヂキ かぢきの一種で體は延長側扁にして上顎は劍狀をなし大形の春鰆を有する。

（芭蕉旗魚）

【芭苴】バナナ 芭蕉の多年生草本で莖は二丈餘に達し葉は頂上にむらがり出で初夏の頃淡黃色の花が咲き果實は長さ四五寸直徑一寸位で黃色の柔かい肉をもち澱粉分に富んでゐる。

（芭苴）

【芯。】 漢 シン 呉 ソン 蘭の一種、ほそゐ、燈心草
【芟】 漢呉 キ 菱の一種、ひし
【芸。】【耘通字】 漢 ウン ㋑香草の多くあるさま ㋺くさぎる（耘）㋩花の黃色な形容、又盛んなる貌
【芸香】ウンカウ 草の一、ヘンルーダ。
【芹。】 漢 キン 呉 ゴン 水中に生ずる一種の草、せり
【芹菜】キンサイ せり、みづぜり。
【芹献】キンケン 物を人に贈る時の謙辭。

【芻。】【芻俗字】 漢呉 慣用音 スウ ㋑草を刈る、くさかり、又その人 ㋺草食動物の總稱 ㋩まぐさ、まぐさを與へて飼ふ ㋥わら（藁）㋭まこも
【芻言】スウゲン 賤者の物語。
【芻蕘】スウゼウ ㋑自分の文章作品の謙稱 ㋺草刈ときこり。

【芼●】 漢 バウ 呉 モウ ㋑とる、擇り分けてとる ㋺肉と野菜とをまぜた食物
【芽】 國字 ぼだい
【苅】 一三三頁の刈を見よ。

五畫

【苑●】【苑】 漢 エン 呉 ヲン ウツ ヲチ
㋑その、かこひを設けて禽獸を飼ふには、草木花卉を栽培するかこひのうち ㋺物事の集まれる所
【苑囿】エンイウ には、その、庭園。
花苑クワエン　故苑コエン　舊苑キウエン　廣苑クワウエン
廢苑ハイエン　鹿苑ロクエン　天苑テンエン　禁苑キンエン
宮苑キユウエン　御苑ギヨエン　根苑コンエン　藝苑ゲイエン
藥苑ヤクエン　臺苑ダイエン　池苑チエン　文苑ブンエン

【苦。】【苦】 漢タイ 呉ダイ こけ（蘚）
【苔衣】タイイ こけの總稱。
【苔泉】タイセン 苔のむしたるいづみ。
【苔碑】タイヒ こけのむしたる石碑。
【苔紙】タイシ 水苔で製した紙。
【苔箋】タイセン 苔紙を小箋としたもの。
【苔髓】タイシウ 苔のむしたしきがはら。
【苔碣】タイケツ 前に同じ。「けのたぐひ。
【苔類】タイルイ 濕地に生ずる下等植物、こ
【苔藓】タイセン こけ、こけの類。
【苔蘚】タイシユ 樹石などにたれさがれる苔
【苔藓蟲類】タイセンチユウルイ 苔藓に類する蠕形動物で體形は極めて小さく多く石灰質の介殼を被り種々形狀を異にして群居する。

（苔藓蟲類）

【苗。】【苗別字】【苗】 漢 ベウ 呉 メウ
㋑なへ ㋺たね、ちすぢ、後裔 ㋩種族の名
【苗胤】ベウイン ちすぢ、遠き子孫。
【苗族】ベウゾク ㋑種族の一 ㋺一族、ちすぢ。

【苗裔】ベウエイ 子孫、ちすぢ。
【苗緒】ベウシヨ 遠きちすぢ、苗胤、苗裔。
【苗稼】ベウカ いねの苗。
【苗字】メウジ うぢな、名字。
【苗木】ナヘギ 樹木の苗。
【苗代】ナハシロ 稲の苗を植ゑつける田。
嘉苗カベウ 良苗リヤウベウ 美苗ビベウ 麥苗バクベウ
禾苗クワベウ 稻苗タウベウ 綠苗リヨクベウ 晩苗バンベウ

【苛○】【苛】

漢 カ 呉 ㋑きびし、からし、峻嚴、劇しい、きつい ㋺わづらはしい ㋩かゆし ㋥とがむ、せむ、しかる ㋭みだす 甚だ嚴しきこと。

【苛切】カセツ 嚴しく求める。
【苛求】カキウ つらき勞役。
【苛役】カエキ 租稅を人民から高くとりすきびしくむごきこと、苛酷。
【苛斂】カコク きびしき政事。
【苛刻】カヘフ きびしくおもいこと。
【苛政】カセイ きびしくせめる。
【苛重】カチヨウ 重き稅。
【苛責】カセキ 「せし批評むごたらしい批判。當を失
【苛稅】カゼイ 缺點をきびしく探し出す。
【苛評】カヒヤウ 苛刻に同じ。
【苛察】カサツ
【苛酷】カコク
【苛嚴】カゲン 嚴しきに過ぎる。
【苛性加里】カセイカリ 白色の結晶物、水酸化カリウム。

【荷○】【荷】

漢 コウ 呉 ク ㋑かり そめ、いさゝか、ちよつと ㋺いやしくも、かりにも、ちよつとにも ㋩まことに 荷・信・眞の其他

【同訓異義】まことに
の用法は八一頁の信を見よ。
【荷且】コウシヨ 間に合せ、なほざり 注意く
しよと讀むは誤り。
【荷安】コウアン その場のがれ。
【荷合】コウガフ 濫りに人の意に贊成する。
【荷免】コウメン ㋑爲すべき務を逃れて恥とせぬ ㋺一時罪を免れて得意になる。
【荷祿】コウロク 務を務を怠って俸祿をぬす
【荷偸】コウトウ 目前の安康をむさぼる。「むし

【若○】【若】

漢 ジヤク ジヤク 呉 ニヤク ニヤク

㋑ごとし（如）㋺したがふ（順）㋩なんぢ（汝）㋥しく（如）㋭かく、しかく、このやうに、かくのごとし ㋬假定のことば、もし ㋣もしくは ㋠形容詞の下に添へる助辭 ㋡わたつみ、海の神 ㋢又長きさま、垂れさがるさま ㋤わかし（弱）㋥かわいた草 ㋦梵語の音譯に用ゐる、般若の類 ㋧國訓わかし（新らしい、幼い、わかい、未熟である）

【同訓異義】ごとし
【如】は何々のやうなといふ義。
【由】は猶と音義とも同一である。
【若】は如とその意同一なれども稍や輕し。
【猶】は大抵これと似よりたりとの意
【同訓異義】なんぢ 若・汝・爾其他の用法は五八〇頁の汝を見よ。
【同訓異義】もし
【儻】は萬が一にもの意。
【如】は若に同じ。
【或】はどちらともきまらぬ意。
【若】はもしくはと讀めば或と同意にして、もしと讀めば如何に同じ。
【設】は假設の辭である。
【若干】ジヤクカン 數の約計、そくばく。
【若若】ジヤクジヤク 長く垂れさがる貌。
【若者】ジヤクシヤ 年わかき人、わか者、壯者
【若箇】ジヤクコ ㋑いかほど、そくばく ㋺こ「かもの。
のもの、あのもの。
【若輩】ジヤクハイ ㋑若曹に同じ ㋺若年、わ
【若爲】ジヤクヰ いかん、如何。
【若榴】ザクロ 石榴に同じ。

【若何】イカン いかに、如何。

【苦・】【苦】

漢 コ 呉 ク ㋑にがし ㋺にがな（茶）㋩くるし・せつない、貧しい ㋪くるしみ、なやみ、くるしむ ㋫ねんごろ（懇）㋬にがいあぢ ㋭月色がさえきる ㋮無常の煩累、生・病・老・死等 ㋯器がもろく損じ易い

【同訓異義】ねんごろ 苦・懇・懇其他の用法は頁四〇九の懇を見よ
【苦力】クリヨク ㋑一所懸命になる、力を苦める ㋺支那の勞働者、クリー。
【苦土】クド 白色の粉藥、酸化マグネシウム
【苦心】クシン 氣をつかふ、心配する。
【苦竹】クチク 竹の一、まだけ。
【苦行】クギヤウ つらい修行、主に佛道にいふ
【苦役】クエキ ㋑骨折り難儀する、又其勞働 ㋺刑罰として科せられた勞役。
【苦辛】クシン ㋑にがき一種の草 ㋺苦しむ
【苦味】クミ にがい味ひ。〔苦しみ。
【苦酒】クシユ 麥酒、ビール。
【苦茗】クメイ にがいちや、苦茶。
【苦吟】クギン 苦心して詩歌を作ること。
【苦言】クゲン 聞きづらい言。
【苦使】クシ むごくつかふ、虐使。
【苦界】クカイ ㋑遊女の境遇 ㋺苦の多き世。
【苦海】クカイ 際限なき苦惱の現世をいふ
【苦笑】クセウ にがわらひ。
【苦裏】クチユウ 心中のせつなさ。
【苦情】クジヤウ 不平を言ふこと。
【苦患】ククワン 苦しみ惱む、そのなやみ。
【苦痛】クツウ ㋑つらくせつない ㋺からだが苦しくていたい。
【苦勞】クラウ ㋑苦しみ疲れる ㋺心配する
【苦悶】クモン くるしみもだえる。「寒さ
【苦寒】クカン ㋑寒さに苦しむ ㋺きびしき
【苦業】クゲフ 苦しく骨の折れる業務。
【苦惱】クナウ 苦しみなやむ。
【苦楚】クソ 苦痛の名に同じ。
【苦境】クキヤウ くるしき場合。
【苦熱】クネツ きびしき暑さ。
【苦節】クセツ 困難にあひて變らぬ節義。
【苦慮】クリヨ 苦心に同じ。
【苦樂】クラク 苦しみと樂しみ。
【苦艱】クカン 苦しみ惱む。
【苦諫】クカン ねんごろにいさめる。
【苦戰】クセン 難儀な戰爭、くるしみ戰ふ。
【苦懷】ククワイ 苦しき思ひ、苦しい心。
【苦學】クガク 困苦を耐へて學ぶ。
【苦鬪】クトウ 苦戰に同じ。
【苦手】ニガテ 好ましからぬ對者、又自分の手におへぬこと。

【苦菜】ニガナ 山野に自生する小草本で黃色の花を開き苦味が多い。
【苦心慘澹】クシンサンタン 大いに苦しみ心を勞すること。
【苦味丁幾】クミチンキ 藥品の名、主として健胃劑として用ふ。
【苦肉之計】クニクノハカリゴト 自分の體をくるしめて敵をあざむく、又その計略。
苛苦カク 功苦コウク 困苦コン 悲苦ヒク
悽苦セイク 寒苦カン 辛苦シン 憂苦イウ
愁苦シウ 窮苦キウ 勤苦クン 刻苦コク

（苦菜）

【英○】【英】

漢 エイ 呉 ヤウ ㋑はな（草木の花にして開きて後みのらぬもの）草木の華 ㋺秀でゝ美しき所 ㋩はなぶさ（房）㋪は（葉）㋫草木のめばえ ㋬人なみすぐれる、又其人 ㋭矛を飾つた羽根 ㋮うるはしきさま ㋯雲の盛んなるさま ㋰英吉利國の略
【英才】エイサイ 勝れたる才能、又其人。
【英主】エイシユ すぐれたる君主。
【英名】エイメイ すぐれたる名聲。
【英明】エイメイ すぐれてかしこい。

【英姿】エイシ すぐれていさましき姿。
【英風】エイフウ ㊀すぐれたる德風 ㊁英國風
【英英】エイエイ 美しく盛んなる貌。
【英俊】エイシユン すぐれる、又其人。
【英氣】エイキ 勝れたる氣象。
【英哲】エイテツ 英俊に同じ。
【英略】エイリヤク 英圖に同じ。
【英將】エイシヤウ すぐれたる大將。
【英爽】エイサウ 容貌のすぐれたること。
【英雄】エイユウ 特に才武の勝れたる人。
【英資】エイシ すぐれたる性質。
【英聖】エイセイ すぐれて事理に通じた人。
【英圖】エイト なみ〳〵ならぬはかりごと。
【英語】エイゴ 英吉利國のことば。
【英算】エイサン すぐれたる謀。英略、妙算。
【英稟】エイリン すぐれたうまれつき。
【英謀】エイボウ すぐれたはかりごと。
【英傑】エイケツ 特にぬけでゝすぐれし人物
【英魂】エイコン 英雄のたましい。
【英豪】エイガウ すぐれて强い、又その人。
【英邁】エイマイ すぐれてぬきでゝゐる。
【英斷】エイダン 思ひきつて事を行ふこと。
【英譽】エイヨ すぐれたほまれ、榮譽。
【英靈】エイレイ ㊀すぐれたる人 ㊁英魂。
【英明果斷】エイメイクワダン かしこくして思ひ切つて事を行ふこと。

【茂●】【茂】

漢 ボウ ㊀しげし、多い ㊁しげる、盛んになる、多くなる ㊂才德勝れること ㊃つとむ
呉 モ

【同訓異義】**しげる** 茂・滋・繁其他の用法は八一三頁の繁を見よ。
【茂生】モセイ 茂り生ずる。
【茂行】モカウ 人にすぐれたる行爲。
【茂材】モサイ 才能のすぐれてゐること。
【茂林】モリン 樹木のしげるはやし。
【茂長】モチヤウ 茂りそばだつこと。
【茂草】モサウ 茂れる草。
【茂植】モシヨク 茂くう殖る。
【茂盛】モセイ しげる、又盛んなり。
幽茂イウモ 蕃茂ハンモ 沈茂チンモ 繁茂ハンモ
朴茂ボクモ 生茂セイモ 高茂カウモ 哲茂テツモ
暢茂チヤウモ 弘茂コウモ 俊茂シユンモ 雋茂シユンモ
淑茂シユクモ 熾茂シモ 壯茂サウモ 富茂フモ
榮茂エイモ 滋茂ジモ 蔓茂マンモ 淳茂ジユンモ
豐茂ホウモ 偉茂イモ 英茂エイモ 秀茂シウモ
雲英ウンエイ 參英サンエイ 殘英ザンエイ 素英ソエイ
賢英ケンエイ 華英クワエイ 雜英ザツエイ 祥英シヤウエイ
豪英ガウエイ 繁英ハンエイ 新英シンエイ 落英ラクエイ
重英チヨウエイ 衆英シユウエイ 玉英ギヨクエイ 群英グンエイ

【茅○】【茅】

漢 バウ ㊀菅の類、かや ㊁かやを刈り取る ㊂國訓かや（ちがや、すゝき等の總稱）ち（山野に自生する宿根草の一）
呉 メウ

【茅】チガヤ 禾本科の多年生草本で莖の高さは三四尺ばかり葉は細長く春の頃花を開き果實には白い長い毛があり果實の白毛は火口を作り莖と葉は屋根を葺くのに用ひる

（茅）

【茅土】バウド 古代天子が諸侯を封ずる時其領地の方角に應ずる色の土を白茅に包みて授けた故事。
【茅栗】バウリツ しばぐり、栗の一種。
【茅庵】バウアン 次に同じ。
【茅舍】バウシヤ かやぶきの家、自宅の謙稱。
【茅花】バウクワ つばな、草の名。
【茅門】バウモン かやぶき屋根の門。
【茅店】バウテン 田舍の茶店。
【茅室】バウシツ 粗末なる室。
【茅屋】バウヲク 茅舍に同じ。「ることの喩。
【茅茹】バウジヨ 多くの賢人が朝に進み仕へ
【茅堂】バウダウ 茅室に同じ。「謙稱。
【茅廬】バウロ かやぶきやねの家、自宅の

【茅卷】チマキ 米の粉をこねて茅の葉などにつゝみて蒸熟せしめたもの、端午の節句に食ふ。
【茅亭】チヌ くろだひ。
【茅潛】カヤグキ 燕雀類の鳥で形は頗白に似て居る頭部は茶褐色にて下部は一般に灰黑色で我國の山中に棲息し籠鳥として飼養せらるかやくどり。

（茅卷）　（茅潛）

【茅茨不剪】バウシキフズ 屋根を茅で葺きしまゝにてそろへぬ、儉約質素の形容。

【苴●】【苴】俗字

漢 キヨ ㊀蒿苴 ㊁苦苴はのぢさ、けしあざみ、けしなぐさ ㊂燈明用として葦などを束ねたもの、松明の類
呉 ゴ はちさ

【苒●】

漢 ゼン ㊀草の盛んに茂るさま ㊁時間がのびのびになる
呉 ネン

【苒苒】ゼンゼン 草の盛んに茂るさま。

【苓○】

漢 レイ ㊀菜の一、をなもみ ㊁茯苓は共に菌の一
呉 リヤウ

【苓耳】レウジ みゝなぐさ。

【苗●】

漢 テキ しのねぐさ
呉 デヤク

【苕○】

漢 テウ ㊀豌豆 ㊁陵苕はのうぜんかづら
呉 デウ

【苜●】

漢 ボク 苜蓿は豆の一種、うまごやし
呉 モク

【苜蓿】モクシユク うまごやし、目宿。

【苞○】

漢 ハウ ㊀わら等につゝんだ物品、つと ㊁草木のむらがり生ずるさま ㊂木の根 ㊃國訓つと（みやげ、みやげもの）
呉 ヘウ

【苞苴】ハウショ 贈答品（わらに包む贈物を包といひ、わらを下に敷くものを苴といふ）轉じて賄賂。
【苞裹】ハウクワ つつむ。

【苧●】

漢 チヨ ㊀麻の一種、からむし ㊁國訓を（かしの敷物、こも ㊂おほふ（覆）
呉 ド

【苦○】

漢 センらむしや麻の皮から採つた纖維）
呉 ソン ㊀菅又茅などで編んだ蓆、とま ㊁むしろ
呉 ク

【苦舟】トマブネ 苦で屋根を葺いた舟。

【苴◐】

漢 ショ 草の一種、なすび。
呉 ス ㊀しく（藉）㊁つと（苞）㊂あさ（麻の一種）㊃水上に浮ぶ枯れた草木

【肥料に混和する草】

【苳○】

漢 トウ ㊀苣苳は冬の一種の草 ㊁國訓ふき（草の名）
呉 ツ

【苹○】

漢 ヘイ ㊀蒿の一種、よもぎ ㊁苹果は林檎
呉 ヒヤウ

【苹果】ヘイクワ りんご（重に寒國に栽培され淡泊なる味ある果實）。

【苺●】【莓】別字

漢 バイ 山野に自生する一種の草、いちご
呉 メ

【苾●】

漢 ヒツ かをる、かんばし、又かをり
呉 ビチ

【蕃●】

漢 フツ ㊀草が生え茂るさま ㊁をさむ（治）㊂婦人のかんざしの類 ㊃婦人用の車のおほひ ㊄さいはひ（幸福）㊅ふさがる（塞）㊆强く盛んな貌 ㊇ひつぎなは（紼）㊈りいきをするさま
呉 ホツ

【范●】

漢 ハン ㊀蜂の一種、はち ㊁のり（範）かた
呉 ベン

【茄○】

漢 カ ㊀なすび、なす ㊁はすの莖
呉 ケ

【茄子】ナス 野菜の一種、なすび。

【茉●】

漢 バツ 茉莉は花卉の一
呉 マツ

【並】二六頁の並を見よ。

【羌】八二四頁の羌を見よ。

六畫

【茗・】【茗】漢メイ 呉ミャウ 慣用音 メイ

㋑ちや、茶の芽、又其飲物㋺特に晩く採取した茶（ばんちや）

【茗汁】茶を煎じた汁。

【茗坊】茶みせ。

【茗香】茶のかをり。

【茗園】茶ばたけ。

【茗器】茶器、茶道具。

【茗荷】㋑ミャウガ 裏荷科の多年生草本にして特異の香氣を有し高さ二三尺ばかり、花は穂狀に排列し鱗狀葉を以てこれを被覆し食用に供せられ、嫩い莖葉の乾かしたものは鞋・草履・繩等をつくる料に用ひらる

（荷茗）

【茗圃】茶園。

【茗宴】茶の湯の會。

【茗筵】茶の湯のざしき。

【茨○】【茨】漢シ ㋑ふく㋺かや㋩うばら、屋根を生ずる一種の蔓草、はまびし㋥つむ（積）

【茨草】草ぶき屋根に用ゐる草。

【茨棘】いばら。

【茶○】【茶】漢タ 慣用音チャ 呉サ ダ セ

㋑ちや、灌木の一、ちやの木、ちやのめ、茶の若葉、それを飲物の原料に製したもの㋺しんちや、特に早く採取した茶

【茶巾】ちやぶきん、茶碗ぶきん。

【茶色】㋑ちやいろ㋺茶の種類。

【茶臼】ちやうす、茶磨。

【茶伯】茶道に通達したる人。

【茶果】ちやとくだもの、茶と菓子。

【茶焙】茶を製する具、ほいろ。

【茶事】茶技、茶道㋺茶に關する事

【茶匙】㋑茶の湯に用ふる匙㋺コーヒーなど飲むに用ふる匙茶。

【茶壺】茶を入れるつぼ

【茶道】茶の湯の技術。

【茶店】㋑かけ茶屋㋺茶を賣る店。

【茶宴】茶の湯。

【茶菓】㋑茶果に同じ㋺茶と菓子。

【茶道】茶の湯のわざ。

【茶會】茶宴のあつまり。

【茶話】茶のみばなし。

【茶滓】茶の煎じかす、茶かす。

【茶爐】お茶の湯を煮る爐。

【茶人】風流の人。「づら、腕白。俗におどけたること、いた

【茶目】

【茶托】茶碗をのせる臺。

【茶室】茶の湯を催す室。

【茶亭】茶店の㋑に同じ。

【茶湯】㋑佛に供へる茶㋺たてた茶

【茶筅】茶をかきまはす道具。

【茶椀】㋑茶を飲む物㋺飯を盛る器

【茶粥】茶の汁を加へて煮た粥。

【茶番】茶を出す役、おどけ役、狂言

【茶園】茶ばたけ。

【茶寮】すきや、茶室。

【茶器】茶道具。

【茶字綿】船來の絹織物、薄くてかろい、多くは袴地に用ふ。

【茶飯事】ありふれたる事柄。

【茶褐色】黑味がゝつた茶色。

【茶話會】親睦又は相談等の爲めにする簡單なる會合。「をなす狂言。

【茶番狂言】道化たるしぶり

【喫茶】茶の湯。

【苦茶】名茶

【焙茶】

【荆○】【荆】漢ケイ 呉キャウ ら（茨）

㋑うばいばら㋺しもと（刑杖）㋩自分の妻の謙稱㋥地名（昔九州の一）

【荆妻】我妻の謙稱。

【荆棘】いばら、雜木雜草。

【荆榛】いばらとはしばみ。

【草・】【草】古字【艹】漢サウ 呉ソウ

㋑植物の二類別の一、くさ㋺あらし、そまつ㋩いやし（鄙）㋥詩文のしたがき㋭書體の一㋮うれへる貌㋯いそがしき貌

【草子】筆のまゝに書き記した書物。

【草木】くさとき。「たがき。

【草本】㋑草質の植物㋺文章等のし

【草市】㋑田舍の町㋺うらぼんの精靈祭に供ふる草花を商ふ市。

【草卒】あわたゞしい、倉卒。

【草色】草のいろ、又くさいろ。

【草具】粗末な膳部。「に足らぬ物。

【草芥】くさとあくた、轉じて取る

【草味】㋑物事のまだ能く整はぬさま㋺世のはじめ、天下統一の初期。

【草茅】草と茅、轉じて民間、草莽。

【草臥】疲勞すること。

【草屋】草ぶきの家。

【草書】書體の一、くづした書體。

【草紙】㋑手習をする紙㋺書畫文章等のしたがき㋩草子に同じ。

【草草】㋑憂へるさま㋺忙しき貌。

【草堂】㋑田舍家の室。

【草履】㋑わらぐつ、又ざうり。

【草案】公私の文章又は法律命令の

【草庵】草ぶきのいほり。「下書き。

【草莽】㋑草叢に同じ㋺草野、在野。

【草創】㋑事をなし始める㋺未だよく整はぬしたがきをする。

【草賊】こぬすびと、又百姓一揆。

【草莊】草のはきもの、わらぢ、わ

【茗荷】多年生草木の一。「らんぢ。

【草寮】草ぶきの家。

【草稿】草案に同じ。

【草褥】

【草螽】高翅類の昆蟲、頭は圓錐狀をなし夏日麥畑で鳴き口に物をかませて引く時は首が切れる迄離さぬよりこの名がある、くびきりばつた。

（螽草）

【草履】民間に居る臣。

【草藁】百合科の植物、淡紅又は黃色穗狀の花を碧く熱帶地方の產にて一に龍舌草といふ。

（草蘆會）

【草夾竹桃】花忍科の多年生草

【草蟲】草原に棲む蟲。

【草廬】草庵に同じ。「に喩ふ。

【草露】草葉のつゆ、はかなきもの

【草片石】珊瑚類の一で海中の岩石に著生し石灰質の骨格は莖を去つた松茸の面の樣な形狀をして居る

（草片石）

【草鞋錢】行脚僧の旅費。

【草薙劍】三種の神器の一。

【草石蠶】野菜の一、ちよろぎ高さ一二尺、秋の頃淡紅紫色の花を穗狀に綴り地下に連珠狀の塊莖を生じ食用に供せらる。

（草石蠶）

【草莽臣】民間に居る臣。

本で莖は強直、高さ二尺乃至六尺あり、葉は長楕圓形で對生し夏秋の頃盆狀淡紅色又は白色の花を開き觀賞用として栽培される

（桃夾竹草）

【草食動物】サウショクドウブツ　馬・牛・羊等の如く草を常食とする哺乳動物。

甘草カンサウ　仙草センサウ　靈草レイサウ　行草ギヤサウ　醫草イサウ　芳草ハウサウ　豐草ホウサウ　水草スイサウ　蔓草マンサウ　茂草モサウ　腐草フサウ　神草シンサウ　萬草バンサウ　百草ヒヤクサウ　香草カウサウ　春草シユンサウ　翠草スイサウ　碧草ヘキサウ　青草セイサウ　藥草ヤクサウ　秋草シウサウ　露草ロサウ　遺草キサウ　霜草サウサウ　庶草シヨサウ　雜草ザツサウ　善草ゼンサウ　美草ビサウ　淺草センサウ　野草ヤサウ　毒草ドクサウ　薪草シンサウ　奇草キサウ　珍草チンサウ　糧草リヤウサウ　艷草エンサウ　荒草クワウサウ　異草イサウ　詠草エイサウ　碩草セキサウ　山草サンサウ　眞草シンサウ　砂草サウサウ　黄草クワウサウ

【荏●】【荏】

漢ジン　呉ニン　（豆）ロ　イまめ　紫蘇の種（え）ハやはらか　【荏苒】ジンゼン　物事のゝびゝになること　【荏染】ジンセン　柔かなるさま。

【荏弱】ジヨジヤク　よわきこと、懦弱。

【荏胡麻】エゴマ　唇形科の一年生栽培草本で莖は四角形をなして長さ二三尺に達し葉は卵形で對生し淡綠色の長い葉柄に支へられ夏季に白い花を開き種子から荏胡麻油を製する。

（荏胡麻）

【荒○】【荒】

漢クワウ　呉ワウ　イある、蕪穢、穀物果類などがみのらぬ、物事が亂れて整頓せぬ、あらロすふける、又すさむ、おろそかにすハ國のはてニ畿内を中心とし五百里づゝに區劃したる五等地のうち最外周の地ホおほいなり（大）ヘおほふ（掩）トうつとりするさま チ國訓あらし（てあら、亂暴勇猛、風雨等のはげしきこと、粗大なること）あれる、又あれ

【荒亡】クワウバウ　狩獵酒色などにふけること　【荒土】クワウド　あれはてたる土地。　【荒地】クワウチ　あれたる土地。　【荒原】クワウゲン　あれ野、あれた野原。　【荒神】クワウジン　イ惡人を罰する神の名ロ我國にてはかまどの神として祀る。

【荒涼】クワウリヤウ　あれてさびしき貌。　【荒唐】クワウタウ　よりどころなき言辭。　【荒淫】クワウイン　酒色にふけりおぼれること　【荒屋】クワウヲク　あばらや、あれはてた家。　【荒怠】クワウタイ　怠りなまける、怠惰。　【荒酒】クワウシユ　酒にすさみ溺れる。　【荒野】クワウヤ　荒原に同じ。　【荒誕】クワウタン　よりどころなし。　【荒歲】クワウサイ　穀物のみのらぬ年。　【荒蕪】クワウブ　土地があれはてる。　【荒海】フラウミ　波のあらき海洋。　【荒廢】クワウハイ　あれすたる。　【荒蕪地】クワウブチ　あれはてた土地。　【荒唐之言】クワウタウノゲン　取留めなき言葉。　凶荒キヨウクワウ　洪荒コウクワウ　蕪荒ブクワウ　窮荒キユウクワウ　酒荒シユクワウ　豐荒ホウクワウ　淫荒インクワウ　色荒シキクワウ

【荔●】【荔】

俗字　漢呉リ　イ慣用音レイに似た一種の草ロ荔枝は閩廣地方に生ずる木ハ薜荔はまさきのかづらニ國訓れいし（荔枝、瓜の一種）

【荔枝】レイシ　無患樹科の常綠木で龍眼に似て居る種子を被ひつゝめる肉皮を食用に供する。

（荔枝）

【茜●】

漢呉　注意さい、せいと讀むセン　は誤り。蔓草の一、あかねロあかいろ。

【茜草】センサウ　あかねぐさ、茜科に屬する多年生蔓草の一、昔は根より染料を取りし物。

（茜草）

【茜色】センシヨク　あかね色　注意せいしよくと讀むは誤り。

【茫○】

漢バウ　イ遠くひろきさまロ呉マウ　うつとりした貌、ぼんやりしたさまハぼつとせるさま

【茫乎】バウコ　ぼんやりしたるさま。　【茫洋】バウヤウ　廣々として空しきさま。　【茫茫】バウバウ　遠くひろ〳〵とせる貌。　【茫然】バウゼン　ぼんやりとせるさま。　【茫漠】バウバク　ぼんやりしてはつきり分ら　【茫邈】バウバク　遠くはるかなる貌。しぬ貌。

【茯●】

漢フク　呉ブク　茯苓は松の根に寄生する菌類

【茲○】【茲】

別字　漢呉シ　注意茲とは全然別字なるも今は一般俗字として混用さる。イます〳〵ロむしろ（席）ハこの、これ、こゝ、こゝにニとし（年）

【同訓異義】ここに　茲・爰等の用法は六五〇頁の爰を見よ。

【茴○】

漢クワイ　呉エ　茴香は香草慣用音ウキ　うゐきやう

【茵○】

漢呉インしきもの、しとね

【茵席】インセキ　次に同じ。　【茵蓐】インジヨク　しとね、車中にしく敷物。　【茵褥】インジヨク　前に同じ。

【茸●】

漢ジヨウ　呉ニユ　注意じと讀むは誤りイしげし、しげる草や毛などの亂れたるさまハ鹿茸は藥の一ニ嵌しき者、おろかなもの（國訓たけ（蕈、又たけの如く生え出るもの）

【茸茸】ジヨウジヨウ　草の盛んにしげる貌。　【茸狩】タケガリ　きのこをとること。

【茹●】

漢ジヨ　呉ニヨ　ジユ　ニユ　イ草木の根の連なるさま又其根ロはかる（度）ハくらふ（食）ニくさる（腐）ホあかね（茜）ヘゆびく、ゆでる、うでるトひたしもの、ゆびきな

【同訓異義】くらふ　茹・喫・食の用法は一一四七頁の食を見よ。

【荀○】

漢シユン　呉ジユン　イ荀卿は孟子の性善說に反對して性惡說を唱道した學者の名ロかやの如き一種の草

【荄○】

漢カイ　呉ケ　ね、草の根

【苔●】【答】

通字　漢タフ　イあたる　呉トフ（當）ひきうけるロますめの名（合）ハこたふ

【荇●】

漢カウ　呉ギヤウ　水草の一、あさゞ

【荐●】

漢セン　呉ゼン　注意そんと讀むは誤りイしきりにロくさ（草）ハすゝむ（薦）

【同訓異義】しきりに　荐・仍・頻其他の用法は五八頁の仍を見よ。

【荐問】センモン　たび〳〵おとづれる。　【荐居】センキヨ　水草を逐ひて移住する。

【荑○】

漢テイ　呉ダイ　イ茅の初生のもの、つばな又茅の類ロ稗の一種、いぬびえ

【莫●】【莫】

別字　漢呉コン　イうまのあしがたロやまとりかぶとの苗ハきんぽうげ

【前】

一四〇頁の前を見よ。

【巷】

三三七頁の巷を見よ

【美】八二四頁の美を見よ

【革】一一三一頁の革を見よ

【首】一一五三頁の首を見よ

七畫

【荷○】【荷別字】漢カ 呉ガ 蓮荷は藥草の一㋑になふ、引きうける、恩をありがたく感ず㋺になひ物、に、にもつ ㋩怨み怒る聲、又しわがれ聲の形容㋥國訓に（にもつ、じやまもの、荷物を數へる語）

【荷香】カカウ 蓮の花のかをり。

【荷葉】カヨウ 蓮の花の異名。

【荷擔】カタン ㋑物を添へる㋺になふとか

【荷札】ニフダ 荷物につけるしるしの札。

【荷車】ニグルマ 荷物を運搬する車。

【荷物】ニモツ 持ちはこぶべき物品。

【荷爲替】ニガハセ 荷送人がその荷物を擔保として爲替手形を振出し銀行より金を受取り荷受人は同額の金を銀行に拂ひて荷物を受取す方法の爲替手形。

紅荷コウカ　枯荷コカ　碧荷ヘキカ

綠荷リヨクカ　初荷シヨカ　蒲荷ホカ　薄荷ハクカ　負荷フカ　擔荷タンカ　重荷チヨウカ

【荻●】【荻別字】漢テキ 呉ジヤク をぎ

【荻洲】テキシウ をぎのはえて居る洲。

【荻蘆】テキロ をぎとあし。

【莊○】【莊別字】漢シヤウ 呉サウ ㋑おごそか（嚴）㋺かざる（飾）㋩つじ、六達の街㋥しもやしき、ひかへやしき㋭みなか、むらざと㋬みせ、店肆、田地㋮臺灣の行政區劃の一㋯國訓しやう（莊園の略）

【莊士】サウシ 行儀作法の正しき人。

【莊列】サウレツ 莊子と列子。

【莊老】サウラウ 莊子と老子、又君子の道。

【莊重】サウチヨウ 嚴かにしておもみがある

【莊司】シヤウシ 昔莊園所有者の指揮を受けて其莊園の事務を取扱ひし役人。

【莊園】シヤウエン ㋑中古皇子諸臣等に賜はりたる田園㋺しもやしき。

【莊嚴】シヤウゴン 嚴かに見える 注意 莊嚴けだかく立派にかざりて書くは誤り。

【莖○】【莖別字】漢カウ 呉キヤウ 慣用音ケイ 略

㋑草本植物のみき、くきの形したるもの㋺根と枝葉との中間にありて養分を貯藏する部分㋩はしら（柱）㋭さを㋬物品の柄又は細きものを數へる語

香莖カウ　莖チヨウ　長莖チヨウ　女莖ヂヨ　柔莖ジウ

蓮莖レンカウ　弱莖ジヤク　新莖シン　紫莖シカウ

細莖サイカウ　枝莖シカウ　織莖センカウ　敷莖フカウ

【莚●】【莚別字】【莚別字】漢エン 呉 注意 莚に誤用されてゐるのは誤りである 莚つゞく（續）㋺國訓むしろ

【莫●】【莫別字】漢バク ボ 呉マク ム ミヤク

㋑否定の語、なし（無）㋺なかれ㋩なからんや㋬はかる（謀）㋭さだまる（定）㋮物事に贊成せぬこと㋯草木の茂る貌㋰ひろき貌㋱やすむ、やむ㋲幕に通ず㋳しづかなるさま㋴きよし（淨）㋵暮に通ずしづかなるさま㋶菜の一種

【同訓異義】なし 莫・無・微其他の用法は六三六頁の無を見よ。「に大きい。

【莫大】バクダイ この上なく大なる意、非常

【莫府】バクフ 幕府、將軍の陣營。

【莫逆】バクギヤク 仲がよい、さからはぬ。

【莫莫】バクバク ㋑草木の茂る貌㋺靜か。

【莫邪】バクヤ 名劍の名。

【莫大小】ノリヤス 織物の名、めりやす。

索莫サクバク 廣莫クワウバク 落莫ラクバク 遮莫サモアラバ

【荳●】漢トウ 呉ヅ ㋑まめ（豆）㋺荳蔻は草の一

【茶○】【茶別字】漢タ 呉ヅダ ㋑一種の野草、のげし㋺茅の一種にて白色の花を著けるもの㋩あれくさ㋬物事をそこなふもの㋭いつはる（僞）

【茶毒】トドク そこなひ破ること。

【茶靡】トビ 薔薇科の落葉灌木の一。

【茶毗】ダビ 葬儀の一、火葬。

【莉●】漢リ 呉 茉莉は暖地に產する一種の常綠灌木。

【茴○】漢バウ 呉ミヤウ 草の名、はは ぐり、あみがさゆり

【莅●】漢リ 呉 注意 莅と讀むは誤り、のぞむ、其位に卽く、君臨する

【莓○】【莓別字】漢バイ 呉マイ ㋑こけ（苔）㋺いちごの一種、きいちご㋩田虫のをあらはしたるむさま

【莢●】漢キヤウ 呉ケフ ㋑豆類の實を包んでゐる殼、さや㋺鍵の名。

【莢迷】カマズミ 忍冬科の落葉喬木で山野に自生し材は種々の用に供す。

【莞○】漢クワン 呉ゲン ㋑濕地に生ずる一種の草、ゐ㋺ほゝゑむさま

【莞爾】クワンジ につこりと笑ふ貌。

【莠●】漢イウ 呉ユ ㋑稻に似た雜草、はぐさ㋺轉じて善に似て實は害惡をなすもの

【莨○】漢ラウ 呉 ㋑牛馬の食料となる草の一種㋺國訓たばこ

【莨菪】ハシリドコロ 山野に自生する藥用草本で葉は長橢圓形を成し鐘狀の花を開く。

【莖○】漢ケイ 呉 ㋑葦の莖の中にある薄い物事の譬㋺うゑに適る

【莪○】漢ガ 呉 蒿の一種、つのよもぎ

【差】三三五頁の差を見よ。

【恭】三八八頁の恭を見よ。

【恙】三八九頁の恙を見よ。

【羔】八二五頁の羔を見よ。

八畫

【菅○】【菅】 漢 クワン 呉 コ
茅の一種、すげ、すが
【菅笠】スゲガサ 菅の葉で
あんだ笠。

（菅笠）

【菊●】【菊】 漢 キク 花卉の
呉 コク 一、きく
【菊水】キクスイ ㋑河南省内鄉縣にある川、
水上に大菊が咲き其水を飲めば長壽を
得るといふ㋺流水に菊を配したる紋所
【菊月】キクゲツ 陰暦九月の異名、きくづき。
【菊判】キクバン 紙形の稱、巾二尺一寸長さ
三尺一寸の大さの洋紙を十六片に切つ
た大きさ、もと其洋紙の包被に菊花印
を附したるより起る。
【菊花酒】キククワシュ 菊花を入れて造つた酒
【菊花大綬章】キククワダイジュシャウ 菊花の模様
ある最高勳章、大勳位の者に賜はる。
佳菊カキク 秋菊シウキク 盆菊ボンキク 芳菊ハウキク
黄菊クワウキク 白菊ハクキク 丹菊タンキク 園菊エンキク
殘菊ザンキク 籬菊リキク 霜菊サウキク 紫菊シキク

【菌●】 漢 キン ㋑たけ、きのこ、
呉 コン くさびら（蕈）㋺極
めて微細なる下等植物
【菌毒】キンドク 菌類に含有する毒草。
【菌桂】キンケイ 肉桂の
一種、我國に產す
る肉桂樹は此種の
ものなりといふ葉
は柳の葉の如く花
に黄白の二種ある

（桂菌）

【菌蕈】キンシン たけ、きのこ。
【菌類】キンルイ きのこ類の總稱。

【菓●】【菓】 漢 呉 ㋑くだもの、
クワ 果實㋺食事
以外に用ゐる娯樂性の食品、くわし
【菓子】クワシ 宇解の㋺に同じ。

【菜●】【菜】 漢 呉 ㋑あをもの
サイ な、やさい
㋺さかな、おかず
【菜色】サイショク 青菜の如き青色、飢ゑた
顏色例民に菜色なし。
【菜根】サイコン 芋や大根などの粗末な食物
【菜食】サイショク 野菜のみを食ふ。
【菜圃】サイホ 野菜ばたけ、菜圃、菜畦。
【菜飯】サイハン そまつな食事、菜めし。
【菜園】サイエン 菜圃に同じ。
【菜根譚】サイコイタン 精神修養書（明の洪自
【菜食者】サイショクシャ ㋑貧しい生活をする
人㋺野菜類のみを食ひ肉食せぬ人。
【菜葉服】ナッパフク 勞働者の著る青色の服
【菜食療法】サイショクレウハウ 肉食を避け主と
して野菜を食して病氣を治する療法。
【菠薐草】ハウレンサウ 藜
科に屬する一二年
生草で莖の高さは
一二尺ばかり葉は
三角狀の卵形をな
し夏の頃綠黄色の
小さい四瓣花を開き葉を食用に供する

（菠薐草）

【菩●】【菩】 漢 ハイ ホ
呉 ベ ブ
慣用音 ボ
菩提は梵語（Bodhi）の音譯にて佛道、
佛智、正覺等に譯す
【菩提】ボダイ 宇解を見よ。
【菩薩】ボサツ ㋑昔朝廷より高僧に與へた
稱號㋺菩提薩埵の略にて佛に次ぐ階級
【菩提樹】ボダイジュ ㋑
釋迦が其下で大悟
徹底したといふ印
度の迦耶山の麓に
生ずる木㋺木の名
しなの木。

（菩提樹）

【菩提心】ボダイシン 佛の心、又佛果を願ふ心。

【華◎】【華・花】【華】 漢 クワ 呉 ゲ
㋺はなやか、盛んなり㋩うはべ㋥しろ
し（白）又白き粉㋭支那人が自國を稱す
る語㋬山の名（陝西省華陰縣所在）
【華下】クワカ 花のさく下、はなかげ。
【華文】クワブン はなやかなる文章。
【華名】クワメイ よきほまれ。
【華足】クワソク ゲソク 臺の足に花飾を刻みしもの
【華言】クワゲン うはべのみで實なき言葉。
【華甲】クワカフ 年齡の六十一歲、還曆。
【華押】クワアフ かきはん、花挿。
【華美】クワビ 花やかにして美くし。
【華表】クワヘウ ㋑神社の門、とりゐ㋺墓所
にたてる桔梗形の柱。「貴き家柄。
【華族】クワゾク ㋑公・侯・伯・子・男の五爵㋺
【華冑】クワチウ 貴族の子弟、家柄。
【華奢】クワシヤ はでやかでおごること。
【華墨】クワボク 他人の手紙の敬稱。
【華翰】クワカン ㋑前に同じ㋺よき筆。
【華燭】クワショク 結婚の儀式。
【華顏】クワガン 花顏に同じ。
【華甍】クワセン 美しい模樣ある毛布。
【華靡】クワビ 美しくてはでやかなること
【華麗】クワレイ 華美に同じ。
【華嚴宗】ケゴンシウ 佛教宗派の一。
【華胥之夢】クワショノユメ 晝寢のこと。
法華ホウケ 水華スイクワ 素華ソクワ 朱華シユクワ
荷華カクワ 黄華クワウクワ 節華セツクワ 女華ヂヨクワ
銀華ギンクワ 繁華ハンクワ 京華ケイクワ 物華ブツクワ
園華エンクワ 英華エイクワ 國華コククワ 榮華エイグワ
浮華フクワ 優華イウクワ 玄華ゲンクワ 譯華セイクワ
繊華センクワ 豊華ホウクワ 閑華カンクワ 鮮華センクワ
豪華ガウクワ 端華タンクワ 文華ブンクワ 芳華ハウクワ
才華サイクワ 奢華シヤクワ 精華セイクワ 珍華チンクワ
中華チユウクワ 紛華フンクワ 鳳華フウクワ 清華セイクワ

【菱○】【菱】 漢 呉 リヨウ
㋑水草の一、ひし㋺ひしがた、扁平な
る四角形
【菱花】リヤウクワ ㋑菱
の花㋺鏡の異名。
【菱】ヒシ ㋑池に自生
する多年生草本で
葉はやゝ三角形を
なし白花を開き角狀突起の堅果を結ぶ
㋺ひしがた㋩紋所の名、菱。

（菱）

【菲●】【菲】 漢 呉 ㋑うすくす
ヒ うすし㋺ざ
うり（草履）㋩菜の一㋥かうばしきさま
㋭花の美しき貌、又草の茂るさま㋬亂
雜なるさま
【同訓異義】 **うすし** 菲・淡・薄其他の用
法は九〇四頁の薄を見よ。
【菲才】ヒサイ 才能のにぶきこと。
【菲菲】ヒヒ ㋑かんばしきさま㋺美しい貌
【菲德】ヒトク 德が人に劣れること。
【菲沃斯】ヒヨス 茄科の一年生又は越年生
草本で歐羅巴・阿
弗利加・西比利亞・
印度等に產し莖は
直立し高さ一二尺
にして白色の軟毛
を生ず此植物は痲
醉劑として醫藥に供せられる。

（斯沃菲）

【萄○】【萄】 漢 タウ 蒲萄は
呉 ドウ 蔓生果
樹の一、葡萄

【萌○】【萌】 俗字 漢 ミヤウ
呉 バウ
㋑きざし、めばえ、めざし、おこり㋺
きざす、もゆ、芽を出す又おこる、は
じまる㋩たみ（民）㋥動かざるさま㋭た
がやす（耕）

【萌芽】バウガ ㊀めぐむ、芽を出す㊁おこる、始まる、きざす㊂めばえ。「ると。

【萌蘖】ハウゲツ 芽とひこばえ、又物の生ずすること

【菖○】【菖】漢シャウ ㊀水邊に生ずる香草の一、しやうぶ、あやめぐさ㊁あやめ草の一種、あやめ

【菖蒲】シャウブ あやめ

あやめぐさ。三四尺にのび初夏の頃淡黄色の花が咲き特別の香氣を放ち觀賞用として栽培せられ根莖は藥用又は香料となる。

（菖蒲）

【葬俗字】【莽●】漢バウ ㊀くさ、呉マウ くさむら㊁草ぶかきさま㊂とほし、かすか㊃おろそか、あらし

【莽莽】バウバウ 草ぶかき貌。

【菀●】漢エン ㊀紫菀は花卉の一呉チン ㊁草木の茂れる貌㊂積み重なる

【菁○】漢セイ ㊀かぶら、かぶ、呉シャウ かぶらな（蕪）㊁茅の一、たまほ㊂はな㊃草木の茂れる貌

【菁莪】セイガ 人材を養成すること。草木の茂れる貌。

【菖○】漢呉 ㊀香草の一㊁菖蒲、蒲

【菖蒲】コンニヤク 植物の一種、食用に供す。

【菖蒲版】コンニヤクバン にかは・寒天・アラビヤゴム等にて水平に作りこれに文字を書き印刷する器械。

【菔●】漢フク 萊菔はだいこん呉ボク（蘿蔔）

【菘○】漢シュウ 野菜の一、たうな呉スウ ㊀苑絲は蔓草の一、ねなしかづら㊁うさぎ（兎）㊂於苑はとら（虎）

【菟●】漢ト ツ ゾ

【菠○】漢呉 菠薐草は野菜の一、はうれんさう

【菠薐草】ハウレンサウ 字解を見よ。

【菡俗字】【菡俗字】漢カン 國書はは呉ゴン す、蓮花

【若○】漢ダウ 莫若は毒草の一呉ダウ 池沼に生ずる水草の一、まこも（菰）

【菰○】漢コ ㊀つけもの、鹽や酢に漬けた生呉ク

【菹○】【菹】漢ショ ㊀草木の盛んに茂る貌㊁美しき模樣呉ソ

の蔬菜又は果實㊁草の深き澤㊂鹽肉に

【菹●】【菹】漢シュク ㊀原野に自生する草、すみれ㊁毒草、とりかぶと

【菽●】漢シュク まめ（豆類の總稱）呉ソク 豆とむぎ。

【菽麥】シュクバク ㊀まめがら㊁荻の一

【萁○】漢キ ㊀種呉ギ

【萁菔】キフク 萁草で編んだ服。

【萃●】漢スヰ サイ ㊀あつむ、あつまる、あつまり呉ズヰ ゼ

（聚）㊁やつる（寢）

【同訓異義】あつまる 萃・聚・集其他の用法は八三六頁の聚を見よ。

【萃美】スヰビ よきものを集める。

【萇○】漢チャウ 蔓草の一、いら呉ヂャウ ゝぐさ

【萊○】漢呉 ㊀あかざ（藜）㊁くさむらイ ㊂地味が不良で植付の出來ぬ田㊃草を除く㊄萊菔は大根

【萊蕪】ライブ 雜草のしげれる土地。

【萋○】漢セイ ㊀草木の盛んに茂る貌㊁美しき模樣呉サイ

㊂うやうやしきさま、つつしむすること

【萍○】漢ヘイ 呉ビヤウ 水草の一慣用音 ヒヤウ うきくさ

【萍泊】ヘイハク 一時身を他によせる、又さまよふ。

【萍藻】ヘイソウ うきくさ。

枯萍コヘイ 浮萍フヘイ 漂萍ヒヘイ

新萍シンヘイ 紫萍シヘイ 疎萍ソヘイ 雙萍サウヘイ

【萎●】漢呉 ㊀草木が衰へしぼむ、キ しほれる㊁支へる力が無くなる、なゆ㊂衰微する、衰へ疲れる㊃病氣になる、やみつく㊄草の一

【萎死】キシ しほれて死す、しほれ枯れる。

【萎縮】キシユク なえちゞまる、衰へる。

【萎靡】キビ 活氣が無くなる、なえしぼむ。

【萄●】漢タン 園書はは（蓮）呉ドン

【羞】八二五頁の羞を見よ。

【菴】三五三頁の庵を見よ。

九畫

【萩○】【萩】漢シウ ㊀はぎ、自呉シユ 生の瀧木㊁よもぎ（蓬）㊂ひさぎ（秋）

【萱○】【萱】漢ケン ㊀宿根呉クワン 草の一わすれぐさ㊁國訓かや（草に似た一種の宿根草）

【萱堂】ケンダウ 母親のこと。

【落●】【落】漢呉 ㊀おつ、草ラク 木の葉や花が散る、さがる、くだる、へる、少くなる㊁手にはいる、其人の物となる㊂はまる、落込む、死ぬ、たふれる、ぬける、脫卻する㊃しづむ、かくれる、又くづれる、衰へる㊄おとす、さげる、くだす、攻めとる、ぬきとる㊅くだく、あらす、やぶる㊆うしなふ、なくする㊇おちぶれる㊈家屋を新築する時に行ふ儀式㊉出來あがる㊊むら、人のあつまり㊋へい、まがき㊌雨だれのしづく㊍國訓おつ、おとす、おち

【同訓異義】おつる 墮は落ちくづれるの意。

【墜】は落ちくづれ落つるの意。

【墜】はくづれ落つるの意。

【落】は何にても上から下へ落つる意

【零】はこぼれ落つるの意。

【隕】は眞直にずんと落つるの意。

【落丁】ラクチヤウ 書物の中の頁の或箇所が抜けて不足すること。

【落日】ラクジツ ゆふひ、夕陽。

【落手】ラクシユ うけとる、入手。

【落下】ラクカ 落ち下ると、又其他動詞。

【落木】ラクボク 葉のおちた樹木。

【落句】ラクク 漢詩の起句又は結句。

【落月】ラクゲツ 入りかゝつた月。

【落札】ラクサツ 入札物件を落し取ること。

【落伍】ラクゴ 兵士が其隊よりはづれると

【落成】ラクセイ 家屋等が新しく出來あがる

【落命】ラクメイ 死ぬこと。

【落花】ラククワ 落紅に同じ。

【落英】ラクエイ 前に同じ。

【落首】ラクシユ 諷刺滑稽などの意を含め故意に路傍等におとして置く歌。

【落莫】ラクバク さびしいさま。

【落脫】ラクダツ ぬけ落ちる、又ぬかす。

【落胤】ラクイン 貴人の私生兒、おとしだね。

【落紅】ラクコウ 花の散ること、散る花。

【落城】ラクジヤウ 戰ひに敗けて城が落ちる

【落涙】ラクルキ 涙をながす、又その涙。

【落葉】ラクエフ おちば。

【落宴】ラクエン 新築落成の祝宴、俗に座敷

【落馬】ラクバ 馬からおちる。

【落書】ラクシヨ ㊀門又壁などのいたづらがき、らくがき㊁おとしぶみ。【びらき。

【落潮】ラクテウ ひきしほ、おちしほ、退潮。

【落霞】ラクカ ゆふがすみ（一說に飛蛾）。

【落第】ラクダイ 試驗に合格し得ぬこと。

【落雁】ラクガン ㋑空から下り來る雁㋺米又は麥の粉と砂糖にて製した菓子の一種

【落筆】ラクヒツ 筆にてかき始める、下筆。

【落掌】ラクシャウ 受取ること。

【落款】ラククワン 自ら書きし書畫の一端に己の名を署し又は印形を捺すこと。

【落著】ラクチャク 物事のきまりがつくこと

【落想】ラクサウ 著想、おもひつき。

【落雷】ライラク かみなりの落ちること。

【落暉】ラクキ 夕日のかげ、夕陽。

【落落】ラクラク ㋑まばらにして淋しきさま ㋺志が大きくすぐれたるさま。

【落飾】ラクショク 髪を剃落す、佛門に入る。

【落語】ラクゴ ㋑話の結局の所㋺おとし話

【落寞】ラクバク さびしきさま。

【落魄】ラクハク ラクタク おちぶれること。

【落墜】ラクツキ 上より落ちる、墜落。

【落髪】ラクハツ 落飾に同じ。

【落選】ラクセン えらばれた中に加はらぬ。

【落膽】ラクタン がつかりする、氣おちする。

【落題】ラクダイ 題意にそはぬ和歌。

【落職】ラクショク 役を免除すること。

【籍】ラクセキ ㋑戸籍の上にもれる㋺身のしろ金を出して藝娼妓などをひかせる

【落人】オチビト 家出人、かけ落ちした人、その場をのがれて出奔する人。

【落文】オトシブミ ㋑公然と言へぬ事を記し道路に落して人に見せた文㋺鞘翅類の甲蟲で全身黑く木葉を丸めて巣をつくる栗の害蟲。

（落文）

【落下傘】ラクカサン 危險に迫りし時飛行機の機體をのがれて落下する時に用ゐるかさ、パラシュート。

【落花生】ラククワセイ 豆の一種、なんきん豆。

【落花風】ラククワノカゼ 花を吹き散らす風。

【落霜紅】ラクサウコウ うめもどき。

【落葉松】ラクエフシヤウ 山中に自生する落葉樹、からまつ。

【落花流水】ラククワリウスキ 男女相思の關係。

部落ブラク　種落シュラク　村落ソンラク　里落リラク

邑落イフラク　牢落ラウラク　振落シンラク　聚落シュウラク

磊落ライラク　零落レイラク　墮落ダラク　流落リウラク

剝落ハクラク　弛落シラク　解落カイラク　飄落ヘウラク

淪落リンラク　缺落ケツラク　遺落ヰラク　枯落コラク

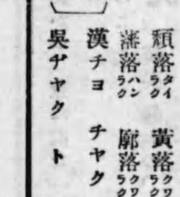
刋落センラク　萎落ヰラク　傾落ケイラク　脫落ダツラク

蠲落チユツラク　擺落サイラク　頹落タイラク　黃落クワウラク

凋落チウラク　薤落リラク　藩落ハンラク　廓落クワクラク

漢チヨ　チヤク

呉ヂヤク　ト



（落葉）

【著●】【著】

呉ヂヤク　ト

㋑あらはる、名高くなる、明かになる㋺あらはす、いちじるしくする、ひろく知らせる、表面に出して示す㋩書物をえらび作る、文書金石等に書きのせる㋥いちじるし、かくれがない、あきらかである㋭たくはふ(貯)へ朝廷の席次㋬つける、きる㋮つく、すみつく、接する、草木が花をもつ㋯圍棋で棋子を下し置く、物ごとに失敗する㋰物にきまりがつく㋱語助として詩又俗語に用ゐる字㋲とゞく、至りつく㋳衣服を數へる語

【同訓異義】**あらはる**　著・現・見其他の用法は九四五頁の見を見よ。

【同訓異義】**つく**　著・付・附其他の用法は一一〇一頁の附を見よ。

【著大】チヨダイ　いちじるしくして大なり。

【著名】チヨメイ　なだかくなる、有名。

【著作】チヨサク　詩文を著はし作る。

【著明】チヨメイ　いちじるしく明かなり、

【著者】チヨシヤ　書物をあらはしたる人。

【著述】チヨジユツ　書物を著はし作る。

【著書】チヨシヨ　著述すること、又其書物。

【著聞】チヨブン　チヨモン　有名なるはなし。

【著手】チヤクシユ　とりかゝる、てをつける。

【著用】チヤクヨウ　衣類などを纏ひきる。

【著色】チヤクショク　いろどる、いろどり。

【著衣】チヤクイ　きものをきる、又其著物。

【著目】チヤクモク　めをつける、めのつけ方

【著到】チヤクタウ　つく、到著する。

【著服】チヤクフク　㋑他人の金品をひそかに我がものとする㋺著物をきる。

【著信】チヤクシン　到著せし手紙又は電報。

【著席】チヤクセキ　座席につく。

【著帶】チヤクタイ　懷妊五箇月目にいはたおび(腹帶)をしめること。

【著眼】チヤクガン　目をつける、注意する。

【著御】チヤクギヨ　貴顯の人の到著せしこと

【著著】チヤクチヤク　物事が順次に捗る貌。

【著想】チヤクサウ　おもひつき。

【著意】チヤクイ　㋑心にとめる、注意㋺考へをつける、おもひつき。「さま。

【著實】チヤクジツ　眞面目にしておちつける

【著彈】チヤクダン　發射した彈丸が目的の地點に達する。

【著鞭】チヤクベン　㋑むちをあてる㋺人に先

【著作權】チヨサクケン　著作物を複製又は飜譯興行する一種の財產權。

弘著コウ　明著メイ　昭著セウ　暴著バク

顯著ケン　彰著シヤウ　流著リウ　名著メイ

遠著エン　洽著カフ　附著フ　遲著チ

沈著チン　戀著レン　膠著カウ　執著シフ

徹著ゲキ　愛著アイ　粘著ネン　縫著ホウ

汚著ヲ　到著タウ　說著セツ　逢著ホウ

【著●】【著】

漢チヤク　呉チヤク

㋑は、

【葉●】【葉】

漢ヨウ　呉エフ　セフ

綠色扁平にして植物の莖幹又は枝から支出するもの㋺葉の如く薄きもの㋩世又は時代㋥わかれ、すえ、末端㋭かみふだへ紙數を數へる語㋬春秋時代の楚國の邑

【葉片】エフヘン　葉の廣く開展したる部分。

【葉肉】エフニク　葉脈以外の部分の稱。

【葉托】エフタク　葉脚の左右にある一子葉。

【葉序】エフヂヨ　葉の莖幹に排列して生ずる狀態、輪生、對生、至生等の別がある。

【葉柄】エフヘイ　葉のくき、葉の柄。

【葉脈】エフミヤク　葉の表面に分布する條

【葉菜】エフサイ　葉を需要する菜類の總稱

【葉腋】エフエキ　葉と莖との間の稱。

【葉鐵】エフテツ　薄き鐵板に錫をめつきしたもの、ぶりき。

【葉末】ハズエ　葉のさき

【葉書】ハガキ　端書ともかく、郵便はがき。

【葉蘭】ハラン　百合科

（葉脈）

（蘭葉）

【葛●】

漢カツ　呉カチ

山野に自生する蔓草の一、くず、草の布で作った頭巾。

【葛巾】カツキン　くずの布で作った頭巾。

【葛衣】カツイ　くず絲にて織った著物。

【葛裘】カツキウ　㋑葛は夏の衣服、裘は冬の衣服、かはごろも㋺夏冬、一年間の稱。

【葛藤】カツトウ　㋑くずとふぢ㋺入り組んでごたごたすること。

【葛籠】カツロウ　くずの蔓にて編みしかご、つゞら。

【葛花】クズノハナ　葛はつる草にして葉は小豆に似てゐる、花も豆の花に似る色は紫色を呈するを常とする。

の多年生草本で葉は根生して長い柄を有し四月頃內面に暗紫色の花を一箇だけ開く。

【葉綠體】エフリヨクタイ　葉肉中の植物體の營養分をつくる綠色の小球體。「色の色素

【葉綠素】エフロクソ　植物の葉肉中にある綠

【葉櫻藝者】ハザクラゲイシヤ　花の美しさも年增のあでやかさも過ぎたる老妓、又新開地に來る藝者のこと。

（葛籠）

（葛花）

【葡】〔葡〕漢 ホ 呉 ブ ㊀葡萄は蔓生果樹の一㊁歐洲の國名、葡萄牙の略。「國。

【葡萄】ブダウ 蔓性果樹の一。

【葡萄牙】ポルトガル 歐羅巴洲にある一共和國。

【葡萄酒】ブダウシュ 葡萄原料で製した酒。

【董●】〔董〕漢 トウ 呉 ツ ㊀たゞす 監督する特に法務又は佛寺内の大衆を監督すること㊁はかる㊂蓮根㊃骨董は古道具

【同訓異義】ただす 董・正・規其他の用法は五五六頁の正を見よ。

【董正】トウセイ たゞす、匡正す。

【董理】トウリ 正しくをさめる。

【董督】トウトク とりしまりて世話す。

【葦●】〔葦〕漢呉 キ ㊀蔑の大きなもの、あし、一說に蘆と同物ともいふ㊁小舟

【葦汀】ホツイ あしのはえた汀。

【葦席】キセキ あしであんだ席。

【葬●】〔葬俗字〕〔葬〕漢呉 サウ はうむる、轉じて見えなくなるさま

【葬式】サウシキ 葬儀に同じ。

【葬具】サウグ 葬式に用ゐる佛具。

【葬送】サウソウ とむらひ、送葬。

【葬列】サウレツ とむらひの行列。

【葬祭】サウサイ 葬むることゝ祭ること。

【葬儀】サウギ 葬送の儀式。

【葬禮】サウレイ 前に同じ。

合葬ガツサウ 改葬カイサウ 薄葬ハクサウ 附葬フサウ
厚葬コウサウ 收葬シウサウ 反葬ハンサウ 送葬ソウサウ
會葬クワイサウ 儉葬ケンサウ 水葬スイサウ 火葬クワサウ
土葬ドサウ 鳥葬テウサウ 斂葬レンサウ 奢葬シヤサウ

【葭○】〔葭〕呉 ケ 漢 カ ㊀あし、よし、葦のまだ秀でないもの㊁笛の一種、あし

【葭葦】カイ よし、あし。「ぶえ。

【葭蘆】カロ あし、よし。

【葭切】ヨシキリ 形鶯に似て腹白く葭の中にてやかましく鳴く鳥。

（葭切）

【葱○】〔葱古字〕漢呉 ソウ 呉 ス ㊀葉蔬の一、ねぎ㊁草木の青々と茂るさま㊂にぐるま、轜車

【葱白】ソウハク 非常に淺き藍色。

【葱昧】ソウマイ 暗愚なること。

【葱葱】ソウソウ 草木の青々とせる貌。

【葱青】ソウセイ ㊀青々としたさま㊁野菜の

【葱翠】ソウスイ 深きみどり色。「一、ねぎ。

【葱碧】ソウヘキ あをみどり。

【葱花輦】ソウクワレン 天子の輦輿の屋根に葱の花の形にて飾りのあるもの。

（葱花輦）

【葺●】〔葺〕漢呉 シフ ㊀ふく、つくろふ、おほふ㊁重疊する、かさなる

【葺茅】シフバウ かやにて屋根をふくこと。

【萬●】〔万通字〕漢 バン ㊀よろの十倍、多數を示す語㊁舞樂の名㊂もし、まんに一つも、ばん〳〵、決して

【萬千】バンセン さまん〳〵、千萬、數の多いと

【萬口】バンコウ 多數の人のこと。

【萬方】バンパウ ㊀種々の方法㊁萬邦に同じ

【萬水】バンスイ 多くの河川。

【萬化】バンクワ ㊀色々にかはる㊁萬物の化育すること。「いつまでも。

【萬古】バンコ ㊀おほむかし㊁とこしへ、

【萬世】バンセイ よろづよ、いつまでも。

【萬代】バンダイ 前に同じ。

【萬仞】バンジン 深さ又は高さの甚しきこと

【萬民】バンミン あらゆるたみ、萬姓。

【萬死】バンシ 死の免れがたき危き場合。

【萬有】バンイウ 萬物に同じ。

【萬全】バンゼン 少しのておちなく全きこと

【萬朶】バンダ 多くの枝。

【萬邦】バンパウ 多くのくに〳〵、萬國。

【萬別】バンベツ さま〳〵、くさ〳〵。

【萬狀】バンジヤウ いろ〳〵の狀態。「萬象。

【萬物】バンブツ 天地間の總てのもの、森羅

【萬事】バンジ あらゆる事、萬事萬端。

【萬金】バンキン 多くのかね、又その高。

【萬卒】バンソツ 多くの兵卒。

【萬姓】バンセイ ㊀あらゆる役人㊁萬民。

【萬斛】バンコク 甚だ多くの分量。

【萬乘】バンジヤウ 一萬の兵車、轉じてそれを自由に出し得る土地を有する君主又は天子のこと。

【萬般】バンパン かず〳〵、いろ〳〵。

【萬能】バンノウ マンノウ ㊀あらゆる事にきゝめがある㊁何事にても出來る才能。

【萬國】バンコク 萬邦に同じ。

【萬頃】バンケイ 水面・土地等の廣き形容。

【萬感】バンカン 次々と起るいろ〳〵の感じ

【萬萬】バンバン ㊀數の非常に多きこと、又その數㊁決して、とても。

【萬葉】バンエフ マンエフ 萬代に同じ。「語。

【萬雷】バンライ 多くの雷、大聲を形容する

【萬福】バンプク マンプク ㊀おほくの幸福㊁人に挨拶する時の敬語。

【萬障】バンシヤウ あらゆる障害。

【萬壽】バンジユ 長命を祝することば。

【萬態】バンタイ さま〳〵の有樣、千態。

【萬端】バンタン ㊀すべての事㊁種々さまざま㊂あらゆる手段方法。「る。

【萬機】バンキ 一國の政治。

【萬謝】バンシヤ 厚く禮を述べる、平に詫び

【萬難】バンナン あらゆる苦しみ。

【萬類】バンルイ すべての物。

【萬籟】バンライ 風及び他のすべての音響。

【萬靈】バンレイ よろづのかみ。

【萬一】マンイツ 萬分の一、萬に一、ひよつと

【萬目】マンモク 衆人の見る所。

【萬劫】マンゴフ 極めて長き時間。

【萬卷】マングワン 澤山の書物。

【萬兩】マンリヤウ 紫金牛科の常綠灌木で幹の高さは二尺乃至八尺あり帶白色の小花を開き球狀紅色の果實を結ぶ

（萬兩）

【萬病】マンビヤウ あらゆる病氣。

【萬鈞】マンキン 非常に重いこと。

【萬億】マンオク 極めて多い數。

【萬變】マンペン いろ〳〵に變る、千變萬化。

【萬歲】バンザイ ㊀昔正月五日に行はれた公事、まんざい㊁祝賀の時上下一般に用ゐる語㊂萬代、よろづよ。

（萬歲）

【萬事休】バンジキウス 如何ともし難くなる。

【萬戶侯】バンココウ 一萬の戶數ある土地を領する大名。

【萬物靈】バンブツノレイ 萬物中最も靈智なる「もの、即ち人間。

【萬歲樂】バンザイノハタ 即位式に立てる旗。

【萬分一】マンブンノイチ 澤山の中の一つ。

【萬年床】マンネンドコ 俗に敷きはなしの寢床

【萬年茸】マンネンタケ 菌類の一で枯木の切株などに寄生し傘と柄とより成る、傘は上面は黑褐色下面は淡褐色、柄は漆黑の皮膚を有す。

（萬年茸）

【萬年青】マンネンセイ 多年生草の一、おもと。

【萬歲樂】マンザイラク ㊀古代正月に宮中にて行はれたる舞樂㊁唐の則武后のはじめ

たる歓樂の名㋩地震の時に唱へる呪詞

【萬世一系】バンセイイツケイ　天地開闢以來未來永遠に亘つて唯一の血統を以て連續すると謂ふ意味、憲法第一條に「大日本帝國は萬世一系の天皇之を統治す」とあるは天孫降臨瑞穗の豐葦原の開闢以來未來永遠に連綿たるべき一系統の天皇が大日本帝國を統べ治め給ふをいふ。

【萬世不易】バンセイフエキ　いつまでも變らぬ

【萬夫不當】バンプフタウ　萬人の多勢にて向つても勝てぬ。「ると說く教義。

【萬有神教】バンイウシンケウ　神物は同一體であ

【萬里同風】バンリドウフウ　萬里の遠い所まで到る所風俗が同じこと。「ふ自然力。

【萬有引力】バンイウインリヨク　物體の互に引合

【萬國部落】バンコクブラク　上州輕井澤の異名、夏期避暑に諸外國人が集まるよりいふ

【萬綠叢中紅一點】バンリヨクサウチユウコウイツテン　あを〳〵と茂るくさむら中に唯だ一つ赤い花が開いてゐる、多くの男子の中にたゞ一人の婦人がまじること。

【蒿○】

漢　呉ワ　慣用音クワ　蒿苣は菜蔬の一ちさ、ちしや

【蒿苣】クワキヨ　ちさ、ちしや、菊科の一年生又は二年生草本で莖の高さは二三尺ばかり葉は長橢圓形にして柔かく實と共に食用に供せられる。

（苣）（蒿）

【蕚●】

漢　呉ホウ　㋑いばら、おどろ、うてな。

【蕚●】

漢　呉ホウ　草木のあつまり生ずるさま㋺つゝむ、かくす（藏）㋩さしもの（蠶）㋥むつき㋭たから（寶）㋬とりて（槩）㋣たもつ（保）「ひかくす。

【葆光】バウクワウ　光をかくす、ちゑをおほ

【葬●】

漢　呉リツ　クチ　雜草の一、むぐら

【葩○】

漢　呉ハ　ヘ　はな（華）

【葫○】

漢　呉コ　グ　㋑葷菜の一、おほひる、にんにく㋺葫蘆はふくべ

【葯●】【藥本字】

漢テキ　呉チヤク　漢呉ヤク

㋑よろひぐさの葉㋺植物の生殖器にして雄蕊の先端にありて花粉を藏するもの㋩まとふ（纏）

【葵○】

漢キ　㋑花卉の一、あふひ　㋺はかる（揆）㋩國訓あふひ（花卉の一、紋所の名）

【葵心】キシン　人をしたふ心。

【葵傾】キケイ　向日葵の花が日光に向ふこと、轉じて君主又は長上を尊敬してまごゝろを盡すこと。

【葷○】

漢クン　呉コン　㋑韮・葱等の如き味のからき菜及匂ひの臭い菜の總稱㋺肉食、なまぐさきもの㋩人種の名

【葷辛】クンシン　佛家の戒めて食はざる野菜のくさきものと辛きもの。

【葷肉】クンニク　なまぐさもの。

【葷酒】クンシユ　なまぐさものと酒。

【葷菜】クンサイ　くさみある野菜の總稱。

【萱○】

漢ケン　呉クワン　㋑宿根草の一、わすれ草㋺國訓かや

【蔕】

三四〇頁の帶を見よ。

【葬】

三五三頁の庵を見よ

【蓋】

八九八頁の蓋を見よ

【蔕】

九〇一頁の蔕を見よ。

【剪】

一四二頁の剪を見よ。

【募】

一五二頁の募を見よ。

【善】

二〇六頁の善を見よ。

【菫】

二三六頁の菫を見よ。

【孳】

二八六頁の孳を見よ。

【惹】

四〇一頁の惹を見よ。

【着】

七二二頁の着を見よ。

【羨】

八二六頁の羨を見よ。

【蛬】

九一七頁の蛬を見よ。

【蚩】

一一三四頁の蚩を見よ。

【黄】

一一八九頁の黄を見よ。

十畫

【蒐○】

漢シウ　㋑かくす（隱）㋺あつむ　呉シユ（聚）㋩かり、春の田獵

【蒐田】シウデン　獵をすること。

【蒐討】シウタウ　集めしらべる。

【蒐索】シウサク　集めもとめる。

【蒐集】シウシフ　集めよせる。

【蒔○】【莍】

漢シ　呉ジ　㋑蒔蘿は茴香の一種㋺うゑ（植）㋩國訓まく（たねを下す、播種する、粉末を散らす）

【蒔植】シシヨク　種子をまきうゑる、耕作する

【蒔繪】マキエ　漆にて畫などを畫きて夫れがまだ乾かぬうちに金・銀粉をまきつけ更に夫れにみがきをかけて光澤を出したもの、まきゑ。

（蒔繪）

【蒙○】

漢モウ　呉モウ　㋑うける、かうむる、かうむらす、うけたまはる㋺をかす、進んでひきうける㋩いたゞく、かぶる㋥おほひかくす、つゝむ㋭あざむく（欺）㋬くらし（暗）㋣こども（小兒）無智㋠自己の謙稱㋡せる（被）らる㋢易の卦名㋤蒙古の略稱㋥まじりばね（雜羽）

【蒙士】モウシ　おろか者、無智の人。

【蒙古】モウコ　支那の西北部にある國名。

【蒙耳】モウジ　耳をつゝむ、人の言を聞かぬ

【蒙率】モウコ　無實の罪をかうむること。

【蒙昧】モウマイ　愚昧、おろか。

【蒙求】モウキウ　書名、經書・經書史類の中から古人の事蹟の似た者を選び出して相對せしめしもの。

【蒙茸】モウジヨウ　㋑雜草の生えたるさま㋺物の亂れるさま㋩亂れはしるさま。

【蒙棘】モウキヨク　おほひしげれるいばら。

【蒙塵】モウヂン　天子が難を避けて逃れること

【蒙衝】モウシヨウ　いくさぶね、艨艟。

【蒲○】【蒲】

漢ホ　呉ブ　慣用音フ　ボ

㋑水草の一、がま、かば、かま㋺かはやなぎ（楊）㋩はらばふ（匍）

【蒲月】ホゲツ　陰曆五月の異名。

【蒲伏】ホフク　はらばふ、匍匐。

【蒲服】ホフク　前に同じ。

【蒲柳】ホリウ　㋑柳の一種、かはやなぎ㋺身體のよわきに喩ふ。

【蒲團】フトン　㋑蒲で作つた敷物㋺しとね

【蒲公英】タンポポ　原野に自生する菊科の多年生草本で、花莖は六七寸ばかり葉はむらがり生じ下向になつて鋸齒を有し、春黃色の花が咲く。

（蒲公英）

【蒲柳之姿】ホリウノスガタ　「き姿。體質のよわ〳〵し

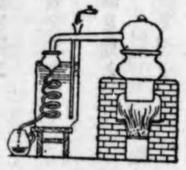
翠蒲スイホ　東蒲ソクホ　深蒲シンポ　蒲蒲セウホ

芽蒲バウホ　編蒲ヘンポ　菖蒲シヤウブ　菰蒲コホ

〔蒸○〕〔烝通字〕〔蒸〕

漢呉 ショウ 慣用音 ジョウ ㊀たみぐさ、多くの人民㊁細いしばの木㊂むす、ふかす、湯氣をあてゝ煮る㊃すゝむ(進)㊄冬の祭禮

【蒸民】ジョウミン もろ〳〵の民、庶民。
【蒸庶】ジョウショ たみぐさ、人民。
【蒸氣】ジョウキ ゆげ、蒸發した氣體。
【蒸餅】ジョウヘイ まんぢゅう。
【蒸發】ジョウハツ 液體又は固體が氣體となりて發散する現象。
【蒸暑】ジョウショ むしあつい。「くあるさま
【蒸蒸】ジョウジョウ ㊀向上する貌㊁物事の多
【蒸溜】ジョウリウ 液體を熱して蒸氣に化し更に之を冷して液體とすること。
【蒸熱】ジョウネツ むしあつし。
【蒸餾】ジョウリウ 蒸溜に同じ。
【蒸騰】ジョウトウ むされて水氣がたちのぼる
【蒸籠】セイロウ 物をふかしむす具。「の水。
【蒸溜水】ジョウリウスキ 蒸溜してとつた純粹


（蒸溜器）

〔蒼○〕〔倉通字〕〔蒼〕

漢呉 サウ ㊀あを、草のあをき色、一般に青色の意㊁草木の茂れるさま㊂髪の白髪まじりの貌㊃あわてるさま㊄老いたる貌

【蒼天】サウテン ㊀あをぞら、蒼空㊁春の空。
【蒼生】サウセイ あをひとぐさ、人民。
【蒼白】サウハク あをじろし。
【蒼民】サウミン 蒼生に同じ。
【蒼空】サウクウ あをぞら、青天、碧天。
【蒼穹】サウキユウ 前に同じ。
【蒼苔】サウタイ 蒼蘚に同じ。
【蒼卒】サウソツ あわてるさま。
【蒼茫】サウバウ あをく廣々したさま。
【蒼海】サウカイ 大海、あをうなばら。
【蒼極】サウキヨク 天のこと。
【蒼溟】サウウ みだれるさま。
【蒼莽】サウマウ サウバウ ㊀あを〳〵と遙かに離れて見えるもの㊁あを〳〵と茂る草むら。
【蒼然】サウゼン ㊀あを〳〵したるさま㊁夕方の景色㊂古びたる色。
【蒼溟】サウメイ 蒼海に同じ。
【蒼翠】サウスキ あをみどり色。
【蒼蒼】サウサウ ㊀老いたるさま㊁青々とせる貌、又その色㊂茂り生ずるさま㊃髪の白くなりかゝりたるさま。
【蒼惶】サウクワウ あわておそれること。
【蒼蝿】サウヨウ あをばへ、人を讒言する小人に喩ふ 注意 さうじようと讀むは誤り
【蒼蘚】サウセン あをごけ、蒼苔。
【蒼鷺】サウロ ごゐさぎ、水禽の一。
【蒼鷹】サウヨウ 羽毛が蒼白色を帶びた鷹。

〔蓄●〕〔畜通字〕〔蓄〕

漢チク 呉トク ㊀たくはふ(畜)やしなふ(養)藏する、かこふ㊁たくはへ㊂冬の野菜

【同訓異義】たくはふ
【儲】はかはりにたくはへて置くの意
【蓄】は少しづゝ寄せ集めて蓄へる意
【貯】は入用だけ收藏して置くの意。
【蓄力】チクリヨク ちからをたくはへ養ふ。
【蓄財】チクザイ 財物をためること。
【蓄髮】チクハツ 髮の毛をのばすこと。
【蓄積】チクセキ チクシ ㊀たくはへる、ためる㊁たくはへ、たくはへ集める。
【蓄音機】チクオンキ 音響をたくはへ置きて必要の場合にその音を發せしめる機械
【蓄電機】チクデンキ 電氣をたくはへる器。
涵蓄カン チク 累蓄ルキ チク 儲蓄チヨ チク 積蓄セキ チク
資蓄シ チク 藏蓄ザウ チク 慮蓄リヨ チク 旨蓄シ チク

〔蓋●〕〔盖俗字〕〔蓋〕

漢カフ 呉ゴ 漢呉カイ 慣用音ガイ ㊀かぶせる、おほふ㊁かさ、傘の形したもの㊂ふた、口のおほひ㊃とま(苫)㊄推量することば、又婉曲に言ふことば、又發語の詞へなんぞ何々せざると讀みかへす意を表はす㊅地名

【蓋世】ガイセイ 英氣一世を壓するさま。
【蓋庇】ガイヒ おほひかばふ。「義。
【蓋然】ガイゼン 推定の語、けだし、然らんの
【蓋し棺事定】クワンジヨウオホヒテコトサダマル 死後始めて其人の善惡・價値等の決定すること。
交蓋カウ ガイ 傾蓋ケイ ガイ 車蓋シヤ ガイ 素蓋ソ ガイ
冠蓋クワン ガイ 偃蓋エン ガイ 旗蓋キ ガイ 旌蓋セイ ガイ
麾蓋キ ガイ 大蓋タイ ガイ 朱蓋シユ ガイ 華蓋クワ ガイ

〔蓑○〕〔簑〕〔蓑〕

漢サイ 呉セ 漢呉サ ㊀雨具の一、みの㊁おほふ(覆)注意 みと讀むは誤り

【蓑笠】サリウ みのと笠。
【蓑蟲】ミノムシ 枯葉にもぐり其中に住む蟲
【蓑龜】ミノガメ 動物の名、絲毛龜。

【蒜●】

漢呉 サン 宿根草で葷菜の一、にんにく、おほびる

【蒟●】

漢呉 ク 蒟蒻は宿根草の一、こんにやく、蒻蒻草の一。球形の地下

【蒟蒻】

コンニヤク 宿根草の一。球形の地下莖を食用に供せらる。

【蒡●】

漢呉 ハウ バウ 午蒡は蔬菜の一

【兼○】

漢呉 ケン コン 荻の別名

【蒹葭】

ケンカ よし。

【蒻●】

漢呉 ジヤク ニヤク 蒟蒻と連用す、こんにやく

【蓖○】

漢呉 ヘイ ハイ 蓖麻は藥草の一、たうごま

【蓖麻子油】ヒマシユ 蓖麻の實より製した油

【蒿○】

漢呉 カウ コウ ㊀艾の類、よもぎ㊁精神のたかぶるさま㊂つかる（疲）㊃憂へ視る

【蒿矢】カウシ よもぎにて作りたる矢。
【蒿蘆】カウロ よもぎの家、自分の家、茅屋。

【蓁○】

漢呉 シン ㊀物事の多く集まるさま㊁葉の盛んに茂る貌

【蓁莽】シンマウ 雜木の茂りたるくさむら。

【蒲●】

漢呉 セキ ジヤク ㊀しきもの、むしろ㊁おほいなり

【蓉○】

漢呉 ヨウ ユ 芙蓉は灌木の一

【蓊●】

漢呉 ヲウ ウ ㊀花の莖に細かい葉のむらがり生ずるもの、たう㊁草木のさかんに茂るさま

【蓊勃】

ヲウボツ 物事のさかんなるさま。

【蓊然】

ヲウゼン 物のさかんなるさま。

【蓊蔚】

ヲウウツ 草木の盛んに茂る貌。

【蓊蓊】

ヲウヲウ 草木の茂るさま。

【蓊鬱】

ヲウウツ 前に同じ。

【著○】

漢呉 シ ㊀草の一、めどぎ㊁筮竹、占に用ゐる五十本の竹の棒

【蓏●】

漢呉 ラ 草の實、うり

【蓐●】

漢呉 ジヨク ニヨク

【褥通字】

しとね、敷物の總稱

【蓐月】ジヨクゲツ 姙婦が出産をする月。
【蓐母】ジヨクボ とりあげばゞ、産婆。
【蓐瘡】ジヨクサウ 床ずれ。
厚蓐コウ ジヨク 臥蓐グワ ジヨク 虎蓐コ ジヨク 草蓐サウ ジヨク

【蒞】

八八七頁の莅を見よ。

【蒭】

八七七頁の芻を見よ。

【墓】

二四〇頁の墓を見よ。

【夢】

二五一頁の夢を見よ。

【幕】

三四四頁の幕を見よ。

【義】八二六頁の義を見よ。

十一畫

【蓬○】【蓬】

漢 ホウ ㊀艾の一種、よもぎ㊁物事の盛んなさま㊂風の吹く貌㊃生え亂れたるさま

【蓬戸】ホウコ　よもぎの戸、貧者の門。
【蓬心】ホウシン　こせ〳〵した小さい心。
【蓬舍】ホウシャ　貧家又は隱者の居宅の意。
【蓬茨】ホウシ　よもぎといばら。
【蓬壺】ホウコ　神仙の居處、蓬萊と方壺。
【蓬萊】ホウライ　三神山、神仙のすむといふ神山、轉じて松竹梅鶴龜又は尉姥などを飾りて祝言のときに用ふ。

（蓬萊）

【蓬島】ホウタウ　仙人の住んだといふ海島。
【蓬庵】ホウアン　よもぎでやねをふいた家、貧者又は隱者の居宅、蓬室。
【蓬頭】ホウトウ　蓬の如く髪のみだれた頭。
【蓬髪】ホウハツ　よもぎの如く亂れた髪。
【蓬蓬】ホウホウ　風の吹く貌、又盛んなる貌。

【蓮○】【蓮】

漢 呉 レン ㊀水草の一はちす、はす㊁蓮の實

【蓮歩】レンポ　美人のあるきぶり。
【蓮花】レンクワ　はすの花。
【蓮座】レンザ　蓮華の形に作りたる臺座。
【蓮根】レンコン　はすのね、蓮藕。
【蓮華】レンクワ　蓮花に同じ。
【蓮經】レンケイ　法華經の別名。
【蓮葩】レンハ　はすのはな、蓮花。
【蓮燭】レンショク　蓮の形に作りたる手燭。
【蓮葉】レンエフ　㊀蓮の葉㊁身持の惡い女。
【蓮境】レンキヤウ　蓮と佛の關係より寺のこと
【蓮獄】レンガク　㊀支那の蓮峯㊁富士山。
【蓮華草】レンゲサウ　野草の一、紫雲英。
瑞蓮ズイレン　碧蓮ヘキレン　青蓮セイレン　池蓮チレン
杜蓮トレン　祥蓮シヤウレン　白蓮ビヤクレン
紅蓮グレン　金蓮キンレン　採蓮サイレン　水蓮スイレン

【蔓○】【蔓】

漢 バン 呉 マン 他物に巻きつくもの、つる㊁かづら、つるくさ㊂つるを生ず、つるが出る㊃はびこる、のぶ㊄蔓菁はかぶら

【蔓生】マンセイ　草木がつるを生じてはえる
【蔓延】マンエン　はびこる、のびゝろがる。
【蔓茂】マンモ　草木の茂るさま。
【蔓菁】マンセイ　かづらの異名。
【蔓蔓】マンマン　はびこりひろがる。
【蔓草】マンサウ　つるくさ。
枯蔓コマン　絡蔓ラクマン　綿蔓メンマン
霜蔓サウマン　延蔓エンマン　細蔓サイマン　柔蔓ジウマン
翠蔓スイマン　青蔓セイマン　綠蔓リヨクマン　長蔓チヤウマン
修蔓シウマン　羅蔓ラマン　荒蔓クワウマン　垂蔓スイマン

【蔬○】

漢 ショ 呉 ソ 野菜と果實。

【蔬果】ソクワ　野菜と果實。
【蔬食】ソショク　㊀果實㊁粗末な飯。
【蔬菜】ソサイ　やさい、な、菜蔬。
【蔬飯】ソハン　野菜を入れて炊いた飯。
嘉蔬カソ　野蔬ヤソ　氷蔬ヒヨウソ
園蔬エンソ　霜蔬サウソ　魚蔬ギヨソ
草蔬サウソ　肴蔬カウソ　美蔬ビソ
青蔬セイソ　柔蔬ジウソ　霜蔬サウソ

【蓴○】

漢 呉 ジュン 注意 せんとよむは誤り、水草の一、ぬなはじゅんさい（蓴菜）

【蓴菜】ジユンサイ　池沼に自生する睡蓮科の多年生草本で莖は水中に沒し葉は楯形で長さ二三寸ばかり長い葉柄を有し夏の頃紫紅色の花が咲き若い葉は食用にする。

（蓴菜）

【蓼●】

漢 リク 呉 ロク ㊀草の一、たで㊁草の長大なる貌。

【蓼花】レウクワ　たでの花。
【蓼蓼】リクリク　草の長大なるさま。
【蓼蕘】レウヒン　たでとうきくさ。

【蓿●】

漢 シュク 呉 ソク 苜蓿はうまごやし

【蔀●】

漢 ホウ 呉 ブ ㊀しとみ、ひよけ㊁古代の曆法にて七十二年の稱

【蔑●】

漢 ベツ 呉 メチ ㊀なし（無）あらず㊁ないがしろにする㊂こまやか（微小）あなどる㊃すつ（棄）㊄こまやか（微小）

【蔑如】ベツジヨ　かろんず、いやしむ。
【蔑視】ベツシ　さげすむ、輕視する。

【蔕●】

漢 テイ 呉 タイ ㊀果實が枝又は莖に結びつく所、へた㊁とげ、僅かのさしさはり㊂ねもと

【蔗●】

漢 シヤ 呉 セ ㊀暖地產の禾本草、さとうきび、甘蔗㊁うまし、よし

【蔗境】シヤキヤウ　談話・文章其他景色などの次第に面白くなるところのこと。
【蔗糖】シヤタウ　甘蔗より製したる砂糖。

【蔟●】【欝・鬱通字】

漢 ウツ 呉 チチ 漢 呉 キ

㊀草木の盛んなるさま㊁くさむら㊂をとこよもぎ㊃模樣の細かにして美しきさま㊄地名（直隸省所在）

【蔟然】キゼン　草木の茂るさま。
【蔟爾】ウツジ　さかんなるさま。
【蔟藍】ウツラン　濃いあゐ色。

【蔞●】

漢 ロウ 呉 ル ㊀しろよもぎ㊁棺車の裝飾

【蔞蒿】ロウカウ　しろよもぎ。

【蔟●】

漢 ソク 呉 ゾク ㊀まぶし（蠶蔟）㊁あつまる、むらがる（簇）㊂音樂の十二律の一（太蔟）㊃かめ（卜筮用の大龜）㊄周代の國名（今の河南省汝寧府）㊅はなつ（放）㊆ころす（殺）

【蔡●】

漢 サイ 呉 サツ 寄生性の蔓草、つた、葡萄科の多年生草本で山野に自生し莖は蔓となり吸盤のある卷鬚によつて他の物に卷きつき夏の頃淡黃色の花を開き後黑色の小漿果をむすび觀賞用として栽培する。

（蔦）

【蔦●】

漢 呉 テウ 菊科の多年生草本で山

【蔑●】

漢 呉 ベツ 蔑

【蔔●】

漢 呉 フク 蔔

【蔗●】

漢 呉 シヤ 蔗

【蔟●】

漢 呉 ソク 蔟

【蔡●】

漢 呉 サイ 蔡

【蔦●】

漢 呉 テウ 蔦

【蔑●】

漢 呉 ベツ 蔑

【蔽●】

漢 呉 ヘイ 蔽

八八九頁の菱を見よ。
八九〇頁の蔔を見よ。
四〇四頁の墓を見よ。
四五〇頁の蔡を見よ。
四九四頁の暮を見よ。

十二畫

【蔭●】【陰俗字】【蔭】

漢 イン 呉 オン ㊀かげ、こかげ㊁おかげ、たすけ㊂日かげ、日晷㊃かばふ、おほふ

【蔭映】インエイ　おほひかくす。
【蔭庇】インビ　かばひたすける。
【蔭蔚】インキ　草木の繁りたる貌。
【蔭鬱】インウツ　樹木などが深く繁つて暗い
恩蔭オンイン　嘉蔭カイン　世蔭セイイン　覆蔭フクイン
庇蔭ヒイン　美蔭ビイン　涼蔭リヤウイン　軍蔭グンイン
父蔭フイン　木蔭モクイン　茂蔭モイン　繁蔭ハンイン

【蔽●】【蔽】

漢 ヘイ 呉 ヘツ ㊀おほふ、かくす、さゝへ㊁庇ふ㊂まとめる、たばねる㊃おほひ㊄さだむ（定）

㋐はらふ（拂）

【蔽匿】ヘイトク　おほひかくす、隱蔽。

【蔽塞】ヘイソク　おほひふさぐ。

【蔽遮】ヘイシヤ　くひとめる、おほひ遮ぎる。

【蔽隱】ヘイイン　おほひかくす。

掩蔽エンペイ　翼蔽ヨクヘイ　障蔽シヤウヘイ　覆蔽フクヘイ

陰蔽インペイ　侵蔽シンペイ　狀蔽ジヤウヘイ　遮蔽シヤヘイ

【蕃○】【藩通字】【蕃】漢ハン　呉ハン

慣用音　バン　㋑しげる（繁）㋺おほし（多）しげし㋩かき（藩）㋥えびす

【同訓異義】しげる　蕃・繁・稠其他の用法は八一三頁の繁を見よ。

【蕃人】バンジン　えびす、未開人。

【蕃社】バンシヤ　野蠻人の部落。

【蕃民】バンミン　えびす、未開の人民。

【蕃別】バンベツ　上古歸化したる者の後裔。

【蕃地】バンチ　未開の土地、やばんな地。

【蕃情】バンジヤウ　夷狄のやうす。「俗。

【蕃俗】バンゾク　えびすの風俗、やばんな風

【蕃椒】バンシヤウ　たうがらし、蕃椒。

【蕃夷】バンイ　外國人又は蠻人、えびす。

【蕃柿】バンシ　あかなす、トマト。

【蕃風】バンプウ　蕃人の風俗習慣。

【蕃茂】ハンモ　草木などの盛んに茂ること

【蕃酋】バンシウ　蠻人のかしら、酋長。

【蕃神】バンシン　蕃人の崇拜する神。

【蕃書】バンショ　外國の書物。

【蕃椒】バンセウ　たうがらしの異名。

【蕃境】バンキヤウ　野蠻人の住む土地。

【蕃薯】バンショ　さつまいも。

【蕃殖】ハンショク　ふやす、ふえる。

【蕃蘚】ハンセン　かきね、まがき。

【蕃杏】ツルナ　蕃杏科の多年草本で海岸に自生し莖は稍蔓性にして高さ一二尺に達し夏秋の候葉に黃色の小花を開き嫩莖と葉は食用に供せらるはまな

（蕃杏）

【蕃務署】バンムショ　生蕃に關する事務をつかさどる臺灣總督府の一部局。

【蕉○】【萑】漢ショウ　呉セウ

ど（薪）㋩あくた（芥）㋥蘆れたる貌

【蕉布】セウフ　芭蕉の纖維を原料として製したる薄ぎぬ。「小杯の名。

【蕉葉】セウヨウ　㋑ばせうの葉㋺底のあさい

【蕩●】【盪通字】漢トウ　呉ダウ

㋑芭蕉は草の一、たき㋺おだやか（穩）㋩うごく（動）㋥ゆるぐ、うごかす㋭ほしいまま（恣）㋬酒色にふける㋮はらふ（掃）㋯ばら〳〵になる、こはれてなくなる㋰みだれる（亂）

【蕩子】タウシ　道樂者、酒色に溺れる者。

【蕩心】タウシン　心をとろかす、溺れ迷ふ。

【蕩平】タウヘイ　はらひ定める、亂を平げる。

【蕩兒】タウジ　蕩子に同じ。

【蕩佚】タウイツ　蕩逸に同じ。「妓の類。

【蕩婦】タウフ　㋑品行の修らぬ女子㋺娼

【蕩逸】タウイツ　節制なくほしいまゝなる貌

【蕩搖】タウエウ　うごく、うごかす。

【蕩盡】タウジン　殘らず使ひはたす。

【蕩漾】タウヤウ　たゞよふ、水の動き漂ふ貌。

【蕩蕩】タウタウ　㋑廣大なるさま㋺穩かなるさま㋩亂れるさま。

【蕩覆】タウフク　破れくつがへる。

搖蕩エウタウ　浩蕩カウタウ　震蕩シンタウ　掃蕩サウタウ

駘蕩タイタウ　波蕩ハタウ　放蕩ハウタウ　遊蕩イウタウ

虛蕩キヨタウ　豪蕩ガウタウ　輕蕩ケイタウ　恬蕩テンダウ

【蕪○】漢ブ　呉ム

㋑野菜の一、かぶ、かぶら、かぶな㋺あれる、雜草が生ひ茂る、荒地㋩しげる（繁）㋥亂れる

【蕪雪】ブセツ　繁雜なる解。

艸部（十二畫）　蕭・蕁・蕈・蕊・蕎・蕚・蕩・蕘・蕖・蕙・蕞・蕢・蕤・蕨・蕣・蕩・蕩・蕩

十三畫

【薄・】【蒲】 漢 ハク 呉 バク ㋑うす し、うすくす、すくなくなる、又それ等のもの、いやしむ、かろんず㋺ちかづく、せまる、おしつめる、至りとゞく㋩まぶし（蔟）㋥くさむら㋭すだれ（簾）㋬つく（附）㋣馬を走らせる聲㋠しばらく、いさゝか㋡薄荷は藥草の一㋢ひろし（博）化國訓すゝき（茅に似た草）

【同訓異義】 **うすし**

【涼】 は薄に同じ。

【淡】 は濃の反對で色又は味の淡き意

【漓】 は醇の反對で薄き酒の意。

【薄】 は厚の反對であるが德のうすきにも用ふ。

【同訓異義】 **いささか** 薄・聊等の用法は八三五頁の聊を見よ。

【薄片】ハクヘン うすいきれ。

【薄衣】ハクイ そまつな衣服。

【薄夜】ハクヤ ゆふぐれ、日ぐれ、黄昏。

【薄皮】ハクヒ うすかは、薄き皮。

【薄氷】ハクヒヤウ うすごほり、薄氷。

【薄行】ハクカウ 輕薄で冷淡なる行爲。

【薄材】ハクザイ 才能の劣れること、又其者。

【薄志】ハクシ ㋩志がよわい、いくぢが無い㋺少しばかりの御禮。

【薄利】ハクリ 僅かの利益、又僅かな利息。

【薄命】ハクメイ ふしあはせ、不運。

【薄幸】ハクカウ うんが無い、まはりあはせが惡い 注意 薄倖と書くは誤り。

【薄明】ハクメイ 微明、うすあかり。

【薄倖】ハクカウ 薄幸の誤用。

【薄幸】ハクホウ 薄給に同じ。

【薄給】ハクジヤク かよわし、しつかりして「居ない。

【薄弱】ハクジヤク

【薄情】ハクジヤウ 人情がうすい、無情。

【薄給】ハクキフ 給金の少きこと、又其給金。

【薄祿】ハクロク ㋑前に同じ㋺薄幸に同じ。

【薄暑】ハクショ 少しの暑さ、又初夏の氣候。

【薄運】ハクウン 薄命に同じ。

【薄遇】ハクグウ 粗末なもてなし。

【薄德】ハクトク 德のうすきこと、菲德。

【薄荷】ハクカ 唇形科の多年生草本で葉は卵形を成し花は小さく特殊の芳香を有し葉と莖とを乾して薄荷油・薄荷腦をとり殺菌劑・興奮劑として効あり。

（薄荷）

【薄幕】ハクボ ゆふぐれ、日ぐれ、薄夜。

【薄膜】ハクマク うすかは、うすきあまかは。

【薄儀】ハクギ 心ばかりの御禮。

【薄學】ハクガク 未熟なる學問。

【薄薄】ハクハク ㋑馬を走らせる音㋺物の味のうすきこと㋩ひろし、廣大である。

【薄謝】ハクシヤ 薄儀に同じ。

【薄張】ウスバリ 取引所所定の證據金を出さず祕密に不正の取引をなすこと。

【薄志弱行】ハクシジヤクカウ 意志が弱く事を行ふ力の乏しきこと。

輕薄ケイハク 菲薄ヒハク 鄙薄ヒハク 卑薄ヒハク
儉薄ケンハク 貧薄ヒンハク 厚薄コウハク 鮮薄センハク
佻薄チウハク 脆薄ゼイハク 劣薄レツハク 疎薄ソハク
淺薄センパク 涼薄リヤウハク 空薄クウハク 深薄シンハク

【薦・】【薦】 漢 セン 呉 ゼン ㋑すゝむ、獻ずる、捧げる、人をすゝめあげる㋺くさ（雜草）㋩進獻する食品㋥茂つた草㋭しとね、こもへしく㋬しきりに（荐）㋠身分ある人

【同訓異義】 **すすむ** 薦・進・奬其他の用法は一〇四〇頁の進を見よ。

【薦拔】センバツ 人物をとりたてる、薦擢。

【薦書】センショ 人を推薦する文書。

【薦論】センロン 人をほめあげるためにする「論議。

【薦擢】センタク 次に同じ。

【薦舉】センキヨ 人材をとりたてること。

【薨○】【薨】 漢 コウ 呉 クワウ ㋑みまかる、大名の死、貴族の死㋺多く集まるさま㋩早きさま

【薨去】コウキヨ 貴人の死をいふ。

【薪○】【薪】 漢 シン 呉 ㋑まき、たきゞ㋺しば㋩きこる、しばかる

【薪木】シンボク たきゞ、しば。

【薪水】シンスイ まきと水、生活上必要なものより俸給の意に用ふ。

【薪炭】シンタン たきゞとすみ。

【薪水勞】シンスイノラウ 薪を採り水を汲む骨折り、炊事の勞、又いやしき勞働。

【蕷・】 漢 呉 ヨ 薯蕷はやまのいも

【蒲・】 漢 呉 草 シフ の一、どくだみ

【蒲菜】シウサイ どくだみ。

（蒲菜）

【蒲・】 漢 ライ 呉 レ つぼみ、花のつぼみ

【蒲・】【蘊】 漢 ウン 呉 ㋑水草の一、金魚が卵を生みつけるもの㋺つむ（蘊）つみ重ねる

【蒲蓄】ウンチク つみたくはへること。

【蒲・】 漢 ケイ 呉 カイ 雜草の一、あざみ

【薇○】 漢 ビ 呉 ミ ㋑山野に自生する草ぜんまい㋺紫薇は薔薇の一、さるすべり㋩薔薇はばら

【薇蕨】ビケツ ぜんまいとわらび。

【薏・】 漢 ヨク イキ 呉 イ ㋑蓮のなかみ㋺薏苡はとむぎ

【薏苡】ヨクイ ずずだま、藥草の一。

【蔆○】 漢 呉 ロウ 菱蔆草は野菜の一、はうれんさう

【薑○】【薑】 漢 キヤウ 呉 コウ はじかみ しやうが

【薑桂之性】キヤウケイノセイ 老いて益々剛直なる人に喩へていふ。

【薙・】 漢 テイ チ 呉 タイ ヂ ㋑なぐ、草を刈り倒す㋺のぞく（除）㋩そる（剃）

【薙刀】ナギナタ なぎなた、長刀。

【薙髮】テイハツ 髮を剃り落すこと。

【薛・】 漢 セツ 呉 セチ ㋑海邊に生ずる草の一、はますげ㋺支那古代の國名

【薺・】 漢 セイ 呉 サイ 薺蒿はやぶ

【薤・】 漢 カイ 呉 ケ ㋑草薤はところ㋺水邊に生ずる一種の草葱に似た葷菜、らつきやう

【薤・】 漢 ショク シヤウ サウ 呉 シキ ㋑みづたでの一種㋺薔薇はいばら、ばらの花。

（薔薇）

【薤・】 漢 カイ 呉 ゲ 薤白はつきやうの異名。

【薤白】カイハク 百合科植物の一。

【薤晶子】カイセウシ

【蘭】 二二五頁の蘭を見よ。

【燕】 六四六頁の燕を見よ。

十四畫

【薩・】【薩】 漢 サツ 呉 サチ 菩薩は佛語で悟り

【薩埵】サツタ 菩薩に同じ、佛道のさとり。

【薩摩守】サツマノカミ 平家の落武者薩摩守忠度の名より汽車等に只乘する者のこと

【薫○】【熏】【薰】 漢 クン 呉 コン

㋑香草の一、かをりぐさ㋺にほふ、かをる㋩のどか、風のふきわたるさま㋥他の良風に化せられる㋭たく（熏）いぶすべえびすの名

【薰化】クンクワ　徳を以て人を從へ化する。

【薰灼】クンシャク　㋑やく、くすべる㋺勢力さかんにして烈しきこと。

【薰育】クンイク　人を善に導き育てる。

【薰染】クンセン　香氣にうつりそまること、深く徳に感じて善にうつる。

【薰風】クンプウ　夏の風、南風。

【薰陶】クンタウ　徳化して人物をそだてる。

注意　訓陶と書くは誤り。

【藉・籍（通字）】漢シャ　セキ　呉ジャク　セ

注意　籍に通ずるも戸籍などは戸藉とは書かぬ㋑しく、しきもの㋺かる（借）口實とする、かす㋩なぐさむ㋥おだやか（穏）㋭たとへ、もし㋬ふみにじる、ふむ㋮亂れるさま㋯天子親ら耕し給ふ田㋰なは（繩）

【同訓異義】しく　藉・布・敷其他の用法は三三八頁の布を見よ。

【同訓異義】よる　藉・依・寄其他の用法は七六頁の依を見よ。

【藉口】シャコウ　口實を作っていひわけする

【藉甚】セキジン　名聲の盛んにひろまること

【藉藉】セキセキ　縱横に論ずること。

【藍○】【蓋】漢ラン　呉ロン

㋑草の一　㋺あゐ　㋩ざやかな青色　㋥ぼろ（襤）㋭かんがみる　㋬もとのほん、原本。

【藍本】ランポン　もとのほん、原本。

【藍碧】ロンペキ　ふかみどり。

【藍袍】ランパウ　あゐ色の長き下著。

【藍綬褒章】ランジユハウシヤウ　公共の利益をはかりたる功勞者に對して賜はる褒章。

【藏①】【蔵】漢サウ　呉ザウ

㋑かくす、をさめる㋺くら㋩はらわた（腸）㋥國名、西藏の略　㋭をさむ　藏・修・治其他の用法は八三頁の修を見よ。

【同訓異義】かくる　藏・祕・隱其他の用法は一一一一頁の隱を見よ。

【藏王】ザウワウ　忿怒の相をなし右足を擧げ左手に三鈷を持つ佛。

【藏本】ザウホン　所有せる書物。

【藏板】ザウハン　次に同じ。

【藏版】ザウハン　書物の板木を所藏すること

【藏相】ザウシヤウ　大藏大臣の別稱。

【藏書】ザウシヨ　藏本に同じ。

【藏匿】ザウトク　かくすこと、かくれること。

【藏經】ザウキヤウ　大藏經の略。

【藏置】ザウチ　をさめおくこと。

【藏人】クラウド　昔殿上に於て機密の文書又は訴訟を掌り且つ小事を奏宣せし職。

三藏サンザウ　内藏ナイザウ　白藏ハクザウ　包藏ハウザウ

行藏カウザウ　伏藏フクザウ　地藏ヂザウ　幽藏イウザウ

留藏リウザウ　祕藏ヒザウ　退藏タイザウ　歸藏キザウ

收藏シウザウ　斂藏レンザウ　珍藏チンザウ　寶藏ホウザウ

【薯・諸】漢ショ　呉ソ

㋺薯蕷は蔓草の一やまいも㋺甘薯はさつまいも、甘藷

【薯蕷】ショヨ　やまのいも。

【薺・】漢セイ　呉ザイ　シ　ジ

菜の一、なづな

【臺○】漢タイ　呉デ

㋑蔓蘿はあぶらな、なたね㋺すげ、はますげ㋩たう

【藁俗字】【稾（通字）】漢カウ　呉コウ

㋑わら㋺したがき㋩かる（枯）

【藁葬】カウサウ　假埋葬の義。

【藁靴】ワラグツ　藁で作つた靴、降雪のときに用ふ。

（藁靴）

【貌・】漢ベウ　バク　呉メウ　モク

㋑小さき貌㋺さげすむ、かろんず㋩遠く離れたるさま㋥美しき貌㋭人の教に注意せぬ貌

【貌視】ベウシ　輕視する、みさげる貌。

【貌然】バウゼン　遠くして及ぶべからざる貌

【貌貌】バクバク　うつくしいさま。

【義】八二七頁の義を見よ。

【舊】八六七頁の舊を見よ。

十五畫

【藝・】【蓺】漢呉ゲイ

㋑わざ㋺うゑる㋩はて、きはまり㋥めあて、のり、標準

【同訓異義】うう　藝・種・植其他の用法は七五六頁の種を見よ。

【藝人】ゲイジン　㋑道德學術等に長じたる臣㋺遊藝にて生活する人。

【藝名】ゲイメイ　藝人としての名。

【藝文】ゲイブン　技術と學術、又美術と文學。

【藝妓】ゲイギ　うたひめ、藝者、妓女。

【藝林】ゲイリン　學術の社會、又技藝の社會。

【藝苑】ゲイエン　學術の社會。

【藝能】ゲイノウ　技能と藝術。

【藝術】ゲイジユツ　㋑技藝とわざ㋺美を實際にあらはす方法㋩學問技術。

【藝園】ゲイエン　藝術家の活動する全社會。

【藝道】ゲイダウ　わざ、技藝のみち。「たる美

【藝術美】ゲイジユツビ　藝術によりて表現され

射藝シヤゲイ　工藝コウゲイ　詞藝シゲイ　技藝ギゲイ

學藝ガクゲイ　文藝ブンゲイ　才藝サイゲイ　武藝ブゲイ

耕藝カウゲイ　姿藝シゲイ　識藝シキゲイ　六藝ロクゲイ

【藤○】【籐（別字）】【藤（漢字）】漢トウ　呉ドウ

㋑蔓生落葉樹の一、ふぢ、かづら㋺四姓

【藤架】トウカ　ふぢだな。「藤原氏の略語

【藤狀】トウシヤウ　ふぢかづらのゆか。

【藤橋】トウキウ　藤原氏と橘氏。

【藤蘿】トウラ　ふぢかづらの異名。

【藤衣】フヂゴロモ　葛布を原料とした衣服。

【藤袴】フジバカマ　㋑菊科の多年生草本で莖の高さ三四尺に達し下方の葉は三つに裂け上方の葉は廣く披針形にして鋸齒を有し白色又は薄紫色の筒狀莖を開く。

（藤袴）

【藥・】【葯（略字）】【某】漢ヤク　シャク　リヤク

㋑くすり、くすりになる草木、どく、毒藥、他物に作用を及ぼす力あるもの㋺くすりを飲みて病氣をなほす

【藥力】ヤクリヨク　藥のきゝめ。

【藥代】ヤクダイ　くすりだい、藥料、藥價。

【藥方】ヤクハウ　藥のあはせかた。

【藥王】ヤクワウ　藥師如來の異名。

【藥用】ヤクヨウ　㋑藥として使用すること㋺病人に投ずる藥の使ひ方。

【藥石】ヤクセキ　㋑くすりといしばり、廣く治療すること㋺人の誡めとなる物事。

【藥局】ヤクキヨク　藥劑を調合する所。

【藥味】ヤクミ　㋑食用の香料㋺藥の品がら

【藥研】ヤゲン　藥種を粉末にするもの。

【藥液】ヤクエキ　くすりのしる。

【藥物】ヤクブツ　くすり、又藥の材料。

【藥草】ヤクサウ　くすりとなるくさ。

【藥師】ヤクシ　藥師如來の略。

【藥料】ヤクレウ　くすりの代金。

【藥莢】ヤクケフ　火藥を裝塡した金屬製の筒

【藥湯】ヤクタウ　煎じぐすり。

【藥袋】ヤクタイ　くすりぶくろ。

【藥園】ヤクエン　藥物を作る畑。

【藥種】ヤクシユ　きぐすり、くすりの材料。

【藥箋】ヤクセン　藥の調合法を記したる書箋

【藥師】ヤクシ　くすりや、藥店。

【藥價】ヤクカ 藥料に同じ。
【藥餌】ヤクジ くすりと食物。
【藥肆】ヤクシ くすりをうるみせ、藥店。
【藥養】ヤクヤウ 藥をのんでからだを養ふ。
【藥劑】ヤクザイ くすり、調合したる藥。
【藥療】ヤクレウ 藥にて病氣を治療すること。
【藥箋】ヤクセン くすりばこ、藥籠。
【藥學】ヤクガク 藥品の性質及び其製造法等につき研究する科學、藥物學。
【藥禮】ヤクレイ 病家より醫者に仕拂ふ謝禮
【藥鑵】ヤクワン 銅や眞鍮で作つたゆわかし
【藥囊】ヤクナウ くすりぶくろ。〔又はげ頭。
【藥劑師】ヤクザイシ 藥の調合を職業とする者
【藥玉】クスダマ 種々の香料を玉にして之に種々の造花をむすびつけ長き五采の色絲を垂れしもの、簾又は柱等にかけて邪氣を避け又は不淨をはらふもの。

（玉藥）

藥籠中之物】ヤクロウチユウノモノ イ藥箱の中の藥品、必要なる人物の喩へ、轉じて ロてなづけて味方のものとして置く人物
丸藥ガンヤク 山藥サンヤク 方藥ハウヤク 水藥スヰヤク
火藥クワヤク 丹藥タンヤク 仙藥センヤク 百藥ヒヤクヤク
行藥カウヤク 投藥タウヤク 妙藥メウヤク 芍藥シヤクヤク
良藥リヤウヤク 服藥フクヤク 奇藥キヤク 毒藥ドクヤク
紅藥コウヤク 神藥シンヤク 救藥キウヤク
採藥サイヤク 珍藥チンヤク 煎藥センヤク
膏藥カウヤク 散藥サンヤク 劇藥ゲキヤク
醫藥イヤク 湯藥タウヤク 餌藥ジヤク
靈藥レイヤク 寶藥ハウヤク
不死藥フシノクスリ

【藩○】【蕃通字】

漢 ハン イかき、ロおほひ（屏）ハ封建時代の諸侯、大名ニまもる（護）
【藩士】ハンシ 其藩の武士。
【藩老】ハンラウ 諸侯の家臣の長、家老。
【藩臣】ハンシン イ王室のまもりとなる臣下即ち諸侯ロ大名のけらい、藩士。
【藩治】ハンチ 諸侯の領内の政治。
【藩府】ハンフ イ諸侯又藩鎮の役所ロ德川時代大名が江戸に所有せしやしき。
【藩邸】ハンテイ 大名やしき、大名の居城。
【藩障】ハンシヤウ かこひ、まがき。
【藩學】ハンガク 德川時代の諸藩で其藩の子弟を教育する爲に立てたる學校。
【藩政】ハンセイ 藩治に同じ。
【藩祖】ハンソ 其藩主の祖先。「るべきもの
【藩屏】ハンペイ かこひ、まがき、守護となる
【藩侯】ハンコウ 大名、藩主、とのさま。
【藩閥】ハンバツ 勢力ある藩の出身者が一致して政治上の要路を占め他藩の出身者を排斥すること、又其團體。
【藩論】ハンロン 藩中の意見。
【藩儒】ハンジユ 大名に招聘されて藩の子弟の教育に從事し且政務の顧問たる學者
【藩翰】ハンカン 藩屏に同じ。
【藩籍】ハンセキ 封土と人民。
【藩籬】ハンリ かき、まがき、又いりロ、門「戸。
彊藩キヤウハン 大藩タイハン 重藩ヂユウハン 離藩リハン
外藩グワイハン 名藩メイハン 遠藩エンハン 舊藩キウハン

【藕○】【蕃通字】

漢 ハン イかき、
【藕絲】グウシ 蓮よりひき出す絲。

【藜○】【藜通字】

漢呉 草の一、あかざ
【藜杖】レイジヤウ あかざのつゑ。
【藜羹】レイカウ 藜の葉の吸物、粗食の喩。

【藪●】【藪略字】【藪別字】

漢 ソウ 呉 ス
イさは、大なるさはロくさむら、やぶハ物事の多く集まる所ニ國訓やぶ（たけやぶ、竹林）「る所。
【藪澤】ソウタク 雜木・雜草の生え繁つてゐ

【藺】

八一六頁の繭を見よ。

【藶】

九二四頁の蘆を見よ。

十六畫

【藻●】【藻】

漢 サウ イも、水呉 ソウ 草の總稱
ロ藻の繪模樣を畫くハもやう、あや
ニ詩歌文章等のあやある詞

（藻）

【藻飾】サウシヨク イ風采をかざるロ美辭にて文詞をかざる。
【藻翰】サウカン 文章の巧みなる手紙。
【藻璧】サウエウ 美しきひかり。
【藻類】サウルキ 水草の總稱。
盛藻セイサウ 品藻ヒンサウ 文藻ブンサウ 浮藻フサウ
密藻ミツサウ 粹藻スヰサウ 弱藻ジヤクサウ 嘉藻カサウ
麗藻レイサウ 海藻カイサウ 牛藻ギウサウ 才藻サイサウ
辭藻シサウ 翰藻カンサウ 奇藻キサウ 奮藻フンサウ

【蘆○】【芦略字】【蘆】

漢 ロ 呉 ル
注意 芦を略字として用ふるは誤りである我が國では一般に略字として用ひられてゐる（葦よし、あし（葦のまだ穂を出さぬもの）ロ蘆菅は藥草の一ハ蘆菔はだいこん（蘿蔔）
【蘆汀】ロテイ 蘆の生じたるなぎさ。
【蘆笛】ロテキ あしの葉のふえ。
【蘆洲】ロシウ あしの生えたる洲。
【蘆葦】ロヰ あし。
【蘆荻】ロテキ あしとをぎ。

【蘇○】【蘇俗字】【甦通字】

漢 ソ 呉 ス
イよみがへる、いきを吹きかへす、回復するロとる、かる（刈）ハいこふニ恐れるさま（蘇）紫蘇は草の一ヘふさト人の姓
【蘇生】ソセイ よみがへる、回生。
【蘇取】ソシユ さぐり求める。
【蘇鐵】ソテツ 觀賞用植物の一、鳳尾松。
【蘇枋】スハウ イ熱帶地產の喬木で其飽厚は煮て赤色の染料とすロ裏の色目

（鐵蘇）

紫蘇シソ 石蘇セキソ 落蘇ラクソ 屠蘇トソ
耶蘇ヤソ 流蘇リウソ 三蘇サンソ 來蘇ライソ
【藹●】【靄通字】
漢呉 イしげくして多し、さかんなり ロおだやかなる貌
【藹然】アイゼン イさかんなるさまロ氣のやはらぎておだやかなるさま。
【藹藹】アイアイ イ盛んにして多きさま、草木のさかんなるさまロ香氣の起るさまハ力を盡すニほんのりと照す月光ホ穩やかなるさま。
【藺●】漢呉 莞の一種、ゐ、ゐぐさ
【藿●】漢呉 クワク まめのは、又若き豆
【藹●】【藹通字】
漢ウン 漢呉ヲン イつむ（蓄積）ロも（海藻）ハおくそこ（極奥）ニおだやか（溫和）
【藹海】ウンカイ 海藻の一、もくづ、水雲。
【藹結】ウンケツ 思ひがつもり氣がふさぐと
【藹奧】ウンアウ 學藝などのおくそこ、祕奧。
注意 おんおくと讀むは誤り。
【藹蓄】ウンチク イつみ蓄へるロ學問才藝などを十分に會得して其人の長所とする
【藹藹】ウンウン あつまるさま。「もの。

【蘋○】

漢 ヒン うきぐさの一、か
呉 ビン たばみもともぐさ。
【蘋藻】ヒンサウ かたばみもともぐさ。
【蘋蘩】ヒンパン うきぐさとよもぎ。

【藷】

九〇六頁の薯を見よ。
【藷蕷】ショシヤ さたうきび。
【藷蕷】ショヨ やまのいも。

【藥】

九〇三頁の蕊を見よ。

艸部（十六―十九畫）　蠶・蘭・蘭・蘭

【虔恭】ケンキョウ　つゝしみてうやゝし。
【虔祈】ケンキ　つゝしみいのる。
【虔虔】ケンケン　つゝしむさま。
【虔敬】ケンケイ　つゝしみうやまふ。

五畫

【處・】【處】俗字【処】略字

【處】漢 ショ　㋑すむ、をる、其境遇にある、その位置を占める㋺安んずる、おちつく㋩おく、其地位におく、その場所にすまはせる㋥とりはからふ、とりきめる㋭あてる（當）へところ、場所㋬國訓ところ（何々したれども、雖も、然るに等の意）

【處子】ショシ　㋑をとめ、きむすめ㋺官に仕へず家に居る人。

【處女】ショジョ　㋑をとめ、おぼこ、未通女㋺はつ、かはきり、初めて爲すこと㋩おとなしきこと。「浪士㋺星の名。

【處士】ショシ　㋑官に仕へず家に居る人、

【處分】ショブン　處置する、㋑とりはからふ、變更する、消滅せしめる㋺法律にそむくものを制裁すること。

【處方】ショハウ　病氣に應じて藥をもること

【處世】ショセイ　よすぎ、よわたり。

【處刑】ショケイ　罰する、罪にあてる。「める。

【處決】ショケツ　㋑取計ふ、處斷㋺覺悟をき

【處所】ショショ　ゐどころ、居所。

【處理】ショリ　しまつする、整理する。

【處務】ショム　事務を處理する。

【處處】ショショ　㋑ゐどころ㋺どこもかしこも、各處㋩そこ、こゝ、ところ〴〵。

【處暑】ショショ　廿四氣の一、八月廿三日頃

【處置】ショチ　㋑しまつする、きまりをつける㋺それ〴〵の位置をとりきめる。

【處罰】ショバツ　處刑に同じ。

【處辨】ショベン　各所、どこもかしこも。

【處斷】ショダン　取りはからひきめる、斷定。

【處女地】ショジョチ　未だ一度も土工を加へたことなき土地。「の作品。

【處女作】ショジョサク　初めて公表する文藝上

【處女會】ショジョクワイ　青年團と並行して婦人の品性を高め且つ社會奉仕の目的にて組織されたる處女の團體。

【處女飛行】ショジョヒカウ　或地點の上空を初めて飛行する、又初の飛行。「舶。

【處女航海】ショジョカウカイ　初めて航海する船

【處女出版】ショジョシユツパン　出版物にして初めて公表されるもの。

【處女演說】ショジョエンゼツ　初めて演壇に立ち公衆に向つて演說すると、又其演說。

遊處 イウ　獨處 ドク　妙處 メウ　定處 テイ　隱處 イン　急處 キウ　異處 イ　燕處 エン　巷處 カウ　移處 イ　暴處 バウ　幽處 イウ　居處 キヨ　自處 ジ　與處 ヨ　寢處 シン　偶處 グウ　窮處 キユウ　出處 シユツ　區處 ク　安處 アン　雜處 ザツ　特處 トク　要處 エウ

【虜○】漢 ク　㋑歎息の聲、あゝ㋺疑問又反語、や、か　呉 コ

【彪】三六七頁の彪を見よ。

六畫

【虛○】【虛・虛】俗字【虛】

漢 キヨ　呉 コ　㋑からである、むなし㋺むなしくす、からにする㋩天空、そら㋥すきま、準備のないこと㋭そらごと、うそ㋬よわし（弱）㋣しろあと（墟）

【同訓異義】むなし　虛・曠・空其他の用法は七六〇頁の空を見よ。

【虛左】キヨサ　尊き位をあけて賢者を遇す

【虛心】キヨシン　こゝろをむなしくす、無心。

【虛中】キヨチユウ　空腹、はらがへる。

【虛字】キヨジ　漢文にて動詞・形容詞など

【虛名】キヨメイ　むなしき評判。「の稱。

【虛妄】キヨバウザウ　いつはり、うそ。

【虛沖】キヨチユウ　心にわだかまりのなきと

【虛位】キヨキ　㋑空虛なる地位㋺名のみにて實權の伴はぬ地位㋩空名又は虛名。

【虛言】キヨゲン　そらごと、うそ。

【虛泊】キヨハク　私慾なくして無爲なる貌。

【虛空】キヨクウ　㋑大空㋺無住にしてひつそりした所 注意 きよくうと讀むは誤り。

【虛威】キヨヰ　からゐばり、虛勢。

【虛耗】キヨカウ　㋑虛勞㋺へる、空になる。

【虛弱】キヨジヤク　㋑身體のよわきこと㋺勢力や權力の弱きこと。

【虛病】キヨビヤウ　にせ病、けびやう。

【虛脫】キヨダツ　心臟が急に弱つて脈搏が衰へること、身體の冷卻する症狀。

【虛發】キヨハツ　發射した彈丸等の中らぬこと

【虛誕】キヨタン　でたらめ、出放題。

【虛勞】キヨラウ　精力體力等の衰弱すること

【虛喝】キヨカツ　おどかし、そらおどし。

【虛無】キヨム　何物もなくむなし。

【虛無】コム　虛威に同じ。

【虛勢】キヨセイ　虛威に同じ。

【虛傳】キヨデン　虛聞に同じ。

【虛想】キヨサウ　實行不能の考へ。

【虛飾】キヨシヨク　みえ、うはべのよそほひ。

【虛構】キヨコウ　無根の事を作つていふこと

【虛聞】キヨブン　ねなしごと、無根の噂。

【虛僞】キヨギ　虛妄に同じ。

【虛說】キヨセツ　うそばなし、虛言。

【虛榮】キヨエイ　うはべのつくろひ、みえ。

【虛辭】キヨジ　そらごと、うそ。

【虛實】キヨジツ　㋑うそとまこと㋺相手の用意のなき所とあるところ㋩からとみ。

【虛談】キヨダン　虛說に同じ。

【虛器】キヨキ　㋑役にたゝぬ道具㋺實權なくして名ばかりのもの。

【虛靜】キヨセイ　老莊の唱へた倫理說にして心に一物をも置めず外來物の爲めに心身を亂されぬこと。「らし㋺虛名。

【虛壁】キヨセイ　㋑虛勢をはるための言ひふ

【虛禮】キヨレイ　形式のみにて精神の副はぬ

【虛濠】キヨガウ　からぼり、塹濠。「禮式。

【虛譽】キヨヨ　實なくして世間よりほめら

【虛懷】キヨクワイ　虛心に同じ。「れる。

【虛無黨】キヨムタウ　現在の社會組織を打破し共產主義を實現せんとする祕密團體。

【虛無僧】コムソウ　普化宗の僧侶の稱、ぼろんじ。

【虛空藏】コクウザウ　智慧慈悲の廣大無窮なること恰も虛空を藏せるが如しといふ菩薩の名で其像は形貌端正にして寶冠を戴く。「を盡して相戰ふこと。

【虛虛實實】キヨキヨジツジツ　互に虛實の祕術

【虛無主義】キヨムシユギ　㋑傳說や慣習を始めあらゆる現今の社會制度を破壞して自由意志の命ずるまゝの生活に還らんとする政治上の主義㋺哲學上では外界に存在せる一切を否定する唯心論の傾向

廣虛 クワウキヨ　空虛 クウキヨ　清虛 セイキヨ　平虛 ヘイキヨ
碧虛 ヘキキヨ　崇虛 シユウキヨ　恬虛 テンキヨ　靜虛 セイキヨ

（虛無僧）

（虛空藏）

【虜・】【虜】誤字

漢 ロ　呉 ル　リヨ　慣用音

㋑いけどり、とりこ、とりこにす、いけどる㋺めしつかひ、やつこ㋩えびす

【同訓異義】とりこにす　虜・囚・俘其他の用法は二一九頁の囚を見よ。

【虜囚】リヨシウ　とりこ、俘虜、いけどり。

【虜將】リヨシヤウ　敵の大將。

【虜獲】リヨクワク　とりこにすること。

【虜艦】リヨカン　敵の兵艦。

七畫

【號・】【號】俗字【号】略字

【號】 漢カウ 呉ゴウ 注意号に慣用音ガウ 作るは誤りであるが一般に略字として用ふ㋑さけぶ(叫)㋺なく(泣)㋩なまへ、稱へ㋥本名・字・通稱等の外に附ける雅名㋭なづく、となへる㋬言ひふらす、宣傳す、又公言する㋮さしづ、いひつけ、命令㋯しるし(記號)㋰商店の名稱㋱船舶の名の下に添へる語㋲數詞の下に添へて等級をあらはす語

「命令する。」

【號令】ガウレイ ㋑命令、さしづ㋺大聲にて

【號角】ホルン 圓形屈曲の金屬管から成り開口端がラッパ狀をなす吹奏樂。

（號角）

【號外】ガウグワイ 定期刊行物にして臨時發行するもの。

【號叫】ガウケウ なきさけぶ。

【號泣】ガウキフ 大聲にてなく。

【號哭】ガウコク 大聲をあげてなきさけぶ。

【號砲】ガウハウ 合圖の爲に發する大砲の音

【號鐘】ガウシヨウ あひづのかねの音。

【號旗】ガウキ 信號旗、あひづのはた。

【號嘯】ガウセウ うそぶく。

烏號ウガウ 呼號コガウ 狂號キヤウ 驚號ケイガウ

長號チヤウガウ 吼號コウガウ 年號ネンガウ 諡號シガウ

尊號ソンガウ 正號セイガウ 稱號シヨウガウ 舊號キウガウ

僭號センガウ 殊號シユガウ 嘉號カガウ 顯號ケンガウ

雅號ガガウ 國號コクガウ 泣號キフガウ 怒號ドガウ

【虞○】 漢グ ㋑前以て用意する、はむ(樂)㋺山澤をつかさどる官㋩心配、おそれ㋬父母の葬式を終へし當日に行ふ祭㋭朝の名（舜が堯の禪を受けて建てたもの）㋮國名(今の山西省平陸縣)

【虞初】グシヨ 前漢武帝時代の小說家、轉じて一般に小說の意味。

【虞唐】グタウ 虞舜と唐堯。

【虞淵】グエン 昔太陽が沒する所と想像せし地、轉じてゆふがた。

【虞美人草】ヒナゲシ 罌粟科の一年生草本でヨーロッパの原產にして廣く庭園に培養せられ莖高一二尺七八月頃莖頭より花梗を抽き其頂に花を開く、花は直徑二三寸、種々の色を呈し美しく壺狀の蒴果を結ぶ。

（虞美人草）

九畫

【虧○】 漢呉キ ㋑かく(缺)損す、へらす、へる、かける㋺かけ、へること、缺損

【同訓異義】かく 欠・缺・虧其他の用法は八一九頁の缺を見よ。

【虧盈】キエイ ㋑かけるとみちる㋺滿ちたるものゝ缺けること。

【虧蝕】キシヨク ㋑日月がかける日蝕、月蝕㋺資本金がかけてなくなる。

【慮】 四〇五頁の慮を見よ。

【膚】 八五二頁の膚を見よ。

十畫

【戲】 四一七頁の戲を見よ。

【廬】 七一五頁の廬を見よ。

十一畫

【戲】 四一七頁の戲を見よ。

十四畫

【獻】 六六九頁の獻を見よ。

虫部

【虫・】【蟲】 漢呉 ㋑一般に蟲の略字として用ふるも正しきは誤りである㋺鱗介類の總名㋩まむし

一畫

【虬】 次の蚓を見よ。

二畫

【蚓○虬】 漢キウ 呉グ ㋑みづち（龍の子にて角あるもの）㋺めぐる、まはる「はる。」

【蚓蟠】キウバン みづちの蟠るやうに相まつ

【蚓龍】キウリヨウ 角のある龍、みづち。

【虱・蝨】 漢シツ 呉シチ 寄生蟲の一、しらみ

【虱本】シラミボン 德川時代に發行されたる細字の假名のみの版本の名。「得する。

【虱潰】シラミツブシ 多數の相手を一人々々說

【虹○】 漢コウ 呉ゴウ カウ グ ㋑にじ（太陽の光線が空中の水蒸氣に分解されて生ずる色彩ある橋狀の現象、又空中の水蒸氣に映じて生ずる白氣）㋺はし(橋)㋩みだす(訛)

【虹彩】コウサイ 眼球の瞳孔をかこみて放散輪狀に列せる筋纖維。

【虹泉】コウセン たき、瀑布。

【虹棧】コウサン にじのやうに高い かけはし

【虹蜺】コウゲイ 虹霓に同じ。

【虹橋】コウケウ にじ、橋の形せるよりいふ。

【虹霓】コウゲイ にじ、雩虹。

【虻・】 漢クワイ 呉エ ㋑まむし(蝮蛇)㋺小さきへび㋩雷の轟く音㋥疲れる貌「へる。

【虻蜮】キキキ まむし、姦人又は小人に喩

【虻○蝨】【蚤俗字】 漢バウ 呉ミヤク ㋑蠅の一種、あぶ、雙翅類に屬する昆蟲の一で蠅より大きく體は灰黑色で胸背に三條の縱毛線あり雄は花時に蜜花粉を吸ふのみであるが雌は强い口吻で人畜を螫す㋺草の一、あみがさゆり

（蚤）

【虻】 九一六頁の蛇を見よ。

【独】 六六七頁の獨を見よ。

【虻】 一一一五頁の雖を見よ。

【風】 一一四四頁の風を見よ。

四畫

【蚊○蚤】【蝨古字】【蚊】 漢ブン 呉モン か（子子の羽化したもの）

【蚊軍】ブングン 蚊のむれ。

【蚊脚】ブンキヤク 蚊の足、細字などの形容。

【蚊鳥】ブンテウ 蝙蝠の異名。

【蚊帳】ブンチヤウ かや、蚊帳。

【蚊雷】ブンライ 蚊の集まり鳴く聲の形容。

【蚊聲】ブンセイ 蚊の集まり鳴くこゑ。

【蚊幬】ブンテウ 蚊帳に同じ。

【蚊柱】カバシラ 蚊が柱狀に集まりて飛ぶ貌

【蚊母鳥】ブンボテウ 梟の類、よたか。

【蚤・】【蚤】 漢サウ 呉ソウ ㋑害蟲の一、のみ㋺はやし(早)つとに㋩つめ(爪)つめきる

【同訓異義】つとに

【夙】 ははやくから謹しんで後れぬやうにする義。

【早】 は晨の意にてつとにとよむ。

【蚤】 ははやくの意にてつとにとよむ

【蚤夭】サウエウ わかじに、夭折、早世。

【蚤世】サウセイ わかじに、早世。

【蚤起】サウキ はやおき、夙起。

【蚤知之士】サウチノレ 先見の明ある人。

【蚌●】漢ハウ　呉バウ　ボウ　㋑蛤の一種、はまぐり㋺からすがひ、どぶ貝

【蚌蛤】バウカフ　はまぐりの異名。

【蚌珠】バウシュ　はまぐりから出る眞珠。

【蚍○】漢ヒ　呉ビ　蚍蜉は蟲の名、おほあり

【蚓●蠙】漢昊イン　蟲の一、みゝず（蚯）

【蚤●】漢昊テン　注蟲一般に蠶の略字として用ふるも正しきは誤りである、みゝずの類

【蚣○】漢コウ　呉ク　蜈蚣はむかで

【蚩○】漢昊シ　㋑おろか（愚）みだれる（亂）㋺あなどる㋩蚩尤は古代君王の名㋥兵亂の前兆をなす星

【蚩眩】シゲン　侮りてだます。

【蚩笑】シセウ　あざけりわらふ、嗤笑。

【蚪●】漢トウ　呉ツ　蝌蚪は蛙の子、慣用音ト　おたまじやくし

【蚋】九一九頁の蠛を見よ。

五畫

【蛇○蛇】【蛇】漢ジヤ　呉ダ　タ　セ　イ

㋑くちなは、へび㋺委蛇は泥鰌の異名㋩ゆつくりと落つく貌㋥蛇のうねりゆく貌

【蛇矛】ジヤバウ　武器の一、ほこの一種。

【蛇豕】ジヤシ　蛇と豕、貪慾なる者の義。

【蛇魚】ジヤギヨ　鰻の異稱。

【蛇蝎】ジヤエキ　ゐもりの異名。

【蛇籠】ジヤカゴ　竹にて籠の目をあらくあみたる中に石を入れて河川の流水又は堤防の崩るゝをふせぐに用ふるもの

（籠　蛇）

【蛇心】ダシン　そねむ　嫉妬。

【蛇行】ダカウ　㋑道路のくねり曲る貌㋺身體を曲げてまともに歩き得ぬ貌。

【蛇足】ダソク　無用のもの、意。

【蛇蛻】タゼイ　蛇のぬけがら。

【蛇腹】ダフク　へびとまむし。

【蛇線】ダセン　蛇のうねる如く屈曲せし線

【蛇蝎】ダカツ　へびとさそり、最もおそれ嫌ふべきものに喩ふ。

【蛇苺】ヘビイチゴ　山野に自生する多年生

（苺　蛇）

草本で莖は匍匐し黄花を開き、苺に似た紅色の果實を結ぶ。

【蛇紋石】ジヤモンセキ　鑛石の一、綠又は黄色で白色の斑點あり蛇の皮に似てゐる石

【蛇皮線】ジヤヒセン　琉球特有の樂器の名。

【蛇眼草】ジヤガンサウ　いはがねさうといふ丈けは一尺四五寸乃至二尺その色は深綠色にして翠滴らんとするが如き

（草眼蛇）

より好事家は多くこれを賞玩する。

蛟蛇カウ　交蛇ダ　巨蛇キヨ　龍蛇リヨウ

群蛇グン　靈蛇レイ　神蛇シン　青蛇セイ

長蛇チヤウ　螻蛇フク　雙蛇サウ　白蛇ハク

【蛉○】【蛉】漢レイ　呉リヤウ　㋑蜻蛉はとんぼ㋺螟蛉はあをむし

【蛋●】漢タン　呉ダン　㋑南蠻人㋺たまご、鳥の卵

【蛋白】タンパク　卵のしろみ。

【蛋黄】タンクワウ　卵のきみ。

【蛋白質】タンパクシツ　動植物の成分をなし炭素・水素・窒素・硫黄より成る物質。

【蛔○】漢ハウ　呉ヘウ　國訓あはび（海産貝の一、鮑）

【蚯○】漢キウ　呉ク　蚯蚓は蟲の名、みゝず

【蚯蚓】キウイン　みみず、土の中又は淡水の中にすむ小蟲。

【蚰○】漢イウ　呉ユ　蚰蜒は蟲の一、げぢ〳〵

【蚰蜒】イウエン　蟲の名、けぢ〳〵。

【蛆○】漢ショ　呉ソ　㋑蠅の幼蟲、うじ㋺蛆蟲は蜈蚣の別名

六畫

【蛙俗字】【蚌】漢ワ　呉エ　慣用音ア　㋑兩棲動物の一、かへる、かはづ㋺みだり（淫）

【蛙市】アシ　蛙が集合して鳴くこと、又其貌。

【蛙吹】アスキ　蛙のなきごゑ。

【蛙聲】アセイ　㋑みだらなる音樂㋺蛙鼓。

【蛙鳴】アメイ　蛙が鳴くこと、轉じて非常にさわがしきにいふ。

【蛙鳴蟬噪】アメイセンサウ　かへるやせみの鳴くやうにかまびすしく噪ぎたつ。

群蛙グン　鳴蛙メイ　亂蛙ラン　井蛙セイ

怒蛙ド　赤蛙セキ　青蛙セイ　雨蛙ウ

【蛭●】【蛭】漢シツ　呉シチ　漢昊チツ

池溝田沼等に生ずる水蟲の一、ひる

【蛭子】ヒルコ　いざなぎ・いざなみ。

【蛭卷】ヒルマキ　薤刀・槍の鞘の卷き方の一。

【蛔○】漢クワイ　呉エ　寄生蟲の一、はらの蟲、さなだ蟲。

【蛔蟲】クワイチユウ　字解を見よ。

【蛛○】漢昊チユ　蜘蛛はくも蟲の一

【蛛絲】チユシ　蜘蛛の巣、蜘蛛のはらから分泌する細い絲。

【蛛網】チユマウ　蜘蛛のす、蜘蛛のあみ。

【蛟○】漢カウ　呉ケウ　龍の類、みづち

【蛟螭】カウチ　みづち。

【蛟龍】カウリヨウ　みづちとたつ。

【蛤●】漢カフ　呉コフ　海産貝の一、はまぐり

【蛤蜊】カフケン　はまぐりとしじみがひ。

【蛤粉】カフフン　ごふん。

【蛞●】漢クワツ　呉クワチ　蛞蝓は軟體動物の一、なめくぢけら。

【蛞蝓】クワツユ　なめくぢ、なめくぢら。

（蜆　蛤）

【蛩○】【巩虫俗字】漢キヨウ　呉ク　㋑こほろぎ（蛬）㋺いなご（蝗）㋩馬に似た一種の獸の名㋥うれへ思ふさま

【蛬●】漢キヨウ　呉ク　きりぎりす、こほろぎ（蛩）

【蛎】九二五頁の蠣を見よ。

七畫

【蜀●】【蜀】漢ショク　呉ゾク　㋑いもむし㋺國名（今の四川省地方）

【蜀道】ショクダウ　㋑支那の四川省、古昔の蜀に通ずる至險の道路、所謂蜀の棧道、㋺人情世路の困難なることに喩へる語

【蜀葵】ショクキ　花卉の一、からあふひ。

【蜀魂】ショクコン　鳥の名、ほとゝぎす。

【蜀江錦】ショクカウノニシキ　昔支那の蜀の錦江といふ川にて絲をさらして織りたる精巧な錦、轉じて美しきにしき。

（蜀江錦）

【蜂○】【蜂】漢ホウ　呉フ

昆蟲の一、はち

【蜂起】ホウキ　群蜂の如くおこりたつさま

【蜂巢】ホウサウ　はちのす。

【蜂衙】ホウガ　朝夕時をきめて出入する蜜蜂

【蜂聲】ホウセイ　はちのなくこゑ。

【蜂窠】ホウクワ　蜂の巣。

【蜂腰】ホウエウ　㋑細きこし、柳腰㋺悪詩。

【蜂蜜】ホウミツ　蜜蜂の巣より採取した甘味ある液、はちみつ。

【蜂鳥】ハチドリ　アメリカの熱帶地方に產し羽色が美麗で鳥類中最も小さいもの。

（蜂鳥）

【蜂窩生活】ホウクワセイクワツ　一つの大なる建築物に多數の家族が分居して住むこと

【蛸○】漢　サウ　蠨蛸はあしたかぐも、さゝがに㋑蠨蛸はかまきりの子㋺國訓たこ（海產の軟體動物の一）㋩土工具の一

【蛸配當】タコハイタウ　實際には無き利益を有るが如くつくろひて配當すること、又その配當の金、蛸配。

【蛹●】漢　ヨウ　蠶の一變體、さなぎ　呉　ユ　㋑もぬけ、ぬけがら㋺蟲類が外皮を脫ぐ、もぬけ

【蛻●】漢　ゼイ　呉　セ　蟬蛻セン　神蛻シン　靈蛻レイ　委蛻ヰ

【蛾●】【蟻通字】漢　ガ　呉　ギ　㋑蠶のてふ㋺毛蟲の蛹の羽化したもの、ひとりむしの類㋩蛾の觸鬚に似たる美しい眉毛㋥にはかに（俄）㋭あり（蟻）

（蛾）

【蛾眉】ガビ　美人の眉、轉じて美人の形容。

【蛾翠】ガスヰ　蛾眉のみどりいろ。轉じて美人の眉の美しい形容。

【蛾術】ガジユツ　小蟻が大蟻に習ひ斷えず土を運び垤を成す如く人も聖賢の敎に從ひて其知見を向上せしむべきこと。

【蛾眉月】ガビゲツ　三日月の異稱。

【蜆●】漢　ケン　呉　ゲン　淡水產の貝の一、しじみ

【蜈○】漢　ゴ　呉　グ　蜈蚣は毒蟲の一、むかで

【蜈○】漢　呉　㋑蛤蜊はゝまぐりの一種、しほふき㋺國訓あま、海人

【蜃蛤】シンカフ　はまぐり、おほはまぐり。

【蜃氣樓】シンキロウ　空氣と光線との關係によりて遠地の風物が海上又は沙漠の上空に映つて見える現象。

【蜃●】漢　タン　呉　ダン　㋑南方野蠻人の一㋺國訓あま、海人

【蜃丁】タンテイ　㋑南國の海人のわかもの㋺あまびと、あま。

【蜒○】漢　呉　㋑蚰蜒は小蟲の一、げんぢ〳〵㋺うね〳〵と長きさま㋩祝蜒はやもりうね〳〵と長きさま。

【蜒蜒】エンエン

【蜋○】九二一頁の螂を見よ。

【蜋蛤】フイウ　かげらふ、夏秋の間に出でて數時間にて死する小蟲、轉じて人生の儚ないことに喩へる語

【蜃●】漢　シン　呉　ジン　㋑はまぐり、蛤の大きなるもの㋺みづち㋩ひつぎぐるま、柩路

【蜃市】シンシ　蜃氣樓に同じ。

【蜃氣樓】シンキロウ　空氣と光線との關係によりて遠地の風物が海上又は沙漠の上空に映つて見える現象。

【蜃●】漢　タン　呉　ダン　㋑南方野蠻人の一㋺國訓あま、海人

【蜃丁】タンテイ　㋑南國の海人のわかもの㋺あまびと、あま。

【蜒○】漢　呉　㋑蚰蜒は小蟲の一、げんぢ〳〵㋺うね〳〵と長きさま㋩祝蜒はやもりうね〳〵と長きさま。

【蜒蜒】エンエン

【蜋○】九二一頁の螂を見よ。

八畫

【蜜●】【蜜】漢　ビツ　呉　ミチ　慣用音ミツ　みつ、はちみつ、さたうみつ

【蜜月】ミツゲツ　歐米諸國の風俗で新婚後三十日間の稱、ホネームーン。

【蜜汁】ミツジフ　はちみつ、みつ。

【蜜香】ミツカウ　波斯・土耳古等に產する樹の名（之より香を製す）。

【蜜漿】ミツシヤウ　蜂蜜で作つた暑中の飲物

【蜜蜂】ミツホウ　昆蟲の一、みつばち。

【蜜蠟】ミツラウ　蜜蜂の巢より製したる蠟

【蜜柑】ミカン　果樹の一、又その果實（注意）密柑と書くは誤り。

（蜂蜜）

【蜘○】漢　呉　チ　蜘蛛は昆蟲の一、くも

【蜚●】漢　呉　ヒ　㋑稻の害蟲㋺蜚蠊は害蟲の一、油蟲㋩とぶ（飛）

【蜚禽】ヒキン　飛禽、とぶとり。

【蜚語】ヒゴ　誰いふとなく傳へし噂、流言。

【蜚鴻】ヒコウ　蟲の一、かつをむし。

【蜚騰】ヒトウ　飛びあがること。

【蜥●】漢　セキ　呉　シヤク　蜥蜴はやもりに似た蟲、とかげ

【蜩○】漢　テウ　呉　デウ　せみ（蟬の總名）ひぐらし（茅蜩）つくつくぼうし（寒蜩）おほぜみ（馬蜩）

【蜩蟬】テウゼン　ひぐらしとせみ（注意）しうぜんと讀むは誤り。

【蝪●】漢　エキ　呉　ヤク　蜥蜴はとかげ

【蝦○】漢　ケン　呉　コン　㋑蟲のうねり匐ふさま㋺國訓になみな（田螺に似た貝）

【蜻○】漢　セイ　呉　シヤウ　蜻蛉はとんぼ、蜻蛉はこほろぎ

【蜻蛉洲】セイレイシウ　蟲の一、とんぼう、とんぼ。

【蜻蛉結】トンボムスビ　我國の異名。

【蜻蛉結】トンボムスビ　兩方に二つ宛のわなを出した紐のむすび方。

【蜿●】漢　エン　呉　ヲン　㋑龍蛇などのうねり行く貌㋺蜿蟺は蚯蚓の異名㋩山勢などの屈して長くつゞくさま㋥山蛇などのよぢ〳〵となるさま

【蜿蜒】エンエンうね〳〵せる貌、蛇の行く貌

【蜿蜒】エンエンうね〳〵と曲りくねる貌。

【蜻●】【蜻俗字】漢　ゼイ　呉　ネイ　㋑蚊㋺毒を持てる一種の虻。國訓ぶよ、ぶゆ、ぶと

【蝿●】【蝿】【蝿俗字】漢　バウ　呉　モウ　すだま

【蜑】九二五頁の蠻を見よ。

【蝋】九二四頁の蠟を見よ。

九畫

【蝕●】【蝕】漢　ショク　呉　ジキ　㋑日食・月食（日が月に遮られ又は月が地球の影をうけて光を失ふこと、又その現象）㋺むしばむ、むしくひ㋩くひこむ、侵す

【蝕既】ショクキ　月食・日食の全くかける義

【蝠●】【蝠】漢　フク　呉　ホク　㋑かうもり、かはほり（蝙蝠）㋺まむし（蝮）

【蝙○】【蝙】漢　ヘン　呉　ヘン　小獸の一、かうもり、かはほり（蝙蝠）

【蝙蝠】カウモリ　㋑翼手類の小獸で四本の脚のうち前脚は長く指の間には薄い膜があつてよく空中を飛翔し晝は洞中にかくれ夜間出でゝ昆蟲類を捕へて食ふ㋺「蝙蝠も鳥のうち」は取るに足らぬものでも其種族にはちがひない意。

（蝙蝠）

【蝙蝠羽織】カウモリバオリ　一種の羽織、丈短

かくして恰も蝙蝠の翅を擴げたる如き形にて德川時代の初期に流行した

【蝙蝠政黨】カウモリセイタウ 一定の政見なく形勢を觀望して有利なる方につく政黨。

（蝙蝠羽織）

【蝶●】【蝶】

漢テフ 昊デウ てふ〜

毛蟲類の羽化せるもの

【蝶足】テフアシ 膳などの脚が蝶の翅をひろげたさまをなすもの。

【蝶兒】テフジ 蝶、てふてふ。

【蝶夢】テフム 蝴蝶の夢に同じ。

【蝶花形】テフハナガタ 紙にて蝶の形に折つたもので目出度い宴席の銚子の蓋などに飾る。

【蝶花形】テフクワケイ 植物學で蝶の形に似た花の總稱。

（蝶足）

（蝶花形）

【蝸○】【蝸】

漢クワ 昊ゲ

軟體動物の一、かたつむり、かたつぶり（蝸牛）

【蝸篆】クワテン 蝸牛の這ひし跡のぬめりを篆書の形に見たてゝいふ。「き家屋。

【蝸廬】クワロ かたつむりの殼の如き小さ

【蝸角之爭】クワカクノアラソヒ 蝸牛の角の上にある二國が互に爭つたといふ比喩、甚だ小さき爭。「じ。

（牛蝸）

【蝸牛角上爭】クワギウカクジヤウノアラソヒ 前に同

【蝦○】

漢カ 昊ゲ ㋑えび（蝦）海

慣用音 ガ 老㋺蛙の一種

（蝦蟆）がま㋑蛙の大なるものゝ總稱㋺昔奥羽北海道地方に居住の蠻民（蝦夷）

【蝦蛄】カコ しやこ。（近海の沙泥中にすみ形はえびに似るてる。）

【蝦蟆】カバガマ ㋑ひきがへる㋺想像上の巨大な蛙。

【蝦蛄】シヤコ 甲殼類の一種で身長は四五寸ばかり形は蝦に似て蒼灰色を呈し胸節四個は露出して腹部が長い。

【蝦夷松】エゾマツ 深山に自生する松柏科の常綠喬木で幹は高さ十數丈に達し材は建築・製紙に用ひる。

（蛄蝦）

（松夷蝦）

【蝦夷山鳥】エゾヤマドリ 鶉鷄類に屬し北海道に產する鳥で習性は鶉又は鷄に似て居る。

【蝦蟆仙人】ガマセンニン 蝦蟆を使ふことに上達したる仙人。

（夷蝦山鳥）

【蝌○】

漢昊 ㋑蛙の幼蟲おたまじやくし（蝌蚪）㋺支那古代クワ の文字の書體

【蝌蚪】クワト 蛙の幼蟲、おたまじやくし。

【蝌蚪文字】クワトモンジ 支那古代文字の書體

【蝎●】【蠍本字】

漢カツ 昊ガチ 木を食ふ蟲、きくひむし、すくもむし

【蝓○】

漢昊 なめくぢら ユ

【蝗○】

漢 クワウ 害蟲の一、いなど 昊 ワウ

【蝗蟲】クワウチウ いなご、蝗蟲。

【蝮●】

漢昊 せみ、なつぜみ、麥藁 エン ぜみ ㋺やもり

【蝮蜒】エンテイ やもり。

【蜎●】

漢昊 鼠に似た小獸、はりねずみ ケン

【蜎毛】キマウ はりねずみの毛、物の多き

虫部（九—十一畫）蝣・蝮・蝌・蝎・蝕・蝨・蝿・蝨・蝨・蝨

ぢれたること、又其形㊐ねぢ、ぜんまい。
【螺錐】ラスキ　ねぢきり。
【螺階】ラカイ　螺旋形の階段。
【螺鈿】ラデン　あはび貝・鸚鵡貝等の殼の裏の光彩部にて裝飾したる細工。
【螺髮】ラハツ　蝶のからの如くねぢれて見えるかみ、佛像の髮。
【螺髻】ラケイ　法螺貝の如く束ねたるもとどり㊐青き山の形容。

【蟄●】

漢チツ　呉ヂツ　㋑かくる（蟲類が土中等に隱れる）轉じて人がとぢこもる㊐和ぎ集まる貌
【蟄伏】チツフク　とぢこもる、外出せぬ。
【蟄居】チツキヨ　㋑とぢこもる㊐德川時代に武士に課せられたる刑の一、自家の一室内にとぢこめ外出を禁じたるもの。
【蟄雷】チツライ　はつがみなり。
【蟄龍】チツリヨウ　かくれたる龍、轉じて乘ずべき機會を得ぬ英雄に喩ふ。
【蟄蟲】チツチウ　穴ごもりせる蟲。
【蟄藏】チツザウ　穴ごもりすること。

【螫●】

漢セキ　呉シヤク　さす（毒蟲がはりでさし又咬むと）
【同訓異義】さす　螫・刺・指其他の用法は一三九頁の刺を見よ。

【螯○】

漢ガウ　呉ゴウ　蟹の前足にある翦刀形の爪、はさみ

【螳○】【蟷】

漢呉タウ　蟲の一、かまきり（螳螂）いぼむしり
【螳螂衞】タウラウノマモリ　武備の微弱なること。
【螳螂之斧】タウラウノオノ　已れの分を知らずしてみだりに進むこと。

（螳螂）

【螵○】

漢ヘウ　呉ベウ　螵蛸は螳螂の巢

【螻○】

漢ロウ　呉ル　いなごに似た蟲、けら
【螻蛄】ロウイン　けらとみゝず、つまらぬものゝ喩
【螻蛄】ロウコ　天螻、けら。
【螻蟻】ロウギ　けらとありむしけら、轉じて取るに足らぬものに喩へていふ。

（螻蛄）

【冬蟲○】

漢シユウ　呉シユ　蝗類の總稱、いなご
【螽花】シユウクワ　總狀花序の一、禾本科植物の花穗の一部を構成する小花穗にして通常其外部を被ふ二枚の鱗片あり。
【螽蟖】シユウタイ　はちの異名。
【螽蟖】ヤリギリス　直翅類の昆蟲で形は蝗の如く觸角は硬狀で頭部よりも長く體色は綠色と褐色との二種あり夏秋の頃草間などで晝夜を分たず鳴き晩秋地中に產卵する。

（螽花）

（螽蟖）

【蟀●】

漢シユツ　呉シユチ　蟲の一種きりゝす、こほろぎ
【蟀谷】シユツコク　こめかみ、額顴、
【蟆○蟇】漢バ　呉マ　兩棲類の一、かへる（蝦蟆）
【蟆子】ブト　ぶゆの異名。

【蟋●】

漢シツ　呉シチ　こほろぎ（蟋蟀）きりぎすす
【蟋蟀】シツシユツ　字解を見よ。

【蟲○蠢】

漢ボウ　パウ　呉メウ　ム　㋑ねきり虫㊐毒蟲の名、はんめう
【蟆】九一六頁の蚓を見よ。
【蟲】九一五頁の蚊を見よ。
【蟈】一一七二頁の蟈を見よ。

（螽蟖）

十二畫

【蟬○】【蟬】【蟬】

漢セン　呉セン　略字
蟄蟬の羽化したる昆蟲の總稱、せみ
【蟬吟】センギン　蟬のなきごゑ。
【蟬紗】センシヤ　蟬の羽の如きうすぎぬ。
【蟬脫】センダツ　全く一新すること、舊きことを捨て去る。
【蟬羽】センウ　蟬のはね。「脫け出る。
【蟬蛻】センゼイ　蟬のぬけがら、又その如く
【蟬噪】センサウ　せみの鳴くこと、轉じてがやゝとやかましきさま。
【蟬嫣】センエン　つらなるさま。
【蟬聯】センレン　蟬のなき聲の如く物事が連續し又は話が續く。
【蟬翼】センヨク　せみの羽、また輕いものゝ喩
【蟬鬢】センビン　美人の髮をほめていふ語。
【蟬飭鮒】セミハウバウ　かながしらに類する海魚で背は暗黑色で黑點あるもの。
【蟬時雨】セミシグレ　蟬の鳴く聲の繁き形容
枯蟬コセン　晝蟬チウセン　林蟬リンセン　涼蟬リヤウセン
青蟬セイセン　鳴蟬メイセン　秋蟬シウセン　雌蟬シセン
亂蟬ランセン　馬蟬バセン　蜩蟬チウセン　高蟬カウセン

（蟬）

【蟲○】【虫】【蟲】

漢チユウ　呉チユ　別字
㋑むし（人・禽獸・魚介を除いた他の動物の總稱）㊐あつきさま、蒸暑し㊇國訓むし（愛らしい聲で鳴く蟲、物をそこなふ蟲、病氣のもとゝなる蟲、心を支配するもの、田產時の腹痛）
【蟲害】チユウガイ　蟲の爲に被る作物の損害
【蟲魚】チユウギヨ　むしとうを、又下等の動物
【蟲聲】チユウセイ　蟲の聲、むしの鳴く聲。
【蟲籠】チユウロウ　むし籠、むしを入れる籠。
【蟲媒花】チユウバイクワ　昆蟲の媒介にて果實を結ぶ植物。
華蟲クワチユウ　昆蟲コンチユウ　生蟲セイチユウ　夏蟲カチユウ
羽蟲ウチユウ　狹蟲カウチユウ　草蟲サウチユウ　吟蟲ギンチユウ
鳴蟲メイチユウ　夜蟲ヤチユウ　怪蟲クワイチユウ　桃蟲タウチユウ
害蟲ガイチユウ　鱗蟲リンチユウ　沙蟲サチユウ　甲蟲カフチユウ

【蟒●】【蟒】

漢バウ　呉マウ　蛇の大なるもの、うはゞみ、をろち
【蟒屈】ハンクツ　㋑かゞみわだかまる㊐氣の結ぼれること、心のひらかぬさま。
【蟠桃】ハンタウ　仙家にあるといふ大きな桃の實、長壽を祝するに用ふ。
【蟠結】ハンケツ　まがりくねつて結ぼれる。
【蟠蜿】ハンエン　わだかまりうねる。
【蟠踞】ハンキヨ　蟠まりうづくまる。

【蟯●】

漢ケイ　呉エ　蟯の一種、なつぜみ
【蟯蚘】ケイコ　なつぜみ。

十三畫

【蟹●】【蟹】

漢カイ　呉ゲ　水中又は水陸兩方に棲む一種の蟲、かに、無腸公子
【蟹行】カイカウ　かにの歩み、橫行するさま
【蟹甲】カイカフ　蟹のかふら。
【蟹舍】カイシヤ　海岸にある漁人の家。
【蟹眼】カイガン　茶の湯の沸き出す時の小さき泡、蟹の目玉に似たるよりいふ。
【蟹鑿】カイガウ　蟹のはさみ。

【蟻●】【蛾】【蟻】

漢呉　字　通
㋑膜翅類の昆蟲で胸腹の間に甚しくいびれあり翅は薄い膜質で翅脈少なく觸角は絲狀又は棍棒狀をなし地中又は朽木の中に巢を營む㊐「蟻の這ひ出る穴」はわづかのすきまの意
【蟻穴】ギケツ　ありのあな。
【蟻附】ギフ　蟻が甘い物にたかる如く物事

又は人の集まり來ること。

【蟻孔】ギカウ ありの穴、蟻穴。「ぬ敵。

【蟻蹇】ギコウ 小さいあた、恐るゝに足ら

【蟻垤】ギテツ ありづか、又土の小高き所。

【蟻冢】ギチヤウ 前に同じ。

【蟻集】ギシフ 蟻聚に同じ。

【蟻酸】ギサン 赤蟻等の毒蟲が有する一種の酸、皮膚に觸れる時は劇痛を感じ水

【蟻蝨】ギロウ ありとけら。「腫を起す。

【蟻聚】ギシウ 蟻の如く多く集まる。

【蟻蠶】ギサン 孵化したばかりの蠶。

【蟻地獄】アリヂゴク 蟻を食する蟲、うすばかげろうの幼蟲。

【蠅○】【蠅俗字】

漢呉 蛆の羽化した小さき飛蟲、はへ

【蠅市】ヨウシ 蠅のむらがり集まる所。

【蠅虎】ヨウコ 蜘蛛の一種、はへとりぐも。

【蠅頭】ヨウトウ はへのあまた、細かきもの に喩へる。「小利をいとなむ義。

【蠅營】ヨウエイ 蠅の働くやうにあくせくと

【蒼蠅】サウヨウ 青蠅セイヨウ 飛蠅ヒヨウ 朝蠅テウヨウ

【蟾○】

漢セン ㋑蛙の一種、ひきが呉ソン へる㋺月の異名

【蟾兎】セント 月の異名。

【蟾彩】センサイ 月のひかり、蟾光。

【蟾蜍】センジヨ ㋑ひきがへる㋺月の異名。

【蟾輝】センキ 月の光り。

【蟾魄】センパク つきしろ、月。

【蟾蠩】センショ 蝦蟇に似て陸地に棲み其頭に角を生じたものは千歳の壽を保つと

【蠆●】

漢呉 タイ ㋑さそり㋺蜻蛉の幼蟲 たいこむし㋩蠶蜘蛛類の蟲で暖地に產し全身黑褐色で足は四對あり觸鬚は鋏の形をなし尾端に劇毒な鍼を具へよく疾走する。

（蠆）

【蠋●】

漢ショク 蛾蝶類の幼蟲、いもむし 呉ソク

【蠍●】【蝎俗字】

漢ケツ 蜘蛛類の毒蟲、さそり、忌み嫌はれるものゝ譬に用ゐる

【蘭】 八一六頁の蘭を見よ。

【蟷】

九二二頁の螳を見よ。

【蠻】

九二五頁の蠻を見よ。

十四畫

【蠓○】

漢ボウ 雨後などに亂れ飛ぶ小蟲、かつをむし 呉ム

【蠓蚋】ボウゼイ かつをむし。

【蠓●】

漢呉ワク 慣用音クワク ㋑蠶に似た蟲しやくとりむし㋺暗く亂れるさま㋩退きかくれる貌

【蠕○蝡】

漢ゼン シュ 呉ナン ジュ ㋑うごめく、蟲などの動くさま、蠕動㋺人種の名（匈奴の一にして今の外蒙古地方に住居したもの）㋩はふ（這）蟲がはふ

【蠕動】センドウ 食物が腸を通過する時腸壁を構成する筋肉が伸縮して動く貌 注意 じゆどうと讀むは誤り。

十五畫

【蠟●】【蝋略字】【蠟】

漢ラフ 呉ロフ ㋑蜜蜂の巢・黃櫨の實・重油等より採る硬性の脂肪にして蠟燭の原料又塗料等に用ゐる㋺蠟の如き性狀あるものゝ總稱㋩蠟をひく、らふを塗る㋥らふそく

【蠟丸】ラフグワン 祕密の漏洩又は濕氣を防ぐため書狀を蠟の中に封じこみしもの

【蠟石】ラフセキ 滑石の一種、柔滑なる質を有し印材・文具・石筆などに造る。

【蠟花】ラフクワ らふそくの光り。

【蠟淚】ラフシユ 蠟淚に同じ。

虫部（十五—十八畫）　蠟・蠖・蠢・蠹・蠱・蠹・蠹・蠹

【蠹書】トショ ㊀むしばんだ書物㊁書物の蟲干をする、曝書。「讀むは誤り。

【蠹毒】トドク 蠹害に同じ 注意ちうどくと

【蠹蝕】トショク むしばむ。

【蠹賊】トゾク 物事を害すること、又其者。

【蠹蟲】トチユウ 木喰ひ蟲。

【天蟲】天五 九二五頁の蠶を見よ。

十九畫

【蠻○】【蛮略字】漢 バン 呉 メン ㊀えび す、南方のえびす㊁文化の開けぬこと、暴勇を好み道理にくらい㊂古く外國の意味にも用ゐる㊃島のなく聲

【蠻人】バンジン 野蠻人の稱。

【蠻民】バンミン 前に同じ。

【蠻行】バンカウ 非文明なる行爲。

【蠻夷】バンイ えびす、野蠻人。

【蠻勇】バンユウ 亂暴なる勇氣。

【蠻風】バンプウ ㊀蠻夷の風俗㊁非文明の風「醫。

【蠻荒】バンクワウ 蠻地と荒服、えびすの地。

【蠻族】バンゾク 野蠻の民族、未開民の種族

【蠻歌】バンカ えびすの歌。

【蠻境】バンキヤウ えびすの土地、未開の地。

【蠻語】バンゴ 蠻夷の言葉又外國人の言葉

血部

【血・】【血】漢 ケツ 呉 ケチ ㊀ち（體内の脈管に流動循環する赤色液體）ちしほ㊁ちをつける、ちぬる㊂血を分けし間柄㊃強く盛んにして生氣あること

【血行】ケツカウ 體内に於ける血液の循環。

【血色】ケツシヨク ㊀血いろ㊁かほいろ。

【血判】ケツパン 神文誓約などの記名の下にその證として指を切り血を印すること

【血相】ケツサウ かほいろ、血色。

【血球】ケツキウ 血液中にある球狀の固形體

【血脈】ケツミヤク ケチミヤク ㊀血の通ふ脈管㊁ちすぢ、血統㊂佛法の奥義を傳へるもの。

【血書】ケツシヨ 血で書く、又その文字。

【血涙】ケツルキ 非常に悲しき時出る涙。

【血痕】ケツコン 血の附いたあと。

【血清】ケツセイ 血液から出る液汁。

【血族】ケツゾク 同じ先祖より分れたる親族血統の相連絡する者の總稱。

【血液】ケツエキ 動物の體内を流れて營養分を供給する液、ち。「こと、又其祭。

【血祭】ケツサイ いけにへを殺して神を祭る

【血税】ケツゼイ 徴兵に服する義務の異稱。

【血統】ケツトウ 血つゞき、血緣。「せきり。

【血痢】ケツリ 赤い糞便を下す傳染病の名、

【血路】ケツロ 危險よりのがれて逃出す路

【血暈】ケツウン 產後血の道にて身のふるふ

【血塊】ケツクワイ 血のかたまり。【病氣。

【血管】ケツクワン 血の通ふ脈。

【血點】ケツテン 血のついたあと。

【血屬】ケツゾク 血族に同じ。「だ溝。

【血潰】ケツオウ 血流し、刀劍類の刃に刻ん

【血絲】ケツエン 血統に同じ。

【血漿】ケツシヤウ 液中にある透明な濃き水樣液にして血液の成分をなすもの。

【血戰】ケツセン 死物狂ひになつてたゝかふ

【血壓】ケツアツ 血管内の血液の壓力。

【血清療法】ケツセイレウハウ 免疫性となりたる動物の血清を同病の患者に注射して或種の病氣を治療すること、血清注射。

膏血カウケツ　飛血ヒケツ　腥血セイケツ　熱血ネツケツ

泣血キフケツ　流血リウケツ　劍血ケンケツ　赤血セキケツ

丹血タンケツ　出血シユツケツ　碧血ヘキケツ　青血セイケツ

久血キウケツ　地血ヂケツ　汙血ヲケツ　鮮血センケツ

四畫

【衄・】【衄俗字】漢 ヂク 呉 ニク 注意ぢん と讀むは

誤り㊀はなぢ、鼻の穴より出る血㊁やぶる、軍に負ける、挫ける

【衄血】ヂクケツ はなぢ。

六畫

【衆・】【衆】漢 シユウ 呉 シユ ㊀おほし（多）㊁多くの人の言葉。㊂衆人の心

【衆口】シユウコウ 多くの人の言葉。

【衆中】シユウチユウ 多人數の中、大ぜいの中。

【衆目】シユウモク 衆人が見てゐる。

【衆生】シユウセイ シユジヤウ 多くの人、あらゆる人。

【衆多】シユウタ 多數、おほし、又多勢。

【衆芳】シユウハウ 多くの花、百花。

【衆怨】シユウエン 多くの人より受ける怨恨

【衆徒】シユウト シユト 多くの僧侶。

【衆辱】シユウジヨク 多勢にて人をはぢしめる

【衆庶】シユウシヨ もろ〳〵の民、億兆。

【衆評】シユウヒヤウ 多數の人のうはさ。

【衆說】シユウセツ 多くの人の議論。

【衆愚】シユウグ 大勢の愚人。

【衆寡】シユウクワ ㊀多きことゝ少きこと㊁多勢と無勢。「評議。

【衆議】シユウギ ㊀多人數の議論㊁多人數の

【衆議院】シユウギイン 貴族院と共に帝國議會を形成し政府の豫算案・法律案等を審議する機關、下院。

【衆寡不レ敵】シユウクワフテキセズ 多勢に無勢にて敵しがたきこと。

十五畫

【衊・】漢 ベツ 呉 メツ ㊀けがす、よごす、はづかしめる㊁きたなき血㊂はなぢ（衄）

【同訓異義】けがる 衊・汙・汚其他の用法は五八一頁の汙を見よ。

行部

【行①】【行】漢 カウ 呉 ギヤウ ガウ 宋音 アン ㊀ゆく、歩む、あるく、進む、至る、去る㊁めぐる（巡）へる（經）㊂やる、ゆかす、ゆく〳〵、みちすがら、ゆいて㊃たび、かどで㊄みち（道）へ漢詩の一體㊅書體の一、ぎやう㊆おこなふ、おこなひ、ふるまひ、なされる、おこなはる㊇もてる、利く、うける㊈まさに㊉身口意の三業に因つてなす一切の所業、僧侶又は修驗者の修めるぎやう㊋つら、ならび（列）㊌古代の兵制にて二十五人一組の稱㊍くだり、文字のならび、又涙にいふ㊎年齡の順序㊏つよきさま（剛健）㊐位と職との間に置きて位が高く職が卑きことをあらはす語

【同訓異義】めぐる 行・繞・遶其他の用法は八一五頁の繞を見よ。

【同訓異義】ゆく 行・之・往其他の用法は三六八頁の往を見よ。

【行人】カウジン ㊀外國に使する官㊁賓客の接待役㊂道ゆくひと、旅人。「炬燵。

【行火】アンクワウ ㊀火を使ふ㊁持ち歩かれる

【行水】カウスヰ ギヤウズヰ ㊀水を浴めること㊁水を巡視する㊂流れる水㊃舟で水上をゆく㊄古潔齋のため湯水にて身體を洗ひしこと、後世は盥にて湯沐する。

【行文】カウブン ㊀文章にて文字のくばりかた、筆づかひ㊁官文書の往復又其文書

【行止】カウレ ㊀ゆくと止まる、出處進退㊁みもち、品行。「ら、ゆく〳〵。

【行行】カウカウ ㊀剛健なるさま㊁みちすがら

【行戍】カウジユ 國と國との境を守る。

【行吟】カウギン あるきながら歌ふ、行歌。

【行李】カウリ ㊀つかひ㊁荷物を入れる編箱㊂軍隊の必要品を積む輜重。

【行役】カウエキ ㊀政府から命ぜられた土木事業、又は國境を守備する㊁旅行、たび

【行具】カウグ 旅のしたく、旅裝。
【行使】カウシ ㋑外國に使する官㋺使用するハ物又は權利を其の性質に從つて役に立たしむること。「遊星、惑星。
【行星】カウセイ 恒星の周圍を運行する星、
【行路】カウロ ㋑みちすぢ、往來㋺世わたり、世路ハ道をゆく人、自分と何の關係もなき人。
【行客】カウカク 旅人。
【行事】カウジ ㋑旅行に關係する事實㋺實行せし事柄ハ昔朝廷の儀式・佛事などの事を取扱ひし役、又商人・町内の組合等にて輪番に各組合を代表管理し又は公邊に關係せし事などを取扱ひし役
【行軍】カウグン 軍隊の進むこと、又其旅行。
【行馬】カウバ ㋑うまつなぎ、こまよせ㋺敵の侵入を防ぐため釘をうちつけた杙。
【行能】カウノウ 品行と才能。
【行動】カウドウ おこなひ、ふるまひ、動作。
【行第】カウダイ 年次、としじゅん。
【行爲】カウキ ㋑ふるまひ、しかた㋺意思を外部に表現すること。
【行厨】カウチユウ べんたう、簞食。
【行裝】カウサウ 旅だちの仕度、旅裝。
【行進】カウシン ゆきすゝむ。「行間。
【行間】カウカン 行間。
【行童】カウドウ 寺のちご、僧僕。

【行歌】カウカ 歩みつゝうたふこと。
【行程】カウテイ 道程、みちのり。
【行器】カウキ 旅行用具。
【行樂】カウラク 心ゆたかに樂しむこと。
【行賞】カウシヤウ 褒美を與へる。
【行營】カウエイ 陣營、又陣營を巡り視る。
【行潦】カウラウ 途上の溜り水、にはたづみ。
【行囊】カウナウ 郵便物を遞送する袋。

（行囊）

【行藏】カウザウ 世に出て技倆を揮ふことゝ世にかくれて才能を示さぬこと。
【行纏】カウテン きやはん、婦人用のもの。
【行司】ギヤウジ 劍道・相撲等の勝負を審判する人。「存せし間の年數。
【行年】ギヤウネン ㋑其人の現在の年齡㋺生ならぶ、なみ、又其のもの
【行列】ギヤウレツ ㋑みもち㋺人の經歷を記した文章の一體。「御、みゆき。
【行狀】ギヤウジヤウ 天子の御車の至る所、出
【行幸】ギヤウカウ 佛道の修行者。
【行者】ギヤウジヤ 國家の維持發達及び國民
【行政】ギヤウセイ の安寧幸福を直接の目的とする國權の操行、みもち。「活動。
【行迹】ギヤウセキ 皇太后・皇后・皇太子のお
【行啓】ギヤウケイ でまし。「づしたもの。
【行書】ギヤウシヨ 書體の一、楷書を少しく
【行儀】ギヤウギ たちゐふるまひ、進退擧動及び之に關する禮式作法。
【行在】アンザイ 天子行幸の時のかりの宮。
【行宮】アングウ 行在所に同じ。
【行燈】アンドウ 燈火を點じて据ゑ置く家具
【行器】ホカイ 食物を盛りて持ち運ぶ器

（行器）

【行方】ユクヘ いつた
先注意行衛と書くは誤り。
【行膝】ムカバキ 鹿・熊・虎などの毛皮で作り向脛につけた服

（行膝）

【行脚】アンギヤ 僧侶が諸國をめぐつて佛法を修めること注意あんぎやくと讀むは誤り。
【行幸啓】ギヤウカウケイ 行幸と行啓。
【行在所】アンザイシヨ 天子の御巡幸中一時のおやすみにあてる所、かりみや。
【行人旅客】カウジンリヨカク 道をゆく人や旅人
【行雲流水】カウウンリウスイ 一定の形なくさまざまに變るさま。「として美しき形容。
【行文流麗】ギヤウブンリウレイ 文章がすら〳〵
【行政事務】ギヤウセイジム 國政をとる仕事。

【行政官廳】ギヤウセイクワンチヤウ 一般行政上の事務をとる役所。
【行政區分】ギヤウセイクブン 行政區劃に回じ。
【行政裁判】ギヤウセイサイバン 行政官廳の違法處分によつて人民が權利を侵害されし時起す行政訴訟を裁判すること。
【行政整理】ギヤウセイセイリ 行政費を節約する目的にて冗員の淘汰又は局課の廢合。
【行政區劃】ギヤウセイクワク 行政の都合により土地を區分すること。
【行政機關】ギヤウセイキクワン 各大臣・自治體等の如く行政事務を取扱ふところ。

僧行カイカウ	五行ゴギヤウ	宵行セウヤウ	夜行ヤカウ
力行リヨクカウ	勉行ベンカウ	眞行シンギヤウ	一行イツカウ
徽行ビカウ	倒行タウカウ	連行レンカウ	水行スイカウ
山行サンカウ	平行ヘイカウ	間行カンカウ	鼓行コカウ
通行ツウカウ	中行チユウカウ	運行ウンカウ	方行ハウカウ
獨行ドクカウ	單行タンカウ	同行ドウカウ	師行シカウ
端行タンカウ	並行ヘイカウ	直行チヨクカウ	周行シウカウ
公行コウカウ	攝行セツカウ	逆行ギヤクカウ	轉行テンカウ
徐行ジヨカウ	流行リウカウ	跳行チヨウカウ	退行タイカウ
吉行キツカウ	群行グンカウ	衆行シユウカウ	星行セイカウ
步行ホカウ	飛行ヒカウ	貫行クワンカウ	躬行キユウカウ
苦行クギヤウ	啓行ケイカウ	敷行スカウ	雁行ガンカウ
陣行ヂンカウ	前行ゼンカウ	翼行ヨクカウ	諸行シヨギヤウ

善行ゼンカウ	孝行カウカウ	施行シカウ	履行リカウ
急行キフカウ	奉行ブギヤウ	修行シユウギヤウ	

三畫

【衍●】 漢昊 エン ㋑充ちひろがる、はびこる㋺よけいである、まちがつて多いハひろげる二肥えたる土地 **あまる** 衍・剩・餘其他の用法は一一五一頁の餘を見よ。
【同訓異義】文章中のむだな文句。
【衍文】エンブン 意味を廣めて說きあかすこと。
【衍義】エンギ 意味をのべひろめて說明すること、又そのもの。
【衍繹】エンエキ

奥衍アウエン	豐衍ホウエン	昭衍セウエン	紛衍フエン
普衍フエン	由衍イウエン	高衍カウエン	連衍レンエン
多衍タエン	平衍ヘイエン	富衍フウエン	華衍クワエン
敷衍フエン	充衍ジユウエン	廣衍クワウエン	推衍スイエン
登衍トウエン	流衍リウエン	遊衍イウエン	曲衍キヨクエン

五畫

【術●】（誤字）**【術】**（俗）慣用音 ジユツ 漢 シユツ 呉 ジユチ 漢昊 スキ ㋑わざ、手わざ、學問㋺てだて、すべ、方法ハはかりごと、權略二神仙の法、まじなひ、魔法ホみち（道路）ヘのぶ（述）ヘ支那周代の自治團體にて二千五百戸一組の稱

奇術キジユツ	儒術ジユツ	方術ハウジユツ	劍術ケンジユツ
相術サウジユツ	道術ダウジユツ	經術ケイジユツ	數術スウジユツ
藝術ゲイジユツ	法術ハフジユツ	異術イジユツ	兵術ヘイジユツ
學術ガクジユツ	性術セイジユツ	技術ギジユツ	算術サンジユツ
政術セイジユツ	古術コジユツ	上術ジヤウジユツ	占術センジユツ
智術チジユツ	醫術イジユツ	祕術ヒジユツ	衆術シユウジユツ
妖術エウジユツ	鉞術シンジユツ	吏術リジユツ	才術サイジユツ
他術タジユツ	書術ショジユツ	星術セイジユツ	

「に巧みなる人。
【同訓異義】「技術と學問。
【術士】ジユツシ ㋑儒術に通じたる人㋺方術
【術中】ジユツチユウ はかりごと、謀術のうち。
【術計】ジユツケイ てだて、はかりごと。
【術策】ジユツサク たくらみ、はかりごと。
【術業】ジユツゲフ わざ、技能。
【術語】ジユツゴ 專門學上の特殊のことば。
【術數】ジユツスウ ㋑はかりごと、術策㋺ト筮家・陰陽家などの術。
【術藝】ジユツゲイ 技術文藝。
【術學】ジユツガク 技術と學問。

【衒●】 漢ケン ㋑みせびらかす、て 呉ゲン らふ㋺自ら自分をとりもつ、自ら宣傳す
【衒才】ゲンサイ 才能を自らほこる。

【街女】ガイジョ 自分の美貌を自慢する。てらひ高ぶる心もち。
【街氣】ガイキ 學者ぶること。
【街學】ガイガク 自分の才學をてらひ誇る。
【街囀】ガイエン 自ら才能をほこりて人に採用せられんことを求める。
【街嚢】ガイノウ

六畫

【街○】【圭】

漢 カイ ケ 呉キ 慣用音 ガイ

イ ちまた、まちの大通ロ臺灣の行政區
【街上】ガイジャウ 街頭に同じ。【劃の一。
【街市】ガイシ まち、市街。
【街巷】ガイカウ まち、ちまた、街衢。
【街區】ガイク まちの中の區劃。
【街路】ガイロ 町のみちすぢ。「る公道。
【街道】カイダウ 市中の大通り、國中に通ず
【街談】ガイダン 世のうはさ、まちのはなし。
【街頭】ガイトウ まちのとほり、街上。
【街燈】ガイトウ 市中をてらすともしび。
【街衝】ガイショウ ちまた、街巷、街市。
【街衢】ガイク 街巷に同じ。「植ゑた樹木。
【街路樹】ガイロジュ 都市の道路面に沿ひて

七畫

【衒○】【衒】

漢 ガ ギョ イ や 呉 ゲ くし

よロ天子の護衛兵ハきたる、まゐる
【衒兵】ガヘイ 御所を守る兵。
【衒門】ガモン イ兵營の門、又兵營ロひろく一般の役所。

八畫

【衒】

一〇七九頁の衒を見よ。

九畫

【衝○】【衝】

漢 ショウ イ おほ 呉 シュ ぢ、大なるみちすぢ、又其所ロつきあたりハつく(突)ぶつかる、つきやぶる、つき上げるニいくさぐるま、兵車ホ兵船、敵艦に突貫するやうに作つたいくさぶね
【同訓異義】つく
【搶】 はつきあてるの義。
【搗】 は擣に同じ、うすつく。
【撞】 はつく又うつ、手にてつきあてるの義。
【擣】 は搗に同じ。又擣衣はきぬたに
【突】 は急につきあたる義。
【築】 はきねにてつきかたむる義。
【舂】 はうすつく。
【衝】 はつきあたる、折衝等に用ふ。
【衝天】ショウテン 勢の盛んなる形容。

【衝心】シンシ 脚氣の病勢が進み内臓を痲痺せしめ心臓をゝかす。「鋼鐵の尖角
【衝角】ショウカク 軍艦の艦首に裝置したる
【衝突】ショウトツ イぶつかる、つきあたるロ意思合はずして相抵抗すること。
【衝動】ショウドウ イつきうごかすことロ目的を意識することなく單に何等かの行動をなさんとする意向又動作。
【衝路】ショウロ イ敵の攻めよせる道ロ物事の多くあつまる所。
【衝鋒】ショウホウ 馳せて敵の陣營をつく。
【衝擊】ショウゲキ つき うつこと。
【衝立障子】ツイタテシャウジ 座敷の中に立てゝ席のしきりとする家具。

（衝立障子）

【衛】

九三一頁の衛を見よ。

十畫

【衡○】【衡】誤 【衡】

漢 カウ 呉 ギャウ

イはかりざを、はかり(重さを計る器)ロはかる(物の輕重をめかたにかける)ハたひらか、ひとしい(均)ニ馬車の馬

をつける横木ホ渾天儀の横木、天文を見る器械ヘてすり(欄干)トを冠を頭にとめる笄の類チ山林を掌る役人
【同訓異義】はかる 衡・計・謀其他の用法は九五三頁の計を見よ。
【衡石】カウセキ はかり、物の重量をはかる器
【衡平】カウヘイ つりあひ、平均、平等。
【衡門】カウモン 門の一種、かぶきもん。
【衡行】カウカウ よこにゆく、わがまゝに勢力をふるふ。「る場所の義。
【衡軸】カウヂク くるまのよこぎ、又樞要な
【衡度】カウド はかりともものさし。
【衡巷】カウカウ ちまた、又民間の義。
合衡 ガウ 玉衡 ギョク 平衡 ヘイカウ 權衡 ケンカウ
銓衡 センカウ 門衡 モンカウ 宰衡 サイカウ 連衡 レンカウ

【衛●】【衛】俗 【衛】字

漢 エイ 呉 エ

イまもる(守)ふせぐ、まもり、又のそ者ロ國のはて、國境ハ明の太祖時代の兵制にて五千六百人一組の稱ニ周代の國名（今の直隷省大名府開州以西から河南省の衛輝府懷慶附近に至る地域）
【衛士】エイシ イ宮中護衛の兵士ロ昔諸國より徴されて一年更代にて御所を守りし兵士。「つこと。
【衛生】エイセイ 衣食住に注意して健康を保
【衛身】エイシン 自分の身をまもる。
【衛戍】エイジュ 軍隊が永住して其地方を守
【衛兵】エイヘイ 御所を守る兵、番兵。「る。
【衛府】エフ 禁裡の内外を守る左右近衛府左右衛門府・左右兵衛府の六つの役所。
【衛星】エイセイ 遊星の周圍をめぐりながら其遊星と共に太陽をめぐる星。
【衛生林】エイセイリン 都會の附近に在つて空氣を清淨にするに必要な保安林。
【衛生美人】エイセイビジン 顔はみにくゝ肉體の見事に發達せし婦人。
【衛戍病院】エイジビヤウヰン 陸軍病傷者を治療し且つ衛生材料の供給保管及び衛生部の下士官以下を教育する所。

十一畫

【衞】

一一八二頁の衞を見よ。

十八畫

【衢○】

漢 ク 呉 ゴ

ちまた、四辻の道

衣

【衣●】【衣】

漢 イ イ ころも、呉 エ きぬ、きも

の、腰より上をおほふきものロ著物の如く物の表面をおほふ皮ハ僧侶のきる法服、ころも、裂裝ニきる、きものを著るホきす、きものをきせるヘ服膺する、行ふ
【衣巾】イキン イ著物と手ふきロ衣服と頭巾。「巾。
【衣服】イフク きぬ、きもの。
【衣香】イカウ 衣服にしみこみたる佳き香
【衣冠】イクワン イきものとかんむりロ衣冠をつけたる人ハ禮儀の正しき意。
【衣食】イシヨク イ著物と食物、又きること とくふこと ロ生計、くらし。
【衣袂】イベイ 衣服のたもと。
【衣衾】イキン ころも とふすま、衣服と夜著。
【衣桁】イカウ 衣服をかけて置く家具、衣架。
【衣被】イヒ イ昔時婦人の外出のときに用ひし服、襟かたを前へ三寸ばかり下げて裁ちて仕立つこれを頭より背に掛けて被り、深く額

（衣桁）

（衣冠）

（衣被）

を隱して、其前を手もて押へ行きしもの、かづき㋺衣被をかぶりたる女。

【衣紋】イモン エモン ㋑衣服、きもの㋺衣服の襟の胸の所にて相合ふ部分。

【衣帶】イタイ ㋑おび㋺東帶、裝束。

【衣魚】イギョ しみ、蠹魚。

【衣鉢】イハツ エハチ 衣は袈裟、鉢は應器、禪宗の始祖達磨が其法の奥儀を弟子の慧可に授けし時其證據として此二品をも併せ傳へし故事より法燈をつぐ意、轉じて弟子が師の道を傳へること。

【衣架】イカ 衣桁に同じ。

【衣裘】イキウ 衣と皮ごろも。

【衣裳】イシヤウ ㋑腰より上のきものと袴㋺一般に衣服の意。

【衣裝】イシヤウ 著物、すべて身のまはり。

【衣領】イリヤウ 衣服のえり、又衣服。

【衣笠】キヌガサ 古貴人がさした傘で絹其他の織物を張つた長柄のもの。

(笠 衣)

【衣籠】イナウ 衣服に取りつけたる袋、ポケット。「に生活の三大要素。

【衣食住】イショクヂユウ 衣服と食物と住居、共

【衣裳人形】イシヤウニンギヤウ 婦女・若衆・俳優・遊女等に模したる人形。

(衣裳人形)

素衣ソ 白衣ハクイ 黒衣コク 玄衣ゲン
錦衣キン 青衣セイ 面衣メン 朝衣チヤウ 采衣サイ
惡衣アク 雨衣ウ 羽衣ウ 文衣ブン
脫衣ダツ 更衣カウ 繡衣シウ
牛衣ギウ 儒衣ジユ 鐵衣テツ 征衣セイ
旅衣リヨ 弓衣キユウ 敗衣ハイ 重衣チヨウ
禮衣レイ 紫衣シエ 好衣カウ 綺衣キ
故衣コ 短衣タン 葛衣カツ 鮮衣セン
溫衣ヲン 寒衣カン 羅衣ラ 複衣フク
胞衣ハウ 苔衣タイ 秋衣シウ 薄衣ハク
浴衣ヨク 僧衣ソウ 臥衣グワ 春衣シユン
布衣フイ 雪衣セツ 綠衣リヨク
舞衣ブ 烏衣ウ 斑衣ハン
縞衣カウ 皆衣イ

【衤】國訓 ころもへん 衣が漢字の偏に來るときの形

二畫

【卒】一六五頁の卒を見よ。

【初】一三五頁の初を見よ。

三畫

【表・】【表】漢ヒヨウ ㋑おもて、うはべ、そと、うはつら㋺しるし、目標㋩うはぎ、うはぎを著る㋥あらはす㋭目だつ姿㋬時間を計るため目を盛りたる棒㋮議論・祝辭・辭職などの意味を記して君主又は政府に上る書㋯母方又は妻の方の親類㋰混雜せる事物を分類排列し一目してよく分かるやうにしたもの㋱國訓

おもて(おほやけ、外面に取りつけるもの、家の外、相撲の本手、家の勝手の間に對して主たる室、ところ、もと)

【同訓異義】あらはる 表・現・見其他の用法は九四五頁の見を見よ。

【表土】ヒヨウド うはつち、地の表面に在りて耕作に適する土壤。

【表木】ヒヨウボク 目じるしとしてたてし木。

【表文】ヒヨウブン 君主又は政府に上る文書。

【表白】ヒヨウハク ヒヨウビヤク ㋑申し上げること㋺發表して明白にす㋩神佛に捧げる願文。

【表札】ヒヨウサツ 門又は入口に掲げる名札。

【表皮】ヒヨウヒ 生物體の外面を被ふ薄き皮。

【表示】ヒヨウシ ㋑あらはしゝめす㋺表にしてしめすこと、發表、展示。

【表決】ヒヨウケツ 議案の可否を明かにする議案に對し可否の意見を發表する。「てる

【表具】ヒヨウグ かけもの・襖・額などをした

【表的】ヒヨウテキ めあて、まと、標的。

【表明】ヒヨウメイ 思想・感覺等を感官により て發表すること、又あらはす。

【表揭】ヒヨウケイ かゝげ示して知らすこと。

【表面】ヒヨウメン うはべ、おもて。

【表記】ヒヨウキ ㋑表面にしるす、表に書きあらはす㋺あらはし記す。

【表紙】ヒヨウシ 書物などのおもてがみ。

【表章】ヒヨウシヤウ 明らかにあらはす。

【表現】ヒヨウゲン ㋑あらはし出す㋺外見上一目瞭然たること。「あらはれること。

【表情】ヒヨウジヤウ 顏つき又身振にて感情の

【表象】ヒヨウシヤウ ㋑表はれたしるし㋺外界の刺戟にして現實に感官を通じて知覺せられしもの。

【表裏】ヒヨウリ ㋑おもてとうら、前と後、内と外㋺うらはらになる、表裏をなす。

【表彰】ヒヨウシヤウ 善行をほめて公衆に知ら「せる。

【表裝】ヒヨウサウ 表具に同じ。

【表慶】ヒヨウケイ 慶事をあらはす。

【表徵】ヒヨウチヨウ あらはれたるしるし。

【表題】ヒヨウダイ ㋑書物の名目・標題㋺演說・談話などの題目。

【表決權】ヒヨウケツケン 合議體の各員が議案に對し可否の意見を發表し得る權能。

【表現派】ヒヨウゲンハ 資本や機械的の物事を破壞して自我主義を立てんとする一派

【表看板】オモテカンバン 表に出す看板、又物事の裏面のある意。

意表イヒヨウ 賀表ガヒヨウ 降表カウヒヨウ 通表ツウヒヨウ
模表ボヒヨウ モヒヨウ 露表ロヒヨウ 門表モンヒヨウ 僞表ギヒヨウ
草表サウヒヨウ 宙表チウヒヨウ 碑表ヒヒヨウ 詞表シヒヨウ
年表ネンヒヨウ 月表ゲツヒヨウ 日表ニツヒヨウ 姿表シヒヨウ
人表ジンヒヨウ 師表シヒヨウ 儀表ギヒヨウ 奇表キヒヨウ
江表カウヒヨウ 八表ハツヒヨウ 章表シヤウヒヨウ 雲表ウンヒヨウ
銅表ドウヒヨウ 華表クワヒヨウ 物表ブツヒヨウ 旌表セイヒヨウ

【衫。】漢サン ㋑帷子類の通稱、單衣 呉セン ㋺小さき袖なし繻絆

【哀】一九九頁の哀を見よ。

四畫

【衰。】【衰】漢サイ サ 呉セ シ 漢呉スキ ㋑盛の對、おとろふ、かたむく(傾)勢力がなくなる㋺そぐ、へらす㋩喪服の名 ㋥みの、蓑

【衰亡】スキバウ おとろへほろぶ。

【衰世】スキセイ おとろへたる時代。

【衰日】スキジツ 陰陽家の語にして人の生れたる年の干支により諸事をつゝしむべき日。

【衰朽】スキキウ 衰へくちる。

【衰老】スキラウ 年をとつてだん〳〵よわる

【衰死】スキシ おとろへて死ぬ。

【衰年】スキネン 年の衰へる意、老年。

【衰退】スキタイ 衰へていくぢが無くなる。

【衰弱】スキジヤク おとろへよわる、衰微す。

【衰眼】スキガン 視力のおとろへたる目。

【衰殘】スキザン 弱りやぶれる、おちぶれる。

【衰耄】スキバウ 衰老に同じ。

【衰替】スキタイ おとろへすたる。

【衰微】スキビ おとろへてかすかになる。

【衰運】スキウン おとろへたる運勢。

【衰滅】スキメツ 衰亡に同じ。

【衰落】スキラク おとろへおちる。

【衰態】スキタイ おとろへしありさま。

【衰頽】スキタイ 衰替に同じ。

【衰顏】スキガン おとろへたる顏。

森衰シンスキ 蕭衰セウスキ 變衰ヘンスキ 盛衰セイスキ

【衷。】【衷】漢 チユウ ㋑まごゝろ、本性㋺中心、こゝろ㋩うち(中)まんなか、うちにす㋥まこと(誠)㋭かなふ、適

【衷心】チユウシン まごゝろ、眞情。「當する

【衷情】チユウジヤウ 前に同じ。

【衷款】チユウクワン 衷誠に同じ。

【衷懷】チユウクワイ 衷心に同じ。

【衷誠】チユウセイ まごゝろ、まことの心。

【衷藏】チユウザウ 心にまことあること。

【袂・】【袂】 漢 ベイ ㋑たもと、袖の下の垂れたる部分、又袖の意㋺國訓 呉 メ

たもと、みぎり、きは
香袂 行袂 襟袂 華袂
短袂 聯袂 分袂 衣袂

【衲・】 漢 ダフ 呉 ナフ ㋑ころも（法衣）㋺僧侶の自稱

【袒・】 漢 ジツ ダツ 呉 ニチ 國訓 こめ㋑束帶の時單衣と下襲の間にきる小袖㋺婦人・童女が膚にきた服

（袒）

【衽・】【袵】 漢 ジン 呉 ニン ㋑おくび、おくみ㋺すそ（裙）㋩單のしとねゐ下にしく、しとねにすゑ釘のかえりを正すべ釘の代りに用ふるはめ木、兩頭廣く中央狹くして鼓形をしてゐる

（衽）

【衽席】ジンセキ 寢しきもの、轉じてねま、閨門㋺自分に接近する場所のこと、眼下。

【衾○】 漢 キン 呉 ロン よぎ、ふすま

【衾褥】 キンジヨク ふすまとしとね、夜具。
夏衾 孤衾 破衾 衣衾
布衾 綾衾 斧衾 同衾
單衾 輕衾 重衾 繡衾
芳衾 薄衾 寒衾 紙衾

【衿○】【襟通字】 漢 キン 呉 コン えり（襟）衣服の上部の首筋にあたる所

【衿帶】キンタイ ㋑えりとおび、要害の地㋺山川のめぐり關むこと。

【衿喉】キンコウ えりとのど、要害の地。

【袁○】 漢 エン 呉 ヲン 姓（漢末の英雄）

【扆】 四二〇頁の扆を見よ。

【袞】 九三五頁の袞を見よ。

五畫

【袈○】【袈】 漢 カ 呉 ダイ ケ 袈裟は僧服の名

【袋・】【袋】 漢 タイ ㋑ふくろ（囊の類）㋺國訓ふくろ（一方に口ありて奥が行きつまれるもの）

【袋鼠】カシガール 有袋類の草食獸で南洋諸島の原野に產し體の長さは六尺計り前肢は短く後肢は尾と共に長くよく跳躍し雌は腹の外部に小さい袋樣のものを具へ幼兒を其中に入れて哺育す

（袋鼠）

【袖○】【袖】 呉 ジュ 漢 シウ ㋑そで、そで㋺そでにす、袖の中にかくす。

【袖口】シウコウ そでくち、衣服の袂。

【袖手】シウシュ 何事をもせぬ㋩袖手傍觀。

【袖珍】シウチン 袖に入れる程の小形の書物

【袖裏】シウリ 衣服のそでの中。

【袖幕】シウバク 市街の賑はしい形容（通行人の袖が列つて幕をつくるの意）。

【袖乞】ソデゴヒ 乞食、ものもらひ。

【袖垣】ソデガキ 袖の如く物に添へて低くつくれる垣。

【袖標】ソデヒヨウ 鎧の袖につける目じるしの布帛。

【袖香爐】ソデカウロ 手あぶり。

【袖手傍觀】シウシユバウクワン ふところ手をして唯見

（袖標）

（袖香爐）

物する、手出をせぬこと、一向知らぬ振りをして居ること。

皓袖 素袖 窄袖 大袖
修袖 長袖 領袖 廣袖
羅袖 綺袖 芳袖 襦袖

【被・】【被】 漢 ヒ ㋑ねまき（寢衣）㋺よぎ、ふすま㋩婦人の髮飾㋥かうむる、かぶる、まとふ、著る、負ふ、傷をうける㋭あふ（遭）うける（受）しきおよぶ、ふりみだすべかうむらす、かぶせる㋛おほふ（覆）㋜受身の助字、る、らる、せらる

【同訓異義】 らる

【所】 はらるゝと讀み又場所の義。

【被】 はかうむる義であるが助辭に用ひてらるゝともよむ。

【見】 は見らるゝの義。

【被告】ヒコク 他人より訴を起され訴訟の相手方となりたる當事者、民事訴訟にては原告の相手方となる當事者の代名詞、刑事訴訟に於ては被告人。「人。

【被官】ヒクワン 其官廳に屬する役所又は役

【被服】ヒフク ㋑きもの、衣服㋺實地に行ふ

【被害】ヒガイ 害をうけること。「もの。

【被風】ヒフ 衣服の一にて表衣の上に著る

【被衾】ヒキン ふすま、夜着の類。

【被褐】ヒカツ 粗末な衣服の義にて、世人に知られることを求めないこと。

【被髮】ヒハツ 髮を結ばず振り亂せるさま

【被覆】ヒフク ㋑おほひかぶせる㋺ねまきにて物をおほふ。「即ち一國の臣民。

【被治者】ヒチシヤ 治者の對、治められる者、

【被害者】ヒガイシヤ 害を加へられたる者。

【被服費】ヒフクヒ 著物をつくる費用。

【被保險者】ヒホケンシヤ 保險契約に依りて保險される人、損害保險に於ては保險の目的物に付き所有權・賃借權其の他の權利を有する者、生命保險に於ては生命を期されたる當人。

【被選擧權】ヒセンキヨクケン 帝國議會其の他地方自治團體の議員又は公吏に選擧若くは選任される法律上の資格。

布被 加被 光被 同被
共被 香被 原被 通被
寒被 廣被 錦被 横被

【袍○】 漢 ハウ 呉 ボウ ㋑長きしたぎ、ながじゆばん㋺うはぎ㋩わたいれ㋥古昔束帶用の上著

【袒・】漢 タン 呉 ダン かぬぐ（裼）禮の一にて左肩をぬぐこと、意思を表す爲に片肌をぬぐこと

【袗・】 漢 シン 呉 ボ ひとへ、單衣㋺ぬひとりせし著物

【袗衣】シンイ 繪模樣のぬひとりした衣

主意 **ちんい**と讀むは誤り。

【袞】 俗字 **【衮・】** 漢 呉 コン ㋑天子の御衣にして龍の形をぬひとりしたもの㋺懇切に說く㋩引續くさま

【袞龍】コンリヨウ 天子の制服。

【袞職】コウリヨク 「職務。

【袢○】 漢 ハン 呉 バン ㋑天子の御職掌㋺大臣の㋩ひきしめる㋥夏の短き著物㋭じゆばん

【袱・】 漢 呉 エイ ㋑長きふすま㋺衣の長く被ふさま㋩そで（袖）

【袤・】 漢 ボウ 呉 ム ひろさ、ながさ

【袪○】 漢 キヨ 呉 コ ㋑たもと（袂）そで（袖）㋺そでぐち（袖口）㋩そでを擧げる貌

六畫

【袴・】【絝古字】【袴】 漢 コ 呉 ク はかま、ずぼん、もゝひき

【袴著】ハカマギ 男兒五歲のとき始めて袴を著る儀式。

衣部（六―七畫）　裕・裁・裂・袱・裕・裄・裥・裥・裥・裄・裥・裄・裥・裄

幣、金貨本位の我國では銀・白銅・銅貨。

【補缺選擧】ホケツセンキヨ　議員などの缺員を補ふために行ふ選擧。

小補セウ　寸補スン　加補カ　完補クワン
候補コウ　修補シウ　試補シ　塡補テン

【裝○】【裝】 漢 シャウ ㋑よそ 呉 サウ ほふ、けしやうをする、旅支度をする、しかけをする、又よそほひ、衣服㋺旅行に必要なる物㋩かくす(藏)「板をはる。

【裝甲】サウカフ ㋑鎧をきる㋺物の外部に鐵

【裝具】サウグ　化粧道具。「其仕立。

【裝釘】サウテイ　書册を綴ぢて仕立てる、又

【裝禎】サウタウ　書物を裝ふ、そのよそほひ

注意 俗にさうていと讀むは誤り。

【裝塡】サウテン　銃砲に銃丸をこめる。

【裝飾】サウシヨク　㋑かざりつける、又かざりㅁ身支度してかざること。

【裝潢】サウクワウ　書畫などを表裝すること

【裝藥】サウヤク　銃砲に彈藥をこめる。

【裝束】シヤウゾク　㋑みじたくをする㋺禮服又は美しき衣服を著る㋩旅支度をする

女裝ヂヨサウ　戎裝ジユサウ　行裝カウサウ　男裝ダンサウ
改裝カイサウ　東裝ソクサウ　金裝キンサウ　服裝フクサウ
武裝ブサウ　表裝ヘウサウ　急裝キフサウ　軍裝グンサウ

【裝○】【裝】 漢 キウ 呉 グ けごろも、かはごろも

【裘葛】キウカツ　冬物と夏物、かはごろもとかたびら、轉じて一年の意味にも用ゐる。

【裘褐】キウカツ　かは衣と粗き毛織の短衣。

【裡】 九三六頁の裏を見よ。

船裝センザウ　密裝ミツザウ　盛裝セイザウ　寒裝カンザウ
新裝シンザウ　嫁裝カサウ　道裝ダウザウ　飾裝シヨクザウ
輕裝ケイザウ　辨裝ベンザウ　歸裝キザウ　變裝ヘンザウ

八畫

【裸○】【躶】【倮通字】 漢 呉 はだか、はだかになる、はだかにする

【裸出】ラシユツ　むきだし、おほひ無きさま。

【裸花】ラクワ　花の花冠や蕚のないもの。

【裸麥】ラバク　大麥の一種、はだかむぎ。

【裸跣】ラセン　はだかとはだし。

【裸蟲】ラチウ　㋑はだかむし㋺羽毛のなき蟲㋩貧乏人の異名。

【裸體】ラタイ　はだか、まるはだか。

【裸子植物】ラシショクブツ　松・杉などの如く胚珠が子房内に存せずして全く外に裸出する植物。

【製●】【製】 漢 呉 セイ ㋑衣服をしたてる㋺つくる(造)こしらへる㋩詩文をつくる、特に天子の御作になる詩文㋥かはどころも㋭こしらへ、つくり㋬雨衣、雨具㋮かた、形式㋯すがた「その書物。

【製本】セイホン　書物をとぢこしらへる、又

【製作】セイサク　製造に同じ。

【製法】セイハフ　物品のこしらへ方、製作法。

【製版】セイハン　文字・繪などを版に造る。

【製造】セイザウ　物品を作る、拵へる、製作。

【製絲】セイシ　絲類を製造すること、特に繭の繭より生絲をとること。

【製糖】セイタウ　砂糖を製造する。

【製藥】セイヤク　調合した藥、又藥を製造する

【製圖】セイヅ　測量して圖に作り上げる。

【製鹽】セイエン　食鹽をつくる。「の總稱。

【製作物】セイサクブツ　こしらへ上げたるもの

工製コウセイ　古製コセイ　名製メイセイ　自製ジセイ
作製サクセイ　形製ケイセイ　官製クワンセイ　高製カウセイ
粗製ソセイ　清製セイセイ　密製ミツセイ　御製ギヨセイ
聖製セイセイ　新製シンセイ　謹製キンセイ　鐵製テツセイ

【裾●】【裾】 漢 キヨ ㋑すそ、もすそ

ㅁおごる(倨)㋩國訓すそ(山のふもと)

【裾廻】スソマハシ　山のふもとのめぐり、總て物の下のまはり。

【裨○】 漢 呉 ヒ ㋑たすく(輔)おぎなふ、つくろふㅁたすけ、輔佐、その人、又利益㋩ちひさし(小)

【同訓異義】 **たすく** 裨・助・輔其他の用法は一四七頁の助を見よ。

【裨益】ヒエキ　㋑おぎなふ、ますㅁ助けとなつてためになる 注意 稗益と書くは誤り

【裨補】ヒホ　たすけおぎなふ。

【裨輔】ヒホ　たすける、輔佐。

【裨將】ヒシヤウ　大將をたすける將官、副將。

【裯○】 漢 チウ タウ ㋑ねまき、ひとへのふすまㅁ汗とりの襦絆

【裲●】 漢 リヤウ 呉 ラウ ㋑裲襠は衣服の一、そでなしㅁ國訓うちかけ

【裲襠】リヤウタウ　㋑昔朝廷の大儀に武官が裝束の上につけた背や胸にあてる袖のないものㅁ婦人の通常禮服に帶をしめ其上にかける小袖、かいどり。

【裏○】【裏別字】 漢 呉 クワ ㋑包むㅁつゝみ、又包みたるもの

【裏頭】クワトウ　僧侶が頭をつゝむこと。

【裳】 漢 シヤウ 呉 ジヤウ ㋑はかまㅁもすそ㋩昔腰から下に着けた衣の稱㋥男の裝束で表袴の上に着けたもの㋭女の裝束で袴の後方につけた衣㋬僧侶の腰にまとふ衣

（裳）

【裴○】【裴・裶】 漢 ハイ 呉 ベ ㋩人の姓（唐代の名臣）ㅁ古く徘に通ず 注意 えきと讀むは誤り㋑はだぬぐ、かたをぬぐㅁ禮服に用ゐる一種の上衣㋩むつき(襁褓)

【褄】 國字　衣服のおくみの腰より下のへり、つま

【裶】 この頁の裴を見よ。

【裾】 九四〇頁の褌を見よ。

九畫

【複●】【複】 漢 フク 呉 ホク ㋑かさなる(重)かさぬㅁ一つでない、單一でない㋩かさね、二重にする

【複文】フクブン　文法にて附屬句を有する文

【複本】フクホン　原本のうつし、副本、謄本。

【複式】フクシキ　簿記にて收支又は取引毎に貸借を仕譯けて記入し科目を分類して夫々の座を設ける方法。「す。

【複合】フクガフ　二つ以上相合して一體を成

【複利】フクリ　預金又は貸借に於て毎期の終に其利子を元金に繰込み更に利息を附する方法。

【複眼】フクガン　無數の單眼の集合して成る眼、昆蟲類・甲殼類などの眼。

【複葉】フクエウ　㋑一葉柄に數多の小葉を有する植物の葉㋺飛行機の翼の二重になれるもの。「を作ること。

【複製】フクセイ　もとの古版本と同一の書畫

【複壁】フクヘキ　二重にめぐらした壁。

【複道】フクダウ　二階建の廊下。

【複製】フクセイ　著作物・書畫等を著者以外の者が元のものに似せて同じ樣に作る

【複閣】フクカク　二階三階だてのたかどの。

【複線】フクセン　二筋以上設けた線、主に鐵道の線路につきていふ。

【複數】フクスウ　二個以上の數。

【複寫】フクシヤ　㋑一度寫したるものをもう一度寫すㅁ又同じものを幾つも寫す。

【複雜】フクザツ　種々物事が込み入つてゐる

衣部（九—十畫）　褐・褊・褌・褓・褐・褐・褐

訓まち（衣服の布の足らぬ所に別の布を添へるもの、袴の内股の部分）

十四畫

【襤○繿】漢ラン ㋑つゞれ、ぼろ ㋺へりを取らぬ衣服 呉ロン 【襤褸】ランル つゞれ、ぼろ 注意かんろと讀むは誤り。

【襦○】漢ジュ 呉ニュ はだぎ、じゆばん 【襦袢】ジュバン したぎ、はだぎ。

十五畫

【襪●韈】漢バツ 呉モチ たび（足袋）くつした

十六畫

【襲●〔龔〕〔袭〕】漢呉 ㋑おそふ、シフ 不意うち、他人の文章等を取りて自分のものとす ㋺服す、衣る ㋩よる（因）したがふ ㋥つぐ、うけつぐ ㋭かさなる、かさぬ、同樣の事を二度行ふ、重疊する ㋬あふ（合） ㋣衣服の一そろひ、かさね ㋠むらがり集まる ㋡國訓かさね（袍の下著）

【同訓異義】つぐ 襲・續・繼其他の用法は八一七頁の續を見よ。

【襲用】シフヨウ 從來のまゝもちゐる。

【襲衣】シフイ 著物をかさねてきる。

【襲來】シフライ にはかに攻め來る。「る。

【襲封】シフホウ 諸侯が先代の領土を相續す

【襲爵】シフシャク 先代の爵位をうけつぐ。

【襲奪】シフダツ 不意に襲うて奪ひとる。

【襲擊】シフゲキ 討ち入る、おそひうつ。

【襲職】シフショク 職をうけつぐ。

【襲繼】シフケイ あとをつぐ。

世襲セシフ　因襲インシフ　夜襲ヤシフ　冒襲バウシフ

討襲タウシフ　祖襲ソシフ　掩襲エンシフ　鈔襲サウシフ

勦襲サウシフ　踏襲タウシフ　積襲セキシフ　繼襲ケイシフ

【襯●】漢呉 ㋑はだぎ ㋺したたしむ、シン ちかづく ㋩ほどこす 【襯衣】シンイ はだぎ、したぎ、シャツ。

十七畫

【襴○】漢呉 ㋑衣と裳とを聯ねた單ラン 衣 ㋺國訓らん（織物の一種、錦の類、錦襴）

十八畫

【襷】國字 たすき、二筋の紐を斜に交叉して袖をからげる物

西部

【〔西○〕〔西〕〔俗字〕〔〒〕】漢セイ 呉サイ ㋑四方の一、にし、にしの方、西にむかふ、西す、西の方に行く ㋺西洋の略

【西天】セイテン 支那より印度を指していふ

【西史】セイシ 西洋歷史。

【西戎】セイジュウ 周代に於ける西方の夷。

【西瓜】セイクワ 瓜の一、すゐくわ。

【西曲】セイキョク ㋑樂曲の一種 ㋺西洋の樂曲。「國。

【西洋】セイヨウ 歐米諸

【西郊】セイカウ ㋑市外又は城外の西方にある田舍 ㋺秋の郊外。

（西　瓜）

【西風】セイフウ ㋑にしのかぜ ㋺秋の風。

【西哲】セイテツ 泰西の賢人、西洋の哲人。

【西域】セイヰキ サイヰキ 中央亞細亞地方の漢代以後の稱、後には印度をも含む。「州地方。

【西國】セイコク サイコク ㋑西方の國 ㋺極樂淨土 ㋩九

【西遊】セイイウ 西國に遊ぶ、又西洋に行く。

【西教】セイケウ 西洋の宗教、耶蘇教。

【西陲】セイスヰ 國土のにしのはて、西垂。

【西漸】セイゼン 次第に西方に進みうつる。

【西樂】セイガク 西洋の音樂。「元とするもの

【西曆】セイレキ 西洋曆にて基督の誕生を紀

【西諺】セイゲン 西洋のことわざ。

【西府】サイフ 九州太宰府の別稱。

【西大陸】セイタイリク 北亞米利加と南亞米利加、西半球の大陸。

【西洋館】セイヤウカン 西洋式の建築。

【西半球】セイハンキウ 陸地の分布の形に依て地球の表面を東西に平分したる其西半

【西方淨土】サイハウジヤウド 西方十萬億土の彼方にありといふ極樂世界。

【西洋樂器】セイヤウガクキ オルガン。

（西洋樂器）

【西國巡禮】サイコクジユンレイ 近畿地方にある三十三箇所の靈場をめぐりて其所在の觀音菩薩を禮拜すること、又其人。

山西サンセイ　東西トウザイ　河西カセイ　洛西ラクセイ

泰西タイセイ　鎭西チンゼイ　關西クワンサイ

【〔西〕】漢 ア 呉 エ おほふ（覆）

三畫

【〔要○〕〔要〕〔俗字〕〔要〕】漢呉 エウ ㋑ともむ ㋺おびやかす（脅） ㋩さへぎる（遮） ㋥ちぎる（契） ㋭正し、明らかにす ㋬まとめる、あつめる ㋣こしお ㋠こし（腰） ㋡王城を去ること五百里の土地 ㋢かなめ、主たること、かんじん、物事のしめくゝり、扇の骨のとぢめ ㋤物事をしめ括りていふ語 ㋥かならず（當字を下に添へる） ㋦金錢の勘定 ㋧願ふ、欲する

【要目】エウモク ㋑大切なる條目、かなめ、眼目 ㋺會計、勘定。

【要用】エウヨウ ㋑肝要、必要 ㋺重大なる用事

【要件】エウケン ㋑捨ておきがたき用事 ㋺或事をなすに必要な條件。「樞要の地位。

【要地】エウチ ㋑要害の土地、必要の場所 ㋺

【要旨】エウシ かんじんなところ、要點。

【要式】エウシキ 必ず從ふべき法式。

【要求】エウキウ ㋑請求する ㋺當然請求すべきことを乞ひもとめること。

【要言】エウゲン ㋑要領を得たることば ㋺約束すること、又そのことば。

【要具】エウグ 必要なる道具。

【要指】エウシ 肝要なるところ、眼目。

【要約】エウヤク 約束を取交す、契りを結ぶ。

【要害】エウガイ ㋑地勢險阻にして味方にはかなめとなり敵には害となる所 ㋺人體中生命に關する急所。

【要所】エウシヨ かんじんなる所。

【要素】エウソ 必要にして缺くことの出來ぬもの、物のもと、元素。「要な地位。

【要津】エウシン ㋑肝要な舟の渡し場所 ㋺樞

【要砦】エウサイ 要害の地に築いた砦、要塞。

【要務】エウム 必要なるつとめ。

【要部】エウブ 大切なる所。

【要處】エウシヨ ㋑要部 ㋺かはや、便所。

【要略】エウリヤク ㋑必要なる所をとり不必要なる所をはぶく ㋺文章及著書などの大體をとりまとめた物。

【要衝】エウシヤウ 要害の所、大切な場所。

【要鎭】エウチン 要害の場所にある兵營又は樞市の如き肝腎なおさへ。

【要職】エウシヨク 最もかなめなつとめ。

【要訣】エウケツ おくの手、かなめなる奥義。

【要港】エウカウ 軍事上重要なる所として指定せられし軍港に次ぐ灣港。

【要結】エウケツ 約束をむすぶ、又其約束。

【要塞】エウサイ 要害の所に築き敵を防ぐ塞

【要義】エウギ 肝要なるすぢみち。

【要路】エウロ ㋑敵の來さうな油斷のならぬ道筋 ㋺權力威勢を握る當路の顯官。

【要誓】エウセイ ちかひ、やくそく。

【要領】エウリヤウ ㋑こしとくび㋺物事の肝

【要請】エウセイ 强ひて求め乞ふ。「要な所。

【要償】エウシヤウ 損害の辨償をもとめる。

【要點】エウテン 大切なる所、眼目。
【要擊】エウゲキ まちぶせてうつ。
【要諦】ェウタイ 物事の主要なる點、眞髓、中心點、佛教にいふ誤謬味。
【要塞地帶】エウサイチタイ 各要塞の周圍を特に區劃せる一定の土地。

大要タイエウ　小要セウエウ　凡要ボンエウ　久要キウエウ
切要セツエウ　必要ヒツエウ　肝要カンエウ　典要テンエウ
法要ハフエウ　周要シウエウ　重要ヂウエウ　急要キフエウ
指要シエウ　提要テイエウ　須要シユエウ　緊要キンエウ
綱要カウエウ　衝要シヨウエウ　樞要スウエウ　險要ケンエウ
簡要カンエウ　邊要ヘンエウ　權要ケンエウ　顯要ケンエウ

四畫

【粟】五二五頁の粟を見よ。

五畫

【票】七四五頁の票を見よ。

六畫

【覃○】漢タン エン ㋑およぶ(及)　呉ドン オン ひく㋺ふかし(深)㋩のぶ(延)㋥するどい、とし(利)
【同訓異義】**およぶ** 覃・及・逮其他の用法は一七七頁の及を見よ。
【覃恩】タンオン 深く恩惠を施す。
【粟】七八五頁の粟を見よ。

七畫

【剽】一四四頁の剽を見よ。
【賈】九九五頁の賈を見よ。

十畫

【瓢】六八〇頁の瓢を見よ。

十二畫

【覆・覆】漢 フク フ　呉 フウ　慣用音 フク
㋑くつがへす、ひっくりかへす、戰にまかす、くつがへる、まける㋺かへつて、あべこべに㋩くりかへす(復)㋥もどる、かへる㋭まうす(白)㋬かぶせる、おほふ㋮普く居く、ゆきわたる㋯おほはる、おほはれる㋰伏兵、ふせい
【覆水】フクスヰ ㋑こぼれた水㋺水をおほふ
【覆手】フクシユ てのひらをかへす、事の易きをいふ、覆掌。「軍に敗北する。
【覆沒】フクボツ ㋑艦船をくつがへし沈む㋺
【覆育】フクイク 天地が萬物をおほひ育てる
【覆奏】フクソウ ㋑能く調べて申し上げる㋺天皇の御下問に奉答する。
【覆盆】フクボン ㋑盆をふせる、又ふせばち㋺寃罪を蒙ることの喩㋩水鉢をくつがへす、大雨の形容、傾盆の略。
【覆面】フクメン ㋑顏をおほひかくす、又それに用ゐる物㋺神佛に物を捧げる時息のかゝらぬやう鼻より口へかけ紙又布帛にておほふもの。
【覆載】フサイ フウサイ 天は萬物をおほひ、地は萬物を載せるより轉じて天地のこと 注意 **ふくさい**と讀むは誤り。
【覆滅】フクメツ くつがへりほろぶ。
【覆審】フクシン ㋑一度調べし事柄を再び調べなほす㋺上訴した事件に對し裁判所が更に調べること。「て飾りしもの。
【覆輪】フクリン 金銀などにて細く緣をとり
【覆轍】フクテツ 車のくつがへりたるあとの意、前者の失敗をいふ。
【覆盆子】フクボンシ くさいちご、苺。
【覆水不レ返レ盆】フクスヰボンニカヘラズ 一旦こぼした水は再びもとの盆に返らぬ意、離緣となりし妻の再び復歸すること能はざる喩、又時機の再び得難きにもいふ。

十三畫

【覈・覈】漢 カク　呉 ギヤク　へる、あきらかにす㋺きびしい(嚴)

考覈カウ　檢覈ケン　綜覈ソウ　校覈カウ
精覈セイ　細覈サイ　研覈ケン　審覈シン

【覇】一一二五頁の覇を見よ。
【覇政】ハセイ 覇者の行ふ政事。

十七畫

【覊】八二三頁の覊を見よ。

十九畫

【覊】八二三頁の覊を見よ。

見部

【見・見】【現通字】【見】漢 ケン　呉 ゲン
㋑みる、目にとめる、つきとめる、みつける、顏をあはせる、對面㋺一目みる、あふ㋩かんがへる、おもふ㋥みえる、眼に入る㋭らる、せらるべみること、みる所、みえ㋮あらはる、ばれる、あらはになる、きざす㋯あらはす、しめす(示)㋰紹介す、ひきあはせる㋱まみゆ、お目にかゝる㋲げんに、まのあたり
【同訓異義】**みる**
【看】は久しく守り見る義である。
【瞻】は仰ぎ視るの意。
【瞰】は俯して視るの意。
【瞥】はちらりと見るの意。
【見】はちよつと目にふれるの意であるがまみゆと讀むときは對面の意。
【視】は氣をつけてみるの意。
【觀】は見に同じ但その意稍や重し。
【覽】は一通り目を通す義である。
【覩】は視より一層念を入れてみる意
【覩】は下の人が上の人にまみゆる意
【覩】は互に逢ひ見るの意。
【覩】は謁見の意である。
【同訓異義】**あらはる**
【彰】は物の紋樣などが明かに外に見ゆる義。
【形】は隱れたものがあらはれて見える義。
【旌】ははたを立てゝその功德を一般に知らしむるの義。「出す義。
【暴】は日にさらす義、外へあらはし
【現】は見に同じ。
【著】は明かに見ゆる義である。
【見】はかくれたる者が出て來る意
【表】はうはがはへ出して現はすの意
【露】はむき出しにする義。
【顯】はてり輝く程にあらはるの意。
【同訓異義】**らる** 見・所・被等の用法は九三五頁の被を見よ。
【見一】ケンイチ 珠算の二桁以上の割算。
【見兵】ゲンペイ 現在その所に居る兵隊。
【見地】ケンチ ㋑現在の所有地㋺自分とし
【見卒】ケンソツ 見兵に同じ。「てのみかた。
【見性】ケンシヤウ もろ〳〵の妄念を拂ひ無我の眞理をさとること。「見物人。
【見物】ケンブツ ㋑ながめる、觀覽㋺觀客、
【見料】ケンレウ 物をみる料金、觀覽料。
【見參】ゲンザン ㋑面會することの敬稱、拜謁㋺昔宴會などに伺候した人の姓名を記し其主人の前に差出したこと。
【見習】ケンシフ 他人の言行を見聞してそれを學習すること、又その人、みならひ。
【見解】ケンカイ みこみ、意見。
【見當】ケンタウ みこみ、めあて。「た知識。
【見聞】ケンブン ケンモン 見ると聞く、又其に因つて得
【見臺】ケンダイ 讀書する時に本をのせる臺
【見幕】ケンマク 意氣又は顏色の鋭きさま。
【見德】ケントク とみくじ、彩票。
【見學】ケンガク 實地を見聞して學問する。
【見識】ケンシキ ㋑みこみ、識見㋺自信ある見込、主義、人に下らぬ意氣。
【見説】キクナラク きく所によれば 注意 **ならく**と讀むは誤り。

【見付】ミツケ 正面をいふ。「準とするもの
【見本】ミホン 一つを見せて他のすべての標
【見得】ミエ うはべ・見え・虚榮。
【見積】ミツモリ 見計ひ、目算。
【見鐸】ミテイ たづねる、安否を問ふ。
【見積書】ミツモリショ 所用物品の數量又は其價格を見積つて認めたる文書。
【見舞狀】ミマヒ みまひの手紙。

宴見エンケン 管見クワンケン 寡見クワケン 省見セイケン
照見セウケン 知見チケン 引見インケン 進見シンケン
穴見ケツケン 察見サツケン 親見シンケン 周見シウケン
聞見ブンケン 愚見グケン 待見タイケン 達見タツケン
淺見センケン 意見イケン 博見ハクケン 召見セウケン
仰見ギヤウケン 先見センケン 目見モクケン 御見ギヨケン

四畫

【規・規・規・規】漢呉 キ

㋑ぶんまはし、矩の對、コンパス㋺おきて、のり、さだめ㋩たゞす、いましめる㋥もとむ(求)㋭いましめ、いさめ、諫言㋬はかる、はかりごと㋣おどろき見る、又氣ぬけの貌

【同訓異義】ただす 規・正・繩其他の用法は五五六頁の正を見よ。
【規元】キゲン 上海にて通用する銀。

【規正】キセイ 不正をたゞし直す。
【規那】キナ 南米に產する植物の一、幾那。
【規則】キソク ㋑正しくして手本とすべき行ひ㋺さだめ、のり、法規。
【規律】キリツ 紀律の誤用。
【規定】キテイ とりきめたおきて。
【規約】キヤク ㋑規程に同じ㋺關係者が協議上定めたる規則で强制力あるもの。
【規矩】キク ㋑ぶんまはしとさしがね㋺物事のゝり、てほん、標準、法則。
【規程】キテイ 一定せるさだめ、又は約束。
【規準】キジユン 法則とする、のつとる。
【規畫】キクワク はかりごと、又はかる。
【規箴】キシン いましめ、いさめ注意きかんと讀むは誤り。
【規模】キボ ㋑ぶんまはしと物のかた、後世の手本となる制度典章の類㋺物のしくみ、かまへ注意規摸と書くは誤り。
【規範】キハン てほん、のり、典範。
【規諫】キカン たゞしいさめる、規箴。
【規那樹】キナノキ 植物の名、茜草科に屬する常綠木、その樹皮より藥を製す一に幾那といふ、解熱劑にする。

（規那樹）

【規約貯金】キヤクチヨキン 組合規約に依り拂戻に制限を付して預入する貯金、郵便貯金の一。
【規範科學】キハンクワガク 倫理學・法律學等の人類の法則・規範に關する科學の總名。

英規エイキ 朝規テウキ 忠規チユウキ 清規セイキ
子規シキ 明規メイキ 箴規シンキ 家規カキ
神規シンキ 世規セイキ 宏規クワウキ 洪規コウキ

【寛・寛】【寛誤】ベキ 注意寛を俗字として用ふるは誤り、もとむ(求)探し尋ねる

【同訓異義】もとむ 視・求・索其他の用法は五七九頁の求を見よ。

【現】六七四頁の現を見よ。

五畫

【視・眡・眎】【視】漢シ 呉ジ

㋑みる、注意して見る㋺あしらふ、とりしまる㋩なぞらへる、くらべる(比)見比べる㋥目をくれる、又手本とする㋭しめす(示)

【同訓異義】みる 視・見・觀其他の用法は九四五頁の見を見よ。
【視力】シリヨク 物をみる力、眼力。

【視官】シクワン 五官の一、目。
【視界】シカイ 視野に同じ。
【視野】シヤ 視力の及ぶ範圍。
【視準】シジユン 望見すべき物體の方向に望遠鏡の軸を平行せしめること。
【視察】シサツ 現場に臨みて取調べる。
【視線】シセン 見るべき方向に目が向ふ線。
【視學】シガク 學事を視察する官、又其事。
【視覺】シカク 物をみる目のはたらき。「驗
【視聽】シチヤウ ㋑みるときく㋺見聞又は經
愛視アイシ 環視クワンシ 虎視コシ 明視メイシ
瞻視センシ 疾視シツシ 仰視ギヤウシ 直視チヨクシ
周視シウシ 熟視ジユクシ 眄視ベンシ 閲視エツシ
臨視リンシ 監視カンシ 督視トクシ 觀視クワンシ
俯視フシ 詳視シヤウシ 傲視ガウシ 傍視バウシ
側視ソクシ 檢視ケンシ 聽視チヤウシ 妄視バウシ
雄視ユウシ 力視リヨクシ 麗視レイシ 瞋視シンシ
久視キウシ 延視エンシ 駭視ガイシ 他視タシ
瞬視シユンシ 凝視ギヨウシ 注視チユウシ 蔑視ベツシ

【覗・覗】漢呉 のぞく(覘)うかゞふ

【覘・覘】漢 テン のぞく、うかゞふ、
呉 トン ひそかに視る

【覺】九四八頁の覺を見よ。

七畫

【覡・覡】漢ケキ 呉ギヤク かんなぎ、
慣用音ゲキ みこ、男子のみこ、巫は女のみこ

八畫

【覯】一一二八頁の覯を見よ。

九畫

【親・親・親・親】漢呉 シン 母)㋺みう

㋑おや(父

ち、しんるゐ㋩したしむ、いつくしむ、むつまじくす㋥むつまじ、したし、したしみ、又なじみ㋭ちかづく㋬みづから、まのあたり㋣國訓おや(子を生ずる本、秀でゝ大なるもの)

【同訓異義】みづから 親・自・躬其他の用法は八五七頁の自を見よ。
【親王】シンワウ ㋑皇族の稱㋺清代の封爵の一にて郡王の上に位す㋩日本にては皇子以下皇玄孫までの男の子の御稱號。
【親切】シンセツ ねんごろ、懇切。
【親父】シンプ おやぢ、ちゝ、てゝおや。
【親友】シンイウ したしきともだち。
【親任】シンニン ㋑親しみ用ゐる㋺天皇が御自ら官職を御任命になること。
【親好】シンカウ 交情の極めてしたしきこと
【親兵】シンペイ 天皇直屬の軍隊、近衛兵。
【親征】シンセイ 天皇自ら征伐せられること
【親附】シンフ したしみなつく、心服する。
【親炙】シンセキ 親近して教をうけること。
【親和】シンワ ㋑親密、なかよし㋺異種の物質が結合して一つとなる現象。
【親近】シンキン ㋑親しみて近しくする。
【親昵】シンヂツ したしみなじむ、又其間柄の人注意しんぢつと讀むは誤り。
【親政】シンセイ 天皇自ら政事をみそなはす
【親展】シンテン ㋑みづからひろげる、自身で手紙を開封する意㋺親しく談話す。
【親密】シンミツ ㋑極めて仲がよい㋺親しみ
【親接】シンセツ 親しく交はる。
【親族】シンゾク みより、みうち、親類、血族（我國の法律上にては六親等内の血族と三親等内の姻族及配偶者との總稱支那にては血族のみをいふ）。
【親戚】シンセキ ㋑前に同じ㋺父母、兩親。
【親疎】シンソ したしきとうとき、親疏。
【親裁】シンサイ 君主自身にてさだめること
【親等】シントウ 親族間の親疎の等級。
【親睦】シンボク 親しく仲よきこと。
【親愛】シンアイ 親しみいつくしむ。
【親署】シンショ 天皇自ら御名を記される。

【親閲】シンエツ　天皇が陸海軍を閲覧せられる。
【親類】シンルキ　親族に同じ。
【親藩】シンパン　君主に親しい大名。
【親衛】シンエイ　禁裏宿直の官、親兵。
【親臨】シンリン　天子が其場所に赴かれる。
【親族】シンゾク　親族に同じ。「有する權利。
【親權】シンケン　父母が其家にある子に對し
【親任官】シンニンクワン　勅任官の上に位し天皇親ら任じ給ふ官。
【親告罪】シンコクザイ　被害者又は其親族の告訴をまつて公訴を提起する罪。
【親切第一】シンセツダイイチ　人類相愛の實を表はす爲め萬事が親切を第一とすべしとの標語。
【親裁外交】シンサイグワイカウ　君主の獨斷にて「行ふ外交。
繼親ケイシン　老親ラウシン　慈親ジシン　嚴親ゲンシン
和親ワシン　兩親リヤウシン　宗親ソウシン　睦親ボクシン
近親キンシン　雙親サウシン　魚水親スイギヨノシタシミ

【覦○】【窬通字】漢　ユ　うかゞふ、ねらふ

【覧】この頁の覧を見よ。

【覩】七二三頁の睹を見よ。

【同訓異義】みる　覩・見・視其他の用法は九四五頁の見を見よ。

【覥】一一三一頁の靦を見よ。

十一畫

【覯●】漢　キン　みる、まみゆ、謁
呉　ゴン　見

十二畫

【覺】七二四頁の睿を見よ。

十三畫

【覺●】【覺】漢　カク　カウ
呉　ゲウ　コク

㋑さとる、察し知る、かんづく、さとす、又さとり㋺さとりたる人㋩あらはる(發)あきらかにす㋥大なるさま、又まつすぐなる貌㋭おぼゆ、感ずへさめる、おきる、さます㋬おぼゆ(感ずる、記憶する、思はれる、想像される)おぼえ(おぼゆの名詞、名望、寵遇、おぼえ書の略)

【同訓異義】さとる　は悟りをはるの意。
【了】は心の迷が開けて、目のさめたやうになるの意。
【悟】はさとすと讀めば人に物を合點する樣にさとすの意であるが、さとると讀めば自分の心によく呑込む意
【曉】は暗きを開きて明かにするの意
【覺】は知らぬことが明かになつた意
【覺知】カクチ　心にさとりしる。
【覺悟】カクゴ　㋑迷をさまして智慧をひらく㋺決心し用意をする。
【覺醒】カクセイ　目が覺める、今迄の非を覺る
【覺書】オボエガキ　㋑重要の事項を忘れぬ樣に認めた書面㋺希望や條件等を書いて相手に送る書面㋩一國の代表者が要求又は主張爭を記し對手に交附する文書
警覺ケイカク　前覺ゼンカク　大覺タイカク　正覺セイカク
悟覺ゴカク　獲覺ハツカク　先覺センカク　緣覺エンカク

十五畫

【覽●】【覽俗字】【覽】漢　ラン
呉　ロン

㋑みる(觀)廣く見とほす㋺かんがへる、考へ察す

【同訓異義】みる　覽・見・視其他の用法は九四五頁の見を見よ。
【覽勝】ランショウ　すぐれたる景色を見る。
【覽讀】ランドク　目をつけてよむこと。
【覽觀】ランクワン　みる、心をとめて見る。
遊覽イウラン　展覽テンラン　察覽サツラン　細覽サイラン
臥覽グワラン　熟覽ジユクラン　眺覽チヨウラン　重覽チヨウラン
窺覽キラン　傍覽バウラン　清覽セイラン　稽覽ケイラン
周覽シウラン　博覽ハクラン　洽覽カフラン　詳覽シヤウラン
上覽ジヤウラン　審覽シンラン　校覽カウラン　披覽ヒラン
盡覽ジンラン　顧覽コラン　聖覽セイラン　御覽ギヨラン
閲覽エツラン　照覽セウラン　再覽サイラン　借覽シヤクラン

【覿●】漢　テキ　みる、まみえる、面呉　ヂヤク　會する又物を贈りて面謁する
【覿面】テキメン　まのあたり、即座に。

十八畫

【觀●】【觀】漢呉　クワン　㋑みる、念を入れて見る、見物する、遠くみわたす㋺かんがへる㋩みもの、すがた、ありさま㋥人にみせる、しめす㋭見解、みかたへ城門のやぐら、ものみ㋬道士の居る所㋮鳥の名、こふのとり㋯易の卦の名

【同訓異義】みる　覿・見・視其他の用法は九四五頁の見を見よ。
【觀光】クワンクワウ　㋑他國の文物制度を視察す㋺他所の風景をめでる。
【觀念】クワンネン　㋑心理學の語、知覺又感覺より一層進みし心的現象にして現在の刺戟なくして起る概念・想像の總稱㋺目をとぢ心をおちつけて一心に悟道を思念する注意感念と書くは誤り。
【觀花】クワンクワ　花を見る、はなみ。
【觀相】クワンサウ　人の容貌骨格などによつて其人の性質運命等を判斷すること。
【觀者】クワンシヤ　みる、見物人。
【觀望】クワンバウ　㋑進退去就を定めん爲め相手の樣子を見る、ひよりみ㋺眺望。
【觀測】クワンソク　天文を觀察して天體の運行等を測定すること。
【觀象】クワンシヤウ　㋑天文を見る㋺易の占の「知ること。
【觀照】クワンセウ　十分にかんがへて物事をおもてをみる。
【觀察】クワンサツ　念を入れて能くしらべる
【觀劇】クワンゲキ　しばゐを見物する。
【觀戰】クワンセン　實地に戰爭を見物する。
【觀覽】クワンラン　みる。
【觀世音】クワンゼオン　慈悲の化身と稱せらるる菩薩の名。

（觀世音）

【觀念論】クワンネンロン　知識を以て主觀的のものとする說、即ち我が知識は我が心の作り出せしものとする哲學論。
【觀光團】クワンクワウダン　遊覽の目的にて各地をめぐる團體。
【觀兵式】クワンペイシキ　君主みづから軍隊の「調練を見る式。
【觀艦式】クワンカンシキ　君主みづから軍艦を集めて武威を見る式。
【觀念小說】クワンネンセウセツ　道德的又は功利的の意味を主として作られた小說。
遊觀イウクワン　監觀カンクワン　縱觀ショウクワン　臨觀リンクワン
旁觀バウクワン　來觀ライクワン　薄觀ハククワン　列觀レツクワン
借觀シヤククワン　陪觀バイクワン　娛觀ゴクワン　周觀シウクワン
遠觀エンクワン　聚觀シウクワン　容觀ヨウクワン　壯觀サウクワン
京觀ケイクワン　高觀カウクワン　彝觀シヨウクワン　偉觀イクワン
奇觀キクワン　道觀ダウクワン　城觀ジヤウクワン　東觀トウクワン
舊觀キウクワン　層觀ソウクワン　飛觀ヒクワン　複觀フククワン

角部

【角●】【角俗字】【角】漢呉　カク　コク　ロク

㋑つの、又角の形したもの、又角を工作の材料とする場合にいふ㋺すみ、か

ど、物の尖れるさま㈧ひたひの骨㈡小兒の髮の結方、あげまき㈩くらべる(比)きそふ(競)㈥つのあり、つのとる(獸の角をひつかけて生捕る)㈠五音の一(宮商徵羽に配するもの)㈦支那量にて四升を容れる容器㈤軍中の樂器㈨幾何學にて一點に交はる兩線にて形づくられたる間隙㈫星の名、すばし㈬元銀の十分の一(我が拾錢にあたる)㈭人名(商山四皓の一人)㈮かく、しかく、こぐちの方形なる材木、將棋の駒の一㈯道の折れ曲つた所、他人と和合し難き性癖

【角力】カクリヨク ㈠力くらべ㈡すまふ。

【角牛】カクギウ 牛のたゝかひ。「ある頭巾。

【角巾】カクキン 隱者又は處士等の被るかど

【角材】カクザイ ㈠小口の四角なる材木㈡能

【角抵】カクテイ 角力に同じ。「力をはかる。

【角度】カクド 二直線が交叉して成る間隙の廣さの稱で點の周圍を三百六十分した其一を一度とし角度の單位とする。

【角逐】カクチク 互に競ひおふ、競爭。

【角笛】カクテキ 獵師の用ゐる笛、つのぶえ。

【角帽】カクバウ ㈠かど立つた造り方の帽子㈡頂の方形なる帽子㈢大學生のことを俗に角帽といふ。「角のともしび。

【角燈】カクトウ 硝子にて周圍を張りたる四

【角膜】カクマク 眼球にある白目の皮膜。

【角袖】カクソデ ㈠刑事巡査の別稱、常に制服をつけずして和服を著て居ることが多いところより言つた語㈡日本服。

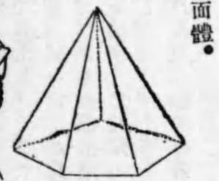
【角壔】カクタウ 一つの直線に平行な數個の平面とその直線に會する二つの平行平面で界する多面體。

【角錐】カクスイ 一つの平面多角形と其各邊を底邊とし同一の點を頂點とする三角形との界する立方多面體。

【角隱】ツノカクシ ㈠婦女の佛參に用ゐし昔の一種の頭巾㈡現時は結婚の式場に於ける新婦の頭飾に用ひらる。

一角イツカク　屋角ヤカク　折角セツカク　宮角キユウカク　天角テンカク　石角セキカク　哀角アイカク　牆角シヤウカク　日角ニツカク　蝸角クワカク　頭角トウカク　眼角ガンカク　稜角リヨウカク　寒角カンカク　清角セイカク　地角チカク　圭角ケイカク　爪角サウカク　城角ジヤウカク　欄角ランカク　犢角トクカク　羊角ヤウカク　皮角ヒカク　利角リカク

（隱角）



（錐角）

（壔角）

四畫

【斛】 四七一頁の斛を見よ。

五畫

【觚○】 漢コ ㈠さかづき(二升を容れるものを觚といふ)㈡古代一升を容れるものを爵といふ、文字を記したる四角の木札㈢かど(方)

【觝・牴】 漢テイ 呉タイ ふる(牴)牴觸す

【牴觸】テイシヨク ふれ犯す。

六畫

【解・㑹・解・鮮】 俗字

漢カイ 呉ゲ ㈠とく、ほどく、ばらくにす、ぬぐ、ぶわけにする、きりはなす㈡無事にをさめる、なほす、わかるやうにする㈢申しひらく、いひわけをする㈣さとる、忘とくする㈤ゆるめる、自由にする、又ゆるまるへやめる、免ず㈥文章の一體、又樂曲の一節㈦易の卦の名㈧おこたる(懈)㈨あふ(邂)㈩やくしよ(廨)㈪地方人にして學問德行のすぐれた者を都に送り出して試驗を受けさせること、轉じて總べて送り出す意。

【解由】カイユウ ㈠宋代官吏の赴任に關する公文書㈡昔國守交替の時前任者が後任者に事務引繼の事に關して文書を交附せしこと㈢かいゆと讀むは誤り。

【解任】カイニン 其役目をやめさせる、解職。

【解式】カイシキ 演算の順序を一定せる記號方式㈡かゝて書き示したるもの。

【解決】カイケツ もめごとのとけること。

【解放】カイハウ ㈠ときはなつ㈡禁遏束縛を除きて許し放す。

【解明】カイメイ ときあかす、說明する。

【解析】カイセキ くはしくときわける。

【解剖】カイボウ ㈠動物の體軀をきりさきて組織をしらべること㈡物事のすぢみちをぶわけして調べる。

【解除】カイヂヨ ㈠ときのぞく㈡民法上では從來存する關係を除き當事者の關係を契約締結前の狀態に復せしむること。

【解散】カイサン ㈠ばら〳〵に離れちる㈡會合のやむこと、又會合をやめる㈢團體をときちらす、法人を消滅せしむ㈣議會にて任期中の議員の資格を解除する

【解雇】カイコ 解傭に同じ。

【解答】カイタフ 說明しこたへる、又其こたへ

【解傭】カイヨウ 雇人に暇を出す。

【解禁】カイキン さしとめしものを解き許す。

【解義】カイギ 意味をときあかしたるもの

【解說】カイセツ ㈠意味を說明す、又其を記した書物㈡言ひ譯、又言ひわけをする。

【解嘲】カイチウ 人のあざけりに對し辯解す

【解頤】カイイ ㈠滿足して口を開き笑ふさま㈡感服して開いた口の塞がらぬさま㈢笑ひすぎて頤のはづれること。

【解題】カイダイ 書物の著者又はその著作の由來其他之に關することを記したもの

【解職】カイシヨク 解任に同じ。

【解釋】カイシヤク 解義に同じ。

【解纜】カイラン 卷いた帆を解どく、出帆する

【解體】カイタイ ㈠ばら〳〵になつて離れ去る㈡動物の體をさきて其組織をしらべる㈢纏れるものをばら〳〵にほどく。

【解毒】ゲドク 藥を以て體內の毒をけす。

【解脫】ゲダツ ㈠ゆるす、ときはなす㈡世俗の迷をはなれて佛の悟を得ること㈢專制政治から離れて民本政治に移ること

【解熱劑】ゲネツザイ 熱をさる藥、熱さましと注意かいだつと讀むは誤り。

下熱と書くは誤り。

明解メイカイ　分解ブンカイ　了解レウカイ　領解リヤウカイ　半解ハンカイ　論解ロンカイ　訓解クンカイ　略解リヤクカイ　枝解シカイ　妙解メウカイ　申解シンカイ　理解リカイ　見解ケンカイ　義解ギカイ　勸解クワンカイ　和解ワカイ

【觝○】 漢シ 呉ゲ ㈠とろき(二十八宿の一)㈡毛角㈢うみめ

【觜○嘴】 漢シ 呉シ ㈠くちばし㈡けづの、梟の頭にある

【觥○】 漢コウ 呉ワウ ㈠さかづき(兕角)㈡やせる(瘦)餘裕がない

七畫

【觸】 九五二頁の觸を見よ。

八畫

【觳○】 漢カク 呉コク ㈠うすし(薄)㈡ます(斛)一斗二升(一說に三斗)を容れるます、又量器の總稱㈢つく(盡)とゞまる(停)㈣くらぶ(角)

【觴○】 漢呉シヤウ 注意ちやうと讀むは誤り ㈠さかづき(酒杯の總名)㈡盃をさす、酒をすゝめる

空觴クウシヤウ　濫觴ランシヤウ　玉觴ギヨクシヤウ　流觴リウシヤウ　壽觴ジユシヤウ　杯觴ハイシヤウ　金觴キンシヤウ　壺觴コシヤウ

【觴○】 一一八二頁の觴を見よ。

【觝○】 この頁の觝を見よ。

十三畫

【觸・触】（略字）【觸】漢ショク 呉ソク

㋑ふる、さはる、つきあたる、をかす㋺心にうつる、動ず㋩いたる、すぎる㋥けがれ（汚濁）㋭國訓ふる（さはる、遭遇する、令を發して廣く告げる、ひろく言ひふらす、布達する）ふれ（公からの布達、布令）へ感動せしめる㋬急所をつく、中心にふれる

【觸手】ショクシュ くらげの口の周圍にあるものゝ如く下等動物の觸覺を掌る手。

【觸目】ショクモク みえるところ、めにつく。

【觸角】ショクカク 下等動物の頭部にあり一對又は二對の線狀を呈し觸覺をつかさどる角。

（角　觸）

【觸感】ショクカン ふれうごく、觸覺。

【觸禁】ショクキン おきてを犯す。

【觸戰】ショクセン 敵に接近してたゝかふ。

【觸穢】ショクエ 服忌・産・月經等の汚れに觸れる（此時は神事にあづかるとを忌む）

【觸覺】ショクカク 物にさはりて其大小・形狀・硬軟・寒熱などを知る感じ。

【觸蠻】ショクシュ 蟋蟀・蝦の鬚の如く下等動物の觸覺をつかさどるひげ。

感觸カン　接觸セツ　抵觸テイ　觸ショク　觸テイ

言部

【言・〇】【言】漢ゲン 呉ゴン いふ、

いふ、口をきく、ことばで思を發表する㋺まをす、申し上げる㋩こと、ことば、いふところ㋥詩文などの一句の稱㋭一字の稱へ有益なることば、善きことば㋬いふこゝろ、いふ意味㋣語辭にて詩經に多く用ゐる語、こゝにりわれ（我）㋠高大なる貌㋡和ぎつゝしむ貌

【同訓異義】いふ

【云】はその意曰より稍輕し。

【曰】はその意云に略ぼ同じ。

【言】はその意謂に略ぼ同じであるが言は心に思ふ所を口に述ぶるの意。

【謂】は人に對して言ふ。

【言下】ゲンカ 今いってすぐ、いふや否や。

【言上】ゲンジヤウ 長上に申し上ぐること。

【言文】ゲンブン 言葉と文章㋑例言文一致。

【言行】ゲンカウ いふことゝすること、言語「ゝしむ貌。

と言爲。

【言言】ゲンゲン ㋑高大なるさま㋺和らぎつ口に出して言はぬ所。

【言外】ゲンゲワイ

【言泉】ゲンセン 豐富なる言葉の義、泉の如く言葉がわき出てつきない。「うた言葉。

【言說】ゲンセツ ㋑言葉をつくして說く㋺言公言する、いひあかす。

【言明】ゲンメイ

【言動】ゲンドウ 言語と擧動、言行。

【言責】ゲンセキ ㋑言論をつくすべき任務又は諫言などをすべき責任㋺公言したることについての責任。「口出しをする。

【言語】ゲンゴ ㋑ことば、言辭㋺ものいふ、

【言論】ゲンロン ㋑議論・意見を言語にて表現せしもの㋺政治上の事柄に關し辯難論議すること。「ことばじち。

【言質】ゲンシツ 後日の證據となることば、

【言辭】ゲンジ ことばづかひ、ことば。

【言語學】ゲンゴガク 博く言語の性質・發達・構造などを研究する科學。「る書物。

【言行錄】ゲンカウロク 人の善行嘉言を記した

【言文一致】ゲンブンイツチ 言つた事其儘の文章

【言語道斷】ゴンゴダウダン ㋑言語に述べつくせぬおくぶかき眞理㋺以ての外、話しにもならぬ 注意 言語同斷と書くは誤り

惡言ゲン　道言ダウゲン　雜言ザツゲン　快言ケツゲン

二畫

【訂・〃】【訂】漢テイ 呉チャウ

㋑たゞす（文字文章の誤等を正す）㋺むすぶ、さだむ、とりきめる

優言イウゲン　粗言ソゲン　疾言シツゲン　迂言ウゲン
舊言キウゲン　信言シンゲン　飾言ショクゲン　俟言ネイゲン
偏言ヘンゲン　正言セイゲン　端言タンゲン　盡言ジンゲン
食言ショクゲン　流言リウゲン　訛言クワゲン　僞言ギゲン
大言タイゲン　好言カウゲン　無言ムゲン　過言クワゲン
陳言チンゲン　遊言イウゲン　立言リツゲン　直言チヨクゲン
雅言ガゲン　忠言チユウゲン　甘言カンゲン　苦言クゲン
宜言ギゲン　嘉言カゲン　佳言カゲン　宣言センゲン
妄言バウゲン　匡言キヤウゲン　狂言キヤウゲン　寓言グウゲン
緒言シヨゲン　方言ハウゲン　憲言ケンゲン　奇言キゲン
俚言リゲン　鄙言ヒゲン　前言ゼンゲン　群言グンゲン
名言メイゲン　衆言シユウゲン　少言セウゲン　多言タゲン
寡言クワゲン　發言ハツゲン　約言ヤクゲン　斷言ダンゲン
遺言ヰゲン　傳言デンゲン　知言チゲン　怨言エンゲン
放言ハウゲン　片言ヘンゲン　妖言エウゲン　空言クウゲン
虛言キヨゲン　抗言カウゲン　聖言セイゲン　眞言シンゲン
極言キヨクゲン　豫言ヨゲン　辭言ジゲン　溫言ウンゲン
格言カクゲン　至言シゲン　美言ビゲン　善言ゼンゲン

【同訓異義】ただす

訂・正・規其他の用法は五五六頁の正を見よ。

【訂正】テイセイ 文章中の書損違算其の他の誤りを正すこと、更正。「交す。

【訂盟】テイメイ ちかひを結ぶこと、約束を

【計・〃】【赴】通字【計】漢フ 呉ホ

つげ、つぐ、人の死去を知らせる

【計音】フオン 死去のしらせ、計報 注意 ふいんと讀むは誤り。

【計・〃】【計】漢ケイ 呉カイ

㋑はかる、數へる、企てる、見つもる、はかる（謀）㋺はかるに、おもふに㋩はかりごと（策略）爲すべき事㋥かんぢやう、しめ、しめだか、又それを記したる帳簿㋭算術、數學へ國訓はからふ、はからひ（處置、處分）ばかり（ほど、其のみ、而已）

【同訓異義】はかる

【商】は彼と此とをつもりはかるの意

【圖】は計量の意。「る意。

【度】は長短を度る如く心につもり見

【寸】は先方の心を推量するの意。

【揣】は手にてさぐりはかる義。

【料】は心にはかりつもるの意。

【權】は物の輕重をかけて見るやうにさしひき見はからふ意。

【測】は水の深淺をはかるの意にて奥底のはかり知られぬ義。

【略】はきりもりするの意。

【畫】は差圖する意。

【稱】ははかりにかけて輕重を知るやうに釣合よくする義。

【程】はこれ程と限量を立つる意。

【策】は一つ〳〵はかる意。

【算】は謀の義に用ふ。

【籌】ははかりごとの義。

【衡】は左右を見合せ公平にはかる義

【計】は物の數をかぞへる意。

【詢】はとひ謀る義である。

【謀】は心に慮る又人と相談してはかるにも用ふ。

【諏】は衆りて事を相談する義。

【議】は事の宜しきを評定する意。

【量】は分量をつもり見る意。

【計吏】ケイリ 會計を司る官吏、又其會計簿を朝廷に上るやくにん。

【計度】ケイタク かぞへはかる。

【計帳】ケイチヤウ ㋑勘定を書き記した帳面㋺租稅をとりしらべた帳簿㋩戶籍簿。

【計畫】ケイクワク たくらみ、はかりごと 注意

計劃と書くは誤り。「る、かぞへる。
（計數）ケイスウ ㊀たくらみ、謀計㊁勘定す
【計略】ケイリヤク 次に同じ。「家の會計。
【計算】ケイサン ㊀かぞへる、勘定する㊁國
【計圖】ケイト はかりごと、たくらみ。
【計簿】ケイボ 會計を書き記した帳面。
【計議】ケイギ はかり相談す、はかりごと。
【計算器】ケイサンキ 數の計算を行ふ器械で主として自働的に計算をなし得るものをいふ。
【計數器】ケイスウキ 兒童の數へ方を教へる道具二十若くは百個の珠をかけつらねたもの。
【計距器】オドメーター 車に取付けて進行した距離を測る器械

陰計インケイ　月計ゲツケイ　祕計ヒケイ　身計シンケイ　術計ジユツケイ　百計ヒヤクケイ　智計チケイ　算計サンケイ　會計クワイケイ　大計タイケイ　審計シンケイ　愚計グケイ　堅計ケンケイ　拙計セツケイ　良計リヤウケイ　歲計サイケイ　便計ベンケイ　畫計クワクケイ　完計クワンケイ　靈計レイケイ　度計タクケイ　權計ケンケイ　活計クワツケイ　生計セイケイ　詭計キケイ　邪計ジヤケイ　日計ニツケイ　正計セイケイ　細計サイケイ　深計シンケイ　忠計チユウケイ　善計ゼンケイ　謀計ボウケイ　家計カケイ　合計ガフケイ

（計距器）

（計算器）

【訇○】

三畫

漢 クワウ　呉 ワウ　大なる聲の形容

【訊●】

漢 呉 シン　㊀たづぬ、と慣用音 ジン　ふ(問)下の者にたづねる、罪を取調べる㊁おとづれる(訪)㊂いさむ(諫)つぐ㊃せむ(責)とがめる㊄おとづれ(音信)

【同訓異義】とう 訊・問・詢其他の用法は二〇五頁の問を見よ。「べる。

【訊問】ジンモン ㊀とひただす㊁罪人をしらべる。

【討●】

漢 タウ　呉 トウ　㊀うつ(伐)㊁たづぬ(訊)きはめる(究)㊂をさむ

【同訓異義】うつ 討・伐・征其他の用法は六五頁の伐を見よ。

【同訓異義】たつぬ 討・原・尋其他の用法は三一三頁の尋を見よ。「る人。

【討手】ウツテ 敵又は罪人などを攻めかける人。

【討伐】タウバツ 兵力を以て征伐すること。

【討究】タウキウ 道理を尋ねきはめる。

【討賊】タウゾク むほん人をせめうつ、征伐。

【討滅】タウメツ うちほろぼす、撲滅。

【討幕】タウバク 幕府をうつて倒す。

【討論】タウロン ㊀相談して適當なる處置をつける㊁多人數にて議論をたゝかはす

【討議】タウギ 相談して評議す。

【訓●】

漢 クン　呉 コン　㊀をしふ(教)をしへ、いましめ(誡)㊁したがふ(順)㊂よみ(註解)よむ㊃國訓よみ(漢字にあてた國語)

【同訓異義】をしふ 訓・教・誨等の用法は四六二頁の教を見よ。

【訓化】クンクワ をしへて善にうつらしむ。

【訓示】クンジ をしへしめす、事務の取扱ひにつき注意をする。

【訓令】クンレイ 上級官より下級官に對し法令の解釋又は事務の方針に關して下す「命令。

【訓告】クンコク 次に同じ。

【訓戒】クンカイ をしへいましむ。

【訓言】クンゲン をしへとなるべき言葉。

【訓義】クンギ 文字のよみと意義。

【訓話】クンワ 心得の話、いましめの話。

【訓育】クンイク ㊀教へ育つ㊁兒童の意志感情を鍛練して道德的品性を練磨する。

【訓故】クンコ 次に同じ。「にて解釋する。

【訓詁】クンコ 文字の解釋、古語を現代語

【訓誨】クンクワイ をしへる、又其をしへ。

【訓儆】クンカイ 讀み方と意義の說明。
【訓誡】クンカイ をしへ、いましめ。
【訓蒙】クウモウ 幼者をゝしへさとす。
【訓練】クンレン をしへならす、教練。
【訓諭】クンユ をしへさとす、又其をしへ。
【訓導】クンダウ ㊀をしへみちびく㊁教員の資格の稱。
【訓讀】クンドク 漢字又は漢文を邦文に改め「てよむこと。
【訓點】クンテン 漢文の送り假名と返り點。
【訓故學】クンコガク 儒教の經典を訓故の方面より研究する學。

陰訓インクン　玄訓ゲンクン　導訓ダウクン　高訓カウクン　遣訓ケンクン　恒訓コウクン　嚴訓ゲンクン　聖訓セイクン　柔訓ジウクン　典訓テンクン　家訓カクン　明訓メイクン　儀訓ギクン　晉訓シンクン　懲儆ジクン　格訓カククン　詁訓コクン　丕訓ヒクン　庭訓テイクン　恩訓オンクン　規訓キクン　儒訓ジユクン　淑訓シユククン　妙訓メウクン　惠訓ケイクン　內訓ナイクン　奬訓シヤウクン　撫訓ブクン　師訓シクン　舊訓キウクン　筴訓シンクン　教訓ケウクン

【託●】

漢 呉 ㊀まかせる、タク たのむ、委任する、よす(寄)㊁ことよせる、かこつける㊂たのみ㊃かこつけ

【託言】タクゲン かこつけて物をいふ。

【託宣】タクセン おつげ、神佛が他の物事にことよせて知らせたまふこと。

【託意】タクイ こゝろをよせる。

【託喻】タクユ 事によせてさとす。

【記●】

漢 呉 キ　㊀しるす(錄)心におぼえる㊁文書、かきもの㊂しるし(標識)㊃漢文の一體にして事實をしるすもの㊄古事記の略稱として用ゐる語

【記入】キニフ かきいれる。

【記名】キメイ 姓名を書き記す。

【記念】キネン かたみ、後日の思ひでになるたねぬ 注意紀念と書くは誤り。

【記述】キジユツ かきのべる。

【記事】キジ 事實をしるす、又其文章。

【記者】キシヤ 新聞雜誌等の記事を書く人。

【記傳】キデン 歷史傳記の類。

【記載】キサイ かきのせる、又其物事。

【記憶】キオク おぼえて忘れぬ、ものおぼえ注意記臆と書くは誤り。「文書。

【記錄】キロク かきしるす、又其物事及び

【記號】キガウ 個人又は官公署が物品に押捺する標章。「に建てる碑。

【記念碑】キネンヒ 物事を後世に傳へるため

【記憶畫】キオクグワ 手本又は實物をよく見たる後それを離れて描く畫。

舊記キウ　覩記トウ　昭記セウ　書記シヨ　筆記ヒツキ　籍記セキ　廣記クワウキ　簿記ボキ　聞記ブンキ　明記メイキ　嗜記ブンキ　聽記チヤウキ　日記ニツキ　諳記アンキ　追記ツイキ　登記トウキ

【訌●】

漢 コウ　呉 グ　カウ　みだる(亂)みだれ、もめごと

【訐●】【訐別】

漢 ケツ　注意かん。呉 コチ　と讀むは誤り、あばく、隱れたる事を探り出す

【訃○】

漢 呉 フ　ク　コ　㊀おほいなり㊁いつはる㊂嗚呼㊃まことに㊄ほこる、さけぶ、かまびすし

【訥●】

漢 サツ　呉 セツ　そしる(誹)又その言

【同訓異義】そしる 訥・誹・謗其他の用法は九六頁の誹を見よ。

【訥笑】セツセフ そしりわらふ。

【訖●】

漢 キツ　呉 コチ　㊀をふ(了)をはる㊁いたる(迄)及ぶ、まで㊂つひに、かつて㊃こと〻く(悉)

【訛・詑・詑○】

漢 呉 イタ　㊀自分から誇つて他人の言をきゝいれぬ㊁あざむく㊂ほしいまゝ

四畫

【訟・誦（通字）】【訟】 漢ショウ 呉ジュ
イうつたへ、法廷にて是非曲直を爭ふこと、又うつたへる ロ言ひ爭ふ ハかへりみる、自らせめる ニおほやけ（公）ホほめることば（頌）ヘ易の卦の名
【同訓異義】 **うつたふ** 訟・訴・獄其他の用法は九五七頁の訴を見よ。
陰訟インショウ　爭訟サウショウ　獄訟ゴクショウ　聚訟シウショウ
新訟シンショウ　水訟スイショウ　滯訟タイショウ

【訣・訣】 漢ケツ イわかれる、わかれ、いとまごひ ロおくぎ、おくりて
【同訓異義】 **わかつ** 訣・分・別其他の用法は一三一頁の分を見よ。
【訣別】ケツベツ 人と永くわかれる時のいとまごひ、わかれ。

【訪・訪】 漢呉 イたづねる、ハウ とふ ロおとづれる、人をたづねる、見舞ふ、さがし求む ハまさに（方）やがて、いまや
【同訓異義】 **とふ** 訪・問・訊其他の用法は二〇五頁の問を見よ。
【訪問】ハウモン 人をたづねること。

【設・設】 漢セツ イそなへまうく、まうける、こしらへ、そなへ ハたとひ、もし、萬け、こしらへ作る ロまうけ、こしらへ作りたてる、まうける。
【設立】セツリツ 作りたてる。
【設定】セツテイ こしらへおく、設け定める。
【設計】セツケイ もくろみ、計畫。
【設問】セツモン 設題に同じ。「なへ。
【設備】セツビ 用意してそなへる、又其そまうけ備へる、つくりおく。
【設置】セツチ
【設題】セツダイ 問題又は題目を設ける、又其問題或は題目。
建設ケンセツ　具設グセツ　舒設チョセツ　開設カイセツ
豫設ヨセツ　陳設チンセツ　施設シセツ　假設カセツ

【許・許】 漢呉キョ 呉コ イゆるす、認可する、承知する、罪過を宥す ロゆるし、許可 ハばかり（幾許）ニもと、ところ ホ如許と連用して「かくのごとし」と訓ず ヘ衆人が共に勞働する時のかけごゑ
【同訓異義】 **ゆるす** 許・赦・宥其他の用法は一〇〇三頁の赦を見よ。
【許可】キョカ イ願をきゝとゞける、長上が目下の者にゆるすこと ロ一般に許さざる事柄を特定人に許す行政處分。
【許多】キョタ イ多くあること、あまた ロこゝら、若干。
【許否】キョヒ そこばく、ゆるすことゝゆるさぬこと
【許容】キョヨウ ゆるす、うけがふ。「なづけ。
【許諾】キョダク 前に同じ。
【許嫁】キョカ 他日夫婦になる約束、いひ

【訛○】 漢呉 グワ イあやまり（謬）ロいつはり（僞）ハなまり、なまり言葉 あやまる
【同訓異義】 **あやまる** 訛・誤・謬其他の用法は九六四頁の誤を見よ。
【訛言】クワゲン イねなしごと ロ流言、なま
【訛音】クワオン なまり又其言葉。「りことば
【訛傳】クワデン あやまりつたふ、又其のこと

【訝・】 漢ガ イむかふ（迎）ロいぶ
呉ゲ かる、けゞんに思ふ

【訥・吶】 漢ドツ 呉ノチ どもる（吃）口が重い、よくしやべられぬ
【訥敏】トツビン 訥言敏行に同じ。
【訥訥】トツイツ 言ふこと能はざる貌。
【訥辯】トツベン 鈍くつたなき辯舌。
【訥言敏行】トツゲンビンカウ 言葉は遲鈍であるが行爲はすばやい。

【訳】 九七八頁の譯を見よ。

五畫

【訴・愬】【訴】 漢ソ 呉ス イうつたふ、ぐちをこぼす。不平をもらして同情を求める、又うつたへ ロいひつける、讒言する ハ或物事につき其解決を求める
【同訓異義】 **うつたふ** 訴は寃枉を告げ訴ふる義。
【訴】は訴に同じ。
【愬】は對決するの意。
【獄】は曲直を官に爭ふ義。
【訴人】ソニン うつたへ出る人。
【訴狀】ソジヤウ うつたへの文書。「たへ
【訴訟】ソショウ 是非曲直を法廷で爭ふ、うつ
【訴願】ソグワン イうつたへねがふ ロ行政官廳又は地方自治體の不當處分により權利若くは利益を侵害せられし時之を其上級官廳にうつたへ出ること。
哀訴アイソ　讒訴ザンソ　仰訴ギヤウソ　枉訴ワウソ
煩訴ハンソ　嘲訴チウソ　愁訴シウソ　怨訴エンソ
獄訴ゴクソ　密訴ミツソ　寃訴エンソ　陳訴チンソ

【診・】【診】 漢呉シン イ脈をとる、みる ロうらなふ
【診察】シンサツ 病狀を見わける。
【診療】シンレウ 病氣をみわけて療治する。
【診斷】シンダン 病者につきて其病性を見定めること。
【診斷書】シンダンショ 診察してその病狀を記「したる書類。

【註・】【注（通字）】【註】 漢呉チュウ 慣用音チユウ イ文字の意味のときあかし、解釋 ロときあかす、解釋す ハ書き記す、記入すること
【註文】チユウモン あつらへる又製作することをたのむ 注意俗に注文ともかく。
【註疏】チユウソ ときあかしてくはしくす。
【註解】チユウカイ 本文の間又は欄外等に記
【註釋】チユウシヤク 前に同じ。「入した講義。

【詐・】 漢サ イだます、いつはる
呉セ（僞）ロいつはり、うそ
【同訓異義】 **いつはる** 詐・譎・僞其他の用法は九八頁の僞を見よ。

【詔○】 漢呉セウ イみことのり（古代は一般に上から下への命令をいひ秦漢以後は天皇の專用となる）ロみことのりす ハつぐ（告）をしへ告げる ニ南方の野蠻人の王號 ホ應接を掌る役、又その者
【詔令】セウレイ 天子の命令。
【詔命】セウメイ 前に同じ。
【詔書】セウショ みことのりのかきつけ。
【詔勅】セウチヨク イ天子のおほせ、みことのり ロ國政に關する天皇の意思にて一時的の効力を生ぜしむるもの。
【詔諭】セウユ イみことのり ロみことのりを下してさとす、又そのさとし。

【評○】【評】 慣用音ヒヤウ 漢ヘイ 呉ビヤウ イしなさだめ（物事の是非優劣を定める公平なる議論）ロしなさだめす
【評決】ヒヤウケツ 評議して定める。
【評判】ヒヤウバン イ批評して判斷す ロとりさた、世間のうはさ。
【評林】ヒヤウリン 批評を一つに集めたもの
【評定】ヒヤウテイ 評決に同じ。
【評言】ヒヤウゲン 批評のことば。
【評注】ヒヤウチユウ 次に同じ。「もの。
【評註】ヒヤウチユウ 批評と註釋とをあつめた
【評語】ヒヤウゴ 評言に同じ。
【評價】ヒヤウカ イ品物に相當の値段をきめる、又その値段 ロ美醜善惡をしなさだめすること。「ること、又其論。
【評論】ヒヤウロン 是非優劣につきて評論す
【評點】ヒヤウテン イ詩文などの眼目妙所などにつける點 ロ教師が生徒の學力を定

めるためにつける點數。
【評議】ヒヤウギ はかる、相談する。
【評斷】ヒヤウダン 評論してさだめる。
【評釋】ヒヤウシヤク 詩文を批評して其意味をときあかす、又其ときあかし。
異評イヒヤウ　寄評カヒヤウ　譏評キヒヤウ　公評コウヒヤウ
細評サイヒヤウ　嘲評チウヒヤウ　月旦評ゲツタンヒヤウ

【詞○】【詞】

漢シ　㊀ことば　呉ジ　（辭）あや
ある言語文章㊁つゞ（告）㊂韻文の一種
【詞人】シジン 詩家文人等の稱。
【詞兄】シケイ 詩歌文章の友をいふ敬語。
【詞伯】シハク 詩文に巧みなる人。
【詞林】シリン 文事のあつまり、文苑。
【詞表】シヘウ ことばの上、言外。
【詞客】シカク 詞人に同じ。
【詞章】シシヤウ 詩歌文章。
【詞韻】シヰン ㊀言葉のひゞき、言語の風韻㊁詩家の詩作に供する韻書。
【詞華】シクワ 美はしき文章、立派な詩文。
【詞業】シゲフ 詩文などを作るわざ。「仲間文學者の社會、詩人文士の
【詞壇】シダン ㊀詩文をつくる才㊁詩文。
【詞藻】シサウ 文詞ブンシ　心詞シン　名詞メイシ　祝詞シユクシ
副詞フクシ　動詞ドウシ　雅詞ガシ　誓詞セイシ

【詠●】【咏通字】【詠】

漢エイ　呉ヤウ
㊀うたふ、聲を永く引きて詩歌を歌ふ、又詩歌をつくる、鳥がなく㊁うた（詩歌又は歌ふべき詞章）㊂國訓ながむ（眺望）ながめ（みはらし）よむ（和歌をつくる）
【同訓異義】とふ 詢・問・訊其他の用法は二〇五頁の問を見よ。
【同訓異義】はかる 詢・計・謀其他の用法は九五五頁の計を見よ。
【詠史】エイシ 史實を主題として詩歌を作る、又其詩歌。「詩歌を作る、又其詩歌。
【詠物】エイブツ 鳥獸花月などを主題として
【詠草】エイサウ 歌のしたがき。
【詠進】エイシン 詩歌をつくりて貴人又は神佛などにたてまつること。
【詠歌】エイカ ㊀詩歌をよむ、又其詩歌㊁巡禮又は淨土宗の信者等が節をつけてうたふ一種の短歌。
【詠嘆】エイタン 次に同じ。
【詠歎】エイタン うたひほめる。
歌詠カエイ　吟詠ギンエイ　朗詠ラウエイ　嘯詠シヨウエイ
諷詠フウエイ　高詠カウエイ　誦詠シヨウエイ　賦詠フエイ
傳詠デンエイ　舞詠ブエイ　短詠タンエイ　嗟詠サエイ
澄詠チヨウエイ　賞詠シヤウエイ　愛詠アイエイ　詩詠シエイ

【詞○】【呵通字】

漢呉　カ　しかる、なじり責める
【呵止】カシ 大聲にてしかりとめる。

【証○】【證別字】

漢セイ　呉シヤウ　いさむ（諫）注意
證の略字として用ふるも正しきは誤り

【詈●】【詈】

漢呉　シ　㊀そしる（謗）又そのさま、わるくちをいふ㊁おこたる（怠）又そのさま㊂はかる（量）ますにてはかる㊃缺點、短所㊄かね、もと
【同訓異義】そしる 詈・誹・謗其他の用法は九六六頁の誹を見よ。
【詈短】シタン 惡口をいふこと。

【詁●】

漢コ　呉ク　よみ、古語を現代語にて解釋したもの

【詆●】

漢テイ　呉タイ　㊀そしる（謗）しかり咎める㊁はづかしめる
【同訓異義】そしる 詆・誹・謗其他の用法は九六六頁の誹を見よ。
【詆訾】テイシ そしる、謗訾。
【詆毀】テイキ けなす、そしる。

【詈●】

漢呉　リ　注意げんと讀むは誤り
けなす、のゝしる（罵）
惡口をいふ又あてこすりをいふ
【詈辱】リジク のゝしりはづかしむ。

【詎●】

漢キヨ　呉ゴ　㊀なんぞ（豈）あに㊁詎幾と連用して「いくばく」と訓ず
【同訓異義】なに 詎・何・曷其他の用法は六九頁の何を見よ。
【詐取】サシユ だまして取る。「ふこと。
【詐稱】サシヨウ 官位姓名などをいつはり使
【詐術】サジユツ いつはりのてだて、詭術。
【詐欺】サギ ㊀だます、たばかる、いつはる㊁虛僞の事實を述べて人を誤らしめる
【詐善】サゼン 善人らしく見せかける。
【詐戰】サセン 會戰の日を定めず突然戰ふ
【詐僞】サギ うそ、いつはり。
【詐謀】サボウ いつはりのてだて、譎謀。
【詐欺取財】サギシユザイ だまし又は恐喝して人の財物をとる罪。
【詐欺横領】サギワウリヤウ いつはりて人の財物を横どりす、又詐欺と横領の罪。
巧詐カウサ　譎詐ケツサ　謀詐ボウサ　權詐ケンサ
詔詐テンサ　變詐ヘンサ　姦詐カンサ　詭詐キサ

【詘●】

漢クツ　㊀かゞむ（屈）　呉コチ　チユチ　㊁しりぞく
【詘伸】クツシン 伸びることゝ縮むこと、屈伸
【詘指】クツシ ゆびをり數へる、屈指。

【詒○】【貽通字】

漢イ　㊀おくる　呉タイ（贈）㊁のこす（遺）㊂あざむく（給）
【同訓異義】あざむく 詒・欺・給其他の用法は五五三頁の欺を見よ。
【詛●】漢ショ　呉ソ　注意咀と混用するは誤りである●のろふ（呪）のろひ㊁ちかふ（誓）

【詫○】【詫別字】

漢タ　呉ダ
㊀あざむく、だます㊁得意になつて人の言などを聞きいれぬさま

【詫】

前の詫を見よ。

六畫

【詢○】【洵】

漢呉　シユン　慣用音　ジユン
【詢按】ジユンアン はかる（謀）とふ（咨）
【詢察】ジユンサツ たづねしらべる。
【詢諏】ジユンスウ たづねしらべる。

【詣●】【詣】

漢ケイ　㊀いたる　呉ガイ（造）達す
㊁まうづ（神佛にまゐる）㊂到達した箇所、學問技術等の道に達したところ
【同訓異義】いたる 詣・到・至其他の用法は九四五頁の至を見よ。
遊詣イウケイ　精詣セイケイ　指詣シケイ　參詣サンケイ
尋詣ジンケイ　造詣ザウケイ　來詣ライケイ　行詣カウケイ

【試●】【試】

漢呉　シ　㊀ためす、こゝろみる
●こゝろみ、ためし㊂こゝろみに、ためしに●もちゐる
【試用】シヨウ ためしとしてつかふ。
【試作】シサク ためしにつくる、作りためす
【試掘】シクツ ●ためしに地をほる㊁鑛物などをこゝろみに掘り出す。
【試毫】シガウ 試筆に同じ。
【試問】シモン 學力をこゝろみること。
【試植】シシヨク 草木類をためしに植付ける
【試補】シホ 見習ひの役人。
【試筆】シヒツ かきぞめ、試毫。
【試業】シゲフ 學業をためす。
【試驗】シケン ㊀こゝろみためす㊁學業によりて修めたる力をこゝろみる㊂人の資格能力を檢査する㊃物品の品質、効能の有無を檢査する。
【試金石】シキンセキ ㊀金銀を其面にすりつけて眞贋を判別するために用ゐる黑色緻密の石㊁轉じて物事の價値を判斷する材料となる物の總稱。
【試運轉】シウンテン ㊀汽車・汽船・電車などを試驗的に運轉すること㊁處女が初めて異性に接することに俗用する。

【試驗管】シケンクワン 理化學の實驗用として用ゐるガラス製管狀の容器。

【試驗地獄】シケンヂゴク 入學試驗に及第することの困苦を言ひ現はす語。

御試ギヨシ　考試カウシ　校試カウシ　面試メンシ
講試カウシ　甞試シヤウシ　小試セウシ　都試トシ
課試クワシ　量試リヤウシ　選試センシ　策試サクシ
閱試エツシ　點試テンシ　覆試フクシ　歷試レキシ
殿試デンシ　鄕試キヤウシ　廷試テイシ　按試アンシ

（試驗管）

【詩●】【詩】

漢呉 シ イからうた（支那の韻文の一體にして古詩・今樣の二體にわかる）ロ各句が一定の音律に基きて作られし文ハ經書の名（五經の一にして孔子が選定したといふ古代の詩三百十一篇を收めしもの「をつくる人。

【詩人】シジン 詩歌に巧みなる人、又詩歌

【詩文】シブン 詩と文章、詩歌文章。

【詩什】シジフ 詩十篇の義、轉じて詩篇。

【詩史】シシ 詩にて時事をのべしもの。

【詩仙】シセン イ天才の大詩人、詩の名人ロ詩歌にふけりて世事をかへりみぬ人

【詩句】シク 詩の文句。

【詩伯】シハク 詩の大家の敬稱、詩宗。

【詩形】シケイ からうたの形式。

【詩材】シザイ 詩料に同じ。

【詩卷】シクワン 詩を書き集めたる卷物、又「まの形容。

詩の書物。

【詩的】シテキ 詩趣ありて美感を動かすさ

【詩宗】シソウ イ詩經の大家ロ詩伯に同じ

【詩律】シリツ 詩の規則又は格調、即ち詩

【詩眼】シガン 詩を思ふ人の眼力。「の調子

【詩情】シジヤウ 詩をつくるおもひ、詩思。

【詩思】シシ 詩を作るにつきての考案。

【詩客】シカク 詩を作る人、詩人。

【詩料】シレウ 詩を作るたね。

【詩格】シカク 詩を作る法則、又詩の風格。

【詩酒】シシユ イ詩と酒ロ詩を作りつゝ酒

【詩草】シサウ 詩のしたがき。「を飲む。

【詩書】シシヨ イ詩經と書經ロ作詩と文字

【詩集】シシフ 詩をあつめ載せたる書物。

【詩債】シサイ 作るべき詩を作らずに居る

【詩聖】シセイ 古今第一の詩人の意、杜甫。

【詩歌】シカ 詩と歌。

【詩會】シクワイ 作詩の會、詩人のあつまり。

【詩話】シワ 詩に關するはなし。

【詩盟】シメイ 詩人の仲間、詩人のまじはり

【詩賦】シフ 詩と賦、韻文。

【詩箋】シセン 詩をかく紙。

【詩篇】シヘン 詩の作物、又それをあつめしもの。「もむき。

【詩趣】シシユ 詩につくる程の景色又はお

【詩稿】シカウ 詩草に同じ。

【詩壇】シダン 詩人の社會、詩人のなかま。

【詩興】シキヤウ 詩の面白味、風流の樂しみ

【詩韻】シヰン イ詩の韻字ロ詩の面白味。

佳詩カシ　好詩カウシ　惡詩アクシ
新詩シンシ　六詩リクシ　舊詩キウシ　題詩ダイシ

【詭○】【詭】

漢呉 イあざむく、いつはる（詐）いつはりロせむ（責）ハそむく、たがふ（違）もとる（戾）ニあやし（怪）又其さま

【同訓異義】いつはる 詭・僞・詐其他の用法は九八頁の僞を見よ。

【詭妄】キバウ いつはり、うそ。

【詭言】キゲン うそ、いつはりのことば。

【詭計】キケイ 人をいつはるはかりごと。

【詭道】キダウ 人をあざむくてだて。

【詭誕】キタン より所なし、でたらめ。

【詭激】キゲキ 中庸を失ひて言行の過激な

【詭謀】キボウ 詭計に同じ。「ること。

【詭辯】キベン イ巧みに人を惑はす口まへロ理非をまげて人を惑はす辯論●

【詮○】【詮】

漢呉 イこまかに事理を說きあかす口事理を說きて明らかにすることばハかひ、せん、しるし、又つまる所

【詮方】センカタ しかた、しやう。

【詮索】センサク イたづね探すロしらべ求める、詮議して探索する。

【詮義】センギ その義と理を詳かに說き明かす 注意 銓議と書くは誤り。

【詮衡】センカウ 人物をゑらびはかること。

【詰●】【詰】

呉 キツ 漢 キチ イなじる、問ひつめる、責問ロをさむ（治）ハ夜のあけがたニかゞむ、まがる、屈曲ホ國訓つむ（滿たし入れる、追ひとめて動かれぬやうにす、ひきしめる、おしちゞめる）つまる（いつぱいになる、切迫する、行き止まる、きはまる）つめ（きは、はし、はて、かぎり）

【詰問】キツモン とひつめる、なじりとふ。

【詰責】キツセキ なじりせめる。

【詰詘】キツクツ かゞまりてのびざるさま。

【詰所】ツメショ 役人の勤務する所。

辯詰ベンキツ　難詰ナンキツ　密詰ミツキツ　面詰メンキツ

【話●】【話】

漢クワイ 呉エ 慣用音クワ ケワ

イものがたり、はなしロはなす、かたる、つげるハよき言葉、善言、嘉言

【話文】ワブン はなしのついで。

【話柄】ワヘイ はなしのたね、談柄。

【話頭】ワトウ 話のこゞち、はなしのいと「ぐち。

【話題】ワダイ はなしの主題。

佳話カワ　清話セイワ　舊話キウワ　言話ゲンワ
情話ジヤウワ　談話ダンワ　俗話ゾクワ　淨話ジヤウワ
閑話カンワ　靜話セイワ　世話セワ　良話リヤウワ

【該○】【該】

漢カイ 呉ケ 慣用音ガイ

イかぬ（兼）そなふ（備）博く有すロすべし、べしハあたる（當）ニその（其）

【同訓異義】かぬ 該・兼・攝其他の用法は一一九頁の兼を見よ。

【該通】ガイツウ 廣く通ずる。「きさま。

【該博】ガイハク 學問などに廣く通じて明る

【該當】ガイタウ あたる、あてはまる、適合す

【詳○】【詳】

漢呉ヤウ 漢シヤウ 呉ザウ

イつまびらか、くはしい、細密ロつまびらかにす、明細にす、又よく知るハくはしくしらべる。

【詳述】シヤウジユツ くはしく述べる。

【詳悉】シヤウシツ くはしく知りつくす。

【詳細】シヤウサイ つまびらか、くはし、委細

【詳略】シヤウリヤク 詳細と簡略精、精粗。

【詳解】シヤウカイ くはしくときあかす、又「その記錄。

【詳密】シヤウミツ イくはしくこまやかなりロ思慮又は注意の深きこと。

【詳報】シヤウハウ くはしきしらせ。

【詳傳】シヤウデン くはしく記したる一代記

【詳察】シヤウサツ 詳細に考へること。

【詳說】シヤウセツ くはしく說きあかす、又「その說明。

【詳錄】シヤウロク つまびらかにしるす、又

【詳論】シヤウロン こまかに論ず、又其論說。

【詳覽】シヤウラン くはしくみとほす。

【誂●】【誂】

漢呉テウ イいどむ（挑）呉デウ いざなふ（誘）ロにはか（卒然）ハ國訓あつらふ（特に註文して作らせる又其物）

【誅○】【誅】

漢呉 チユ 慣用音チユウ イ兵力を以て罪人をせめうつ、罪人をころすロとがめる、せむ（責）ハとが、つみ、又つみす、罰すニのぞく（除）

【誅伐】チユウバツ 罪ある者をせめうつ、又「罪人をせめ殺す。「財物をむさぼる。

【誅求】チユウキユウ 無理に租稅を取立て又は

【誅滅】チユウメツ　罪ある者をせめほろぼす
【誅鋤】チユウジヨ　㋑草をすき取つて根だやしにする㋺悪者を殺しつくす。
【誅罰】チユウバツ　罪人を法律にあてゝ罰す
【誅戮】チユウリク　罪にあてゝ殺す。
詰誅キツチユウ　天誅テンチユウ　刻誅コクチユウ

【誇○】【夸通】字

漢 クワ　呉 ケ

慣用音 コ

㋑ほこる、たかぶる、自慢す㋺ほこり

【同訓異義】ほこる

【伐】は自ら其の功をほこるの意。
【矜】は自ら賢しとするの意。
【誇】は大言するの意。

【誇大】コダイ　㋑事實よりも物事をおほげさに言ふ、誇張㋺ゐばる、ほこる。
【誇示】コシ　みせびらかす、ほこり示す。
【誇色】コシヨク　自負の容子、誇るかほつき。
【誇街】コガイ　ほこりてらふ、自ら大にす。
【誇張】コチヤウ　物事を大げさにいふ。
【誇稱】コシヤウ　自慢する、ほこりいふ。
【誇耀】コエウ　世間にみせびらかして誇る
【誇大妄想狂】コダイマウサウキヤウ　自己を大袈裟に妄信する精神病、又その人。

【詫●】【詫別字】【咤通】字

漢 タ　呉 テ

㋑ほこる（誇）大言を吐いて人を驚かす又あざむく（欺）㋺おどろきあやしむ㋩國訓わぶ、わび

【詫言】ワビゴト　謝罪のことば、又わび。

【詬●】

漢 コウ　呉 ク

のゝしる（罵）

【同訓異義】はづ　詬・恥・辱其他の用法は三八七頁の恥を見よ。

【詬辱】コウジヨク　のゝしりはづかしめる。
【詬罵】コウバ　のゝしる。

【詹◐】

漢 セン　タン　呉 ソン　ドン

㋑言葉多きさま㋺みる（瞻）㋩いたる（至）㋥うらなふ（占）㋭たる（瞻）十分である、滿足する

【詼○】

漢 クワイ　呉 ケ

㋑おどけ、ふざけ、をかしみあること㋺あざける（嘲）たはむる（戯）からかふ、ふざける

【詼嘲】クワイチウ　皮肉をいふ、じやうだんのうちに人をあざけること。
【詼諧】クワイカイ　おどけ、滑稽、諧謔。

【誅●】

漢 呉 ルキ

注意らいと讀むは誤り

㋑しのびごと、死人の生前の功德を述べる詞又誄を述べる㋺神に祈り幸福を求める詞

【誄詞】ルキシ　死者の生前の加德をつらねて之を稱したる文詞。

【誄辭】ルキジ　前に同じ。

【誉】

九七九頁の譽を見よ。

【諛】

九七二頁の諛を見よ。

七畫

【誌●】【誌】

漢 呉 ㋑事實を記した文章、記事㋺しるす（記）かきつける㋩あざ（痣）

【誌友】シユウ　新聞雜誌の讀者、會員。

【認●】【認】

漢 ジン　呉 ニン

㋑みとめる、見つける、自らきめる㋺はつきりと見わける、みきはめる㋩ゆるす（認可）承知する㋥國訓したゝむ（たべる、喫する、書きしるす、見屆ける）みとめ（認印の略）

【認印】ニンイン　みとめ印、印の一種。
【認可】ニンカ　或事柄に付き官公署が差支へなしと認めること、認許すること。
【認知】ニンチ　承知する、みとめる。
【認定】ニンテイ　みとめ定める。
【認容】ニンヨウ　認可に同じ。
【認許】ニンキヨ　前に同じ。
【認諾】ニンダク　よしと認めて受負ふ、相手方の主張を至當と認めること。

【認識】ニンシキ　㋑みとめる、みとめしる㋺外界及内界の對象を感知し又はそれを斷定する心のはたらき。
【認證】ニンシヨウ　權限ある者が或る事實の存在を承認して之を證明すること。

【誓●】【誓】

漢 セイ　呉 ゼイ

㋑ちかひ、やくそく（約束）又神佛に告げて信義を守る㋺衆人をいましめ注意を與へる、訓誡㋩ちかふ、約束す、ちぎる、むすぶ㋥ちかつて、ぜひ共、かならず、相違なく

【同訓異義】ちかふ

【盟】は性を殺し、血をすゝり、神にちかふの意にて誓よりはその意重し
【矢】は矢の眞直に向うへゆく如く何時までもかはらぬ義。「るの意。
【誓】は言葉にてたがはぬ樣に約束す

【誓文】セイブン　契約の證文、誓紙。
【誓言】セイゲン　誓ひのことば。
【誓命】セイメイ　君主が臣下に對してなす誓
【誓詞】セイシ　誓言に同じ。
【誓約】セイヤク　ちかひ、又ちかふこと。
【誓紙】セイシ　誓文に同じ。
【誓書】セイシヨ　ちかひを記したるかきつけ
【誓盟】セイメイ　誓約に同じ。「わんがけ。
【誓願】セイグワン　神佛に祈願すること、ぐ
【誓文拂】セイモンバラヒ　關西地方にて商家が年末に行ふ特別の賣出し。
戒誓カイセイ　宣誓センセイ　盟誓メイセイ　約誓ヤクセイ

【誕●】【誕】

漢 タン　呉 ダン

㋑そらごと、うそ、ねなしごと、人を欺く大言㋺あざむく（欺）㋩わがまゝ、ほしいまゝ㋥うまる（生）うむ、まうける㋭おほい㋬に（大）ひろし（闊）へ發語の詞、こゝに

【誕言】タンゲン　うそいつはりごと。
【誕生】タンジヤウ　生む、生み落す、生れる。
【誕妄】タンバウ　いつはり、ねなしごと。
【誕辰】タンシン　生日、うまれた日、誕日。
荒誕クワウタン　妄誕バウタン　欺誕ギタン　縱誕シヨウタン
放誕ハウタン　怪誕クワイタン　詭誕キタン　傲誕ガウタン

【誘●】【誘】

漢 イウ　呉 ユ　ふ、いざなふ、又教へみちびく㋺つれだす、よびだす㋻いざなひ、誘引

【誘引】イウイン　いざなふ、さそふ。
【誘拐】イウカイ　㋑かどはかし、かどはかす㋺人をだまして現在の場所より他の所に連れて行く。
【誘致】イウチ　さそひだす、おびきだす。
【誘殺】イウサツ　さそひ出してころす。
【誘發】イウハツ　おびき出すこと。
【誘拔】イウバツ　導きたすける。
【誘惑】イウワク　いざなひてまどはす。
【誘海】イウクワイ　導きをしへる。
【誘導】イウダウ　㋑前に同じ㋺道案内。
【誘蛾燈】イウガトウ　夜間田圃に設け害蟲を誘ひ水に陷らしめる燈火。

（誘蛾燈）

開誘カイイウ　招誘セウイウ　恩誘オンイウ　誨誘クワイイウ
勸誘クワンイウ　導誘ダウイウ　慰誘イウイウ

【語●】【語】

漢 ギヨ　呉 ゴ

㋑かたる（大言を言といひ・小言を語といふ、又自言を言・答言を語といふ）ものがたる、はなしをする、ものいふ、口にすること㋺ことば、言辭、もんく㋩生物の發する聲㋥告げる、かたる、をしへる

【語句】ゴク　言語、言葉、又ことばのくぎり
【語次】ゴジ　はなしのついで、言次。
【語呂】ゴロ　言葉の調子、いひまはし。
【語尾】ゴビ　㋑言葉のいひじまひ㋺文法上一語のをはりにて語根以下の稱。
【語原】ゴゲン　言語の起るもと。

【語根】ゴコン 文法上言語を解析し其以上に分つことの出來ぬ部分の稱、又動詞より其語尾をとりわけたる部分。
【語格】ゴカク ことばづかひの規則。
【語病】ゴヘイ 言語の上に表はれし缺點。
【語弊】ゴヘイ 誤解をまねきやすい言ひ方
【語氣】ゴキ ㊀ものゝ言ひやう、辭氣㊁語勢、ことばのいきほひ。
【語彙】ゴキ 多くの言葉を一つに集め載せ
【語意】ゴイ いふこゝろ、ことばの意味。
【語路】ゴロ 言葉のいひまはし。
【語勢】ゴセイ 言葉のいきほひ。
【語聲】ゴセイ はなしごゑ。
【語學】ゴガク ㊀外國語の學問㊁言語學。
【艷語】エンゴ 面語メンゴ 豪語ガウゴ 怒語ドゴ
【寄語】キゴ 醉語スヰゴ 獨語ドクゴ 立語リツゴ
【好語】カウゴ 美語ビゴ 媚語ビゴ 低語テイゴ
【情語】ジヤウゴ 惡語アクゴ 古語コゴ 目語モクゴ
【老語】ラウゴ 奇語キゴ 綺語キゴ 傑語ケツゴ
【言語】ゲンゴ 佳語カゴ 笑語セウゴ 傳語デンゴ
【偶語】グウゴ 耳語ジゴ 飛語ヒゴ 眼語ガンゴ
【佛語】ブツゴ 寢語ビゴ 囈語ゲイゴ 爭語サウゴ
【文語】ブンゴ 問語カンゴ 妄語バウゴ 虛語キヨゴ
【空語】クウゴ 流語リウゴ 蠻語バンゴ 解語カイゴ
【默語】モクゴ 詩語シゴ 談語ダンゴ 俚語リゴ
【鄙語】ヒゴ 警語ケイゴ 人語ジンゴ 鳥語チウゴ

【誠○】【誠】

漢 セイ ㊀まこと 呉 シヤウ

ごゝろ（赤心）純一にして公平無私なること㊁まことにす、誠實をあらはす㊂まことに、眞に、實に㊃はたして、もし

【同訓異義】**まことに** 誠・信・眞其他の用法は八一頁の信を見よ。

【誠心】セイシン 誠意に同じ。
【誠忠】セイチユウ 眞心よりいたす忠義。
【誠直】セイチヨク 正しくまことなり。
【誠意】セイイ ㊀まごゝろ㊁まことの心。
【誠實】セイジツ ㊀まごゝろがありてまじめなり㊁まことに、ほんたうに。
【誠道】セイダウ まことの道。
【誠感】セイカン 眞心は神人をも動かすの意
允誠インセイ 寸誠スンセイ 篤誠トクセイ 夷誠チユウセイ
丹誠タンセイ 忠誠チユウセイ 端誠タンセイ 懇誠コンセイ
精誠セイセイ 潔誠ケツセイ 純誠ジユンセイ 欵誠クワンセイ

【誡●】【戒】

漢 カイ ㊀いまし 呉 ケ

を與へる、警戒させる、注意して慎む、警戒する㊁いましめ、をしへ、又其ことば或は文書む、注意

【同訓異義】**いましむ** 誠・戒・警其他の用法は四一四頁の戒を見よ。

【誣○】

漢 ブ 呉 ム しふ（無きことを有る慣用音フ

やうにいひ又は有ることを無きやうに言ひなすこと）無實の罪におとす

【誣妄】ブバウ 虛僞の事を主張する。
【誣言】ブゲン 無實のいひごと。
【誣告】ブコク ㊀僞つてつげる㊁無實の事を以て人を訴へる。
【誣說】フセツ 「風說。あらぬうはさ、いつはりの
【誣誘】フバウ しひそしる。

【誤●】【誤】

漢 ゴ 呉 グ

㊀あやまる、あやまつ、まちがへる、しそこなふ、人をまどはす㊁あやまり、しそこなひ

【同訓異義】**あやまる**
【失】は取りおとすの意である。
【愆】はあやまちと訓み心得違ひの意
【誤】は氣づかずして仕損ずるの意。
【訛】はいつとなくあやまり違ふ義。
【謬】は筋道のゆき違ひたるに用ふ。
【過】は惡心なく誤りて犯すにいふ。
【錯】は彼此入りちがふに用ふ。
【誤用】ゴヨウ あやまりもちゐる。
【誤字】ゴジ まちがひたる文字。
【誤差】ゴサ ㊀まちがひ、たがひ㊁或數量と

其觀測上の數との相違。
【誤脫】ゴダツ 誤字と脫字、書きあやまり
し文字と落したる文字。「傳へ。
【誤傳】ゴデン 誤つて傳へられる、又その
【誤報】ゴハウ あやまりたる知らせ。
【誤植】ゴシヨク 活字のうゑあやまり。
【誤解】ゴカイ 勘違ひ、意味をちがへる。
【誤聞】ゴブン きゝあやまり、きゝちがひ。
【誤認】ゴニン みそこなふ、見まちがへる。
【誤算】ゴサン 計算の違ひ、又その計算。
【誤寫】ゴシヤ 文字のうつしあやまり。
【誤謬】ゴビウ あやまり、まちがひ。
【誤繆】ゴチウ はかりごとをあやまる。
缺誤ケツゴ 壞誤クワイゴ 脫誤ダツゴ 過誤クワゴ
闕誤ケツゴ 錯誤サクゴ 註誤チユウゴ 謬誤ビウゴ

【誦●】【訟】通字【誦】

漢 ショウ 呉 ジユ

慣用音ズ ㊀となふ、そらんじ唱へる、唱へ讀む㊁うたふ、聲に節をつけてよむ㊂はなしをする、とく㊃詩歌の如く節をつけて歌はれることば㊄そしる

【同訓異義】**よむ** 誦・念・讀其他の用法は九七九頁の讀を見よ。

【誦詠】ショウエイ 詩歌をそらんじ歌ふ。
【誦呪】ショウジユ 道士などが經文をとなへていのる。
【誦經】ショウケイ ㊀經書をよむ㊁佛教の經
【誦讀】ショウドク そらんじよむ。「文をよむ。

嗜誦アンショウ 諳誦シヨウ 講誦カウシヨウ 記誦キシヨウ
聞誦ブンシヤウ 覆誦フクシヨウ 背誦ハイシヨウ 諷誦フウシヨウ
讀誦ドクシヨウ 習誦シフシヨウ 精誦セイシヨウ 諳誦エウシヤウ

【誨●】【海】

漢 クワイ 呉 ケ ㊀をしふ（教）

さとし導く㊁をしへ、さとし

【同訓異義】**をしふ** 誨・教・訓等の用法は四六二頁の教を見よ。

【誨諭】クワイユ をしへさとす。

雅誨ガクワイ 慰誨ヰクワイ 誠誨カイクワイ 母誨ボクワイ
勸誨クワンクワイ 神誨シンクワイ 篤誨トククワイ 善誨ゼンクワイ
誘誨イウクワイ 仁誨ジンクワイ 慈誨ジクワイ 往誨ワウクワイ

【說●】【說】

漢 セツ ゼイ 呉 セチ ゼ エチ タチ タツ ㊀とく、述べ言ふ、理義を解釋す㊁ときあかした

る文章、又議論㊂文章の一體、論說文㊃とく、とき諭して從はしめる㊄とまる、やどる㊅よろこぶ（悅）よろこばし㊆愛しめでる㊇ぬぐ（脫）

【同訓異義】**よろこぶ** 說・喜・悅其他の用法は二〇八頁の喜を見よ。

【說伏】セツブク ときふせる。「のこと。
【說法】セツポフ 宗教上の道を說聞す、又そ
【說破】セツパ ㊀他人の言說をときやぶる㊁ときつくす、いひゝらく。
【說明】セツメイ ときあかし、ときあかす。
【說得】セツトク ときつけて得心させる。
【說教】セツケウ 宗教の教をとくこと。
【說話】セツワ ものがたり、はなし、話說。
【說諭】セツユ 惡事を爲し又は爲さんとする者に對し是非善惡の道理を說き諭すいひきかせ、言ひきかす、ときさとす。

口說クセツ 小說セウセツ 申說シンセツ 巧說カウセツ
他說タセツ 百說ヒヤクセツ 妄說バウセツ 曲說キヨクセツ
妙說ベウセツ 邪說ジヤセツ 攻說カウセツ 奇說キセツ
巷說カウセツ 姦說カンセツ 宣說センセツ 訓說クンセツ
高說カウセツ 浮說フセツ 陳說チンセツ 細說サイセツ
推說スイセツ 異說イセツ 虛說キヨセツ 開說カイセツ
衆說シユウセツ 評說ヒヤウセツ 辟說ヘキセツ 遊說イウゼイ
話說ワセツ 道說ダウセツ 解說カイセツ 詭說キセツ
傳說デンセツ 輕說ケイセツ 管說クワンセツ 演說エンゼツ
稱說ショウセツ 漂說ヘウセツ 論說ロンセツ 談說ダンセツ
辨說ベンセツ 學說ガクセツ 譏說ゼンセツ 講說カウセツ
舊說キウセツ 瞽說コセツ 辭說ジセツ 辯說ベンセツ
從橫說ジユウワウセツ 道聽塗說ダウチヤウトセツ

【誑●】漢 キャウ　呉 カウ　たぶらかす、あざむく、かたる

【同訓異義】**あざむく**　誑・欺・瞞其他の用法は五五三頁の欺を見よ。

【誑惑】キャウワク　欺きまどはす。

【誑誕】キャウタン　ことばに實なきこと。

【誥●】漢 カウ　呉 コウ　①つぐ（告）②上から の申渡し、又其書或は文書③上級の官吏を任免する辭令書

【読】九七九頁の讀を見よ。

八畫

【課●】【課】漢呉 ①わりあてる、租稅をわりあてる、物事につき法則を定めて人々にわり當てる、又仕事の結果を試みて優劣を決す③わりあてた定め、ほど②官省中の事務の一區分。

【課役】クワエキ　稅とぶやく。

【課稅】クワゼイ　稅金をわりあてる。

【課程】クワテイ　①わりあてし仕事の分量②物品にわりあてゝ課する稅金 注意 科程と書くは誤り。

【課業】クワゲフ　わりあてたる仕事 注意 科業と書くは誤り。

【課稅標準】クワゼイヘウジユン　租稅を賦課する爲法律を以て豫定する一定の金額若くは量、例へば地租に於ける地價の如し

【誰○】【誰】漢呉 に用ゐる代名詞、又姓名を尋ね問ふ時の名詞、たれ、だれ②發語の助辭として用ゐる字

【同訓異義】**たれか**

【孰】はどのやうなものかと問ふ辭。

【誰】は人を指す辭。「何者、たれ。

【誰何】スイカ　①姓名を咎め聞く②何人、

【誰方】ドナタ　たれぞ、たれか。

【誰哉行燈】タソヤアンドン　③昔江戸吉原にて妓樓の戸前に立てゝ往來を照らした常夜燈②芝居の舞臺に出すぼんぼりに似た行燈又手燭の用に供する行燈。

（誰哉行燈）

【誹●】漢呉 ヒ　そしる

【同訓異義】**そしる**

【刺】は先方の心に針でさすやうに感ぜしむるやうそしる。

【毀】は譽の反對で人を毀ちやぶる如くひどくそしるの意。

【短】は人の短所をそしる。

【訕】はわるくいひなすの意。

【詆】はひどく叱りつけてそしる意。

【誹】は人の非をさしてそしるの意。

【謗】は人をしかりとがむるの意。

【譏】は疵を見つけ出して非難する意。

【誹】はかげ口をいひ人をそしる意。

【譏】は先方の落度をとがめそしる意。

【非】は誹に同じ。

【誹毀】ヒキ　①そしる、又そしり②事實の有無を問はず人の惡事醜行を摘發して其の人の名譽を毀けること。

【誹謗】ヒバウ　前に同じ。

【誼●】【誼】別字【義】通字 漢呉 ①よしみ、したしみ②すぢ、みち③はかる

【頊】ギ

【調●】【調】漢 テウ　呉 デウ

●やはらぐ、とゝのふ②かなふ（適）③なつける、ならす④あざける（嘲）⑤木の葉の動く貌⑥まもる（護）もりたてる

①めしだす（徵發）②官職を授ける、轉任する③はかる、しらべる④樂器のてうしを合せる⑤つき（唐代貢物として納める土地の產物布帛の類）⑥しらべ（音樂詩歌等のてうし）⑦おもむき、やうす⑧あさ（朝）⑨國訓とゝのふ（物を買ふ、事を辨ず、こしらへる）しらぶ（罪狀を檢按する、ためしみる、檢閱する）しらべ（動力を傳へる爲に車輪と車輪とを連接する帶又は紐）

【同訓異義】**ととのふ**

【整】は物を束ねて正しくそろへる意

【調】はよく和合する義。

【齊】は偏頗なく、平等に、正しく、出入なく、一樣にそろへるの意。

【調子】テウシ　①音聲の緩急高低②くてう宇句の語路③いきほひ、ぐあひ。

【調布】テウフ　昔貢物として官に納めた布

【調伏】テウフク　①心身を調和して諸惡をとり除く②祈禱により惡魔を降伏させる

【調印】テウイン　印形をおす、捺印。

【調合】テウガフ　藥をもりあはせる。

【調金】テウキン　お金をこしらへる。

【調和】テウワ　①味がよくとゝのふ②音樂の調子が能くとゝのふこと③なかよく治まる④物事がよくとゝのひ治まる⑤釣合がよくとれてゐる。

【調味】テウミ　よき工合にあぢをつける。

【調査】テウサ　①とりしらべること②不明の事柄を明かにすること。

【調度】テウド　①物事を適度に調理する義、はかりごと②租稅をとりたてる③手まはりの小道具、又武家にては弓矢。

【調馬】テウバ　馬をのりならす。

【調書】テウショ　調査の結果を記したる書類

【調貢】テウコウ　貢物を獻上すること。

【調停】テウテイ　和睦させる。「を調理する。

【調理】テウリ　①物事を整へ治める②食品

【調達】テウタツ　取揃へて遣す、又とゝのへる

【調進】テウシン　註文通り揃へて差出す。

【調製】テウセイ　物品をとゝのへ造る。

【調節】テウセツ　①機械の運轉等をよくする

ため釣合をとる②物事を程よく取計ふ

【調練】テウレン　兵士を訓練す、練兵。

【調賦】テウフ　みつぎもの、年貢。

【調劑】テウザイ　①藥を合す②食物等の味をつける。

【調色板】テウショクバン　油繪を描くとき繪具を調合する板。

【調馬師】テウバシ　乘馬を馴らす役人。

（調色板）

【談○】【談】漢呉 慣用音 ダン　①ものがたり、はなし②かたる、はなす

【談合】ダンガフ　はなしあふ、相談す。

【談判】ダンパン　かけあひ、又そのこと。

【談柄】ダンペイ　かたりぐさ、はなしのたね。

【談笑】ダンセウ　話しながらわらふ

【談理】ダンリ　道理を談ずること。

【談話】ダンワ　物語り、はなし、又其のこと

【談義】ダンギ　①筋道を話す②說法、法話。

【談論】ダンロン　色々と語り論ずる。

【談餘】ダンヨ　①話のあと②話のついで。

【談藪】ダンソウ　話が多くして盡きぬ形容。

【談叢】ダンソウ　前に同じ。

【談議】ダンギ　相談して取計ふこと。

街談ガイダン　閑談カンダン　嘲談チウダン　俳談カイダン

說談セツダン　通談ヘイダン　盛談セイダン　政談セイダン

玄談ゲンダン　農談ノウダン　縱談ショウダン　橫談ワウダン

美談ビダン　戲談ギダン　劇談ゲキダン　清談セイダン

面談メンダン　對談タイダン　笑談セウダン　話談ワダン

言談ゲンダン　遊談イウダン　文談ブンダン　深談シンダン

高調カウテウ　悲調ヒテウ　騷調ソウテウ　風調フウテウ

公調コウテウ　雜調ザツテウ　課調クワテウ　氣調キテウ

租調ソテウ　曲調キヨクテウ　變調ヘンテウ　順調ジユンテウ

妄談バウダン　虚談キヨダン　講談カウダン　相談サウダン
史談シダン　軍談グンダン　厳談ゲンダン　快談クワイダン
漢セイ　宋ソウ　呉シャウ　ジャウ

【請●】【謁】

イこふ、ねがひ求める、とひたづねる ロ祈る、許されんことをねがふ ハ人をまねく、お目にかゝる ニ願はくは、どうぞ ホ漢代の制度にて諸侯が秋天子に參内することゝ へ國訓うく（こひ受ける、ひきうける）

【同訓異義】**こふ** 請・丐・乞等の用法は二三頁の丐を見よ。

【請求】セイキウ イこひもとめる ロ行爲又は不行爲を求める。「ある人にたのむ。

【請託】セイタク 自分に都合よきやうに權力官吏が休暇を請願する、又は議員等が暇をこふ。「請託に同じ。

【請暇】セイカ

【請謁】セイエツ イ面謁出來るやうに願ふ ロ

【請願】セイグワン イこひねがふ ロ人民が君主・議會・行政官廳に對して懇願する。

【請禱】セイタウ 神に祈らんことを乞ひ求める

【請合】ウケアヒ 請合ふ、保證する。

【請判】ウケハン 保證する證として捺す印。

【請負】ウケオヒ 一方が或仕事を完成することを約し相手方が其の仕事の結果に對して報酬を與ふることを約すること。

懇請コンセイ　聘請ヘイセイ　奏請ソウセイ　所請キセイ

【諒●】【涼】

漢リヤウ　呉ラウ

ロ小節を固く守る ハおもひやる、察す ニ眞實に、まことに（信）

【同訓異義】**まことに** 諒・信・眞其他の用法は八一頁の信を見よ。

【諒恕】リヤウジヨ 同情してみのがす。

【諒解】リヤウカイ 眞意を察して認容する。

【諒察】リヤウサツ 同情する、思ひやる。

【諒闇】リヤウアン 天子の服喪の稱。

【論●】【倫】

漢ロン　呉リン

イ理を述べる、意志を述べあかす ロ善惡を批評す ハ言ひ爭ふ、あげつらふ、とやかくいふ ニさばく、罪を決す ホ文章の一體 へすぢみち、條理

【論士】ロンシ ぎろんをするもの、論者。

【論及】ロンキフ 說き及ぼす、論じ至る。

【論外】ロングワイ イ論ずる價値なきこと ロ「論說文。

議論するに及ばぬ。

【論文】ロンブン 主義主張を述べたる文章、

【論功】ロンコウ 功績の大小をとり調べる。

【論旨】ロンシ ぎろんの主意。

【論告】ロンコク イ己の意志を述べる ロ檢事が被告の罪を論定して求刑すること。

【論判】ロンパン イ是非を論じわかつ ロいひあらそひ、口論、爭論。「究める。

【論究】ロンキウ どこまでも理を推して論じ

【論決】ロンケツ ぎろんしてきめる、論定。

【論法】ロンパフ 議論の仕方。

【論定】ロンテイ 論決に同じ。

【論爭】ロンサウ 是非曲直を論じあらそふ。

【論孟】ロンマウ 論語と孟子。

【論者】ロンシヤ 論士に同じ。

【論客】ロンカク 議論を好む人。「の略。

【論理】ロンリ イ議論のすぢみち ロ論理學時事問題等を論じたる文章

【論策】ロンサク いひこめる、論じなじる。

【論詰】ロンキツ 義理を解きあかす。

【論義】ロンギ 犯罪を審理し刑罰を定める

【論罪】ロンザイ イ論じ說く、又其文章 ロ新

【論說】ロンセツ 聞・雜誌等の社說。「の書。

【論語】ロンゴ 孔子の言論をかいた二十卷

【論解】ロンカイ 論じて說きあかす。

【論難】ロンバク 論難に同じ。

【論鋒】ロンポウ 議論のいきほひ。

【論敵】ロンテキ 議論の敵手。

【論據】ロンキヨ 議論のよりどころ。

【論戰】ロンセン 人とぎろんを戰はす。

【論題】ロンダイ 議論又は論文の題目。

【論壇】ロンダン 議論をたゝかはす所、又そ

【論點】ロンテン ぎろんの要點。「の範圍。

【論斷】ロンダン 論決に同じ。

【論贊】ロンサン イ功業を論判してほめる ロ史傳の記述が終つた後に作者が之に下す評論。

【論難】ロンナン 議論して缺點を攻擊す、論

【論議】ロンギ 議論を戰はす。「する。

【論證】ロンショウ 是非曲直を辯じ立てゝ證明

【論辯】ロンベン 私見を述べて論ずる。

【論理學】ロンリガク 思想の法則にもとづき物事を論定する方法を研究する科學。

【論功行賞】ロンコウカウシヤウ 功の大小を銓衡しそれに應じて賞を與へること。

異論イロン　群論グンロン　稱論ショウロン　討論タウロン
細論サイロン　確論カクロン　定論テイロン　虛論キヨロン
時論ジロン　評論ヒヤウロン　抗論カウロン　衆論シユウロン
正論セイロン　高論カウロン　奇論キロン　持論ヂロン
講論カウロン　辯論ベンロン　談論ダンロン　議論ギロン
放論ハウロン　爭論サウロン　謬論ビウロン　駁論バクロン
切論セツロン　佳論カロン　陳論チンロン　私論シロン
公論コウロン　謀論ボウロン　史論シロン　警論ケイロン
鷹論ヨウロン　輿論ヨロン　口論コウロン　廷論テイロン

【諱●】

漢サイ　呉セ　イせむ（讒）ロのゝしる（罵）ハつぐ（告）歌の終りに歌ひをさめの辭を附言すること、又其詞

【誾○】

漢ギン　呉ゴン　穩和なる態度にて人と正理を論じ爭ふこと、又中正のさまともいふ

【諂●】【諂別字】

漢呉テン　へつらふ、へつらひ、こびおもねる

【諂佞】テンネイ へつらふ、阿諛。

【諂諛】テンユ 前に同じ 注意 **えんゆ**と讀み又は諂諛と書くは誤り。

【諄●】【諄俗字】

漢呉シユン　ジユン

イくりかへして教へ諭す、又そのさま ロたすく（佐）ハまめやか、ねんごろ（懇）

【諄諄】ジユンジユン イ懇切なるさま ロくりかへして教へるさま。

【諍●】

漢サウ　呉シャウ　イあらそふ（爭）ロいさむ（諫）

【諍臣】サウシン 諫めあらそふ忠臣、爭臣。

【諏○】

漢シユ　呉スウ　相談する、は慣用音ソウ かる

【同訓異義】**とふ** 諒・問・訊其他の用法は二〇五頁の問を見よ。

【同訓異義】**はかる** 諏・計・謀其他の用法は九五三頁の計を見よ。

【諗●】

漢呉シン　つぐ（告）のべる（述）

【諚】

國字　ヂヤウ　命令、上のいひつけ

九畫

【諦●】【諦】

漢タイ　呉タイ　イつまびらかにする、あきらかにする ロあきらかにすまびらかに ハまこと、佛道のさとり ニ國訓あきらむ、あきらめ、思ひきる、斷念

【諦思】タイシ 能くかんがふ。「する。

【諦視】タイシ 諦觀に同じ。「きりときく。

【諦聽】タイチヤウ つまびらかに聞く、はつ

【諦觀】タイクワン 能く見る、明察す。

【諫●】【諫】

漢カン　呉ケン　イ人の惡事をさとしたゞす、いさめる、忠告する ロ前非を悔ひ改める ハいさめ、いけん

【諫止】カンシ 諫めて思ひとまらせる。

【諫言】カンゲン いさめのことば。

【諫爭】カンサウ いさめ爭ふ。

規諫キカン　苦諫クカン　譎諫ケツカン　强諫キヤウカン
忠諫チユウカン　極諫キヨクカン　至諫シカン　直諫チヨクカン
切諫セツカン　諷諫フウカン　匡諫キヤウカン　泣諫キフカン

【諭・諭俗字】【諭】 漢呉 ユ
㋑さとす、敎へ悟らしめる㋺さとる、又さとり㋩たとへ（喩）㋥官より人民に言ひきかす、ふれしめす、又その文書
【諭示】ユシ 官公署から人民に或る事柄を諭し示す、又その文書。
【諭旨】ユシ ㋑官公署が所屬官吏に對し方針又は事情の趣旨を諭す、いひきかすこと㋺清代に於ける天子の勅諭。
【諭告】ユコク ㋑諭示に同じ㋺諭告文。
【諭達】ユタツ 前に一じ。
申諭シン　褒諭ハウ　奬諭シヤウ　誨諭クワイ
慰諭ユキ　敕諭チヨク　詔諭セウ　說諭エツユ
高諭カウユ　開諭カイユ　謙諭ケンユ　譬諭ヒユ

【諮・咨】【諮】 漢呉 シ（咨）はかる
上より下に相談する
【同訓異義】 **とふ** 諮・問・詢其他の用法は二〇五頁の問を見よ。
【諮問】シモン ㋑問ひはかること㋺官公署に於て官公吏の意見を求める。
【諮詢】シジユン ㋑天皇が重要なる政務に付樞密顧問の意見を徵する㋺意見をたづねる、尊者より卑者に相談する。

【諳・諳】 漢 アン ㋑そらんず、
呉 オン
そらにて覺える、十分心得て居る、熟達してゐる㋺そらよみ、又そのこと
【諳記】アンキ ちうにて覺える、そらんず。
【諳誦】アンショウ ちうよみ、そらでよむ。
【諳算】アンザン めのこざん、胸ざん、暗算。

【諷・諷】 漢 フウ ㋑そらんず、
呉 フ
そらでよむ㋺とほまはしにいふ、あて「する。
【諷刺】フウシ こすり、又そのこと
【諷詠】フウエイ それとなくそしる、あてこ
【諷誦】フウショウ 詩歌をそらんじうたふ。
【諷諫】フウカン 書物をそらよみす、諳誦。
【諷刺畫】フウシグワ 夫となく遠廻しに諫める。物事を諷して描いた繪畫

【諸・諸】 漢 ショ ㋑もろ、
呉 ソ もろも
ろ、いろ〳〵、衆多㋺「之於」の略㋩無意味の助辭、や「之乎」の略 **これ** 諸・之・此其他の用法は三五頁の之を見よ。
【諸人】ショジン もろ〳〵の人、衆人。
【諸子】シヨシ ㋑諸子百家㋺尊長者が其目下を呼ぶ第二人稱、おの〳〵がた、きみがた㋩周代の官名。多くの人士。
【諸士】シヨシ 伯父・叔父・季父等の總稱。
【諸父】シヨフ 諸處、はう〳〵。
【諸方】シヨハウ 伯母、叔母小母等の總稱。
【諸母】シヨボ もろ〳〵の役人、百官。
【諸司】シヨシ 學生、書生。
【諸生】シヨセイ ㋑諸方面、又その部類㋺「ち、みなさん。
【諸色】シヨシヨク もろ〳〵の品物。
【諸君】シヨクン 文法上の第二人稱、きみた
【諸紀】シヨキ 系圖、事跡。
【諸役】シヨエキ 各種の稅金又は賦役。
【諸事】シヨジ もろ〳〵の事柄。
【諸侯】シヨコウ 領主、だいみやう。
【諸島】シヨタウ 諸々の島。「衆に對する敬語
【諸彥】シヨゲン ㋑すぐれたる多くの人㋺民
【諸症】シヨシヤウ 多くの病症。「くの流派。
【諸家】シヨカ ㋑もろ〳〵の家、萬戸㋺多
【諸病】シヨビヤウ もろ〳〵のやまひ。
【諸策】シヨサク もろ〳〵のはかりごと。
【諸般】シヨハン それ〴〵、各種、百般。
【諸道】シヨダウ ㋑もろ〳〵の方面、又は場所㋺諸般の技藝、又よろづのこと。
【諸賢】シヨケン ㋑多くの賢者㋺一般人の敬
【諸國】シヨコク 諸々の國、各國。
【諸費】シヨヒ 諸々の費用。

【諸處】シヨシヨ 何處も彼處も、色々の所。
【諸業】シヨゲフ 諸々の仕事。
【諸種】シヨシユ いろ〳〵。
【諸官省】シヨクワンシヤウ 色々の役所。
【諸官衙】シヨクワンガ 前に同じ。
【諸陵寮】シヨリヨウレウ 宮內省の一局にして陵墓に關する一切の事を司る所。
【諸等數】シヨトウスウ 二つ以上の單位の名數を以て表された數、複命數。
【諸子百家】シヨシヒヤクカ 春秋戰國時代に輩出した老・莊・申・韓其他主として儒敎以外の學者、轉じて多くの學者と其著書
【諸行無常】シヨギヤウムジヤウ 一切の物は皆移り變りて毫も定住せずとの佛說。
因諸イン　方諸ハウ　扶諸フシヨ　偏諸ヘン

【諺・諺】 漢呉 ゲン
㋑世俗に言ひ傳へてゐる話、ことわざ㋺さとびたる言葉、俚言
【諺文】ゲンモン 朝鮮の俗用の文字で我國の假名のやうなもの、おんもん、おんむん
【諺語】ゲンゴ ことわざ。

【諾・諾】 漢 ダク ㋑はい
呉 ナク
と答へること、返答、がつてん、よし、又人に呼ばれたる時ゆつくりと答へる（返答の遲速は敬意の多少による、唯は早くこたへること）㋺うべなひ、うべなふ、うけひく、うけあふ、承知する㋩こゝろよく人の言に從ふさま
【諾否】ダクヒ うけがふことゝこばむこと
【諾諾】ダクダク ㋑應對のことば、はい〳〵
㋺はい〳〵と人の言に從ふ貌。
許諾キヨダク　謹諾キンダク　然諾ゼンダク　唯諾ユイダク

【謀・謀】 漢 ボウ ㋑はかる、思案
呉 ム
する、おもんばかる㋺問ふ、他に相談す㋩もくろむ、はかりごとを立てる、企てる㋥もくろみ、はかりごと、術策
【同訓異義】 **はかる** 謀・圖・計其他の用法は九五三頁の計を見よ。
【謀士】ボウシ はかりごとに巧みなる人。
【謀反】ボウハン ㋑君國に仇す、むほん㋺君主を弑逆すること㋩正朝時代の罪名に
謀主ボウシユ 君主を弑逆する罪。「る人、參謀長
謀臣ボウシン 主となりて謀計を仕組みた
謀判ボウハン はかりごとに巧みなる臣僚
謀計ボウケイ にせいん、にせはん、僞印。
謀算ボウサク はかりごと、計略。
謀殺ボウサツ 謀計に同じ。
謀略ボウリヤク 豫めはかりて人を殺すこと謀計に同じ。
【謀將】ボウシヤウ 謀略にたくみなる大將。
【謀畫】ボウクワク 謀計に同じ。
【謀議】ボウギ はかる、相談する。
【謀叛】ムホン ㋑君國に叛すること㋺國に背き僞朝に從ふこと㋩正朝時代の罪名にして本國に背き僞朝に從ふ罪 **注意ぼうはんと讀むに誤り。**
宸謀シンボウ　規謀キボウ　計謀ケイボウ　雄謀ユウボウ
權謀ケンボウ　謀謀ボウボウ　祕謀ヒボウ　軍謀グンボウ
策謀サクボウ　淺謀センボウ　勇謀ユウボウ　議謀ギボウ
深謀シンボウ　密謀ミツボウ　議謀ギボウ　奇謀キボウ

【謁・謁】 漢 エツ ㋑おめみえ、貴人
呉 オチ
に面謁する㋺おめどほり、めどほりす㋩まゐる、まうづ（詣）㋥まうす（申）言上す㋭とりつぎ、應接㋬名札、名刺
【謁舍】エツシヤ 客をもてなすところ。
【謁見】エツケン 貴人に面接すること。
啓謁ケイエツ　迎謁ゲイエツ　典謁テンエツ　請謁セイエツ
私謁シエツ　朝謁テウエツ　內謁ナイエツ　拜謁ハイエツ

【謂・謂】 漢呉 イ
ゲ（告）う
はさす、評論す㋺名づける、となへ㋩おもへらく、おもふ、思ふに㋥いはれ、理由㋭所謂と連用して「いはゆる」と

訓み、世間で言ふ所の謂何と連用して「いかん」と讀む、又「なんとかいふ」と讀む㋺つとむ(勤)

【同訓異義】いふ　謂・言・曰其他の用法は九五二頁の言を見よ。

【諛○】【諛俗字】 漢呉　へつらふ(諂)　へつらひ、おもねる、追從　諛辭に同じ。

【諛言】ユゲン　諛辭に同じ。

【諛辭】ユジ　へつらひのことば。

【諜●】 漢テフ　呉デフ　㋑うかゞふ(窺)敵の樣子をさぐり密かに味方に知らす、しめす㋺しのび、まはしものハ文字を記したるふだ(牒)㋥しやべる(喋)

【諜知】テフチ　ひそかに事情をさぐり知る

【諜者】テフシヤ　間諜、まはしもの。

【諜報】テフハウ　敵情を知らせる、又其知らせ

【諜諜】テフテフ　べちや〳〵しやべるさま。

【諟●】 漢シ　呉ジ　この(是)

【諠○】【諠俗字】【諠別字】 漢ケン　呉クワン　㋑わすれる、忘卻㋺やかまし、かまびすし

【諠呼】ケンコ　やかましくよばゝる、喧呼。

【諠傳】ケンデン　やかましくいひ弘める。

【諠擾】ケンゼウ　さわぐ、さうゞしい。

【諠譁】ケンクワ　やかましく言ひ爭ふこと。

【諡●】【諡別字】 漢呉シ　㋑死者に贈るよび名、おくりなおくり名(諡號)㋺おくり名を附ける

【諡號】シガウ　おくりな　注意諡號と書き又えきがうと讀むは誤り。

【諤●】【諤通字】 漢呉ガク　直言する、忌み憚らず正しく言ふ

【諤諤】ガクガク　字解を見よ。

【諧○】 漢カイ　呉ガイ　㋑かなふ、調和する、とゝのふ㋺やはらぐ(和)物價を適當にきめるハおどけ、じやうだん、戲謔

【諧和】カイクワ　㋑仲よくす、かなひやはらぐ㋺音樂の調子の調ふこと。「る。

【諧調】カイテウ　滑かに心地よく聽覺に感ず

【諧謔】カイギヤク　じやうだん、だうけ、戲謔

【諱●】 漢呉キ　注意ゐと讀むは誤り㋑かくす、いむ㋺よける、さける(避)尊者の本名を呼ぶを避ける㋥いみな、生前の本名(生者は名、死者は諱)又おそれる、遠慮する

【同訓異義】いむ　諱・忌等の用法は三七八頁の忌を見よ。

【諱忌】キキ　㋑いみおそれる㋺陰陽道などにて忌みきらふこと。

【諶○】 漢シン　呉ジン　㋑まこと(信實)㋺信ず、あてにす、まことにすハまことに、ほんとうに

【諛○】【諠通字】 漢ケン　呉クワン　㋑あざむく(欺)いつはる(詐)㋺わする(忘)ハわすれぐさ

【諳○】【喃通字】 漢ダン　呉ナン　しやべる

【謊俗字】【訛●】 漢クワウ　呉クウ　㋑あざむかる㋺ねごと、うはごと

十畫

【謄○】【謄】 漢トウ　呉ドウ　うつす　(寫)原本より寫しとる

【同訓異義】うつす　謄・寫・描其他の用法は三〇七頁の寫を見よ。

【謄本】トウホン　㋑原本より寫す、又其うつした書面㋺正本の寫し注意謄本と書く

【謄寫】トウシヤ　寫しとる、謄錄。「は誤り。

【謄錄】トウロク　前に同じ。

【謗●】 漢呉ハウ　そしる、そしり、惡口、誹謗

【同訓異義】そしる　謗・誹・譏其他の用法は九六六頁の誹を見よ。

【謗訾】バウシ　そしる、そしり。

【謗嗤】バウシ　そしりわらふ。

【謗議】バウギ　㋑そしり論ずる㋺わるくちのゝしりそしる。

【謗罵】バウバ　そしりあざける。

【謗嘲】ハウテウ　毀謗キバウ　讒謗ザンバウ　誣謗ブバウ　嘲謗テウバウ　猜謗サイバウ　誹謗ヒバウ　譏謗キバウ　怨謗エンバウ

【謙◐】【謙】 漢呉ケン　へりくだる、抑損す、又そのことㄖきらひ(嫌)うたがひ(疑)ハ易の卦の名㋥こゝろよし(快)あきたる(慊)

【謙卑】ケンピ　他を敬ひ己れを卑くす。

【謙沖】ケンチユウ　謙虛に同じ。

【謙和】ケンワ　へりくだつて溫良なり。

【謙畏】ケンヰ　へりくだりておそれるさま

【謙約】ケンヤク　へりくだつてひかへる。

【謙厚】ケンコウ　深くへりくだる。

【謙退】ケンタイ　へりくだりて己れを屈す。

【謙虛】ケンキヨ　謙遜してわだかまりなし。

【謙裕】ケンユウ　驕らず心のゆるやかなこと

【謙崇】ケンスウ　へりくだりたふとぶ。

【謙恭】ケンキヨウ　へりくだりてつゝしむ。

【謙遜】ケンソン　へりくだりてゆづる。

【謙遜】ケンソン　へりくだりてつゝしむ。

【謙粛】ケンシユク　へりくだりてつゝしむ。

【謙稱】ケンシヨウ　へりくだりていふとなへ

【謙敬】ケンケイ　へりくだりつゝしむ。

【謙德】ケントク　謙讓なる行爲。「きこと。

【謙廉】ケンレン　へりくだりて心のいさぎよ

【謙默】ケンモク　謙遜にして言葉少し。

【謙慎】ケンシン　へりくだりつゝしむ。

【謙謙】ケンケン　へりくだる貌。

【謙辭】ケンジ　謙遜して發する言葉。

【謙讓】ケンジヤウ　謙遜に同じ。

【講●】【講】 漢カウ　呉クウ　㋑物事の意味を究めあかすㄖ稽古するならふ(習)ハもくろむ、はかる㋥和解す、なかなほり㋺神佛の信仰者が結ぶ團體、こうへ金錢融通の目的にて組織する一種の團體、頼母子講の類

【講中】カウチユウ　神佛の信仰者の組合。

【講究】カウキウ　說きあかし究める。

【講和】カウワ　交戰せる兩國が仲直りする

注意もと媾和と書きしも今は一般に用ひず。

【講武】カウブ　武術を稽古する。

【講師】カウシ　㋑專門學校又は大學等で囑託を受けて教授する人、學術の講義をする人口歌會にて歌を讀みあげる人ハ昔國分寺にて佛書を講じ又僧尼の事を掌りし僧官。

【講座】カウザ　㋑講筵に同じㄖ大學教授が其擔任する學科目の爲に定めし地位。

【講堂】カウダウ　學藝道義等を講義する所。

【講道】カウダウ　道理を說き敎へる。

【講話】カウワ　學術上の說話。

【講試】カウシ　究めさぐる。

【講書】カウシヨ　書物を講義する。

【講習】カウシフ　學び習ふ。

【講義】カウギ　文章又は學說等の意味を解き明かすこと、又其書物。「所。

【講筵】カウエン　學術道義などの講義をなす

【講演】カウエン　講義して口述す。

【講說】カウセツ　講義に同じ。

【講談】カウダン　講釋の㋑に同じ。

【講藝】カウゲイ　學術をみがき究める。

【講境】カウダン　講筵に同じ。

【講釋】カウシヤク　㋑軍談實錄情話等を巧みに話すこと、又そのはなしㄖ講義。

【講讀】カウドク　書物を講義してよむ。

【講義錄】カウギロク　學藝の講義を編纂して定期に發行するもの。

【講東講西】カウトウカウサイ　彼是と講評する。

【講和談判】カウワダンパン　交戰國が和睦して平和を克復すること。

開講カイカウ　聽講チヤウカウ　研講ケンカウ　都講トカウ

進講シン　廢講ハイカウ　代講ダイカウ　畫講クワカウ

【謝●】【謝】 漢シヤ　呉セ　①御禮をのべる、又おれいロいなむ、ことわるハあやまる、わびるニしぼむ、おとろへる、退き去るホいとまごひすヘ申し立つ、或事情を言ひ立てゝ官を辭す

【謝金】シヤキン　お禮のため贈る金。
【謝恩】シヤオン　恩に對して禮を述べる。
【謝絶】シヤゼツ　いなむ、ことわる。
【謝意】シヤイ　①お禮の心持ロわびをする
【謝罪】シヤザイ　わびる、あやまる。
【謝儀】シヤギ　次に同じ。
【謝禮】シヤレイ　人に世話になつた御禮。
【謝辭】シヤジ　御禮を述べる、又其禮狀。
代謝タイシヤ　陳謝チンシヤ　感謝カンシヤ　追謝ツイシヤ
悔謝クワイシヤ　深謝シンシヤ　驚謝ケイシヤ　厚謝コウシヤ
萬謝バンシヤ　伏謝フクシヤ　辭謝ジシヤ　報謝ハウシヤ

【謠○】【謠】 漢ヨウ　呉エ　①うたふ、うた（樂曲・樂器に合さずに歌ふもの）ロ流言、うはさハ國訓うたひ（猿樂の能に合せて歌ふうたひ、又其歌詞、謠曲）

【同訓異義】**うたふ** 謠・歌・謳等の用法は五五四頁の歌を見よ。

【謠曲】エウキヨク　うたひ。
【謠傳】エウデン　世間のうはさ、謠言。
歌謠カエウ　謳謠オウエウ　風謠フウエウ
童謠ドウエウ　詠謠エイエウ
詩謠シエウ　民謠ミンエウ　吟謠ギンエウ
【謇●】【蹇】（通字）漢呉　①どもる（吃）ロ直言する貌ハぬきんでるさまハ歎詞、あゝ、又

【謎●】 漢メイ　呉マイ　別の意味を藏して人をして迷はしめる詞、なぞ、なぞ〜〜

【謎話】メイヨ　なぞ、意の悟りがたき詞。

【謐●】 漢ビツ　呉ミチ　やすらかに（泰）しづかに（寂）おだやか（穩）

【謐然】ヒツゼン　やすらかに靜かなるさま。
【謐謐】ヒツヒツ　ひつそりと靜かなるさま。

【謔●】 漢キヤク　呉カク　①おどけ、じやうだん ロじやうだんをいふ、戲言す

【謔笑】ギヤクセウ　たはむれわらふ。

【謖●】 漢シユク　呉ソク　①衣服をとゝのへる貌ハぬきんでるさまハおきあがる、たつ（起）

【謚●】【謚】（別字）漢エキ　呉ヤク　わらふ貌
【謟○】【謟】（別字）漢タウ　呉トウ　うたがふ（疑）
【謂】 五五四頁の歌を見よ。

十一畫

【謬●】【繆】（通字）漢ビウ　呉ミウ　注意べうと讀むは誤りイあやまる（誤）たがふ（違）ロあやまり、まちがひハいつはる（詐）だます、あざ

【同訓異義】**あやまる** 謬・訛・誤其他の用法は九六四頁の誤を見よ。

【謬字】ビウジ　字畫正しからざる文字。
【謬見】ビウケン　間違つた考へ、誤つた見込
【謬計】ビウケイ　謬算に同じ。
【謬傳】ビウデン　①きゝちがひ、きゝあやまりロまちがつたうはさ。
【謬算】ビウサン　間違つたはかりごと。
【謬論】ビウロン　まちがひたる議論。
【謬漏】ビウロウ　あやまりとおちど。
詭謬キビウ　僞謬ギビウ　錯謬サクビウ
差謬サビウ　違謬ヰビウ　舛謬センビウ　迷謬メイビウ
偏謬ヘンビウ　誤謬ゴビウ　訛謬クワビウ　脫謬ダツビウ

【謹●】【謹】 漢キン　呉コン　①つゝしむ、自ら戒める、恐れかしこむロつゝしみ、かしこみ

【同訓異義】**つつしむ**
【恭】は行儀正しくつゝしむの意。
【恪】はつゝしみてまちがひの無き義
【愼】は用心する義である。
【敬】は事をうやまひ大切にするの意
【肅】は嚴肅にしてひきしまる意。
【謹】は一筋に念を入るゝ義である。

【謹上】キンジヤウ　書狀の末尾に用ゐる詞、つゝしみたてまつる。
【謹言】キンゲン　つゝしみて申し上げる。
【謹狀】キンジヤウ　他人の行狀傳記等を記す時のことば。
【謹身】キンシン　身をつゝしむ。
【謹厚】キンコウ　つゝしみありて手あつし。
【謹直】キンチヨク　つゝしみぶかくして正し
【謹恪】キンカク　職務を忠實に守る。
【謹啓】キンケイ　つゝしんで申し上げる。
【謹賀】キンガ　謹んでお祝ひ申す。
【謹話】キンワ　謹んで話す、又其話。
【謹愼】キンシン　①つゝしみ、つゝしむロ德川時代に士分以上に科したる刑にして門戶を閉して白晝出入を禁じたもの。

【謹諾】キンダク　つゝしみて承知す。
【謹嚴】キンゲン　①つゝしみありてたゞしニ少しのこともゆるがせにせぬこと。
【謹聽】キンチヤウ　つゝしみて人の說をきく

孝謹カウキン　溫謹ウンキン　篤謹トクキン　忠謹チユウキン
和謹ワキン　廉謹レンキン　敬謹ケイキン　恭謹キヨウキン

【謦●】 漢ケイ　呉キヤウ　①せきばらひ、しはぶきロ面會する人の音容にいふ。

【謨●】 漢ボ　呉ム　①はかりごと、謀策、大きなはかりごとロはかりごとを定める、はかるハなし國家の大計又は後王の模範となるべき教訓。

【謨訓】ボクン

英謨エイボ　良謨リヤウボ　高謨カウボ　皇謨クワウボ
宸謨シンボ　宏謨クワウボ　廟謨ベウボ　朝謨チヤウボ
奇謨キボ　忠謨チユウボ　嘉謨カボ　令謨レイボ

【謫●】【謫】 漢タク　呉チヤク　①とがめる、せめる、譴責するロ役人が官位をおとされて遠方にやられること ハ怪しき雲氣

【謫居】タクキヨ　罪を被つて遠方に流される

注意 ときよと讀むは誤り。

【謫所】タクシヨ　罪を得てながされること。

【謳○】【謳】 漢オウ　呉ウ　①うた（吟歌）ロうたふ、口を揃へてうたふこと

【同訓異義】**うたふ** 謳・歌・謠等の用法は五五四頁の歌を見よ。

【謳吟】オウギン　①歌をうたふロ善行等をほめてうたふ。「ほめてうたふ。

【謳歌】オウカ　仁德などをありがたがつて
【謳唱】オウシヤウ　うたふ。
【謳謠】オウエウ　うた、うたふ。

【警◐謔】 漢ガウ　呉ゴウ　①そしる（誹）非難するロ不平をならすさま、又そしる聲の多きさまハ大なるさまニおごる（傲）

【謾◐謗】【慢・漫（通字）漢バン　呉マン　①いつはる、あざむく（欺）ロおこたる（怠）ハあなどる（慢）見さげるニひろし（莫）とりとめなき貌

【謾語】マンゴ　よりどころなきはなし、取り止めのない話。

【謅】 九八〇頁の謅を見よ。

【謅劣】センレツ　才が淺くて人に劣る。

十二畫